

波志江中屋敷遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書 第25集

2003

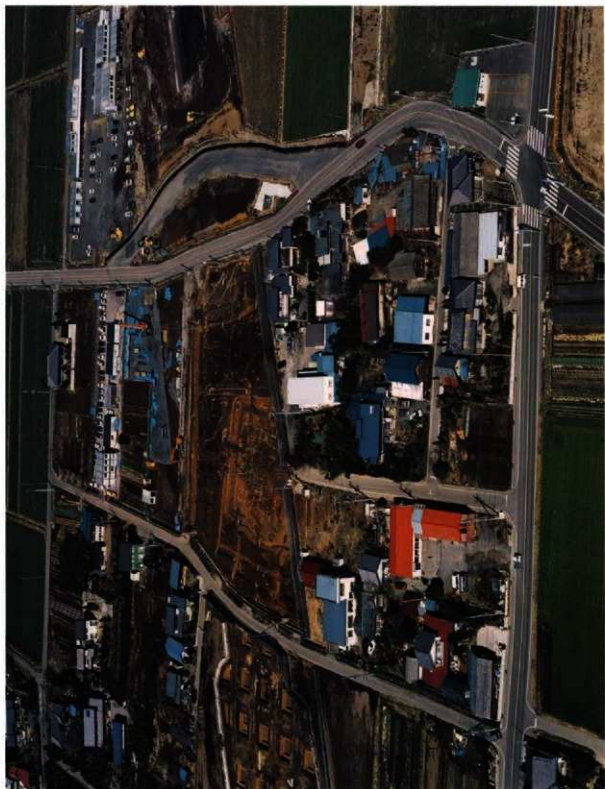
日 本 道 路 公 団
伊 勢 崎 市 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

波志江中屋敷遺跡

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書 第25集

2003

日 本 道 路 公 団
伊 勢 崎 市 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



波志江中屋敷道跡全景(南上空より)



1 全景



2 補修孔及び口縁部剥離状態



3 口唇部



4 底部



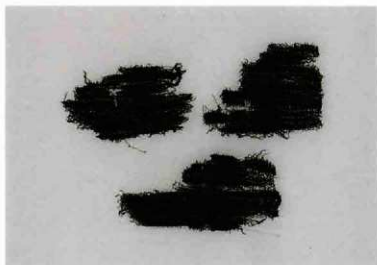
1「蘇民将来符」(木製品No.1)



2「蘇民将来符」(木製品No.2)



3「蘇民将来符」(木製品No.3)



4 布片



1 陶磁器小碗



2 陶磁器中碗



1 陶磁器中碗



2 陶磁器中皿



1 陶磁器中・大皿



2 陶磁器灯明皿・灯明受皿・采燭



1 陶磁器碗



2 陶磁器皿



3 陶磁器鉢・德利等

口絵8



1 陶磁器碗・猪口



2 陶磁器蓋



3 磁器碗 (33号井戸出土)



4 陶器戸車



5 陶磁器焼継・漆継瓶



6 中国製磁器



7 ガラス玉

序

北関東自動車道は、本県高崎市から茨城県ひたちなか市に至る約150kmの高速自動車道であります。群馬・栃木・茨城3県の主要都市と国際港常陸那珂港を結ぶ、東京大環状道路の一翼であります。これにより北関東地域に新たな経済圏が創成されることが期待されております。

このたび、現在供用されております高崎から伊勢崎間において発掘調査された伊勢崎市波志江中屋敷遺跡の発掘調査報告書が上梓のはこびとなりました。本遺跡は、縄文時代から近世までの多岐にわたる遺跡であります。特に近世を主とする館跡は二重に巡る堀や建物跡・井戸等から多くの陶磁器片が出土し、本県の近世史研究の一翼を担うものと思われれます。また、縄文時代早期の押型文土器は、全国的にも貴重な資料でありまして、今後全国的な展示活用が期待されるところです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に至るまで、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、伊勢崎市教育委員会、地元関係者等には、ご指導・ご協力を賜りました。関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し序と致します。

平成15年12月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事 長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域建設に伴う波志江中屋敷遺跡（遺跡略号KT-230）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 波志江中屋敷遺跡は、群馬県伊勢崎市波志江町二丁目2554-1、2579-1～3、2580-1～10、2580-12～15、2581-2、2581-4～6、2582-2、2628-1・2、2644、2645番地に所在する。遺跡名は、群馬県教育委員会と伊勢崎市教育委員会の協議の結果、大字「波志江」と小字「中屋敷」を連記し「波志江中屋敷遺跡」とした。

なお、伊勢崎市遺跡台帳では「中屋敷館跡」と記されている。

3. 発掘調査と整理事業は、日本道路公団及び伊勢崎市の委託を群馬県教育委員会が調整し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 調査及び整理期間は以下のとおりである。

発掘調査 平成10年9月9日～平成10年11月30日（伊勢崎市教育委員会）

平成10年12月11日～平成11年3月31日

平成11年4月1日～平成11年12月31日

整理事業 平成15年4月1日～平成15年12月31日

5. 調査面積 7,848㎡

6. 発掘調査組織は以下のとおりである。

平成10年度 伊勢崎市教育委員会

教育長 田島國明 教育部長 細谷清三 社会教育課長 阿部正

埋蔵文化財係長 村田喜久夫 調査担当 早川隆弘 塚脇美緒 出浦崇

平成10年度 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

常務理事 菅野清 事務局長 赤山容造 管理部長 渡辺健

総務課長 坂本敏夫 笠原秀樹 須田朋子 宮崎忠司 小山建夫 吉田有光 柳岡良宏 岡嶋伸昌

調査研究第1部第5課長 西田健彦

調査担当 斎藤利昭 新倉明彦 田村公夫 須田貞崇 杉田茂俊

発掘作業員 原沢純子・松岡英子・横澤美枝子・中村浩子・山田美由紀・小武海めぐみ・小泉貴・池田登志夫・中村賢一・宮島千寿子・四日市恵・浜名敏子・高橋幸男・竹内厚子・小林信也・新田弘・大島伸子・大島けさみ・本多和子・狩野光子・神保福代・平野ミツ子・田川真知・遠藤逸子・清水里子・片山信治・武藤喜平・田村知子・山野内圭子・秦野新平・藤井実・伊豆礼子・金井英弘・金子孝吾郎・新井隆

平成11年度 理事長 小野宇三郎 常務理事兼事務局長 赤山容造 管理部長 住谷進

総務課長 坂本敏夫 笠原秀樹 須田朋子 片岡徳雄 小山建夫 吉田有光 柳岡良宏 岡嶋伸昌

調査研究第1部長 神保佑史 調査研究第2部長 水田彦

調査研究第2部第5課長 西田健彦

調査担当 石守晃 斎藤利昭 金子伸也 長沼孝則 小林大悟

発掘作業員 大谷正子・清水しづ江・高見寿美子・塚越栄子・田島暉雄・岡田早百合・高林源太郎・佐藤輝夫・金井通・石原侃一・石原紀一・高見暉子・井部カタ・小林幸子・藤野隆・高橋次男・金子義三郎・内田春子・真下マサエ・関根フジエ・大野久子・阿久沢和子・高桑久子・

大山光代・青木けい子・渡辺弘雄・中井悦子・山口純子・阿久沢スエ子・天田恵子・平田大六・
鈴木仁・石田悦司・柳井繁三・浅子公・川上哲男・阿部悟・岡田千枝子・山本正司・小川公子・
渡辺雅弘・村越悦司・川野雅江・高橋礼子・田中一子・工藤隆義・中嶋喜好・小野沢誠・
栗原鏡子・野口富子・須田友子・宇田亘・真下伊勢美・五十嵐時治郎・柳岡一枝・吉井ともえ・
牛込典子・徳江孝子・設楽良子・若松良幸・富沢真由美・真下信男・飯島清・飯島タイ子・
田島礼子・織間雅恵・清水千鶴子・八木孝枝・設楽好江・貝塚秀行・齊藤五月・田島弘美・
坂口敦・荻野保治・藤本樹理・手塚美奈子・小林和子・高木芳江・狩野信子・木之内伸弘・
富田完三・佐々木康夫・古郡初江・鈴木茂男・鈴木しげ子・樋沢寿美子

7. 整理事業組織は以下のとおりである。

平成15年度 理事長 小野字三郎 常務理事 住谷永市 事業局長 神保侑史
管理部長 萩原利通 調査研究部長 右島和夫
総務課長 植原恒夫 竹内宏 高橋房雄 須田朋子 吉田有光 阿久沢スエ子 田中賢一
資料整理課長 相京建史
整理担当 田村公夫
整理補助員 阿部和子 矢高三枝子 長岡美和子 勅使川原操子 萩原妙子
遺物写真 佐藤元彦
保存処理 関邦一 土橋まり子 横倉和子 小村浩一 大野容子

8. 本書の編集・執筆は以下のとおりである。

編集は田村公夫、執筆は縄文石器を大塚昌彦、近世遺構概要を飯森康広、瓦を木津博明が行い、遺物観察表は古墳～平安時代を斉藤幸男、中近世を大西雅弘、五輪塔・板碑を新倉明彦が行った。その他は田村が行った。

9. 発掘調査及び整理事業において以下の委託業務を行った。

発掘調査

航空測量・空中写真撮影業務 株式会社バスコ、技研測量設計株式会社、株式会社シン技術コンサル
地上測量業務 ㈱小出測量設計事務所、㈱横田調査設計
自然科学分析 ㈱古環境研究所
古井戸掘削業務 原澤ボーリング株式会社
木製品保存処理業務 ㈱東都文化財保存研究所

整理事業

縄文時代石器実測トレース 技研測量設計株式会社
遺構・遺物トレース 株式会社研研 石村同定 飯島静男（群馬地質研究会）
縄文土器復元 有限会社武蔵野文化財修復研究所

10. 発掘調査及び本書作成にあたり、下記の関係機関・関係諸氏にご助言・ご指導・ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。（敬称略）

群馬県教育委員会文化スポーツ部文化課、伊勢崎市教育委員会、日本道路公団、地元関係各位
井上唯雄、巾隆之、大塚昌彦、飯塚聡、中島直樹、丸山不二夫

11. 出土遺物ならびに図面・写真等の保管は、群馬県埋蔵文化財調査センター・伊勢崎市教育委員会が行っている。

凡 例

1. 遺構の挿図中で使用した方位は日本測地系座標北である。調査グリッドは日本測地系平面直角座標系9系を使用し、北関東自動車道関連遺跡で統一したグリッド名が使用されている。グリッド名称は日本測地系座標の下3桁を用い、南東隅をグリッド起点とした。なお、本遺跡の中心部に位置する060-650は日本測地系9系X値39060、Y値-57650を表わし、世界測地系のX値39414.5664・Y値-58008.2200である。
2. 挿図縮尺は、以下を基準に図中に記載する。

遺構 住居跡1/60、カマド1/30、掘立柱建物跡1/80、溝1/200、井戸1/80、集石土坑1/30、土坑1/60、水田1/200、遺構全体図1/500。

遺物 土器1/3、石器1/3、木器1/3・1/4、鉄器1/3、小物遺物1/1、大型遺物は1/6。

3. 遺構断面実測図及び等高線に記した数値は標高(m)を表す。
4. 遺構図について「第3章第4節中・近世」では、本遺跡の特徴から5号溝を一つの区画とし、掘立柱建物跡・井戸・土坑は区画内外に分け掲載した。なお、各遺構図について以下のようにした。

掘立柱建物跡図(第75～89図)の計測値は計画線による。

井戸図(100図～106図)図中に示した記号は、①断面図横に付せられたA～Fは井戸掘削地層断面を示す。A-黒褐色土、B-黄褐色ローム、C-褐灰色ローム、D-灰褐色火山灰、E-青灰色火山灰、F-青灰色火山灰砂軽石混。②▽は調査時自然水位を示す。③↓は湧水層を示す。④↓はアグリの範囲を示す。

土坑図(108図～122図)の土層説明は一覧表中に記した。

5. 遺物の掲載については、「第3章第5節中・近世遺物」では、本遺跡は「中屋敷館跡」として一つの館遺構であり、溝・井戸・土坑等は、この館に関する一連の遺構であると考えられる。各遺構から出土した遺物は器種・種別毎に分類し掲載した。各遺物に番号と遺構名を記した。

6. 遺物観察表記載は以下の通り。

番号は、遺構毎・各項毎に通し番号を付し、表題に記した図版・写真の番号と一致する。

単位は、各表の表題中に記載した。土器は口径・底径・器高をcm、重さはgで表し、近世陶磁器・木器はmmとgで表した。石製品等重量遺物についてはkgで表した。

色調は、農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」を使用。

7. 遺物写真は口絵と写真図版で掲載した。

目次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	
報告書抄録	
第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	3
第4節 土層説明	4
第2章 遺跡の環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	7
第3章 検出された遺構・遺物	11
第1節 旧石器時代	11
第2節 縄文時代	12
1. 竪穴住居跡	12
2. 集石土坑	15
3. 出土土器	17
4. 出土石器	39
第3節 古墳時代・奈良・平安時代	62
1. 住居跡	62
2. 溝	70
3. ビット	77
4. ビット及び遺構外出土遺物	79
5. 水田・畠・As-B堆積	83
第4節 中・近世以降	88
1. 概要	90
2. 溝	100
3. 掘立柱建物跡	114
4. 屋敷跡	148
5. 井戸跡	150
6. 土坑	164
第5節 中・近世以降の出土遺物	188
1. 陶磁器	189
①碗	189
②皿	210
③鉢類(猪口・鉢・片口・搦鉢)	217
④甕	225
⑤徳利	225
⑥水差・蓋	234
⑦灯明具	234
⑧小物類他	235
2. 土器	235
①蓋・皿	235
②焙烙・内耳鍋	240
3. 近代以降出土遺物	241
1 陶磁器等	241
2 土器	247
4. 瓦	252
5. 石製品	286
①石臼	286
②窟石	300
③砥石	300
④板碑	303
⑤五輪塔	305
6. 木製品	310
①蘇民将来符	310
②碗	310
③曲物・桶板・籠・下駄	317
④板材・建築材	318
7. 鉄製品	318
①煙管	318
②古銭	318
第4章 自然科学分析	320
第1節 土層とテフラ	320
第2節 植物珪酸体分析	326
第3節 花粉分析	332
第4節 「蘇民将来」と「布」の保存処理	333
写真図版	

挿目次

第 1 図	北関東自動車道関津遺跡位置図	1	第 62 図	Hr-F A 混成層平面図	87
第 2 図	調査区及びグリッド配置図	2	第 63 図	As-B 堆積範囲図	87
第 3 図	土層柱状図位置図	4	第 64 図	近世遺構全体図	88
第 4 図	土層柱状図	5	第 65 図	世立柱建物跡分布図	94
第 5 図	道路周辺の環境	6	第 66 図	1号、37号、38号溝平・断面図	98
第 6 図	旧石器状埋坑配置・土層断面図	11	第 67 図	2号～7号溝平・断面図	102
第 7 図	縄文時代遺構配置図	12	第 68 図	5号溝内出土状態平・断面図	104
第 8 図	3号住居跡平・断面図	13	第 69 図	32号溝平・断面図	105
第 9 図	4号住居跡平・断面図	14	第 70 図	25号・29号・30号溝平・断面図	106
第 10 図	1号・2号集石土坑位置・埋出土状態図	15	第 71 図	8号・11号・13号溝平・断面図	108
第 11 図	1号・2号集石土坑平・断面図	16	第 72 図	15号・16号・20号・22号・23号・34号溝平・断面図	110
第 12 図	縄文土器出土分布図	17	第 73 図	17号～19号・35号溝平・断面図	111
第 13 図	縄文土器拓影図 (1)	18	第 74 図	5号溝内竪立柱建物跡分布図	114
第 14 図	縄文土器拓影図 (2)	19	第 75 図	1号・2号竪立柱建物跡平・断面図	115
第 15 図	縄文土器拓影図 (3)	21	第 76 図	3号・4号竪立柱建物跡平・断面図	116
第 16 図	縄文土器拓影図 (4)	22	第 77 図	5号・6号竪立柱建物跡平・断面図	117
第 17 図	縄文土器拓影図 (5)	24	第 78 図	7号・8号竪立柱建物跡平・断面図	119
第 18 図	縄文土器拓影図 (6)	25	第 79 図	15号・16号竪立柱建物跡平・断面図	120
第 19 図	縄文土器拓影図 (7)	27	第 80 図	17号・18号竪立柱建物跡平・断面図	121
第 20 図	縄文土器拓影図 (8)	28	第 81 図	19号・20号竪立柱建物跡平・断面図	123
第 21 図	縄文土器拓影図 (9)	30	第 82 図	21号・22号竪立柱建物跡平・断面図	124
第 22 図	縄文土器拓影図 (10)	31	第 83 図	23号・24号・25号竪立柱建物跡平・断面図	125
第 23 図	縄文土器拓影図 (11)	33	第 84 図	26号・27号竪立柱建物跡平・断面図	127
第 24 図	縄文土器拓影図 (12)	34	第 85 図	28号・29号竪立柱建物跡平・断面図	128
第 25 図	縄文土器実測図 (1)	40	第 86 図	30号竪立柱建物跡平・断面図	129
第 26 図	縄文土器実測図 (2)	41	第 87 図	5号溝内竪立柱建物跡分布図	129
第 27 図	縄文土器実測図 (3)	43	第 88 図	10号・11号・12号竪立柱建物跡平・断面図	131
第 28 図	縄文土器実測図 (4)	45	第 89 図	13号・14号竪立柱建物跡平・断面図	132
第 29 図	縄文土器実測図 (5)	47	第 90 図	5号溝内ピット平面図 1/4	136
第 30 図	縄文土器実測図 (6)	48	第 91 図	5号溝内ピット平面図 2/4	137
第 31 図	縄文土器実測図 (7)	49	第 92 図	5号溝内ピット平面図 3/4	138
第 32 図	縄文土器実測図 (8)	51	第 93 図	5号溝内ピット平面図 4/4	139
第 33 図	縄文土器実測図 (9)	52	第 94 図	5号溝外ピット平面図 1/2	140
第 34 図	縄文土器実測図 (10)	53	第 95 図	5号溝外ピット平面図 2/2	141
第 35 図	縄文土器実測図 (11)	55	第 96 図	1号・2号埋藏跡分布図	148
第 36 図	石鏃・打製石片等分布図	56	第 97 図	1号埋藏跡平・断面図	149
第 37 図	スタンプ形石器分布図	57	第 98 図	2号埋藏跡平・断面図	150
第 38 図	磨石分布図	58	第 99 図	5号溝内井戸跡分布図	159
第 39 図	古墳・奈良・平安時代遺構分布図	62	第 100 図	5号溝内井戸跡平・断面図 (1)	159
第 40 図	1号住居跡平・断面図、出土遺物実測図	63	第 101 図	5号溝内井戸跡平・断面図 (2)	153
第 41 図	2号住居跡平・断面図	64	第 102 図	5号溝内井戸跡平・断面図 (3)	155
第 42 図	2号住居跡カマド平・断面図	65	第 103 図	5号溝外井戸跡分布図	156
第 43 図	2号住居跡出土遺物実測図	65	第 104 図	5号溝外井戸跡平・断面図 (1)	158
第 44 図	5号住居跡平・断面図	67	第 105 図	5号溝外井戸跡平・断面図 (2)	160
第 45 図	5号住居跡出土遺物実測図	67	第 106 図	5号溝外井戸跡平・断面図 (3)	162
第 46 図	6号住居跡出土遺物実測図	68	第 107 図	5号溝内土坑分布図	164
第 47 図	6号住居跡平・断面図	69	第 108 図	5号溝内土坑平・断面図 (1)	166
第 48 図	6号住居跡出土遺物実測図	69	第 109 図	5号溝内土坑平・断面図 (2)	167
第 49 図	12号溝出土遺物実測図 (1)	71	第 110 図	5号溝内土坑平・断面図 (3)	168
第 50 図	12号・14号溝平・断面図 (1)	72	第 111 図	5号溝内土坑平・断面図 (4)	169
第 51 図	12号・14号溝平・断面図 (2)	73	第 112 図	5号溝内土坑平・断面図 (5)	170
第 52 図	12号・14号溝出土遺物実測図 (2)	75	第 113 図	5号溝内土坑平・断面図 (6)	171
第 53 図	12号溝出土遺物実測図 (3)	77	第 114 図	5号溝内土坑平・断面図 (7)	172
第 54 図	20号・25号ピット遺物出土状態図	77	第 115 図	5号溝内土坑平・断面図 (8)	173
第 55 図	ピット他遺構外出土遺物実測図 (1)	78	第 116 図	5号溝内土坑平・断面図 (9)	174
第 56 図	遺構外出土遺物実測図 (2)	80	第 117 図	5号溝外土坑分布図	175
第 57 図	As-C 堤下水田跡全体図	83	第 118 図	5号溝外土坑平・断面図 (1)	176
第 58 図	As-C 堤下水田跡 (西部) 平面図	84	第 119 図	5号溝外土坑平・断面図 (2)	177
第 59 図	As-C 堤下水田跡 (北西部) 平面図	84	第 120 図	5号溝外土坑平・断面図 (3)	178
第 60 図	As-C 堤下水田跡 (東部) 平面図	85	第 121 図	5号溝外土坑平・断面図 (4)	179
第 61 図	As-C 堤下水田跡 (北東部) 平面図	86	第 122 図	5号溝外土坑平・断面図 (5)	180

第123回	陶磁器碗実測図(1).....	190	第174回	瓦実測図(16).....	268
第124回	陶磁器碗実測図(2).....	191	第175回	瓦実測図(17).....	269
第125回	陶磁器碗実測図(3).....	192	第176回	瓦実測図(18).....	270
第126回	陶磁器碗実測図(4).....	193	第177回	瓦実測図(19).....	271
第127回	陶磁器碗実測図(5).....	194	第178回	瓦実測図(20).....	272
第128回	陶磁器碗実測図(6).....	195	第179回	瓦実測図(21).....	273
第129回	陶磁器碗実測図(7).....	196	第180回	瓦実測図(22).....	274
第130回	陶磁器碗実測図(8).....	197	第181回	瓦実測図(23).....	275
第131回	陶磁器碗実測図(9).....	198	第182回	瓦実測図(24).....	276
第132回	陶磁器碗実測図(10).....	199	第183回	瓦実測図(25).....	277
第133回	陶磁器皿実測図(1).....	210	第184回	瓦実測図(26).....	278
第134回	陶磁器皿実測図(2).....	211	第185回	瓦実測図(27).....	279
第135回	陶磁器皿実測図(3).....	212	第186回	瓦実測図(28).....	280
第136回	陶磁器皿実測図(4).....	213	第187回	瓦実測図(29).....	281
第137回	陶磁器皿実測図(5).....	214	第188回	瓦実測図(30).....	282
第138回	陶磁器燈口・鉢類実測図.....	217	第189回	瓦実測図(31).....	283
第139回	陶磁器鉢・鉢類実測図.....	218	第190回	石白実測図(1).....	287
第140回	陶磁器片口・香炉・火鉢実測図.....	219	第191回	石白実測図(2).....	288
第141回	陶磁器燈鉢実測図.....	220	第192回	石白実測図(3).....	289
第142回	陶器壺実測図(1).....	223	第193回	石白実測図(4).....	290
第143回	陶器壺実測図(2).....	224	第194回	石白実測図(5).....	291
第144回	陶磁器密判実測図(1).....	225	第195回	石白実測図(6).....	292
第145回	陶磁器密判実測図(2).....	226	第196回	石白実測図(7).....	293
第146回	陶磁器水差・壺実測図.....	229	第197回	石白実測図(8).....	294
第147回	陶磁器灯明皿・灯明受皿・変揚実測図.....	230	第198回	石白実測図(9).....	295
第148回	陶磁器小物類他実測図.....	234	第199回	石白実測図(10).....	296
第149回	近世土器実測図.....	235	第200回	石白実測図(11).....	297
第150回	焙烙実測図(1).....	236	第201回	窯石実測図(1).....	299
第151回	焙烙実測図(2).....	237	第202回	窯石実測図(2).....	300
第152回	焙烙実測図(3).....	238	第203回	窯石実測図(1).....	301
第153回	近代陶磁器鉢・皿実測図.....	242	第204回	窯石実測図(2).....	302
第154回	近代陶磁器鉢類實測圖.....	243	第205回	板碑実測図.....	304
第155回	近代陶磁器壺・湯たんば・急須実測図.....	244	第206回	五輪塔実測図(1).....	306
第156回	近代陶磁器行平・壺・ビン実測図.....	245	第207回	五輪塔実測図(2).....	307
第157回	近代土器実測図(1).....	248	第208回	五輪塔実測図(3).....	308
第158回	近代土器実測図(2).....	249	第209回	五輪塔実測図(4).....	309
第159回	瓦実測図(1).....	253	第210回	木器(佛民持来持)実測図(1).....	310
第160回	瓦実測図(2).....	254	第211回	木器(杓)実測図(2).....	311
第161回	瓦実測図(3).....	255	第212回	木器(杓・曲物)実測図(3).....	312
第162回	瓦実測図(4).....	256	第213回	木器(曲物・楯板)実測図(4).....	313
第163回	瓦実測図(5).....	257	第214回	木器(楯板・下駄)実測図(5).....	314
第164回	瓦実測図(6).....	258	第215回	木器(板材)実測図(6).....	315
第165回	瓦実測図(7).....	259	第216回	木器(建築材類)実測図(7).....	316
第166回	瓦実測図(8).....	260	第217回	煙管実測図.....	318
第167回	瓦実測図(9).....	261	第218回	古銭実測図.....	319
第168回	瓦実測図(10).....	262	図4-1-1	土層柱状図(1).....	324
第169回	瓦実測図(11).....	263	図4-1-2	土層柱状図(2).....	325
第170回	瓦実測図(12).....	264	図4-1-3	土層柱状図(3).....	325
第171回	瓦実測図(13).....	265	図4-2-1	植物建群体分析結果(1).....	330
第172回	瓦実測図(14).....	266	図4-2-2	植物建群体分析結果(2).....	331
第173回	瓦実測図(15).....	267	図4-4-1	布片のIRスペクトル.....	336

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表.....	8	第10表	2号住居跡柱穴一覧表.....	66
第2表	3号住居跡柱穴一覧表.....	13	第11表	2号住居跡柱穴間一覧表.....	66
第3表	3号住居跡柱穴間一覧表.....	13	第12表	2号住居跡出土遺物観察表.....	66
第4表	1号集石土坑出土層計測表.....	15	第13表	5号住居跡出土遺物観察表.....	66
第5表	2号集石土坑出土層計測表.....	15	第14表	6号住居跡出土遺物観察表.....	68
第6表	縄文土器出土位置・給土観察表.....	35	第15表	12号・14号溝出土遺物観察表.....	70
第7表	出土土器種別・石材一覧表.....	59	第16表	ピット及び遺構外出土遺物観察表.....	79
第8表	縄文土器観察表.....	60	第17表	As-C風下木田跡計測表.....	86
第9表	1号住居跡出土遺物観察表.....	63	第18表	IIr-FA泥晶跡計測表.....	87

第 19 表	掘立柱建物跡分佈表	92	第 65 表	29号掘立柱建物跡柱穴一覽表	128
第 20 表	溝一覽表	113	第 66 表	29号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	128
第 21 表	1号掘立柱建物跡柱穴一覽表	115	第 67 表	30号掘立柱建物跡柱穴一覽表	129
第 22 表	1号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	115	第 68 表	30号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	129
第 23 表	2号掘立柱建物跡柱穴一覽表	115	第 69 表	10号掘立柱建物跡柱穴一覽表	131
第 24 表	2号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	115	第 70 表	10号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	131
第 25 表	3号掘立柱建物跡柱穴一覽表	116	第 71 表	11号掘立柱建物跡柱穴一覽表	131
第 26 表	3号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	116	第 72 表	11号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	131
第 27 表	4号掘立柱建物跡柱穴一覽表	116	第 73 表	12号掘立柱建物跡柱穴一覽表	132
第 28 表	4号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	116	第 74 表	12号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	132
第 29 表	5号掘立柱建物跡柱穴一覽表	116	第 75 表	13号掘立柱建物跡柱穴一覽表	132
第 30 表	5号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	116	第 76 表	13号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	132
第 31 表	6号掘立柱建物跡柱穴一覽表	117	第 77 表	14号掘立柱建物跡柱穴一覽表	132
第 32 表	6号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	117	第 78 表	14号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	132
第 33 表	7号掘立柱建物跡柱穴一覽表	117	第 79 表	掘立柱建物跡一覽表	134
第 34 表	7号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	119	第 80 表	ピット一覽表	135
第 35 表	8号掘立柱建物跡柱穴一覽表	119	第 81 表	井戸計測表	163
第 36 表	8号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	119	第 82 表	土坑計測表	181
第 37 表	15号掘立柱建物跡柱穴一覽表	120	第 83 表	中近世播磨遺物遺構別出土量表	188
第 38 表	15号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	119	第 84 表	陶磁器類観察表	200
第 39 表	16号掘立柱建物跡柱穴一覽表	120	第 85 表	陶磁器皿観察表	209
第 40 表	16号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	119	第 86 表	陶磁器鉢・甕口・片口・楯鉢等観察表	221
第 41 表	17号掘立柱建物跡柱穴一覽表	121	第 87 表	陶磁器壺観察表	222
第 42 表	17号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	121	第 88 表	陶磁器德利観察表	227
第 43 表	18号掘立柱建物跡柱穴一覽表	121	第 89 表	陶磁器水差し・壺観察表	228
第 44 表	18号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	121	第 90 表	陶磁器灯明皿・灯明受皿・壺嘴観察表	231
第 45 表	19号掘立柱建物跡柱穴一覽表	123	第 91 表	陶磁器小物類他観察表	233
第 46 表	19号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	123	第 92 表	近世土器観察表	238
第 47 表	20号掘立柱建物跡柱穴一覽表	123	第 93 表	浴槽観察表	239
第 48 表	20号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	123	第 94 表	近代以降陶磁器他観察表	246
第 49 表	21号掘立柱建物跡柱穴一覽表	124	第 95 表	近代以降土器観察表	250
第 50 表	21号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	124	第 96 表	瓦観察表	284
第 51 表	22号掘立柱建物跡柱穴一覽表	124	第 97 表	石臼計測表	298
第 52 表	22号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	124	第 98 表	礎石計測表	300
第 53 表	23号掘立柱建物跡柱穴一覽表	125	第 99 表	砥石計測表	302
第 54 表	23号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	125	第 100 表	砥石観察表	303
第 55 表	24号掘立柱建物跡柱穴一覽表	125	第 101 表	五輪碾磨表	306
第 56 表	24号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	125	第 102 表	木製品計測表	317
第 57 表	25号掘立柱建物跡柱穴一覽表	125	第 103 表	煙管観察表	318
第 58 表	25号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	125	第 104 表	古銭観察表	318
第 59 表	26号掘立柱建物跡柱穴一覽表	127	表4-1-1	テフラ検出分析結果	323
第 60 表	26号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	127	表4-1-2	屈折率測定結果	324
第 61 表	27号掘立柱建物跡柱穴一覽表	127	表4-2-1	積物土層体分析結果	329
第 62 表	27号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	127	表4-4-1	木製品保存処理表	333
第 63 表	28号掘立柱建物跡柱穴一覽表	128	表4-4-2	布保存処理表	333
第 64 表	28号掘立柱建物跡柱穴間一覽表	128			

写真目次

口絵 1	波志江中層敷遺跡全景 (南上空より)
口絵 2	縄文土器埋文土器
1	全景
2	補修孔及び口縁部剥離状態
3	口唇部
4	底部
口絵 3	39号井戸出土遺物
1	「蘇民得來符」(木製品№1)
2	「蘇民得來符」(木製品№2)
3	「蘇民得來符」(木製品№3)
4	布片
口絵 4	1 陶磁器小碗
2	陶磁器中碗
口絵 5	1 陶磁器中碗

2	陶磁器中皿
口絵 6	1 陶磁器中・大皿
2	陶磁器灯明皿・灯明受皿・壺嘴
口絵 7	1 陶磁器碗
2	陶磁器皿
3	陶磁器鉢・恵利等
口絵 8	1 陶磁器甕・甕口
2	陶磁器壺
3	磁器碗 (33号井戸出土)
4	陶器戸車
5	陶磁器機軸・漆継痕
6	中国製磁器
7	ガラス玉

PL. 1	1、浪志江中層敷跡遺景 (南上空から赤城山を望む) 2、浪志江中層敷跡全景 (南上空から撮影)		
PL. 2	1、縄文時代谷地断面 (南東) 2、縄文時代谷地断面 (南東) 3、谷地押型文土器出土状態 (南東) 4、谷地押型文土器出土状態 (南東) 5、谷地押型文土器出土状態 (南) 6、谷地押型文土器出土状態 (南) 7、縄文時代遺物出土状態北西部 (西) 8、縄文時代遺物出土状態北東部 (北)	PL. 11	7、324号ビット遺物出土状態 (南) 8、12号土坑礫出土状態 (東) 1、62号土坑礫出土状態 (南) 2、120号土坑礫出土状態 (北) 3、180号土坑礫出土状態 (南) 4、55号土坑材出土状態 (東) 5、1号層敷 (南) 6、1号層敷杭出土状態 (東) 7、1号層敷杭出土状態 (西) 8、2号層敷 (南)
PL. 3	1、3号住居跡全景 (北) 2、3号住居跡遺物出土状態 (北) 3、4号住居跡全景 (南西) 4、4号住居跡遺物出土状態 (南西) 5、4号住居跡遺物出土状態 (南西) 6、1号窯石土坑 (南) 7、2号窯石土坑上面 (南) 8、2号窯石土坑 (南)	PL. 12	1、1号井戸 2、2号井戸 3、3号井戸 4、4号井戸 5、5号井戸 6、5号井戸遺物出土状態 7、6号井戸 8、6号井戸 1、7号井戸 2、8号井戸 3、9号井戸 4、11号井戸 5、10号井戸 6、10号井戸B堆積状態 7、12号井戸 8、13号井戸 1、14号井戸 2、16号井戸 3、17号井戸 4、18号井戸 5、19号井戸 6、20号井戸 7、20号井戸礫出土状態 8、21号井戸
PL. 4	1、1号住居跡 (西) 2、2号住居跡遺物出土状態 (東) 3、2号住居跡カマド (東) 4、2号住居跡掘方 (東) 5、5号住居跡 (東) 6、5号住居跡掘方 (北) 7、6号住居跡 (南西) 8、6号住居跡遺物出土状態 (南西)	PL. 13	1、22号井戸 2、23号井戸 3、23号井戸出土遺物 4、24号井戸 5、27号井戸 6、25号井戸 7、25号井戸 8、25号井戸 1、29号井戸 2、30号・31号井戸 3、32号井戸 4、34号井戸 5、33号井戸 6、33号井戸遺物出土状態 7、33号井戸遺物出土状態 8、35号・36号井戸
PL. 5	1、12・14号溝 (北) 2、36号溝 (北西) 3、12号溝北側 (北) 4、12号溝遺物出土状態 (北西) 5、12号溝遺物出土状態 (北) 6、14号溝 (北) 7、14号溝 (北) 8、As-C混土下木田北西部 (北) 1、As-C混土下木田北西部 (東) 2、As-C混土下木田北東部 (北) 3、As-C混土下木田東部 (北) 4、As-C混土下木田東部 (北) 5、Hr-FA混土南部 (南) 6、Hr-FA混土北部 (北) 7、As-B堆積状況 (北) 8、1号溝西側 (南)	PL. 14	1、38号井戸 2、38号井戸礫出土状態 3、39号井戸 4、146号土坑 5、146号土坑礫出土状態 6、87号土坑 7、88号土坑 8、91号土坑材出土状態
PL. 6	1、遺跡全景横分布 (南上空) 2、1号溝北側 (西) 3、35号溝 (北) 4、2号～8号溝 (北) 5、6号溝 (西)	PL. 15	1、90号土坑 2、90号土坑礫出土状態 3、172号土坑 4、2号土坑 5、91号土坑
PL. 7	1、5号・6号溝 (北) 2、5号・6号溝断面 (北) 3、5号・6号溝材出土状態 (北) 4、5号・6号溝材出土状態 (南) 5、5号溝杭・漆輪出土状態 (北) 6、5号・6号溝出土材 7、17号～20号・34号溝 (北) 8、20号溝遺物出土状態 (北)	PL. 16	
PL. 8	1、5号溝内遺構群 (北) 2、5号溝内遺構群 (東) 1、5号溝内掘立柱建物跡群 (南) 2、10号・11号掘立柱建物跡 (南) 3、12号掘立柱建物跡 (南) 4、13号・14号掘立柱建物跡 (南) 5、20号ビット遺物出土状態 (南西) 6、256号ビット遺物出土状態 (北)	PL. 17	
PL. 9		PL. 18	

	6、1号土坑		
	7、6号土坑		
	8、8号土坑		
P L. 19	1、9号土坑		
	2、25号土坑		
	3、26号土坑		
	4、31号土坑		
	5、34号土坑		
	6、36号土坑		
	7、39号土坑		
	8、42号土坑		
P L. 20	1、45号土坑		
	2、40号土坑		
	3、49号土坑		
	4、51号土坑		
	5、52号·75号·76号土坑		
	6、53号土坑		
	7、66号土坑		
	8、68号土坑		
P L. 21	1、70号土坑		
	2、71号土坑		
	3、72号土坑		
	4、77号·78号土坑		
	5、94号·96号土坑		
	6、100号土坑		
	7、106号~109号土坑		
	8、111号~113号土坑		
P L. 22	1、114号土坑		
	2、116号·117号土坑		
	3、118号·119号·179号土坑		
	4、122号土坑		
	5、123号土坑		
	6、125号土坑		
	7、126号土坑		
	8、133号·134号土坑		
P L. 23	1、154号土坑		
	2、155号土坑		
	3、164号·168号土坑		
	4、164号土坑		
	5、173号土坑		
	6、184号土坑		
	7、159号~190号土坑		
	8、185号土坑		
P L. 24	1、186号土坑		
	2、194号土坑		
	3、197号土坑		
	4、200号土坑		
	5、201号土坑		
	6、202号·203号土坑		
	7、203号土坑		
	8、207号土坑		
		P L. 25	1、208号土坑
			2、208号土坑
			3、211号·223号·224号土坑
			4、218号土坑
			5、225号土坑
			6、226号·229号土坑
			7、227号土坑
			8、235号·236号土坑
		P L. 26	1、237号~243号土坑
			2、247号土坑
			3、247-1号土坑
			4、247号土坑断面
			5、衛道部調査区全景
		P L. 27	縄文土器 (1~29)
		P L. 28	縄文土器 (30~59)
		P L. 29	縄文土器 (60~89)
		P L. 30	縄文土器 (90~116)
		P L. 31	縄文土器 (117~139)
		P L. 32	縄文土器 (140~169)
		P L. 33	縄文土器 (170~200)
		P L. 34	縄文土器 (201~214)・縄文石器 (1~15)
		P L. 35	縄文石器 (16~46)
		P L. 36	縄文石器 (47~76)
		P L. 37	縄文石器 (77~114)
		P L. 38	縄文石器 (98~112)・1号・2号・5号・6号住 12号溝 (1~7)
		P L. 39	12号溝 (8~30)・古墳~平安 (8~39)
		P L. 40	12号溝 (40)・古墳~平安 (41~71)
		P L. 41	古墳~平安 (72~83)・近世 (243~)
		P L. 42	近世・塔塔 (365~381)
		P L. 43	塔塔 (382~399)・近代 (400~)
		P L. 44	近代 (452~483)
		P L. 45	近代 (484~486)・瓦 (1~15)
		P L. 46	瓦 (16~31)
		P L. 47	瓦 (32~51)
		P L. 48	瓦 (43~74)
		P L. 49	瓦 (70~87)
		P L. 50	瓦 (88~101)
		P L. 51	瓦 (102~122)
		P L. 52	瓦 (123~125)・石製品 (石臼1~13)
		P L. 53	石製品 (石臼14~29)
		P L. 54	石製品 (石臼30~45)
		P L. 55	石製品 (石臼46~55)・礎石1~10)
		P L. 56	石製品 (五輪等1~25)
		P L. 57	石製品 (砥石1~20)・板碑1~9)
		P L. 58	木製品 (4~22)・漆板)
		P L. 59	木製品 (23~34)・虫物・桶板)
		P L. 60	木製品 (35~48)・下駄・材板)
		P L. 61	鉄製品 (古銭・燧管)
		328	植物性炭体の顕微鏡写真
		332	花粉分析の顕微鏡写真

報 告 書 抄 録

ふりがな	はしえなかやしきいせき
書名	波志江中屋敷遺跡
副書名	北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第25集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第332集
編著者	田村公夫・大塚昌彦・飯森康宏・木津博明
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	377-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784-2 TEL0279-52-2511
発行年月日	2004年3月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号				
はしえなかやしき 波志江中屋敷	群馬県伊勢崎市 波志江町	10204	10005- 00542	362112 1391115	19970909～ 19981231	7,848	道路（北関東自動車道）建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
波志江中屋敷	集落	縄文	住居跡2軒 集石土坑2基	縄文早期燃糸文土器 縄文早期押型文土器 スタンプ形石器他 土師器	燃糸文期の集落2軒と包含層より燃糸文土器多数と完形復元した山形文の押型文土器出土。
		古墳～平安	住居跡4軒 溝3条		
		中近世	環濠屋敷 溝30条 掘立柱建物跡30棟 井戸41基 土坑272基	陶磁器、瓦、石製品 木製品	近世を主とする「中屋敷」の北辺部の調査。館の外郭を成す堀から多量の近世陶磁器出土。
	その他	古墳～平安	水田・畠		

第1章

調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査事業は、高崎市上滝町（高崎ジャンクション）から伊勢崎市三和町（伊勢崎インター）の間、延長14.9kmの路線内に所在する遺跡を対象とする。平成6年度、県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課、県土木部道路建設課高速道路対策室、日本道路公団東京第二建設局により協議が行われ、本線部分の発掘調査については財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することに決定した。遺跡数35、総面積687,429㎡であった。

平成7年6月、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により高崎市上滝町から本格的発掘調査が開始され、以後、用地取得・工事計画に基づき道路公団と群馬県教育委員会との協議に則り、平成8年1月に前橋市所在遺跡、平成8年3月伊勢崎市所在遺跡が次々と着手された。

波志江地区の試掘調査は、平成8年7月及び平成8年11月群馬県教育委員会文化財保護課により実施され、遺構の存在が確認された。

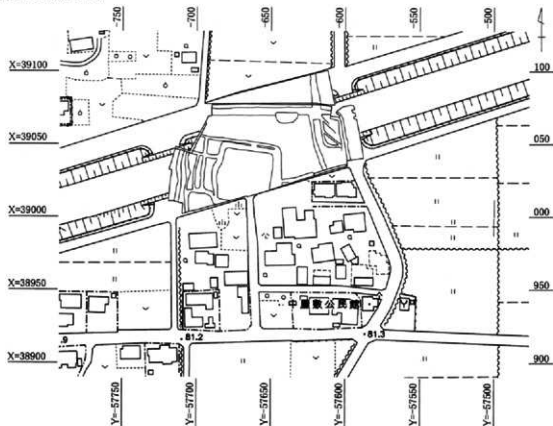
波志江中屋敷遺跡は、平成10年9月から伊勢崎市教育委員会により側道部分の調査が行われ、平成10年12月から本線部分の調査に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が着手した。



第1図 北関東自動車道関連遺跡位置図(1/50,000)

第2節 調査の経過

伊勢崎市教育委員会により平成10年9月より北側側道部分を中心に発掘調査が開始された。9月9日より重機による表土掘削を開始し、17日より作業員が入り、1号・2号溝の調査から始まった。10月中旬には1号・2号住居跡、溝等の調査、10月下旬には水田の調査が進んだ。11月上旬には、中近世・古代の面調査が終了し、下層の遺構確認のトレンチ調査を行った。その結果、縄文時代の集石遺構2基が検出された。11月中旬からは、旧石器の試掘調査を行い、遺構・遺物は検出されなかった。11月30日で本区の調査は終了した。財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の本線部分の調査は、平成10年12月1日より、担当1名により表土除去や事務所設営等の発掘調査準備にあたった。平成11年1月5日より担当3名と発掘作業員により本格的に調査を開始した。環濠屋敷の堀の調査から進み、屋敷内のピット・土坑の調査を進めた。1月末で担当1名が他遺跡へ異動したが、2月8日より担当2名が増員され、4名体制で臨むこととなった。さらに遺構の詳細部分にも目が行き届き、掘立柱建物跡の認定等遺構全体像が明らかになった。また、水田遺構も検出された。古井戸については、業者委託を行い完掘した。さらに、中近世・古代・縄文時代の面調査の終了した部分から旧石器の試掘調査を実施した。平成11年度は、4月7日より担当5名と発掘作業員で昨年度に引き続き中近世・古代の面調査をすすめ、6月からは下層の縄文時代面へと調査は進められた。2基の縄文時代早期住居跡と周辺からは、早期の土器片が多数検出した。8月には、この縄文時代早期のはほぼ完形の押型文土器が日本道路公団東京建設局による「高速道路と埋蔵文化財展」に出品され、多くの人からその貴重性・重要性が指摘された。8月中旬には縄文時代の文化層の調査が終了し旧石器の試掘調査を実施したが、遺構・遺物は検出されず、9月10日で発掘調査全工程を終了し、9月13日道路公団へ引渡した。その後担当3名により基礎整理を開始した。



第2図 調査区及びグリッド配置図（伊勢崎市現況図1/2,500参照）

第3節 調査の方法

1. 調査区の設定

遺物・遺構の記録方法として、グリッド設定による調査方法を基本とした。グリッドは日本地測系第9系に基づく1m方眼を設定した。グリッド名はグリッド南東隅のm単位の座標値の下3桁を用い、X値・Y値の順で表記した。なお、本遺跡の中心部に位置する060-650は日本測地系9系X値39060、Y値-57650を表わし、世界測地系のX値39414.5664・Y値-58008.2200である。

2. 遺跡略号

波志江中屋敷遺跡の遺跡略号は「KT230」である。「KT」は北関東自動車道の「北KITA」で、「23」は北関東自動車道発掘調査開始時に確認されていた高崎市から伊勢崎インター間の遺跡通し番号23番目の遺跡を表す。「0」は補助番号で、遺跡間で遺跡が確認された時に使われ数字である。

3. 調査方法

(調査手順) 表土掘削は、調査の効率化を図るため掘削機械を使用した。その後、遺構や遺物包含層の掘削は人力で行ったが、一部大型遺構は掘削機械を併用した場面もあった。古井戸掘削は委託し完掘した。

(記録方法) 遺構等の記録は、測量と写真撮影により行った。測量は、航空写真測量と地上測量を併用し、住居跡1/20、カマド・炉・築石1/10、掘立柱建物跡・土坑・井戸・溝1/20、水田1/40、全体図1/100の縮尺を基準に行った。平面図の作成には平板測量を主な手段としたが、1/10を基準とする遺構については、簡易やり方実測を併用した。断面図は、1/10・1/20で行った。なお、一部平面図は委託した。実測図には、遺跡名・略号・実測図名称・縮率・レベル高・実測者等を併記した。

写真撮影は、各遺構に対して担当職員により行った。各遺構の遺物出土状態、遺物取り上げ後の状況等を撮影し、カマドや特徴的な遺物の出土状態、土層断面等に際しては接写を行った。また、遺跡各部の撮影には、ローリングタワーや高所作業車を用いた。また、遺跡全景については、委託によるラジコンヘリ等を使用し遺構面ごとに随時実施した。使用した主な機種は、カメラはプロローニー版(120)一眼レフ6×7(ペンタックス)、ライカ版(135)一眼レフ35mm(キャノンEOS)。フィルムはモノクロームネオパンSS及びリバーサルコダクローム64である。

出土遺物は、出土位置を記録し、適宜出土状態等の写真撮影を行い取上げた。その後遺構毎・種別毎に分別し収納ケースに保管した。保管に当たっては金属器はシリカゲルを挿入した袋に入れ、木器は水浸けにした。

(基礎整理) 発掘調査中より、出土遺物は機会を見て洗浄・注記を施した。土器・石製品類は洗浄・注記後遺構毎に収納し、木器は加工痕のない木材はサンプルを採取した。鉄器・木器類は台帳を作成し、保存処理室で処理を行った。図面類は、遺構全体図・個別遺構の簡易作成を行い、整理事業での省力化を図った。

4. 整理事業

整理方法は、実測図・写真・記述の3つの方法を用い、視覚的方法を主に記述で補足し、明解で簡潔正確なものを目指し作業を進めた。本遺跡は遺構量・遺物量ともに膨大で多岐にわたるため、事業団総体で取り組んだ。遺物は接合・実測・拓本等により資料化し、遺構は平面図・断面図、遺物出土状態等から資料化した。遺物については、本書の紙数から割愛せざる負えない小破片があり心苦しい点である。遺物はすべてセンターに保管されている。縄文時代早期押型文土器は、日本道路公団の好意により資料展示に耐え得る完全復元を行うことができた。

第4節 土層説明

波志江中層敷遺跡は、ローム台地部と低地部からなる。土層柱状図は、第3図の位置図に示すようにSPAは台地部、SPBは旧石器試掘時記録の台地と低地の変換点、SPC・Dは低地部の土層を示した。SPC・Dは近接しており、SPCが1～11層を、SPDが11層以下の層序を記録していることから、柱状図では標高を合わせ1本の柱状図にした。なお、本土層説明の詳細は、第4章「自然科学分析」を参照されたい。

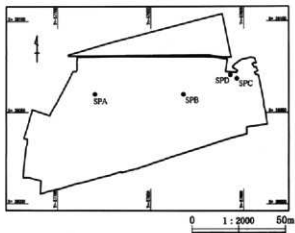
各柱状図の共通土層は線で繋ぎ表した。表土はAの1層とCの1層、Hr-FA・As-C混土はAの2層とCの6～8層、As-YP混土はAの6層・Bの2層・Cの26層が対応する。

表土1層除去により中近世・近代の環濠屋敷跡に伴う溝・土坑・井戸等が検出した。SPAの第2層黒褐色土とCの8層の基底より畦畔状遺構(As-C下水田)が検出した。SPB及びC付近では、Cの3層As-B堆積を確認した。この層での自然科学分析の結果では、イネが検出され、その密度は3,400個/gと比較的高い値が示された。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられた。しかし、分布範囲が狭いことなどから水田等の遺構は検出されなかった。下層では6層を混土とする鋳跡が検出した。また、縄文土器は台地部ではAの3層中から出土し、東側の谷頭では19層中より縄文時代早期押型文土器が集中して出土した。

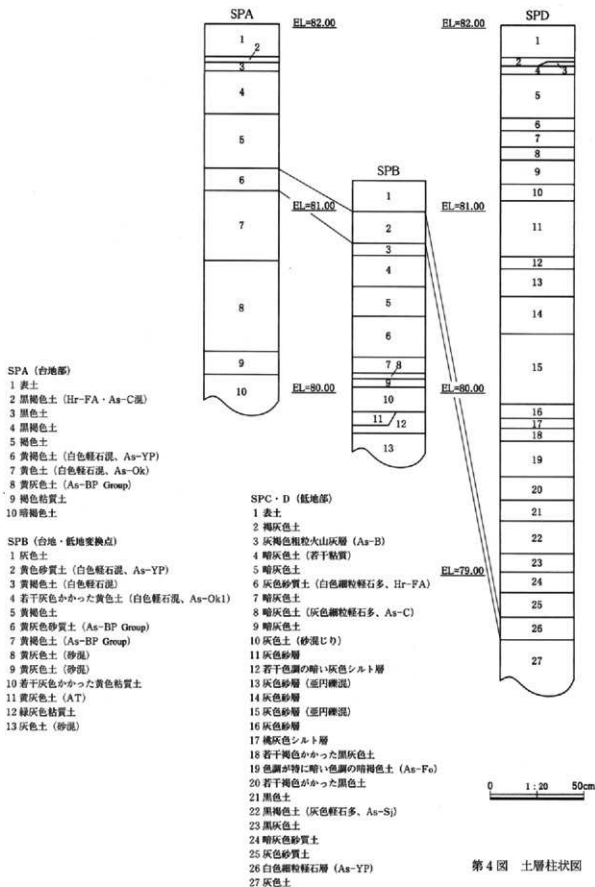
各地点のテフラは以下の通りである。

SPBの第2層に含まれるテフラは、約1.3～1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP)に由来すると考えられる。第4層に含まれるテフラは、約1.7万年前に浅間火山から噴出した浅間大窟沢第1軽石(As-Ok1)に由来すると考えられる。さらに6層から7層にかけては、約1.9～2.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)の降灰層準があると考えられる。また10層中位に降灰層準のあるテフラは、約2.4～2.5万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT)に由来すると考えられる。

SPC・Dの3層のテフラ層は、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B)に同定される。また6層に比較的多く含まれる白色軽石は、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪水川テフラ(Hr-FA)に由来すると考えられる。したがって、本地点付近から検出された鋳跡遺構については、6世紀初頭を遡る可能性が考えられる。第8層の基底より畦畔状遺構(As-C下水田)が検出した。本層下層付近に降灰層準があると考えられる軽石は、4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C)に由来すると考えられる。したがって、本地点付近から検出された畦畔状遺構(As-C下水田)については、4世紀中葉を遡る可能性が考えられる。19層中下層に含まれるテフラは約8,200年前に浅間火山から噴出した浅間藤岡軽石(As-Fo)に由来すると考えられる。したがって、押型文土器の層位は、ほぼAs-Foの降灰層準付近と考えられる。22層下層のテフラは、約1.1万年前に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj)に由来すると考えられる。



第3図 土層柱状図位置図

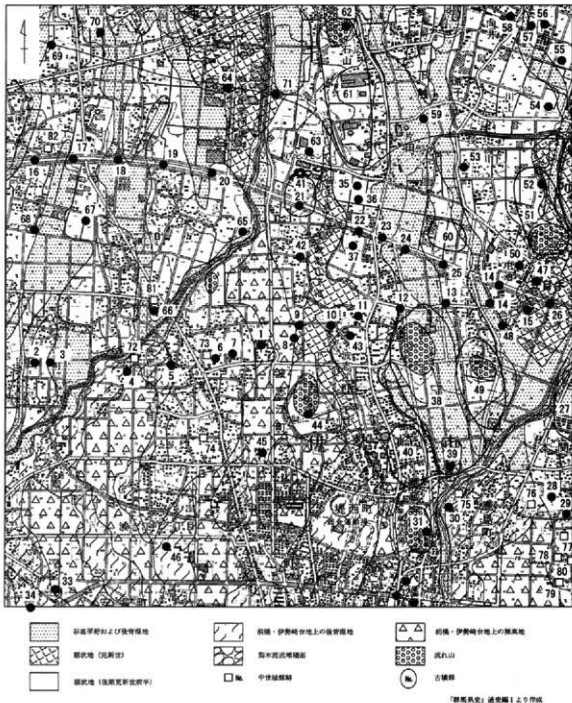


第4図 土層柱状図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

波志江中屋敷遺跡は、群馬県伊勢崎市波志江町に所在する。伊勢崎市は、群馬県南部にあり、北は前橋市・赤堀町に、東は佐波郡東村・境町に、西は玉村町に、南は利根川を隔てて埼玉県本庄市とそれぞれ接する。本市は赤城山南西にあり、市城南西境を利根川が、支流鮎川が東部を、広瀬川が中央部を、その西側を藍川がそれぞれ南東流する。広瀬川を境に東岸は洪積台地、西岸は沖積低地に大別される。



第5図 波志江中屋敷遺跡周辺の環境(1/25,000)

波志江町は、市の北端部にあり、北から西は神沢川を隔てて前橋市、南は伊勢崎市安塚町、華蔵寺公園がある。東は赤塚町に接する。赤城山南麓の末端部、大間々扇状地の扇端部に当たり、湧水池が点在し、細長い浸食谷が形成される。本遺跡は、その浸食谷端部から微高地に位置し、標高は80～82mである。

第2節 歴史的環境

波志江中屋敷遺跡周辺の遺跡を時代を追って概観する。

旧石器時代の遺構・遺物は本遺跡からは検出されなかったが、周辺には扇状地（後期更新世前半）のローム層堆積のよい地に立地する堀下八幡遺跡(25)、波志江六反田遺跡(23)、飯土井二本松遺跡(20)、下触牛伏遺跡(63)、波志江中宿遺跡(12)などがある。

縄文時代の本遺跡の様相は、早期住居跡2軒・集石遺構2基と完全復元した押型文土器や捺糸文土器が多数出土した。周辺は本遺跡を含め扇状地形及び前橋・伊勢崎台地上に分布している。草創期では住居の検出された五日牛新田遺跡(13)、土器片の出土した間之山遺跡(39)、早期は本遺跡や本遺跡と同様な遺物が出土した近接する波志江権現山遺跡(44)、下触向井遺跡(57)、五日牛新田遺跡。前期は、花積下層式期の住居の検出した五日牛清水田遺跡(26)、五日牛南組遺跡(14)。前期から後期前半の荒砥二之堰遺跡(65)、中期の住居の検出した波志江中野面遺跡(4)等がある。

弥生時代の遺構は本遺跡からは検出されなかったが、土器片が数点出土した。この時代の遺構は、荒砥川周辺や前橋・伊勢崎台地上で発見されている。中期の土器片の出土した中組遺跡(46)、後期の住居が検出した間之山遺跡等がある。しかし、この時期周辺の遺跡いづれも大集落を営んだ形跡は認められない。

古墳時代、本遺跡からは、住居跡1軒、水田遺構、溝が検出し、円筒埴輪片も出土している。遺跡は赤城南麓の扇状地形を侵食する小河川の縁辺に立地している。前期の遺跡は、住居、方形周溝墓の検出した間之山遺跡、波志江中野面遺跡、方形周溝墓の検出した中組遺跡、粘土探掘坑の検出した波志江中宿遺跡、住居の検出した五日牛新田遺跡・大沼上遺跡(37)がある。古墳は華蔵寺裏山古墳(31)・地蔵山古墳(49)などがある。中期の遺跡は、この地域最大の前方後円墳のお富士山古墳(33)がある。本遺跡の東には伊勢山古墳(43)がある。波志江沼西側の波志江今宮遺跡(21)では、帆立貝形古墳や円墳が検出した。本遺跡東側は宮貝砥古墳群(41)、蟹沼東古墳群(38)等が連なり本遺跡出土の埴輪供給地と考えられる。後期の遺跡は、集落の岡屋敷遺跡(6)がある。水田は隣接する波志江中屋敷西遺跡(7)、波志江中屋敷東(8)がある。

奈良・平安時代、本遺跡からは、住居跡3軒、水田跡が検出した。周辺の遺跡は、大集落の波志江中野面遺跡、波志江西屋敷遺跡(5)、波志江今宮遺跡、波志江六反田遺跡(23)、岡屋敷遺跡、波志江中屋敷西遺跡などが上げられる。水田は波志江中峰岸遺跡(24)、波志江今宮遺跡、波志江六反田遺跡、波志江中野面遺跡などAs-B下に検出した。

中世以降は、本遺跡では環濠屋敷跡が検出しており、遺跡名の由来でもある。本遺跡からは、近代の遺物が多数出土した。周辺の中世関連の屋敷跡や館跡について「群馬県の中世館跡（群馬県教育委員会1988）」を以下に抜粋した。なお本北関東自動車道関連で波志江中屋敷遺跡(1)、中野屋敷(72)、波志江中野面遺跡(岡屋敷(73)、岡屋敷遺跡)が、上武道路関連で無量寿寺(82)、二之宮宮下東遺跡・二之宮宮東遺跡)、その他赤石城(81)、赤石城址)等が()内の遺跡として一部調査された。その他、本遺跡北側には中世開削水路遺構の国指定女堀がある。また、本遺跡より出土した「蘇民将来符」は二之宮宮東遺跡でも出土している。

第2章 遺構の環境

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献等
1	流志江中屋敷遺跡	伊勢崎市流志江町	縄文時代陥穴。古墳時代～平安時代の竪穴住居跡59軒、竪立柱建物跡2棟、As-B下水田跡、溝15条。近世の井戸4。近世以降の土坑、墓坑多数	本書
2	萩原遺跡	前橋市二之宮町・新井町	古墳時代の木田跡、溝。平安時代の住居跡4軒。As-B下水田跡	『年報16-17-18-19』群像文1997・1998・1999・2000
3	新井大田間遺跡	前橋市新井町	古墳時代の木田跡、溝。平安時代の住居跡4軒。As-B下水田跡	『年報16』群像文1997
4	流志江中野圃遺跡	伊勢崎市流志江町	縄文時代中期の住居8軒・土坑8基・竪穴10基。古墳時代の集落(住居29軒・竪立柱建物跡2棟)・方形周溝溝17基・前方後方形周溝溝2基。奈良・平安時代集落(住居45軒・竪立柱建物跡5棟)。As-B下水田・畠。	田：調査1997-99-1部報告2001
5	流志江西屋敷遺跡	伊勢崎市流志江町	古墳時代の竪立柱建物跡1棟。奈良・平安時代の竪穴住居跡28軒、溝23条。中近世の井戸15、溝23条、土坑多数。	『年報18-19』群像文1999・2000
6	岡原敷遺跡	伊勢崎市流志江町	古墳時代後期の竪穴住居跡115軒、土坑、溝、小竪遺構。奈良・平安時代の竪穴住居跡15軒。中近世の屋敷跡、堀、土坑、竪立柱建物跡、井戸24、土坑、墓。近現代の土坑多数	『年報18-19』群像文1999・2000
7	流志江中屋敷西遺跡	伊勢崎市流志江町	As-C混土水田。奈良・平安時代の住居5軒・畠。中世の堀、As-B混土水田。	『年報18』群像文1999
8	流志江中屋敷東遺跡	伊勢崎市流志江町	縄文時代前期の土坑、ピット。古墳時代前期の水田跡、溝21条。As-B下水田跡、溝、土坑。	『流志江中屋敷東遺跡』群像文2002
9	大沼下遺跡	伊勢崎市流志江町	古墳時代前期～奈良・平安時代の竪穴住居跡19軒。古墳時代の溝、井戸2基。ピット。	『大沼下遺跡・西福岡遺跡』伊勢崎市教委1977
10	伊勢山遺跡	伊勢崎市流志江町	旧石器時代の遺物。近世の墓坑。	『流志江中宿遺跡 I - 伊勢山遺跡』群像文2002
11	流志江西宿遺跡	伊勢崎市流志江町	旧石器時代の遺物。縄文時代早期の土器、打製石斧、石錘。古墳時代の竪穴住居跡10軒、竪立柱建物跡1軒。中近世の溝、土坑600基、井戸17基、畠跡多数。	『年報18-19』群像文1999・2000。『流志江西宿遺跡 I - 伊勢山遺跡』群像文2002
12	流志江中宿遺跡	伊勢崎市流志江町	旧石器時代の遺物。古墳前期の竪穴住居跡1軒、粘土埴輪片66基。古墳時代の溝、As-C混土水田跡、As-B下水田跡、平安時代の溝。中近世の井戸、土坑、ピット、溝。	『流志江中宿遺跡』群像文2001
13	五日牛新田遺跡	佐佐郡赤堀町五日牛	縄文早期の住居4軒。弥生～古墳の集落(32軒)。平安時代の住居2軒、溝、土坑。	『年報17-18』群像文1998・1999
14	五日牛南組遺跡	赤堀町五日牛	縄文時代前期(花積下層)住居4軒・陥穴。弥生時代再集落1基。古墳時代後期古墳(円墳)6基。(上武通) 縄文時代住居2軒。古墳1基。近世屋敷。(北園東通)	『五日牛南組遺跡』群像文1992
15	稲荷山古墳	赤堀町五日牛	古墳1基。古墳時代の畠。古代の水田、畠。	『年報18』群像文1999
16	二之宮宮下東遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代の陥穴1基。古墳後期～奈良・平安時代の集落、As-B下水田跡、溝、井戸。中世の堀跡、竪穴住居跡、井戸、土坑。	『二之宮宮下東遺跡』群像文1994
17	二之宮宮東遺跡	前橋市二之宮町	平安時代の集落(住居23軒)、小竪遺構、As-B下水田。中世の堀。近世の屋敷、大池より石製品・木製品出土。	『二之宮宮東遺跡』群像文1994
18	飯土井上組遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代の現象。古墳時代前期の竪穴住居跡4軒、溝。平安時代の竪穴住居跡2軒、土坑。中近世の畠跡、墓坑、溝	『飯土井上組遺跡・流志江中峰岸遺跡』群像文1995
19	飯土井中央遺跡	前橋市飯土井町	旧石器時代の遺物210点。縄文時代早期期の爪形文・押圧文土器片、陥穴13基。古墳時代後期の礎穴住居跡1軒。平安時代の竪穴住居跡1軒。	『飯土井中央遺跡』群像文1991
20	飯土井二本松遺跡	前橋市飯土井町	旧石器時代の遺物。縄文時代早期～後期の遺物包含層。陥穴。古墳時代前期の竪穴住居跡1軒。奈良・平安時代の竪穴住居跡24軒。中近世の溝が方形区画する。	『飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡』群像文1991
21	流志江今宮遺跡	伊勢崎市流志江町	6世紀末～7世紀初頭の円墳、竪立貝形古墳8基。形築埴輪円筒埴輪、金属類(太刀、馬具など)。奈良時代の竪穴住居跡1軒。As-B下水田跡。近代の炭窯。	『流志江今宮遺跡』群像文1995
22	流志江天神山遺跡	伊勢崎市流志江町	縄文時代遺物(前期諸磯b)、陥穴5基、土坑1基。近世以降の竪立柱建物跡1棟、土坑2基、井戸1基。近代のサクタ遺構。	『善上本山遺跡・流志江六反田遺跡・流志江天神山遺跡』群像文1992
23	流志江六反田遺跡	伊勢崎市流志江町	旧石器時代の遺物。縄文時代の燕文土器。平安時代の住居跡3軒、水田跡。近世の竪立柱建物跡1棟、土坑32基、井戸3基、溝5条。	『善上本山遺跡・流志江六反田遺跡・流志江天神山遺跡』群像文1992
24	流志江中峰岸遺跡	伊勢崎市流志江町	平安時代の溝36条・As-B下水田。	『飯土井上組遺跡・流志江中峰岸遺跡』群像文1995
25	堀下八幡遺跡	佐佐郡赤堀町堀下	旧石器時代の遺物。縄文時代早～後期の遺物包含層。前期諸磯b式期の住居1軒・土坑。平安時代集落(住居9軒)	『堀下八幡遺跡』群像文1990
26	五日牛清水田遺跡(上武通)	赤堀町五日牛	縄文時代前～前期の遺物包含層。住居(花積下層)6軒・土坑15基・集石土坑22基・配石8基。古墳～奈良時代の集落(住居47軒・竪立柱建物跡1棟)。As-B下水田以下9面の稲刈の花蓋層下の水田を確認。	『五日牛清水田遺跡』群像文1993
27	岡山古墳群	伊勢崎市本岡町・三和町	稲田右岸の台地上で、上武道路の上榎木光仙坊遺跡で10基の古墳が調査された。その他に5基の古墳が調査されている。	『上榎木光仙坊遺跡』群像文1989(群馬県史資料編3)群馬県1981

第2節 縄文時代

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献等
28	新原敷遺跡	伊勢崎市本町	古墳時代初期の住居跡。平安時代の住居跡1軒。墨書土器が出土。	『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市1987
29	上植木庵寺	伊勢崎市上植木町・本町	白鳳期創建の地方寺院。金堂・講堂・塔・中門・回廊・基壇を抽出。瓦・三陶片・墨書土器・瓦が出土	『上植木庵寺』1984・1985・1986・1987・1988・1992・1994
30	上西供遺跡	伊勢崎市真島町	古墳時代後期～奈良・平安時代の住居跡20軒(主は古墳時代)、方形周溝墓5基、石標1基、溝15条。中近世の井戸3基。	『上西供遺跡』伊勢崎市教委1985
31	奉藏寺裏山古墳	伊勢崎市奉藏寺	5世紀初期の主軸長約40mの前方後円墳。前方後方墳の可能性もある。	『奉藏寺裏山古墳』『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市1987
32	八幡町遺跡	伊勢崎市八幡町	古墳時代後期型住居跡60軒。溝、井戸、土坑、ピット。B区より石製模造品出土	『八幡町遺跡』伊勢崎市教委1990『八幡町遺跡(B地区)』伊勢崎市教委1988『八幡町遺跡(D地区)』伊勢崎市教委1990
33	お富士山古墳	伊勢崎市安福町	全長125mの前方後円墳。墳丘は3段に構築されている。幅約30mの扇形の周溝をもつ。裾内周溝に長持形石棺がおかれている。5世紀中葉の首長墓の可能性が高い。	『お富士山古墳』伊勢崎市教委1989
34	西太田遺跡	伊勢崎市安福町	弥生時代中期～平安時代の住居跡209軒。(弥生時代中期住居跡3軒・後期1軒。聖穴住居跡の8基は古墳時代の中期・後期)。掘立建物9棟、井戸17基、溝8条	『西太田遺跡』伊勢崎市教委1983
35	牛伏古墳群	伊勢崎市流志江町	1号墳の調査を実施。直径30m、横穴式石室。西60mに2号墳確認。	『牛伏第1号墳・祝堂古墳・大沼上遺跡』伊勢崎市教委1982
36	祝堂古墳	伊勢崎市流志江町	上毛古墳総覧三郷村73号墳。墳丘の直径は30mの平地に築かれた円墳。2重の周溝、耳石を持つ。主体部は角四石山岩山使用の横穴式両袖型石室。7世紀末に構築されたと推定される。土器器使用の住居跡1軒、溝1条	『牛伏第1号墳・祝堂古墳・大沼上遺跡』伊勢崎市教委1982
37	大沼上遺跡	伊勢崎市流志江町	土器器使用の住居跡1軒、溝1条	『牛伏第1号墳・祝堂古墳・大沼上遺跡』伊勢崎市教委1982
38	蟹沼東古墳群	伊勢崎市流志江町	5世紀後半～7世紀後半にかけて構築された古墳69基。その殆どが円墳である。縄文時代および古墳時代前期の住居跡、竈、方形形溝墓が抽出。	『蟹沼東古墳群』伊勢崎市教委1979～1981、1988
39	間之山遺跡	伊勢崎市流志江町	蟹沼東古墳群の南西部で間之山丘陵にかかる遺構を名称変更して、間之山遺跡とした。縄文時代早期期の土器片。弥生時代後期の住居跡1軒。古墳時代前期の住居跡1棟、方形形溝墓。	『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』伊勢崎市教委1978『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市1987
40	台所山古墳群	伊勢崎市流志江町	『上毛古墳総覧』によれば7基の古墳が数えられていたが、宅地化や開墾により平夷されてしまった。昭和46年福庭岩貫の箱式石棺の主体部をもつ古墳1基が抽出された。石棺付から円筒埴輪2基、土器器杯3個出土。6世紀前半から後半の築造と推定される。	『台所山古墳』『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市1987『上毛古墳総覧』群馬県史跡名勝史迹記念物報告第5輯群馬県1938
41	宮貝戸古墳群	伊勢崎市流志江町	7世紀前半の4基の古墳について発掘調査を実施。そのうち2基は横穴式両袖型石室をもつ。他の2基から円筒埴輪、朝顔形埴輪が出土。かつては20基をこえる古墳群であったことが推定される。	『宮貝戸古墳群・蟹沼東古墳群』伊勢崎市教委1980
42	宮貝戸下遺跡	伊勢崎市流志江町	平安時代の住居跡2軒。板碑が抽出された井戸、溝、基壇。	『蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡』伊勢崎市教委1978
43	流志江伊勢山古墳	伊勢崎市流志江町	旧三郷村71号墳。横穴式両袖型石室の円墳	尾崎吉左『横穴式古墳の研究』1966
44	流志江椎現山遺跡	伊勢崎市流志江町	縄文時代早期系灰文土器・熱赤文土器・押形文土器・スタンピング石器等が採取されている	『伊勢崎市史通史編1』伊勢崎市1987
45	西稲岡遺跡	伊勢崎市流志江町	古墳時代の溝。奈良・平安時代の溝、井戸。	『大沼上遺跡・西稲岡遺跡』伊勢崎市教委1977
46	中組遺跡	伊勢崎市流志江町	古墳時代住居跡前期1棟・中期4棟、奈良・平安時代21棟。土坑、井戸	『中組遺跡』伊勢崎市教委1982、群馬県教委1985『群馬県史跡』2001
47	五日牛洞山遺跡	赤堀町五日牛	縄文時代後期の住居跡3軒。その内1軒は柄杓形敷石住居である。土偶が出土。	『五日牛洞山遺跡発掘調査報告』赤堀村教委1980
48	五日牛東遺跡群	赤堀町五日牛	3地点で調査。A地点は縄文時代早期の山形押型文・沈線文土器出土。古墳時代住居12軒。B地点は古墳時代～平安時代集落(住居22軒)。C地点は縄文時代前期の住居2軒(黒流文・漆文式)。	『五日牛東遺跡群及び赤堀村8号墳発掘調査報告』赤堀村教委1980
49	地藏山古墳群	赤堀町五日牛	地藏山と呼ばれる南北に長い丘陵で、頂上に全長60mの地藏山古墳をはじめ、55基の古墳が確認され、43基の古墳が発掘調査された。	『赤堀村地藏山の古墳1・2』赤堀村教委1978・1979
50	寺跡古墳	赤堀町五日牛	主体部は輝石山岩山の割れ石の乱石積の横穴式両袖型石室である。刀子・角貝等が出土。墳丘の規模・形状は不明。築造時期は6世紀後半	『群馬県史資料編3』群馬県1981
51	洞山古墳群(洞山古墳)	赤堀町五日牛	稲川の右岸で南北150m、東西170mの小丘で、洞山古墳をはじめ21基の古墳が確認されている。洞山古墳は全長22mの前方後円墳で6世紀前半から中葉の築造である。1982年2月の円墳が発掘調査されている。	『群馬県史資料編3』群馬県1981『洞山古墳群及び北流、廣尾遺跡発掘調査報告』赤堀村1983
52	北通遺跡A・B	赤堀町下輪	稲川の右岸の台地縁道。縄文時代前期の住居跡7軒・土坑5基、遺構外で後期の土偶が出土。古墳時代の住居跡1軒。平安時代の住居跡2軒。「大門」の墨書土器出土。	『洞山古墳群及び北流、廣尾遺跡発掘調査報告』赤堀村1983

第3章 検出された遺構・遺物

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献等
53	鷹巣遺跡	赤堀町下駄	旧桂川の左岸台地縁辺。縄文時代前期の住居跡2軒・土坑3基。平安時代の住居跡18軒・掘立柱建物4棟。[川郡]「中」の墨書土器出土	『洞山古墳群及び北道、鷹巣遺跡発掘調査報告』赤堀村1983
54	川上遺跡	赤堀町下駄	住居跡4軒で古墳時代前期～後期・奈良・平安時代である。礎石を伴う掘立柱建物跡と多量の瓦が出土したことから寺院の可能性が考えられる。墨書土器出土。	『川上遺跡、女塚遺構発掘調査概要』赤堀村教委1980
55	今井南坂遺跡	赤堀町今井	縄文時代前期湖沼期の住居跡1軒、弥生時代後期の住居跡36軒、古墳時代前期・後期、奈良・平安時代の住居跡12軒。3棟の掘立柱建物跡。古墳1基	『今井南坂遺跡発掘調査概要』赤堀村教委1981
56	今井赤坂南遺跡	赤堀町今井	縄文時代前期湖沼期式期の住居跡1軒。古墳時代後期の住居跡13軒。古墳1基。その他土器が調査されている	『今井赤坂南遺跡発掘調査概要』赤堀町教委1990
57	下駄向井遺跡	赤堀町下駄	縄文早期の集石遺構1基。前期の土器片及び石器が出土。住居跡は古墳後期26軒、奈良・平安時代14棟である。平安時代の住居・土坑から墨書土器出土。5棟の掘立柱建物	『下駄向井遺跡発掘調査概要』赤堀町教委1981
58	下駄向井遺跡第Ⅱ地点	赤堀町下駄	縄文時代の遺物を含む前期と中期の土器が出土。古墳時代の住居跡17軒	『町内遺跡発掘調査報告』赤堀町教委1989
59	中畑遺跡	赤堀町下駄	古墳時代中・後期の竪穴住居跡35軒、掘立柱建物跡1棟。調査区南端で女塚遺構	『中畑遺跡、女塚用水遺構発掘調査概要』赤堀町教委1986
60	八幡村古墳群	赤堀町堀下	縄文時代前期住居跡4軒。円墳4基。地蔵山古墳の1支脚とも考えられる	『八幡村古墳群及び縄文住居跡調査概要』赤堀村教委1982
61	石山片田古墳群	赤堀町下駄	石山・炭塚・片山と南北に続く低い丘陵上平に「上毛古墳群覧」によれば、70基以上の古墳が存在する。新持ち人物輸搬出土。赤堀町59号墳及び下駄牛伏遺跡の古墳含む	『下駄片田古墳群発掘調査概要』赤堀町教委1989
62	石山遺跡	赤堀町下駄	縄文時代包合層。100余点の尖頭砂をはじめてし多数の瀬片等の遺物を出土。	相沢忠洋「群馬県赤堀石山遺跡」『考古学ジャーナル6』1967
63	下駄牛伏遺跡	赤堀町下駄	旧石器時代文化層を2層検出し、約3,000点の遺物を出土。縄文時代前期の竪穴住居跡3軒、陥穴25基、土坑18基、集石3基。草創期の爪形土器。古墳時代後期の竪穴住居跡13軒、古墳10基(円墳、方墳複式石室 7世紀中葉以降)	『下駄牛伏遺跡』群理文1986
64	二本松遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代中期の竪穴住居跡2軒(加曾利B期)。古墳時代中期の竪穴住居跡6軒。平安時代の竪穴住居跡84軒。奈良・平安時代の掘立柱建物跡3軒。因土跡「女塚」220m分調査。	『文化財調査報告第13集』前橋市教委1983「女塚」群理文
65	寛弘上ノ坊遺跡	前橋市二之宮町	縄文時代前期湖沼期(Ⅱ)の住居3軒。古墳時代(住居(前期)34軒、中後期29軒)。方形埴輪基6基。奈良・平安時代の住居101軒。その以降は掘立柱建物16棟・井戸22基・火葬基。	『寛弘上ノ坊遺跡』I～IV群理文1985～1998
66	寛弘二ノ塚遺跡	前橋市飯土井町	縄文時代前期の竪穴住居跡8軒、中期19軒、後期9軒(例証形)。古墳時代前期の竪穴住居跡13軒、方形埴輪基9基、円形埴輪状遺構1基。古墳時代後期の竪穴住居跡9軒。古墳21基。山寄せ構造の群集墳で7世紀後半の築造と思われる。	『寛弘二ノ塚遺跡』群理文1985
67	赤石城址	前橋市飯土井町	本丸は高さ4mの土居を築らし西側に曲輪をもつ。南と北に虎口を開く。北、東、南の三方に塚あり。	『寛弘前原遺跡・赤石城址』群理文1985山崎一「群馬県古城址址の研究」上巻1971
68	寛弘天ノ宮遺跡	前橋市二之宮町	古墳時代の住居73軒。奈良・平安時代の住居100軒。時期不明の住居33軒。As・B水田。古代灌漑基。	『寛弘天ノ宮遺跡』群理文1988
69	寛弘青柳遺跡	前橋市二之宮町	奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒。溝、土坑。	『寛弘北原遺跡・今井神社古墳、寛弘青柳遺跡』群理文1986
70	元屋敷遺跡	前橋市寛子町	古墳時代～平安時代の住居跡29軒。地割れ跡を確認し、地割れ跡から噴砂の状況が確認された。女塚の一部を調査	『舞台・西大原丸山』景教委1991
71	女塚	前橋市・赤堀町・東村	前橋市上泉町の藤沢川から佐渡東村固定までの12.75kmの終末点返水を目的とした中世初期の農業用水である。8地点で調査が行われ、地形に照し、中段を設け、中央に通水溝を掘る。未完成で放棄されている。園指定史跡	『女塚』群理文1984

中世城館踏一覧表

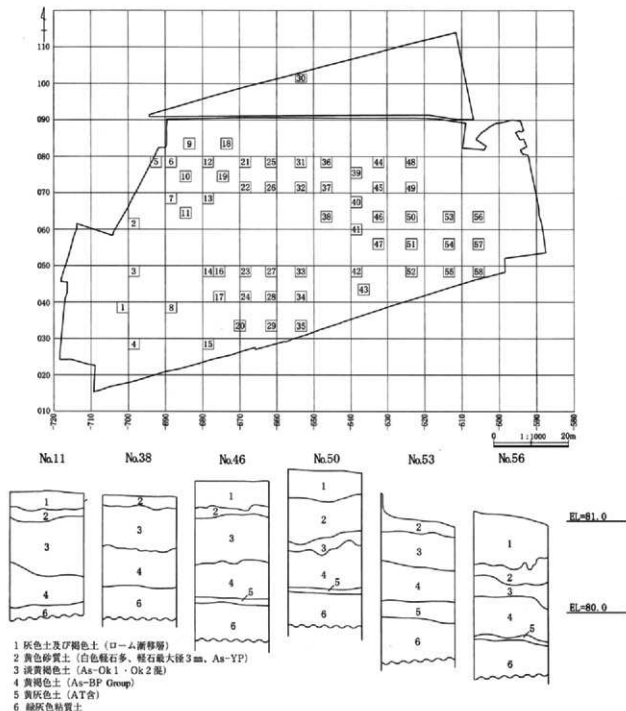
番号	名称	所在地	立地	現状	遺存状況	年代調査	基・在城者(推定・伝承)	文献	関連地名	遺構・遺物等	備考	資料番号
1	波志江中屋敷	波志江町2丁目	平地	高・宅地	不負				字中屋敷	堀、戸口		294
72	中野屋敷	波志江町2丁目	平地	宅地	消滅	16世紀	中野丹後守	水録日記	字中野、中屋敷			295
73	岡屋敷	波志江町2丁目	平地	宅地・耕地	中等	16世紀	藤井氏	字岡屋敷	岡、土居			292
74	波志江館	波志江町	平地	宅地(寺・住宅)	中等	16世紀	波志江氏、藤井氏	赤堀文書	下波志江、いばり	堀、土居	金蔵寺	293
75	三蔵院屋敷	上榎水(鹿島町)	平地	宅地	消滅			字上西根、三蔵院				297
76	榎木屋敷	上榎水本町	平地	宅地	消滅			字新屋敷、田中んち				243
77	遠藤屋敷	上榎水本町	平地	宅地	不負			元文書上根	字堀之内、後田中	堀、土居	諏訪屋敷	240
78	加藤屋敷	上榎水本町	平地	宅地	消滅		加藤玄書		字堀之内、正観寺			239
79	高橋屋敷	上榎水本町	平地	宅地・寺	不負			元文書上根	字堀之内、正観寺	堀		241
80	恵下屋敷	上榎水本町	平地	宅地	消滅				字堀之内、恵下山			242
81	赤石城	飯土井町	台地	宅地・高	中等	16世紀	赤石左衛門尉	赤堀政綱忠忠	字城山、城西、宿禰	堀、堀切、戸口、帯路、土居		74
82	無量寿寺	二之宮町	寺	不負					字宮家、字江電	堀、埋土		42

第3章 検出された遺構・遺物

第1節 旧石器時代

試掘調査は、下図に位置と番号で示すように58ヶ所に試掘坑を設定し実施した。すべての試掘坑において北壁・西壁で土層断面の記録を作成した。下図の柱状図は、本遺跡を東西に縦断するようNo11～No56を掲載した。

A T混の堆積状態が試掘坑36・40・47・52を境に東側に広がっていた。この地点は東側の低地へと連なっていく谷頭部分にあたる。試掘調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。



第6図 旧石器試掘坑配置・土層断面図(1/40)

第2節 縄文時代

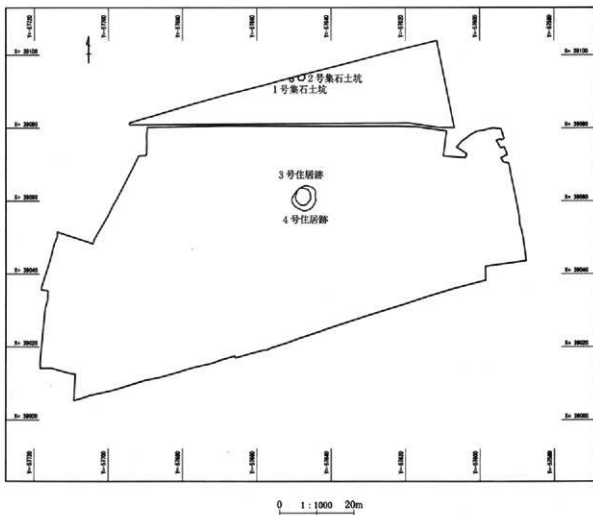
本遺跡から、検出した縄文時代の遺構は、台地上に住居跡2軒、集石土坑2基である。その他、全域が縄文時代遺物包含層であった。遺物は、As-C混黒色下の黒色土中より出土した。また遺構の検出は黒色土下のローム漸移層上面で行われた。本遺跡は、台地上に立地するが、Y-57620ライン付近から東側は低地へ変換していく。

遺物量は、早期土器片497点、中期37点、後期28点、石器114点である。なお、土器片の大きさは早期土器片は1cm～3cm大を中心に最大5cm程度に対し、中期・後期片は3cm～5cm大を中心に最大12cm程度である。遺物については次項の3出土土器及び4出土石器で詳細を記す。

1. 竪穴住居跡

3号住居跡（第8回、P.L.3）

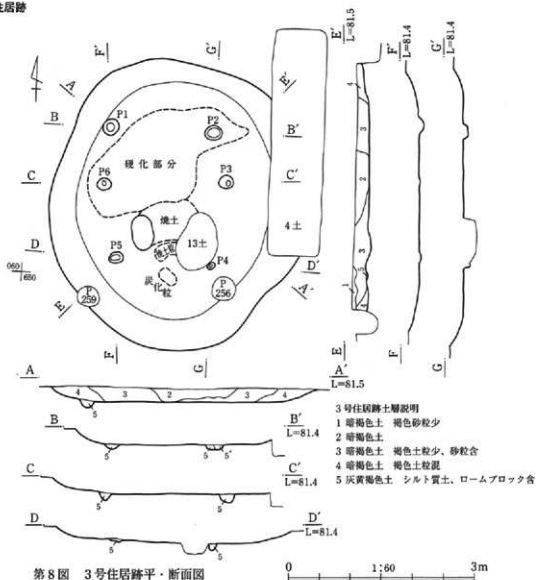
060-650グリッドに位置する。4号住居跡と重複する。本住居跡の方が新しい。確認面はローム漸移層上面である。本遺構の検出は、周辺から早期弥生土器片が多数出土していることと、本遺構部分が黒色味のある土であることなどからトレンチを設定し試掘を行い、住居跡を確認した。住居跡の平面形は不整形円形を呈し、その規模は長軸4.9m、短軸3.9mを測る。長軸方位はN-2°-Wを示す。覆土は漸移層ブロックを混入



第7図 縄文時代遺構配置図

する自然埋没である。壁はローム層を掘り込み、As-YP層上面に至る。壁面は緩やかに立ち上がり、壁高は北壁18cm、東壁21cm、南壁22cm、西壁17cmを測る。床面は、壁際に比べて中央部が若干窪む。床面中央部で東西0.9m、南北1mの範囲で焼土分布が認められた。この分布内に掘り込み等は検出されなかった。床面の北側2/3ほどの、東西2.7m、南北1.5mの範囲でやや硬化した面が認められた。柱穴は6本検出した。柱穴の覆土は、底面土より若干黒色味が強く粘性を持つ。なお、P2の覆土内には炭化粒の混入が見られた。柱穴の深さは平均9.5cmと浅いが、規則的にあり長軸方向の柱穴間の平均は1m、短軸方向の柱穴間は1.7mを測る。出土遺物は、周辺及び覆土中より土器40・49・74・94・117の燃糸文系土器が出土し、石器101・105・107・109の磨石が出土した。

3号住居跡



第8図 3号住居跡平・断面図

第2表 3号住居跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	25	24	14	
2	円形	29	23	9	
3	円形	24	22	16	

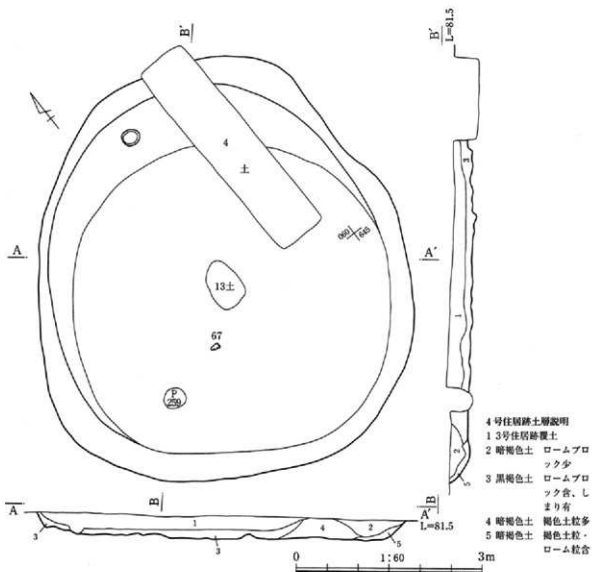
第3表 3号住居跡柱穴間一覧表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P2-P3	0.85	P5-P6	1.03
P3-P4	1.40	P6-P1	0.92

4号住居跡(第9図、P.L.3)

060-650グリッドに位置する。3号住居跡掘方調査の際、トレンチを設定し調査を進めた結果確認された。当初断面観察からは溝あるいは倒木痕と考えられた。しかし、3号住居跡の南側に弧状に拡大されていることが判明した。

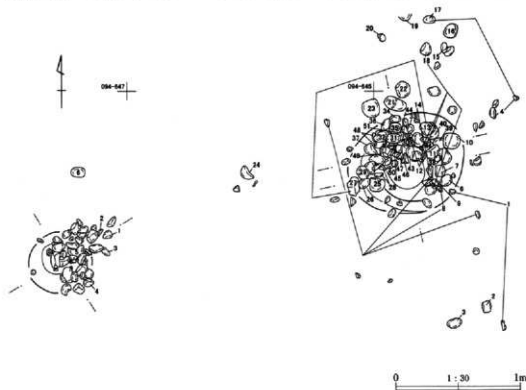
住居跡の平面形は不整形楕円形を呈し、その規模は長軸6.83m、短軸5.98mを測る。長軸方位はN-38°-Eを示す。覆土は自然埋没で、漸移層ブロック・ロームブロックが混入している。壁はローム層を掘り込み、As-YP層に至る。壁面は緩やかに立ち上がり、壁高は北壁20cm、東壁32cm、南壁30cm、西壁25cmを測る。床面は、全体的に凹凸が見られる。中央部はほぼ円形に窪み広がる。北側では中央部より5cm程わずかに高まる。硬化面は確認されなかった。炉等の施設を想定する焼土分布等も検出しなかった。北側の一段高まった部分に直径28cm、深さ5cmを測るピットが1本検出した。出土遺物は床面から石器67のスタンプ形石器のほか、102磨石・114の火受け石が、又覆土中より土器60・67・173の熱糸系文土器副部片が出土した。



第9図 4号住居跡平・断面図

2. 集石土坑

本遺跡から礫の集中と、下部に土坑状の落ち込みを持つ、集石土坑が2基近接して検出した。遺構の確認はAs-C混黒色土下に設定したトレンチ調査の際に集石が確認され、礫範囲確認調査の結果明らかになった。礫は灰褐色土層中より検出し、土坑はローム層上面で確認された。本遺構に明確に伴う土器や石器はないが、



第10図 1号・2号集石土坑位置・礫出土状態図

第4表 1号集石土坑出土礫計測表 (単位はcm, g)

番号	長軸	短軸	厚さ	重量	番号	長軸	短軸	厚さ	重量	番号	長軸	短軸	厚さ	重量
1	7.5	7.0	3.0	247.0	3	8.0	8.0	3.0	269.0	5	13.0	10.5	2.5	394.0
2	10.0	7.0	2.0	207.0	4	9.0	8.5	3.0	303.0	6	9.5	7.5	2.0	249.0

第5表 2号集石土坑出土礫計測表 (単位はcm, g)

番号	長軸	短軸	厚さ	重量	番号	長軸	短軸	厚さ	重量	番号	長軸	短軸	厚さ	重量
1	11.5	9.0	3.0	329.0	19	18.0	12.0	3.5	815.0	37	16.5	14.0	4.8	1363.0
2	10.0	9.0	3.5	467.0	20	6.5	6.0	3.0	94.0	38	13.0	10.5	5.5	1023.0
3	12.0	7.0	2.8	359.0	21	18.0	10.5	5.5	1113.0	39	9.0	8.0	4.0	308.0
4	14.5	11.0	3.5	572.0	22	13.0	9.0	2.0	380.0	40	12.5	9.0	3.0	505.0
5	9.0	7.0	3.5	274.0	23	14.5	13.0	12.0	741.0	41	16.0	13.0	3.0	924.0
6	9.8	7.7	1.5	200.0	24	13.0	6.0	3.0	299.0	42	12.0	11.5	4.0	723.0
7	18.0	11.0	3.5	715.0	25	13.0	11.0	3.5	544.0	43	11.0	8.0	2.0	340.0
8	14.5	9.0	3.0	418.0	26	12.0	8.0	2.5	354.0	44	11.0	11.0	2.5	605.0
9	8.5	7.5	2.0	179.0	27	14.5	11.0	3.0	802.0	45	11.0	7.0	3.5	384.0
10	14.5	14.0	3.0	917.0	28	13.0	11.0	3.5	673.0	46	11.0	10.0	2.5	447.0
11	14.0	10.0	3.0	465.0	29	13.0	11.0	5.5	801.0	47	8.5	7.0	2.5	235.0
12	9.0	6.5	2.0	238.0	30	14.0	11.0	2.5	639.0	48	12.5	8.0	3.0	476.0
13	10.0	5.5	2.5	138.0	31	16.0	11.0	3.5	728.0	49	12.8	11.5	4.5	809.0
14	15.0	10.0	2.5	511.0	32	11.0	9.5	2.5	371.0	50	13.0	11.5	3.0	805.0
15	9.5	6.0	2.5	184.0	33	10.0	6.0	3.0	220.0	51	12.0	10.0	3.0	537.0
16	15.0	9.5	3.0	681.0	34	10.0	9.0	3.0	405.0	52	17.0	14.0	3.5	988.0
17	11.0	8.5	3.0	418.0	35	13.0	7.0	2.0	326.0					
18	15.0	11.0	3.0	645.0	36	10.5	9.0	2.0	337.0					

第3章 検出された遺構・遺物

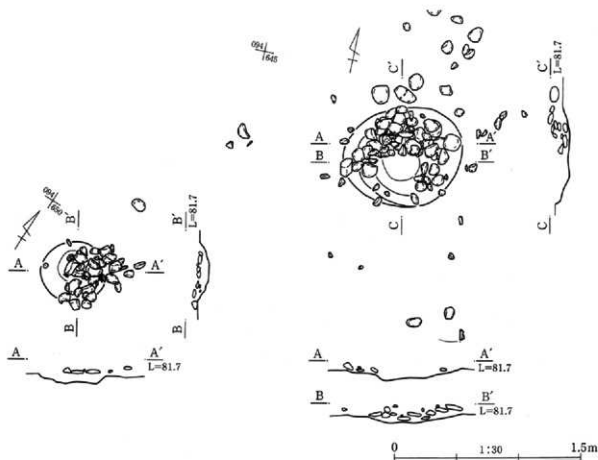
周辺は谷面に近い地点であり、周辺から土器第1群に分類した口唇部に燃糸文を施文する土器等が出土している。これらのことから縄文時代早期の所産と考えられる。1号集石土坑と2号集石土坑は3m程しか離れていないが、本遺跡から検出した集石土坑はこの2基だけである。集石の中には被熱によると考えられる欠損礫が多く認められた。しかし、覆土内には焼土粒等は見られなかった。各集石土坑より出土した完形及び一部欠損の礫は第4表・5表に計測値を示し、接合関係については図中で礫を結ぶ線で表わした。

1号集石土坑 (第10・11図、P.L.3)

092-647に位置する。礫は49点が南北70cm、東西50cmの範囲に集中して検出した。礫は粗粒輝石安山岩で、最大の礫は径15cm程である。覆土内の礫は、被熱によると思われる欠損礫が多く、接合関係も含め礫5点が完形であった。他は欠損していた。この5点の大きさの平均は長軸9.5cm、短軸8.1cm、厚さ2.6cm、重さ278.2gである。掘り込みは、礫集中に対し30cm程西側によって検出した。規模は直径50cm程の円形で、断面皿状を呈し、深さは礫上面から10cmを測る。

2号集石土坑 (第10・11図、P.L.3)

093-645に位置する。礫は、南北方向に帯状に散布しており、その中に直径1mほどの範囲内に110点の礫が集中していた。58点が欠損品である。他の52点は完形品、接合資料及び一部欠損である。接合関係をもつ礫は9個、23点である。この52点の礫の平均は長軸13cm、短軸9.5cm、厚さ3.3cm、重さ534.5gを測る。掘り込みは、弧状に集中した礫の下に検出した。規模は東西95cm、南北80cmの楕円形を呈し、深さは礫上面から16cmを測る。礫は確認面から底部まで充填するように出土した。



第11図 1号・2号集石土坑平・断面図

3. 出土土器

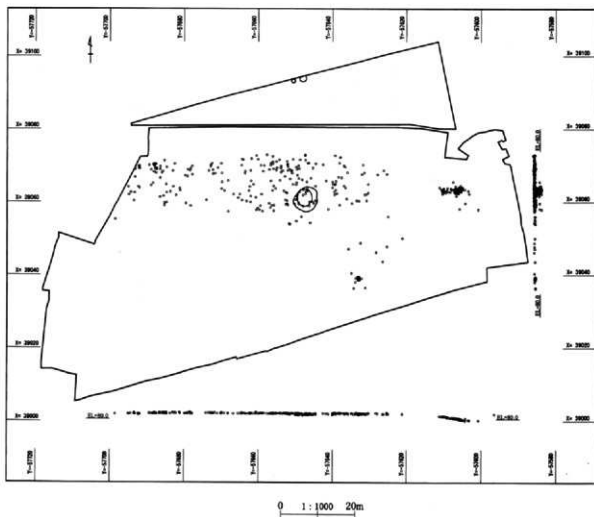
本遺跡より出土した縄文土器の時期別割合は、早期燃糸文系土器が出土土器の88%を占める。その他に中期後半の土器7%、後期の土器5%が出土している。

遺物の分布が調査区中央に帯状に見られるが、これは近世遺構が包含層の黒色土下におよんでいたためであり、また、X=39080以南は全点ドット調査を行ったためで、以北についても全面に渡って出土している。

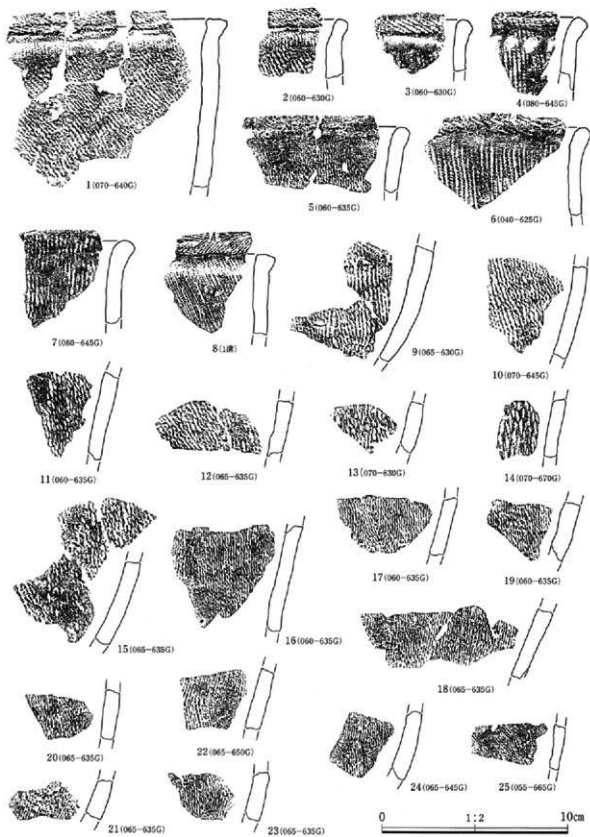
遺物の分布は、台地上では、標高81.4~81.8mの間に水平に分布するのに対し、東側は、低地へ向かう地形に沿って傾斜し、最も低い所の遺物は79.2mである。

これらの土器の出土層位は、As-C混黒色土下の黒色土で30cm程の中にあり層位的に分離することは難しい。また、出土位置は、第1群第8類に分類した燃糸文系土器の179~187が035-630グリッドに、第2群に分類した193の押型文土器が060-605グリッドに集中していた。また、第1群第1類が谷頭付近に散漫に見られる。その他の土器片は、台地上全域に分布していた。遺物の出土状態は、As-C混黒色土下の黒色土中から燃糸文系土器の小片が多数出土する中期・後期のやや大きめの土器片が混在するという調査所見を得ている。

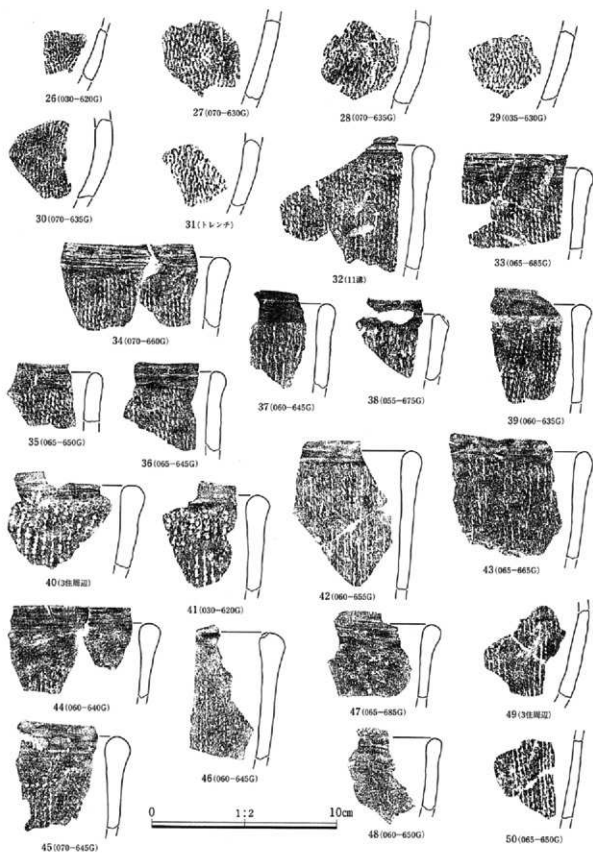
これら出土土器を、第1群燃糸文系土器群、第2群押型文土器、第3群中期土器群、第4群後期土器群と分類し、さらに第1群を施文・胎土等により第1類~第8類に細分した。以下、その概要を報告する。



第12図 縄文土器出土分布図



第13図 縄文土器拓影図(1) (1~25)



第14図 縄文土器拓影図(2) (26-50)

第1群 燃糸文系土器群

第1類 (第13・14図1～31、P.L. 27・28)

口唇部および胴部に燃糸文が施文されているものを第1類土器とした。焼成は緻密で硬く、胎土には角閃石や石英を含み、光沢が見られる。また、胎土中に発露した2mmほどの淡赤橙色の礫が特徴的である。

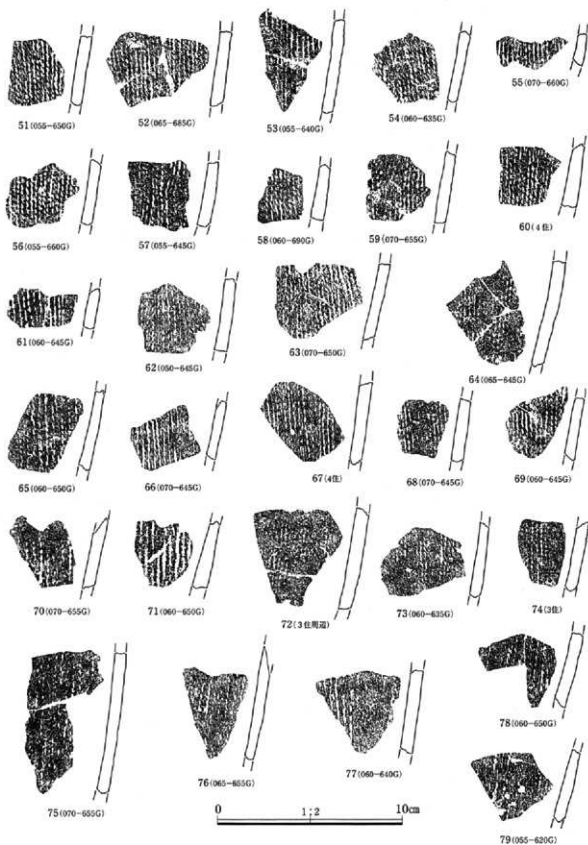
1～8は口縁部破片である。1は、口縁部が下唇状に肥大したものである。口唇部及び口唇部側縁に斜方向に回転による燃糸文が施文され、胴部へは口縁部屈折部に疔痕の後、縦方向に施文される。原体はR条を密に巻いた単輪絡糸体第1類右巻きである。口唇部には折り返しの粘土の動きが見られ、胴部には施文前に表層を成したと思われる1mm程度の厚さの粘土層が見取られる。口縁部には指おさえが見られ、口縁内面には指おさえによる横撫でが顕著である。また、胴部には施文後胎土内の礫が剥落したと思われる凹みが見られた。2は、1と同一個体と看取される。口縁部内面には深い横撫でが見られる。3は、口縁部が肥大したものである。口唇部及び口唇部側縁に横回転させた単輪絡糸体第1類R右巻きが施文される。口縁部に横方向の撫で付けと指おさえの痕が見られ、縦位回転施文された燃糸文が磨消される部分も看取される。4は、口縁部が肥大する。口唇部及び口唇部内面に絡糸体を横位施文する。口唇部側縁から胴部に縦位回転される。原体はR条を密に巻いた単輪絡糸体第1類右巻きである。口唇部屈折部には爪痕を残す疔痕が連続して認められる。5は、口縁部が肥厚せず外反する。口唇部及び胴部には細く密な単輪絡糸体第1類右巻きが深く施文される。口唇部には絡糸体を横位回転させた部分と撫でが行われた部分があり、口縁部には横方向の撫でと指おさえが見られる。口唇部施文は明瞭ではないが、胎土に他同様の淡赤橙の礫が含まれることから本類にした。6は、口縁部が外反する。原体は単輪絡糸体第1類R右巻きである。条間隔約1mm、施文幅1cm、4条程度観察される。口唇部は横位回転、胴部は直線的な縦位回転させる。口縁部には、施文後に幅4mm程の刷毛状工具による横方向の撫でや、口縁部整形の指おさえ等が看取される。口縁部内面には1mm程度の厚さの剥落部分がある。7は、口縁部が外反する。原体は単輪絡糸体第1類R右巻きである。口唇部より胴部に縦位に絡糸体を引きずるように施文される。口縁部には指おさえの痕が見られる。8は、口縁部がきつくと外反する。原体は単輪絡糸体第1類R右巻きである。口唇部には横位回転させ、口唇下より縦位には回転させず器面を引きずり施文される。口唇部屈曲部には一度停まった痕も部分的に見られる。口唇部の折り返しや口縁部内外面に指おさえが観察される。施文幅は1cm程で、条は5条位である。

9～31は口縁部1～8に類似する絡糸体を密に施文した胴部片である。9～15は1に類似し、同一個体と看取される。9は、器面に施文時の粘土溜まりが見られる。11は、燃りが弱まったのか筋が間延びしている。16～21は5に類似する。17には、施文幅8mm程、5条を単位とする単輪絡糸体第1類R右巻きを斜方向に1単位の施文が見られる。5及び類似する土器の施文具と考えられる。22～26は、より密に狭く深く施文されている。25・26の器厚は5mm弱と薄い。26は、底部付近か条が集束する。27～31は、燃りが弱まっている。

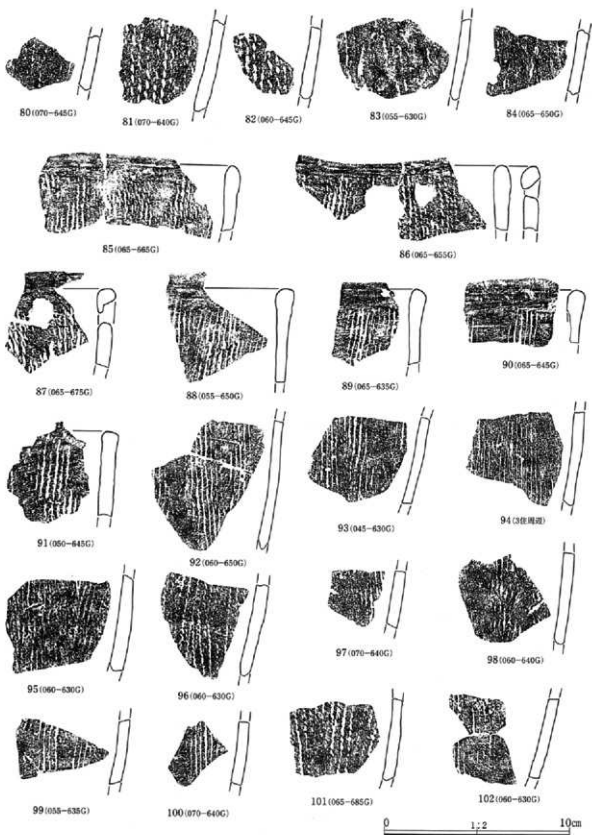
第2類 (第14～16図32～84、P.L. 28・29)

燃糸文を口縁部下に無文部を持ち縦方向に明瞭に施文し、さらに、胎土に角閃石や石英を含み、2～3mm大の白色安山岩の礫・粗砂が多く含まれるものを第2類土器とした。器面は内外面ともによく磨かれている。全体的に施文が浅く施されている。これは、施文が器面の乾燥気味の状態で施されたものか、施文圧が弱いために見られるものであろう。

32～48は、口縁部片である。口縁部の形態は丸頭状を示し、口唇部は横撫での痕跡が明瞭で胴部との間に稜を形成する。32～43は、口唇部端から燃糸文が施文される。32～35は、同一個体と看取される。口唇部は



第15図 縄文土器拓影図(3) (51~79)



第16図 縄文土器拓影図(4) (80~102)

粘土紐を頂上に貼付け1～2mmほどの幅で篋状工具等で10回ほど撫でを施した後が明瞭に残る。口唇部下の稜突端より3mmほどの無文部を持ち縦回転される。原体は単軸絡条体第1類R右巻きである。条間隔1.5mm、施文幅1cm程、条は4条位である。部分的に施文の重複がみられる。34の口縁部には指おさえの痕により施文が圧消しされる部分が見られる。36は、口唇部が肥厚する。口縁部に指おさえが見られる。内面に煤が付着する。原体は単軸絡条体第1類R右巻きで、条間隔1.5mm、施文幅1cm、条は4条位と見られる。37は、口唇下に重複施文が見られる。口唇部に撫で後の施文も看取れる。原体は単軸絡条体第1類R右巻きと見られるが、節の状態が弱まっており、左巻きの可能性もある。部分的に引きずるところが見られる。38は、口唇部下に極めて浅い施文が施されている。原体は単軸絡条体第1類R右巻きと看取れる。器面は指おさえによるものかわずかな凹凸が見られる。部分的に左方向への横撫での砂粒の動きが見られる。39は、口唇部は粘土紐を外側に貼り付け肥厚する。口唇部屈折部には1cm程の間隔で4mmほどの小さな横位の圧痕が連続して認められ、この圧痕下3cm程にも同様の圧痕が認められる。この圧痕は条を絡めた際の端部と考えられる。施文状態は、口唇下3cm程の間は撫でや指おさえにより不明瞭であるが、1回の施文が施されているように見られ、それ以下は施文が重複する。原体は単軸絡条体第1類R右巻き、条間隔1.5mmである。40・41は、捻糸が太く、口唇下より条間隔の粗な捻糸文が施される。捻りが弱まっている。原体は単軸絡条体第1類R右巻きであり、Lはこの2点のみである。条間隔2mmほどである。41は口縁部施文が指おさえにより圧消しされている。42・43は、口唇下より条間隔の粗な捻糸文が施される。42は、施文が重複する部分や、節の状態から捻りの弱まっている部分も看取れる。口縁部に指おさえの痕が観察できる。原体は単軸絡条体第1類R右巻きで、条間隔は2mm、施文幅1.2cm程で、条は4条程度と見られる。43は、さらに条間隔が粗になり、条間隔約3.5mmを測る。口縁部に指おさえにより施文が圧消される部分がある。帯状を意図するのか施文間隔が粗な部分も看取れる。44～48は、口縁部に幅広い無文部がある。44・45は、口縁部に2.6cmほどの無文部を持ち、胴部には、縦方向の捻糸文が条間隔約1.5mmと密に施文される。46・47は、口縁部に3cmほどの無文部を持ち、胴部には、縦方向の捻糸文が条間隔約2mm弱の幅で施文される。48は、口縁部に指おさえが深く、撫でも顕著に見られ、施文が磨消されているのか、この無文部下に施文されているのか不明であるが、他と胎土が類似することから本類に入れた。

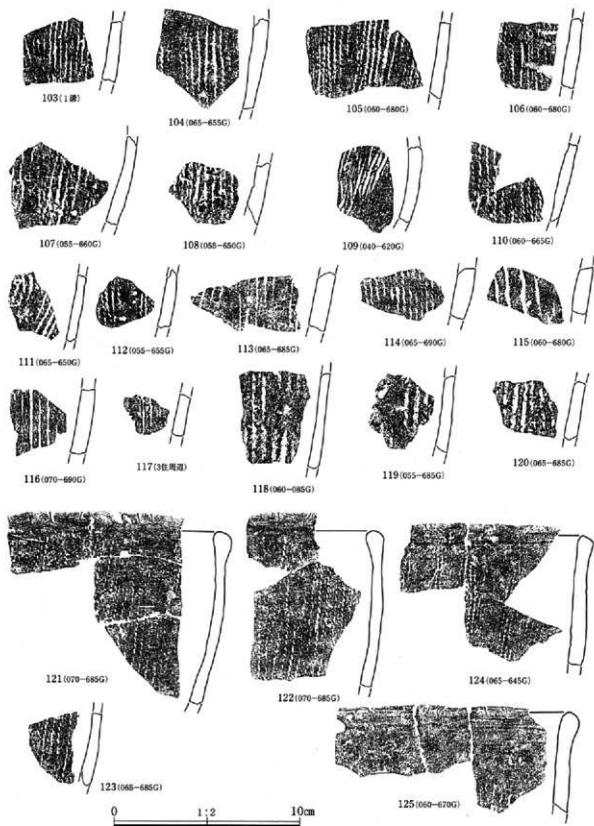
49～84は施文・胎土が類似する胴部片で、捻糸は縦走する。49～61は条間隔が密である。62～74は条間隔が上記より粗になる。75～84はさらに広くなる。

第3類 (第16・17図85～120、P.L. 29～31)

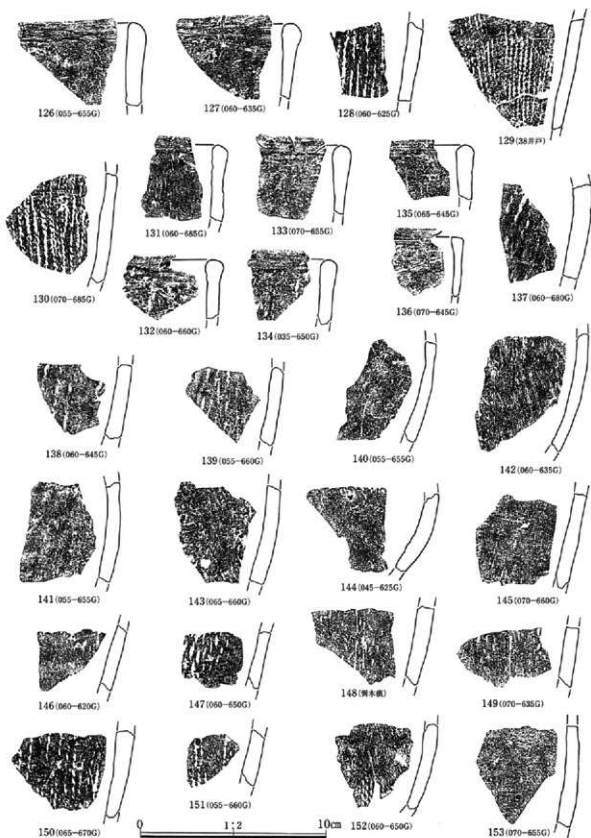
捻糸文を開隔を持って縦方向に全面に施文し、胎土に角閃石の多く含むものを第3類土器とした。

85～91は、口縁部片である。口縁部の形態は丸棒状を示す。口唇部は横撫でされる。原体は単軸絡条体第1類R右巻きである。85は、条間隔1.5mm程とやや密接する。口縁部に指おさえが観察でき、施文が圧消されている。施文が重複する部分や、部分的に回転でなく、引きずる部分などが観察される。86は、口唇部より施文され、重複している。捻糸文の間隔は1cm程ある。条間隔は約1.5mm、施文幅1cm程、4条程度と見られる。補修孔は両面穿孔で2ヶ所ある。外径1cm、内径4.5mm、2穴間は2.4cmを測る。表面からの穿孔は円錐状であるが、内面には穿孔部左下に深さ2mmほどの躊躇い孔が見られる。87は、口唇部を横方向によく撫でられている。施文は重複している部分や指おさえによる圧消しされた部分がある。補修孔は1ヶ所あり、両面穿孔である。この補修孔の表面部分には穿孔部分中心から6mmほど上位にやり直しと思われる貫通しない孔が穿かれている。補修孔の大きさは、表面の長軸1.4cm、短軸1cm、内面の径5mmを測る。口縁部に器厚6

第3章 検出された遺構・遺物



第17図 縄文土器拓影図(5) (103~125)



第18図 縄文土器拓影図(6) (126-153)

第3章 検出された遺構・遺物

mmに対し最大3mmの剥離剥落が見られる。88は、口唇部より施文される。施文は浅く全面に施し、2cm程の間隔で重複施文し帯状になるよう強調されているように看取される。条間隔は1.2mm、施文幅1.2cm程、条は5条と思われる。89は、口唇下1cm程の無文部を成し、縦方向に施文される。指おさえによる圧消しが見られる。条間隔は1.5mm程、施文幅は1.2cm程、条は5条程である。部分的に回転ではなく、引きずる部分も見られる。口縁部に指おさえが観察できる。90は、口唇下7mmほどの無文部を成し、縦方向に施文する。条間隔は2mm程、施文幅1.5cm程、6条と思われる。口縁部に指おさえが見られる。口縁部内面に1mm厚の剥離が観察できる。91は、口唇下より施文される。口縁部に横撫でが明瞭である。条間隔は2mm程度、施文幅1.7cm、6条程、施文長3cm程が看取される。

92～123は、類似する胴部片である。92～97は、同一個体か、器面をよく研磨し、条間隔2mmほど、施文幅1.5cm程、6条ほどを1cm程の間隔で施文する。施文は浅い。95は、底部に近いところか、部分的に斜方向の施文が見られる。96は、摺りが密である。98は、施文が浅く不明瞭な部分が見られる。成形時の撫でによる砂礫の移動跡が幅1mm長さ1.1cm以上が見られる。99は条間隔2mmほど、施文幅1.2cm程、5条ほどを8mm程の間隔で施文する。施文は浅い。100は条間隔2.5mm～3mmほど、施文幅1.6cm程、6条ほどを間隔を持って施文する。施文は浅い。101は条間隔4mmほど、施文幅1.1cm程、3条を間隔を持って施文する。102は部分的に引きずるところがある。104は条間隔2.5mmほど、施文幅2.7cm程、8条ほどを8mm程の間隔で施文する。施文幅の中央は深く、側縁は浅く見られる施文方法が看取される。105と106は、同一個体か。条間隔2mmほど、施文幅1.3cm程、5条ほどを8mm程の間隔で施文する。施文は一単位を2条程ずらし重複し行う部分が看取される。107は、条間隔3mmほどと広く、施文幅1.5cm程、4条ほどを1.2cm程の間隔で施文する。重複する部分がある。109は、施文が重複する部分と、無文を成す部分が見られる。110は、条間隔3mmほどと広く、節が明瞭である。111は、底部に近い部分か、縦位と斜位の施文がある。斜位の施文が不明瞭になる部分は指おさえによるものである。113～117は、条間隔3mm程と広く、回転ではなく引きずるように、深く施文される。118～120は、同一個体か、太い燃糸を3.5mmほどの条間隔で施文する。

第4類 (第17図121～123, P.L. 31)

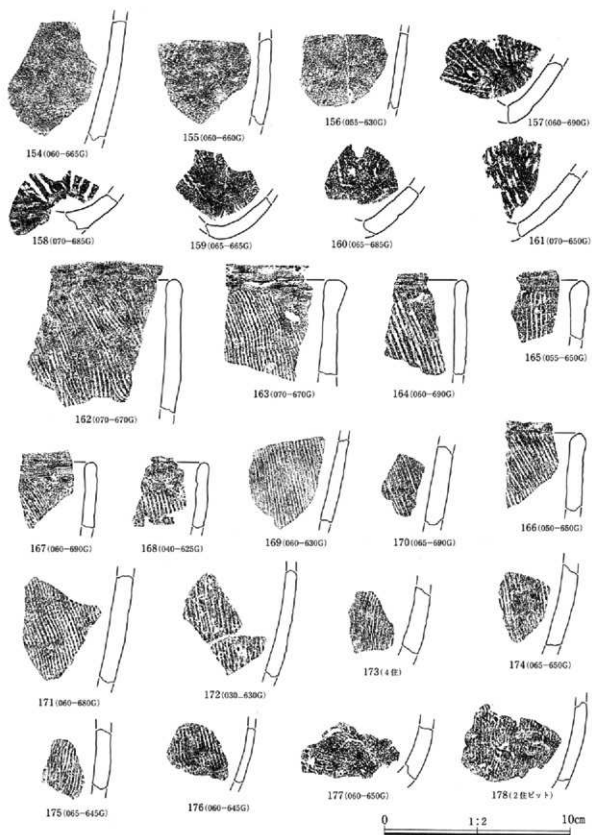
器面が良く研磨され、薄手のしっかりした土器で、口唇端から条間隔及び筋間隔の粗な燃糸文が施文されるものを第4類土器とした。口縁部は丸頭状を呈し、外反しない。施文原体は単輪条体第1類R右巻きである。胎土には角閃石が第3類よりも多く含まれる。

121は、推定口径22.6cmを測る。121・122は口縁部片である。同一個体か、口縁部内外面に指おさえが観察できる。123は胎土・器厚から同一個体と考える胴部片である。

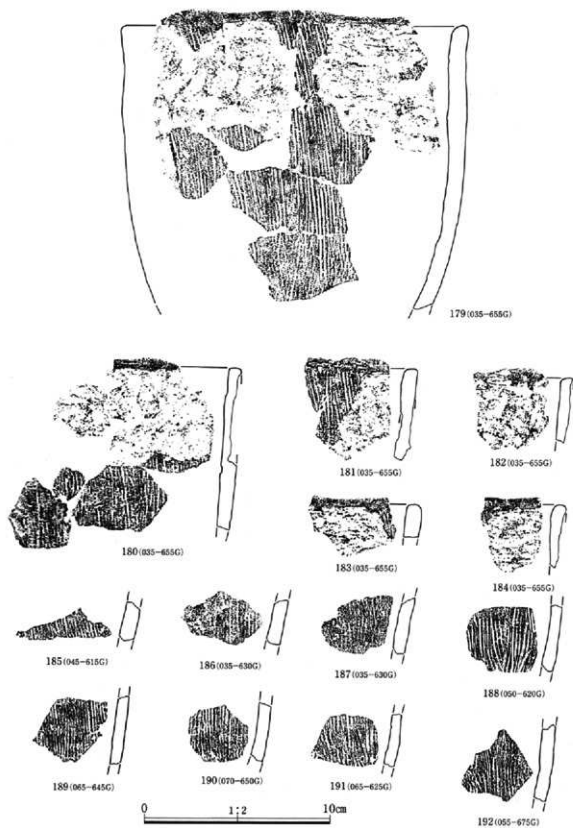
第5類 (第17・18図124～130, P.L. 31)

口唇部は横撫での痕跡が明瞭で胴部との間に稜を形成し、口縁部が横撫でされた結果比較的幅の広い無文部をなすもので、単輪条体第1類R右巻きが施文されているもの。胎土に石英が他よりも多く見られるものを第5類土器とした。

124・125の胎土に2mmほどの石英が含まれる。124は、口唇下2cm程の無文部を持ち、条間隔1～1.5mmほど、施文幅1.5cm程、5条ほどを1cm～5mm程の間隔で施文し帯状効果を出している。125は推定口径21.5cmを測る。口唇下に3.2cm程の無文部を持つ。126・127も同一個体と考えられる。128～130は、126と同一個体と考えられる胴部片である。128は、3mm程の条間隔である。130は、底部に近い部分か、施文が重複し密



第19圖 縄文土器拓影図(7) (154~178)



第20図 縄文土器拓影図(8) (179~192)

になっている。129は、条間隔1～1.5mmほど、施文幅1.5cm程、5条ほどを1cm～5mm程の間隔で施文する。間隔は底部に近いのが斜に狭くなっている。部分的に横の撫でが観察できる。

第6類 (第18・19図131～156、P.L. 31～32)

口縁に無文部を成すものと無文部の多いものを第6類土器とした。

131～136は口縁部である。131～135は丸棒状、136は角頭状を呈する。137～156は胴部片である。137～146の胎土は第3類に類似する。147～156の胎土は第5類に類似する。

第7類 (第19図157～161、P.L. 32)

底部片を第7類とした。摺糸文を深く施文する。

157、159、160は、第3類に類似し、密で深い条が施されている。尖底部には施文されていない。外面は赤色味がある。158は、胎土が第4類に類似し角閃石が多く見られる。条は幅広で部分的に回転ではなく引きずるところも見られる。尖底部は乳頭状の貼付けが行われていた剥落痕が見られる。161は、第2類に類似する胎土の尖底部付近片である。

第8類 (第19・20図162～192、P.L. 32・33)

絡条体を回転せずに、器面を引きずって条線を施文したものを第8類とした。全体に細く浅い条線である。

162～168、179～184は口縁部片である。162は、口縁部丸棒状を呈し、口唇部に撫でを行うがやや波を打っている。口唇部から施文される。単軸絡条体第1類R右巻きである。施文具の軸がやわらかいためか条がやや蛇行している。口縁部は指おさえにより部分的に施文が消えている。条間隔1～1.5mmほど、施文幅1cm程、5条ほどで部分的に施文が重複する。163は、口唇部に強い撫でにより角棒状を呈する。条間隔は1mm弱で密に施文される。口唇下は斜方向に、胴部は縦方向に施文される。口唇部から変換点まで3cm程の長さを測る。指おさえにより施文が消える部分がある。

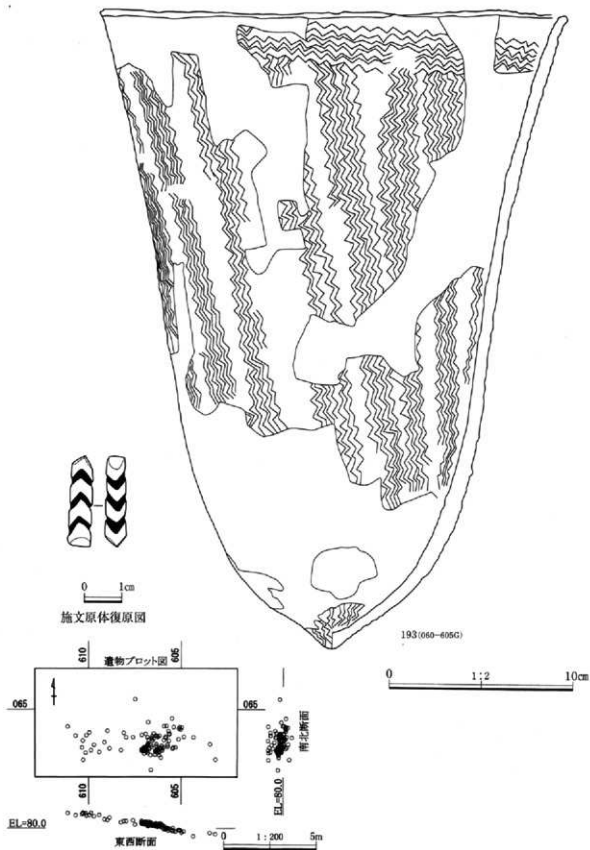
169～178、185～192は胴部片である。169～178は、同質の胎土を含む胴部片である。176は器厚が薄い。179は、推定口径18.6cmを測る。179～184は035-630グリッドに一括出土した。179～184は同一個体の口縁部である。絡条体を引きずり施文するが、部分的に回転しているところが看取される。口唇部から7.5cmの幅で剥落が著しく、内面のこの間は丁寧な横撫でが施されている。剥落は1mmほどの厚さであり、表層後の施文が考えられる。

185～187は179と同一個体と考えられる。188は底部近くか条が集束している。

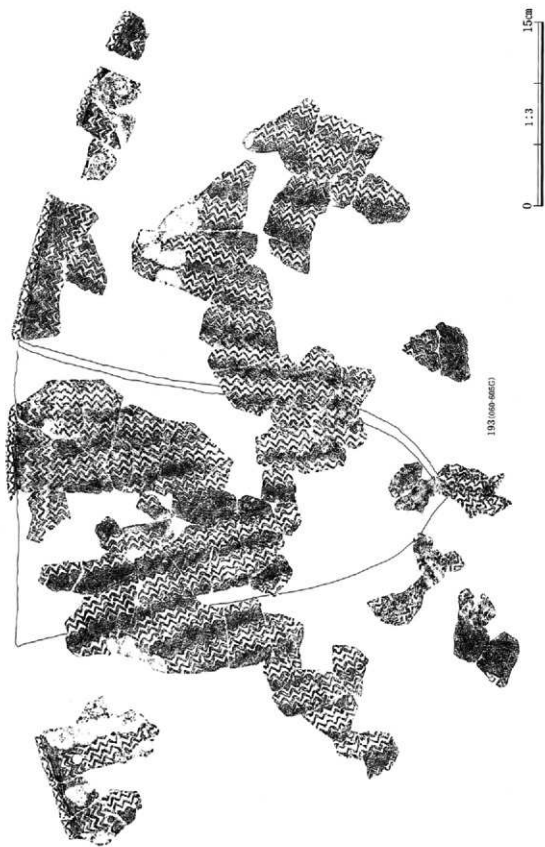
第2群 押型文土器 (第21・22図、口絵2)

193は、山形押型文土器である。本遺跡の台地部から低地への谷頭に位置する060-605グリッドに口縁部から底部まで約100点の破片が集中して出土した。出土状況は、第21図遺物プロット図に示すように地形に沿って4m幅で10mほどの範囲に傾斜し分布していた。

口径は、長軸26.5cm、短軸24.5cmの円形を呈し、器高34.8cmを測る。平縁の口縁部はやや外反し、頸部はあまりくびれず直線的に底部へ至る砲弾形の深鉢である。口唇部はやや角頭状を成し、底部は乳頭状を呈する。焼成は良好で器内外面はよく研磨されている。器厚は6mmほどである。胎土は第3類に類似し、角閃石の含有が顕著で石英を含む。施文原体は、長さ2.4cm、径6mmの棒軸に1mm弱の深さで山形の彫り込みが3本



第21図 縄文土器拓影図(9)(193)



第22圖 縄文土器拓影圖(10) (193)

第3章 検出された遺構・遺物

成される。施文長は3cm程に見られる。施文部は全て山形文である。口縁部は横位回転施文し、胴部は縦位に間隔を持って回転施文する帯状施文とする。さらに胴部下半部に無文部があり、以下尖底部にかけて縦位回転施文が重複する。

口縁部には口唇端部から3cm程の間隔で横位に1帯の回転施文を施す。口唇部上面及び口唇内側の内角部にも施文される。胴部には、口縁部横位施文下に施文幅1cm程で縦位回転施文され、胴部中央では最大施文幅2.4cmを測る部分も見られる。無文部は、口唇下28.7cmから2.5cm程の間にある。この無文部間の器厚は山形文施文部分に対し、粘土の厚さが不規則であり、盛り上がり部分も見られる。底部は尖底部先端まで密集して施文される。施文順位は、口唇部・口縁部に横位回転施文後、胴部に口縁部側から無文部まで縦位回転施文、尖底先端部から無文部に向かい縦位回転施文が看取される。

口縁部に一对の両面穿孔の補修孔がある。ともに外径8mm内径5mmを測る。補修孔間には口唇部から3cm程の長さで亀裂が入っている。両孔ともに亀裂から1cm程の間隔がある。

また、口縁部には、口唇端部から10cm程の範囲で器内外面に剥落が顕著に見られる。この剥落の厚さは1mm程度である。この口縁部に見られる剥落は、第1類土器群の179等にも見られるものであり、施文に際して器面に1mm程度の薄く粘土を重ねたものか、または乾燥した器面を濡らし磨いたために、このような2層構造が生じ、剥落したもの等が考えられないだろうか。多くの土器片が輪積部で割れているのに対し興味深い点である。

さらに、本土器は完形に復元されたことから全体の文様構成が観察できた。これにより全体に施されていたと思われた山形文が底部付近で無文帯があることがわかった。この粘土厚が不規則で、底部よりに僅かに盛り上がる部分も見られるなど、この無文帯のあり方については再考の余地が多分にある。

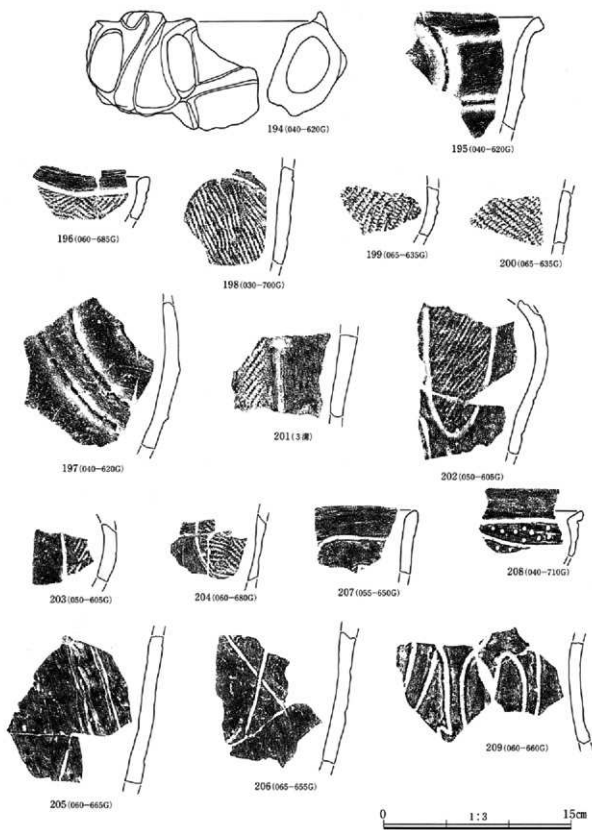
本土器は、器形復元を行う際に施文復元を行うため、施文具の再元を試みた。施文具は、長さ24mm、径6mmの棒に1mm弱の深さで1周2単位で3段の山形の彫り込みを施した。棒軸端部は、断面三角形を呈するようにカットし、棒軸の両端の三角形がタロスするように調整した。この端部の調整が施文時の山形文端部に形成される山形を成すものであり、棒を輪切り状にした場合には表現されない工夫である。

第3群 縄文中期の土器群 (第23図194~206, P.L. 33・34)

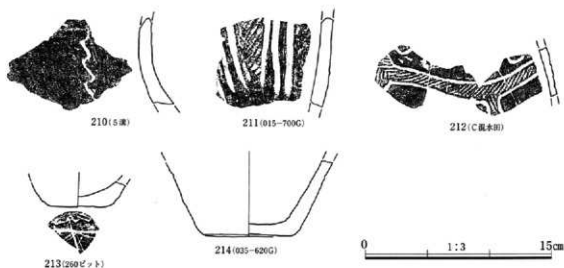
縄文中期の土器群である。加曾利E4式に相当する。194・195・197は同一個体と看取される。194は、橋状把手である。195と197は、隆帯による文様区画を成す。196は、波状口縁部である。口縁部に1条の沈線を廻らし胴部に縄文LRを施す。198は、弧状沈線により、磨消部と縄文施文部に区画する。縄文はLRである。199・200は、同一個体と見られる。縄文LRを施文する。201は、垂下する沈線により文様区画する。縄文はLRである。202~204は、U字状沈線により磨消部とLR縄文施文部を区画する。205・206は、同一個体である。斜方向の沈線文を施す。

第4群 縄文後期の土器群 (第23・24図207~215, P.L. 34)

縄文後期の土器群である。称名寺式、堀之内式が見られる。207・208は口縁部である。207は、口縁部に沈線を施す。208は、口縁部に巡る沈線と弧状を呈する沈線が施され、連続刺突文を施す。209は、「U」「∩」状沈線を施す。区画内は磨消する。210は、波状沈線を垂下する。211は、底部付近である。2条一単位の沈線を垂下し、その間に弧状を成す沈線を施す。弧状内にはLR縄文を充填する。212は、良く研磨された胴部に沈線文を施す。沈線区画内にLR縄文を充填する。213・214は底部片である。213の底部には斜方向の沈線



第23圖 縄文土器拓影図(11) (194~209)



第24図 縄文土器拓影図(12) (210~214)

がある。214は胴部・底部とも無文である。

以上、各群について説明を述べてきた。本遺跡で主体を占める第1群土器の特徴は次のようである。

①胎土 角閃石と石英が多く含まれ器面がキラキラと輝き、他の時期の土器との分類基準でもある。特に第2類には白色不透明な礫(長石?)の混入が多く見られ、類似粘土塊による製作と考えられる。

②口縁部 肥厚するものと肥厚しないものの2つのタイプが見られる。肥大する口縁部の断面には、口唇部の折り返しや粘土紐貼り付けによる粘土帯が層条に見られる。肥厚しない口縁部についても粘土剥離状態から薄い粘土層が看取される。

③底部 尖底部にも撫余文が施文される。割れ方から手捏ねによる製作と見られる。また先端部の乳頭状は貼付で行われている。第2群土器を参照するに、底部と胴部は別々に作られ接合したものと考えられる。

④整形 内外面とも丁寧に撫でつけられ、平滑に仕上げられている。

④施文 第1類は明瞭に見られ、口唇部にも施文される。第2類以下は施文が浅く、不明瞭な部分も見られる。これは整形後直ちに行うのではなく、器面が乾燥しているのか、または、施文圧が弱いためと考えられる。施文は口唇下に無文帯を持ち、条間隔があるものである。原体は、単輪絡条体第1類である。2点を除きRである。

これらの特徴から第1類は口縁部が外反気味で口唇部より施文され、施文もはっきりしていることから大丸式に比定される。第2類以下は、口縁部は丸棒状を呈し、直立気味に立ち上がり、口唇部に施文しないことや、施文方法が乾燥した状態等で行われるなど同一範疇に入ると考えられ、稻荷台式に比定される。

なお、第2群押型文土器は、胎土・焼成及び施文方法の帯状効果技法などから稲荷台式期に伴うものと考えられる。

第6表では、縄文土器の出土位置・胎土を分類した。胎土の分類は以下の9に分類できる。土器は全体に小鉱物片に光りを反射し輝く。その輝きは角閃石や石英である。胎土の分類にあたってはこの角閃石の混入量の違いに注目して区分した。胎土分類の項には、下記の分類項目を数字で記入した。

- 1 角閃石・石英を含む。アカ岩片が目立つ。白色安山岩の礫・粗砂含む
- 2 角閃石・石英含む。白色安山岩の礫・粗砂を多く含む
- 3 角閃石を多く含む。石英含む。白色・赤色安山岩の粗砂含む
- 4 角閃石の大粒より多く含む・石英を含む。白色・赤色安山岩の粗砂含む
- 5 角閃石を多く含む。2mm程度の石英を含む。白色・赤色安山岩の粗砂含む
- 6 角閃石を含む。石英少。白色・赤色安山岩礫粗砂含む
- 7 角閃石・石英を含む。2～3mmほどの安山岩礫多く含む
- 8 角閃石・石英が少なく、白色安山岩礫を含む
- 9 角閃石・石英を含み、白色・赤色安山岩礫・粗砂を含む

第6表 縄文土器出土位置・胎土観察表

番号	出土位置	分類	部位	胎土	色調
1	070-640	1-1	口縁部	1	明赤褐色2.5YR5/6
2	060-630	1-1	口縁部	1	明赤褐色2.5YR5/6
3	060-630	1-1	口縁部	1	橙5YR6/6
4	085-645	1-1	口縁部	1	明赤褐色2.5YR5/6
5	060-635	1-1	口縁部	1	橙2.5YR6/6
6	040-625	1-1	口縁部	1	明赤褐色2.5YR5/6
7	085-645	1-1	口縁部	1	明赤褐色2.5YR5/6
8	1溝	1-1	口縁部	1	明赤褐色5YR5/6
9	065-630	1-1	胴部	1	明赤褐色2.5YR5/6
10	070-645	1-1	胴部	1	赤褐色5YR4/6
11	060-635	1-1	胴部	1	明赤褐色2.5YR5/6
12	065-635	1-1	胴部	1	明赤褐色2.5YR5/6
13	070-630	1-1	胴部	1	明赤褐色2.5YR5/6
14	070-670	1-1	胴部	1	橙5YR6/6
15	065-635	1-1	胴部	1	明赤褐色5YR5/6
16	060-635	1-1	胴部	1	明赤褐色2.5YR5/6
17	060-635	1-1	胴部	1	明赤褐色5YR5/6
18	065-635	1-1	胴部	1	明赤褐色2.5YR5/6

番号	出土位置	分類	部位	胎土	色調
19	060-635	1-1	胴部	1	明赤褐色5YR5/6
20	065-635	1-1	胴部	1	明赤褐色5YR5/6
21	065-635	1-1	胴部	1	橙2.5YR6/6
22	065-650	1-1	胴部	1	橙5YR6/6
23	065-635	1-1	胴部	1	橙7.5YR6/6
24	065-645	1-1	胴部	1	にぶい橙7.5YR7/4
25	055-665	1-1	胴部	1	橙7.5YR6/6
26	030-620	1-1	胴部	1	橙5YR6/6
27	070-630	1-1	胴部	1	橙5YR6/6
28	070-635	1-1	胴部	1	橙5YR6/6
29	035-630	1-1	胴部	1	明赤褐色5YR5/6
30	070-635	1-1	胴部	1	明赤褐色5YR5/6
31	トレンチ	1-1	胴部	1	橙7.5YR6/6
32	11溝	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐色10YR5/4
33	065-685	1-2	口縁部	2	黄褐色2.5Y5/3
34	070-660	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐色10YR5/3
35	065-650	1-2	口縁部	2	黄褐色2.5Y5/3
36	065-645	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐色10YR5/4

第3章 検出された遺構・遺物

番号	出土位置	分類	部位	胎土	色 調
37	060-645	1-2	口縁部	2	黄褐色2.5Y5/3
38	055-675	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐10YR5/3
39	060-635	1-2	口縁部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
40	3住周辺	1-2	口縁部	2	暗灰黄色2.5Y5/2
41	030-620	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐10YR5/4
42	060-655	1-2	口縁部	2	黄褐色2.5Y5/3
43	065-665	1-2	口縁部	2	暗灰黄色2.5Y5/2
44	060-640	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐10YR5/3
45	070-645	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐10YR5/4
46	060-645	1-2	口縁部	2	にぶい黄褐10YR5/4
47	065-685	1-2	口縁部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
48	060-650	1-2	口縁部	2	にぶい赤褐色5YR5/4
49	3住周辺	1-2	胴部	2	暗灰黄色2.5Y5/2
50	065-650	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
51	055-650	1-2	胴部	2	にぶい赤褐色5YR5/4
52	065-685	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
53	055-640	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
54	060-635	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
55	070-660	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
56	055-660	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
57	055-645	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
58	060-690	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
59	070-655	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
60	4住	1-2	胴部	2	黄褐色2.5Y5/3
61	060-645	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
62	050-645	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
63	070-650	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
64	065-645	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
65	060-650	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4

番号	出土位置	分類	部位	胎土	色 調
66	070-645	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
67	4住	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/4
68	070-645	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
69	060-645	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
70	070-655	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/3
71	060-650	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
72	3住周辺	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
73	060-635	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
74	3住	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
75	070-655	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
76	065-655	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
77	060-640	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
78	060-650	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/3
79	055-620	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
80	070-645	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
81	070-640	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/4
82	060-645	1-2	胴部	2	にぶい褐色7.5YR5/3
83	055-630	1-2	胴部	2	にぶい黄褐10YR5/3
84	065-650	1-2	胴部	2	黄褐色2.5Y5/3
85	065-665	1-3	口縁部	3	にぶい橙7.5YR6/4
86	065-655	1-3	口縁部	3	にぶい橙7.5YR6/4
87	065-675	1-3	口縁部	3	にぶい黄褐10YR5/4
88	055-650	1-3	口縁部	3	橙7.5YR6/6
89	065-635	1-3	口縁部	3	橙7.5YR6/6
90	065-645	1-3	口縁部	3	にぶい橙7.5YR6/4
91	050-645	1-3	口縁部	3	にぶい橙7.5YR7/4
92	060-650	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6
93	045-630	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6
94	3住周辺	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6

第2節 縄文時代

番号	出土位置	分期	部位	胎土	色 調
95	060-630	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6
96	060-630	1-3	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
97	070-640	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6
98	060-640	1-3	胴部	3	橙5YR6/6
99	055-635	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6
100	070-640	1-3	胴部	3	にぶい黄橙10YR7/4
101	065-685	1-3	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
102	060-630	1-3	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
103	1溝	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6
104	065-655	1-3	胴部	3	にぶい橙10YR6/4
105	060-680	1-3	胴部	3	にぶい黄橙10YR7/4
106	060-680	1-3	胴部	3	にぶい黄橙10YR5/4
107	055-660	1-3	胴部	3	にぶい赤褐色5YR5/4
108	055-650	1-3	胴部	3	浅黄橙10YR8/4
109	040-620	1-3	胴部	3	橙7.5YR6/6
110	060-665	1-3	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
111	065-650	1-3	胴部	3	にぶい黄橙10YR7/4
112	055-655	1-3	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
113	065-685	1-3	胴部	3	にぶい黄橙10YR7/3
114	065-660	1-3	胴部	3	浅黄橙10YR8/3
115	060-680	1-3	胴部	7	にぶい黄橙10YR7/3
116	070-690	1-3	胴部	7	にぶい黄橙10YR7/3
117	3住周辺	1-3	胴部	7	黄褐10YR5/6
118	060-085	1-3	胴部	3	にぶい褐色7.5YR5/4
119	055-685	1-3	胴部	3	にぶい橙10YR6/4
120	065-685	1-3	胴部	3	褐色7.5YR4/6
121	070-685	1-4	口縁部	4	にぶい黄橙10YR7/3
122	070-685	1-4	口縁部	4	にぶい橙10YR6/4
123	065-685	1-4	胴部	4	淡黄色2.5YR8/3

番号	出土位置	分期	部位	胎土	色 調
124	065-645	1-5	口縁部	5	にぶい黄橙10YR7/4
125	060-670	1-5	口縁部	5	にぶい橙10YR6/4
126	055-655	1-5	口縁部	5	にぶい橙7.5YR6/4
127	060-635	1-5	口縁部	5	にぶい橙10YR6/4
128	060-625	1-5	胴部	7	橙5YR6/6
129	38井戸	1-5	胴部	3	浅黄橙10YR8/3
130	070-685	1-5	胴部	7	にぶい橙7.5YR6/4
131	060-685	1-6	口縁部	7	にぶい黄橙10YR5/4
132	060-660	1-6	口縁部	7	にぶい褐色7.5YR5/4
133	070-655	1-6	口縁部	3	にぶい橙10YR6/4
134	035-650	1-6	口縁部	3	にぶい黄橙10YR6/3
135	065-645	1-6	口縁部	5	にぶい橙7.5YR6/4
136	070-645	1-6	口縁部	4	にぶい黄橙10YR6/4
137	060-680	1-6	胴部	4	にぶい黄橙10YR7/4
138	060-645	1-6	胴部	4	橙7.5YR7/6
139	055-660	1-6	胴部	4	明黄褐色10YR6/6
140	065-655	1-6	胴部	4	にぶい橙7.5YR7/4
141	055-655	1-6	胴部	4	にぶい黄橙10YR7/4
142	060-635	1-6	胴部	4	にぶい黄橙10YR7/4
143	065-660	1-6	胴部	4	にぶい黄橙10YR7/3
144	045-625	1-6	胴部	4	にぶい黄橙10YR7/4
145	070-660	1-6	胴部	4	にぶい橙7.5YR7/4
146	060-620	1-6	胴部	4	にぶい黄橙10YR7/4
147	060-650	1-6	胴部	4	にぶい褐色7.5YR5/4
148	例本直	1-6	胴部	5	明赤褐色5YR5/6
149	070-635	1-6	胴部	5	にぶい橙10YR6/4
150	065-670	1-6	胴部	4	にぶい赤褐色5YR5/4
151	055-660	1-6	胴部	7	にぶい褐色7.5YR5/4
152	060-650	1-6	胴部	4	にぶい赤褐色5YR5/4

第3章 検出された遺構・遺物

番号	出土位置	分類	部位	胎土	色 調
153	070-655	1-6	胴部	5	橙7.5YR6/6
154	060-665	1-6	胴部	5	明赤褐色5YR5/6
155	060-660	1-6	胴部	5	にぶい橙10YR6/4
156	055-630	1-6	胴部	7	橙7.5YR6/6
157	060-690	1-7	底部	3	にぶい黄橙10YR7/4
158	070-685	1-7	底部	3	にぶい黄橙10YR6/4
159	065-665	1-7	底部	3	にぶい黄橙10YR7/4
160	065-685	1-7	底部	3	にぶい黄橙10YR7/3
161	070-650	1-7	底部	2	にぶい黄橙10YR6/4
162	070-670	1-8	口縁部	3	にぶい黄橙10YR6/4
163	070-670	1-8	口縁部	3	にぶい黄橙10YR6/4
164	060-690	1-8	口縁部	3	にぶい黄橙10YR6/4
165	055-650	1-8	口縁部	3	にぶい黄橙10YR7/4
166	050-650	1-8	口縁部	3	にぶい黄橙10YR6/4
167	060-690	1-8	口縁部	3	にぶい黄橙10YR6/4
168	040-625	1-8	口縁部	3	にぶい橙7.5YR6/4
169	060-630	1-8	胴部	3	にぶい黄橙10YR6/3
170	065-690	1-8	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
171	060-680	1-8	胴部	3	にぶい黄橙10YR6/4
172	030-630	1-8	胴部	3	にぶい黄橙10YR6/4
173	4住	1-8	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
174	065-650	1-8	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
175	065-645	1-8	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
176	060-645	1-8	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
177	060-650	1-8	胴部	3	にぶい橙7.5YR6/4
178	2住ビット	1-8	胴部	7	にぶい黄橙10YR6/3
179	035-655	1-8	口縁部	6	にぶい赤褐色5YR5/4
180	035-655	1-8	口縁部	6	にぶい赤褐色5YR5/4
181	035-655	1-8	口縁部	6	にぶい赤褐色5YR5/4
182	035-655	1-8	口縁部	6	にぶい赤褐色5YR5/4
183	035-655	1-8	口縁部	6	にぶい赤褐色5YR5/4

番号	出土位置	分類	部位	胎土	色 調
184	035-655	1-8	口縁部	6	にぶい赤褐色5YR5/4
185	045-615	1-8	胴部	6	明赤褐色5YR5/6
186	035-630	1-8	胴部	6	明赤褐色5YR5/6
187	035-630	1-8	胴部	6	明赤褐色5YR5/6
188	050-620	1-8	胴部	6	橙7.5YR6/6
189	065-645	1-8	胴部	6	にぶい赤褐色5YR4/4
190	070-650	1-8	胴部	6	明赤褐色5YR5/6
191	065-625	1-8	胴部	6	明褐7.5YR5/6
192	055-675	1-8	胴部	6	にぶい橙7.5YR6/4
193	060-605	2	完形	3	明赤褐色5YR5/6
194	040-620	3	口縁部	8	灰白2.5Y8/2
195	040-620	3	口縁部	8	淡黄2.5Y8/3
196	060-685	3	口縁部	8	黄灰2.5Y5/1
197	040-620	3	胴部	8	淡黄2.5Y8/3
198	030-700	3	胴部	8	灰白2.5YR7/1
199	065-635	3	胴部	8	灰白10YR7/1
200	065-635	3	胴部	8	灰白10YR7/1
201	3溝	3	胴部	8	にぶい橙7.5YR7/4
202	050-605	3	胴部	8	淡黄2.5Y8/3
203	050-605	3	胴部	8	淡黄2.5Y8/3
204	060-680	3	胴部	8	にぶい黄橙10YR7/2
205	060-665	3	胴部	8	淡黄2.5Y7/3
206	065-655	3	胴部	8	淡黄橙10YR8/3
207	055-650	4	口縁部	9	明赤褐2.5YR5/6
208	040-710	4	口縁部	8	橙5YR6/6
209	060-660	4	胴部	9	にぶい橙7.5YR6/4
210	5溝	4	胴部	8	にぶい黄橙10YR7/4
211	015-700	4	胴部	8	淡黄橙7.5YR8/4
212	C 汎水田	4	胴部	8	にぶい橙7.5YR6/4
213	260ビット	4	底部	9	橙7.5YR6/6
214	035-620	4	底部	8	淡黄橙10YR8/4

4 出土石器

これらの石器は包含層出土の石器で、所属時期は縄文時代である。

この遺跡で確認されている縄文土器は、縄文早期の熱糸文土器、押型文土器、縄文中期加曾利E式土器、縄文後期初頭称名寺式土器の大きく分けて4時期が該当している。出土石器の具体的な時期を限定できる資料は早期のスタンプ形石器、片刃石器（ヘラ状石器）などであるが、その他の資料については時期を特定することはできない。しかし、縄文中期加曾利E式、同後期称名寺式の土器の量は早期の熱糸文土器に比べて非常に少なく、この石器群のもつ時期は早期熱糸文土器の時期と考えられる。

今回、図示できたのは石鏃12点、石錐1点、打製石斧13点、ヘラ状石器4点、石錘1点、削器10点、加工痕のある剥片11点、使用痕のある剥片3点、剥片5点、スタンプ形石器23点、石核9点、凹石5点、磨石15点、多凹石1点、焼石1点で総計114点である。

石鏃（第25図1～12、PL. 34）

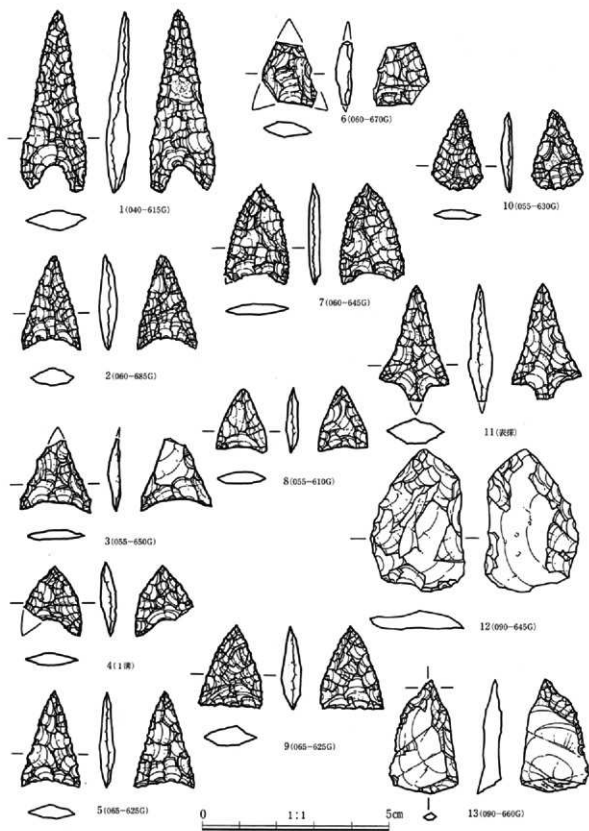
- 1は完形品で通常の石鏃の長さ比べて2倍と長い。基部は凹が強く「U」字状になっている。チャート製。
- 2～8は二等辺三角形で基部は浅く皿状に窪む形態である。
- 2は完形品でチャート製。
- 3は先端欠損、表面は剥離面を大きく残している。黒色頁岩製。
- 4は通常より長さが短く、両側辺が弧状となる丸みをおびた形で基部の凹は強く「U」字状に窪んでいる。片脚を欠損している。黒曜石製。
- 5は完形品、細粒輝石安山岩製で石鏃としては唯一の石材で、他の石材に比べ灰白色で特徴的なものである。
- 6は両脚、先端部の3箇所を欠損している。チャート製。
- 7は先端部が特徴的で両側辺が、先端に向かって緩やかに外側に湾曲し、先端に至るが先端部寸前で一旦傘まり、先端部のみが細く短く突き出している。片脚を欠損している。両側辺部は細かな鋸歯状につくられている。3号住居周辺出土品である。黒色頁岩製。
- 8は本遺跡出土の石鏃中で一番小さい資料である。黒色頁岩製。
- 9は二等辺三角形で基部は平坦である。チャート製。
- 10は二等辺三角形の基部は外側に湾曲している。基部中央は微妙に飛び出したかんがあり、有茎石鏃であったものが再加工・調整されて現形態になったものと考えられる。黒曜石製。
- 11は有茎石鏃であるが、舌先端は欠損する。黒色頁岩製。
- 12は一側辺と相対する側辺の先端部分のみを加工した石鏃である。黒色安山岩製。

石錐（第25図13、PL. 34）

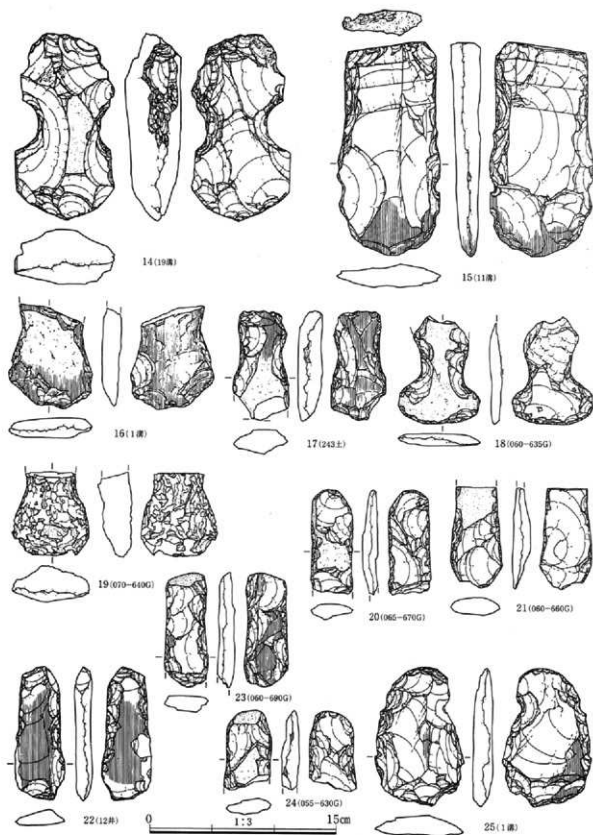
- 13は縦長の剥片を素材に一側辺を細部加工、先端を短く尖らせている。黒色頁岩製。

打製石斧（第26図14～25、第27図26、PL. 34・35）

- 14は完形品で分銅形を呈しているが、厚さが4.5cmと肉厚で実際にうまく木柄に装着するのが難しい資料である。使用痕は明瞭でなく、装着による擦れをみるることができないことから使用されていたかは不明である。黒色頁岩製。
- 15は完形品で厚さ1.5～2cmと平均した横長剥片を素材に基部以外の周縁加工を行っている。基部は節理面で



第25図 縄文石器実測図(1) (1~13)



第26圖 縄文石器実測図(2) (14~25)

第3章 検出された遺構・遺物

先端はシャモジの先のような形になっており、磨減痕が明瞭に確認される。いわゆる土掘り具として使用されたものである。頁岩製。

16は中央から基部にかけて欠損している。括れ部の側面はよく潰れている。石材がホルンフェルスであることから磨減痕が図示されているが、実際はかなり少ない。片面に大きな礫面をもち、主要剥離面も不鮮明で剥離方向も不明である。

17は先端部に大きな欠損を2箇所持ち、基部も小さく2箇所欠損している。しかし、全長は先端が一部残存していたことから9cmと計測できた。表面に大きく礫面を残し、剥離面側は全面に磨減痕が有るような図示となっているがそれほど明瞭なものではない。黒色頁岩製。

18は両側面の挟りがもっとも顕著な分銅形であるが上端部は欠損している。表面は大きく礫面を残す。細かなヒビが礫面に沿って入っていることから、火受けしたことが考えられる。黒色頁岩製。

19は側面が挟れる分銅形石斧である。上半は欠損、全体に凹が無数にあり（石材の性質）、剥片剥離も確認することは難しい。ホルンフェルス製。

20～24は短冊形石斧である。

20は先端を欠損。側面の中央部に潰れを確認する。黒色頁岩製。

21は基部を欠損。砂岩製。

22は側面・基部に多くの新しい剥離がある。礫面は残されていない。磨減痕が中央に多く目立ち装着時の痕跡と考えられる。黒色頁岩製。

23は先端欠損。裏面から表面方向の力で破損している。裏面に中央から先端に磨減痕。細粒輝石安山岩製。

24は中央から先端を欠損。細粒輝石安山岩製。

25は横長剥片を素材にした粗雑なつくりのものであり、通常の石斧より幅広となっている。表面中央部、裏面先端部に磨減痕がある。黒色頁岩製。

26は先端部のみが残存であり、磨減痕が認められる。黒色頁岩製。

片刃石器・ヘラ状石器（第27図27～30、P.L. 35）

縄文早期特有の片刃石器であり、通称ヘラ状石器という。これらの石器については、打製石斧として紹介されていたり、横向きにして削器として紹介されたりしている。石器の性格としては掻器である。

27は片刃石器で典型的なヘラ状石器である。表面は礫面で剥片剥離は、その裏面側から片面加工が行われている。黒色頁岩製。

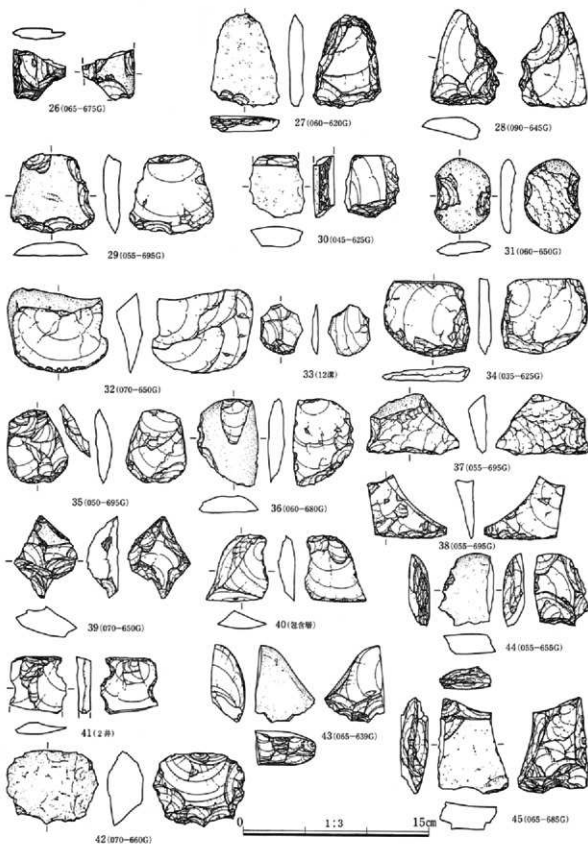
28は左辺が未調整・右辺は裏面からの粗い加工が施されている。下辺は直線的に裏面からの細部加工が施され、刃部を作出している。黒色頁岩製。

29は主要剥離面側から礫面に粗い片面加工を施し、台形状に整形している。刃部の一部で両面加工の箇所もある。黒色頁岩製。

30は礫面側からの片面加工で形態を整えているが、上端は欠損しており、いわゆるヘラ状石器の破損品と考えられる。黒色頁岩製。

石錘（第27図31、P.L. 35）

31は薄い小円礫を石の上に立て両極打法あるいは、部分的に挟入加工を施している。両極部が挟れていることや全体の形態から使用内容は網の重石などであるものと考えられる。細粒輝石安山岩製。



第27図 縄文石器実測図(3) (26~45)

第3章 検出された遺構・遺物

削器 (第27図32~41, P L. 35)

32は礫面を打面にした剥片を素材に、剥離面側からの片面加工により刃部を作出、きれいな湾曲ラインに仕上げている。黒色頁岩製。

33は主要剥離面側からの片面調整で、刃部は幅3cmで丁寧に仕上げられている。硬質頁岩製。

34は礫面を打面とし、上部礫面と右辺礫面部を除き刃部調整加工がされている。左辺は両面加工、下辺は片面加工である。黒色頁岩製。

35は剥片の上下辺に細部加工を施している。下辺は両面加工、上辺は片面加工である。黒色頁岩製。

36は礫面を打面にした剥片で、左辺から下端まで湾曲したラインに加工している。黒色頁岩製。

37は下辺・左辺の2辺に細部加工が施されている。頁岩製。

38は下辺が両面加工による直線的な刃部加工が施されている。黒色頁岩製。

39は表裏に1箇所づつ礫面が残っており、約4.2cmの厚さの礫を素材にしたことがわかる。表面上端部は二等辺部が三角に尖っており、表面礫面からの片面加工で調整されている。搔器や尖った部分を使った錐などとして使用したことが考えられる。黒色頁岩製。

40は右辺が表面側に左辺が主要剥離面側に細かな調整剥離が施され、下辺には使用による小剥離がみられる。黒色頁岩製。

41は礫面を打面にした剥片で、左右1箇所づつ挿入加工を施している。両方とも表面から裏面への片面加工である。黒色頁岩製。

加工痕ある剥片 (第27・28図42~52, P L. 35・36)

42は礫面を打面にした長さ2~3cmの剥片剥離を実施している。黒色頁岩製。

43は礫面からの剥片剥離を実施している。黒色頁岩製。42・43は片面加工により、鈍角の刃がつくられた片刃石器や石核とも考えられる。

44は右辺以外礫面からの片面加工が施されている。黒色頁岩製。

45は下辺に礫面からの片面加工が施されている。細粒輝石安山岩製。

46は礫面を打面とし、左辺に鈍い角度を持つ剥離があり、先端右辺に細部加工がある。黒色頁岩製。

47は斜めに割れたもので、右側から先端にかけて加工が施されている。黒色頁岩製。

48は左辺中位上半に礫面側からの細部調整がみられる。黒色頁岩製。

49は左右辺に数回の小剥離がある。細粒輝石安山岩製。

50は右辺に裏面からの細部調整が施される。珪質頁岩製。

51は礫面を打面にした剥片で、下端に数回の剥離が施されている。黒色頁岩製。

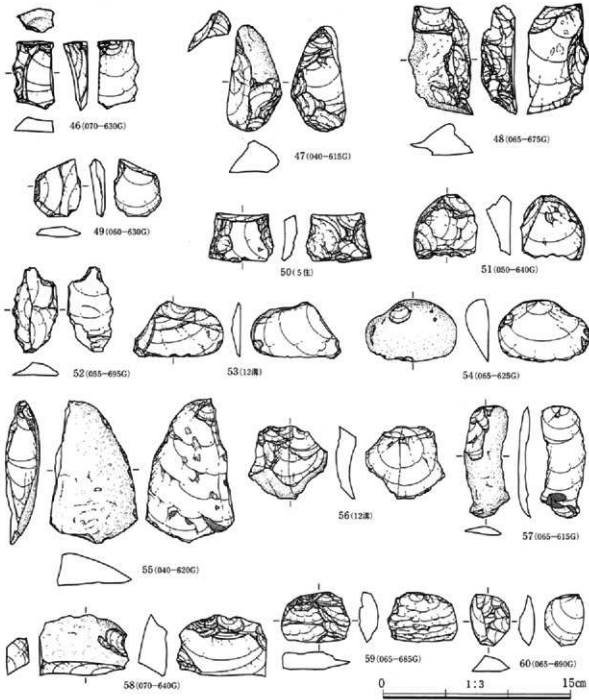
52は縦長剥片を素材に周縁部に加工痕が認められる。黒色頁岩製。

使用痕ある剥片 (第28図53~55, P L. 36)

53は下辺に使用時に剥落した小剥離がある。黒色頁岩製。

54は礫の端部を斜めに剥いだ剥片で、下辺に小さな剥離が幾つか存在する。黒色頁岩製。

55は礫面を残す大きな剥片で、右辺に礫面からと剥離面側の両方からの使用痕がある。黒色頁岩製。



第28図 縄文石器実測図(4) (46~60)

剥片 (第28図56~60, P. L. 36)

56は剥離面を打面とした剥片である。黑色頁岩製。

57は礫面を薄く縦長に剥離している。黑色頁岩製。

58は横長剥片で打面を5回ほど敲き剥ぎ落としている。加工痕のある剥片。黑色頁岩製。

59は礫面を打面とした横長剥片である。黑色頁岩製。

60は小剥片である。珪質頁岩製。

スタンプ形石器 (第29～32図61～83、P.L. 36・37)

61は棒状礫を打割した後、右側縁部の一部に調整加工を施し、挟り部を作出しているが端部は敲いて潰している。断面三角形の縁部に鈍角の2辺には敲き痕が集中し、その挟まれた平坦面にも敲痕が集中している。また、頂部にも敲き痕が認められる。断面の底面は一部擦れている。底面を敲き面としているため、周縁部は小剥離がたくさん認められる。変質安山岩製。

62は棒状礫を打割っている。基部については打割りで大きく欠損している。側面の調整加工はされていない。底面は非常に良く使用され、磨減痕がある。また、敲いた痕跡として底面周縁部礫面側に小さな剥離が多く認められた。粗粒輝石安山岩製。

63は棒状礫を打割した後、数回の調整加工で底面を作っている。側面の一部に調整加工を施し、挟り部を作出しているが端部は敲いて潰している。礫後部と平坦面について敲き痕跡が残されている。基部は敲かれていない。打割面の底面縁部は一部を残し、潰れており礫面側に小剥離がある。半面は磨減している。砂岩製。

64は棒状礫を打割した礫面は、一部礫面を残すだけで両側面を強く剥片剥離加工し、表面の基部近くの剥片剥離加工を施している。加工した端部は敲いて潰している。礫面にも敲いた痕跡がある。打割した底面は敲いた痕跡と磨減痕が明瞭に認められる。周縁部は礫面方向に小剥離が多数認められる。粗粒輝石安山岩製。

65はスタンプ形石器の基部と考えられる。破損した底面側を調整加工している。礫面側は後部を剥片剥離し調整加工している。礫面に3条の線刻が認められる。基部は剥離され礫面は残されていない。珪質頁岩製。

66は扁平礫を素材に打割した後、底面は数回の調整加工を施している。礫面を打面に側面・表面を剥離加工し、礫面2面を残し四角柱状に調整している。調整した側面2辺は潰れている。礫面での敲き痕跡は認められない。底面は一部に敲いた痕跡を残すがほとんど未調整である。本資料についてはスタンプ形石器と同時期に存在している三角錐形石器と考えることもできる。ひん岩製。

67は棒状礫を打割した底面は磨減している。礫面側面は表面からの剥離加工により調整されている。礫面での敲き痕跡は認められない。礫面の剥離やヒビは火受けした痕跡と考えられる。粗粒輝石安山岩製。

68は破損品で底面を敲き石として使用しているため、筋理に沿って斜めに割れている。棒状礫を打割した底面は各礫面からの数回の剥離で調整している。閃緑岩製。

69は棒状礫を打割した底面は磨減痕がなかった。礫面側は後部を挟れた形に剥片剥離加工し、その部分を敲いて潰している。礫面での敲き痕跡は認められなかった。粗粒輝石安山岩製。

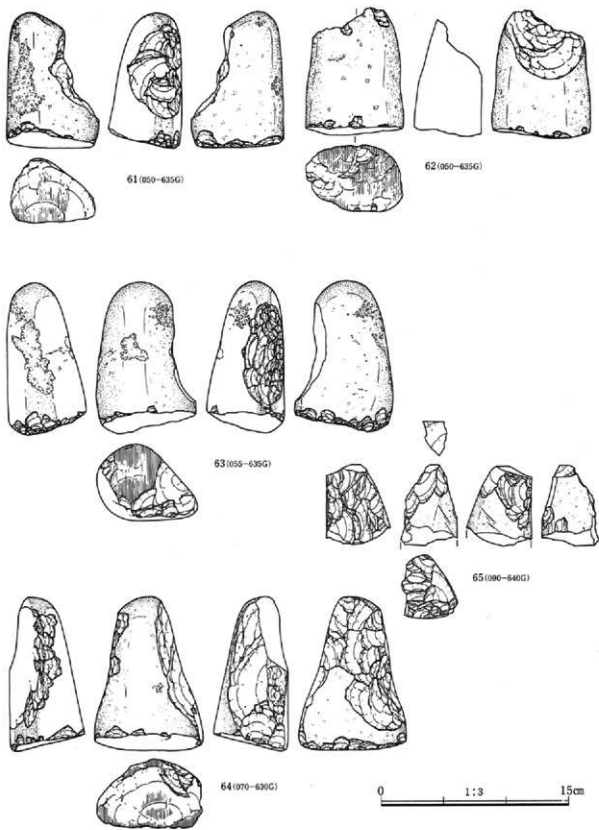
70は棒状扁平礫を打割した底面で、未調整で敲き痕跡や磨減痕はみることができなかった。礫側面は礫後部を挟れた形に剥片剥離加工を行い敲いて潰している。礫面には敲いた痕跡は認められない。ひん岩。

71は棒状礫を打割した底面の表面縁部は、ほとんど使用痕跡はなかったが、表面縁部はきれいな弧状ラインで使用痕が無数に確認できる。礫後部を両面加工が施され、上部は敲いて潰れている。変質安山岩製。

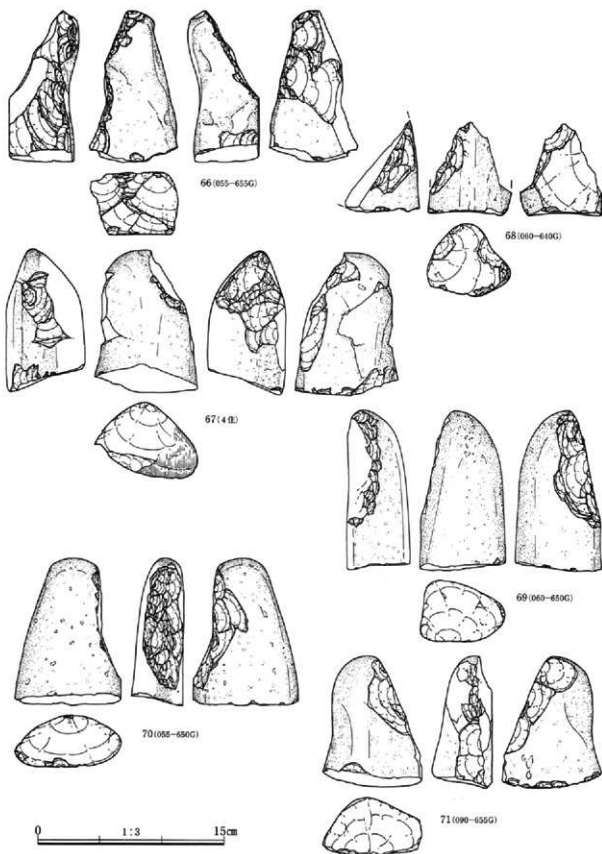
72は棒状礫を打割した底面は一部を調整加工しており、磨減痕はなかった。礫後部を挟る剥片剥離加工を施している。基部頂部と礫2後部は敲いた痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。

73は棒状礫を打割した底面は弧状の縁部を敲いた痕跡の小剥離がある。磨減痕はなかった。礫後部2側面の剥片剥離加工を施し、同縁部は敲いて潰している。ひん岩製。

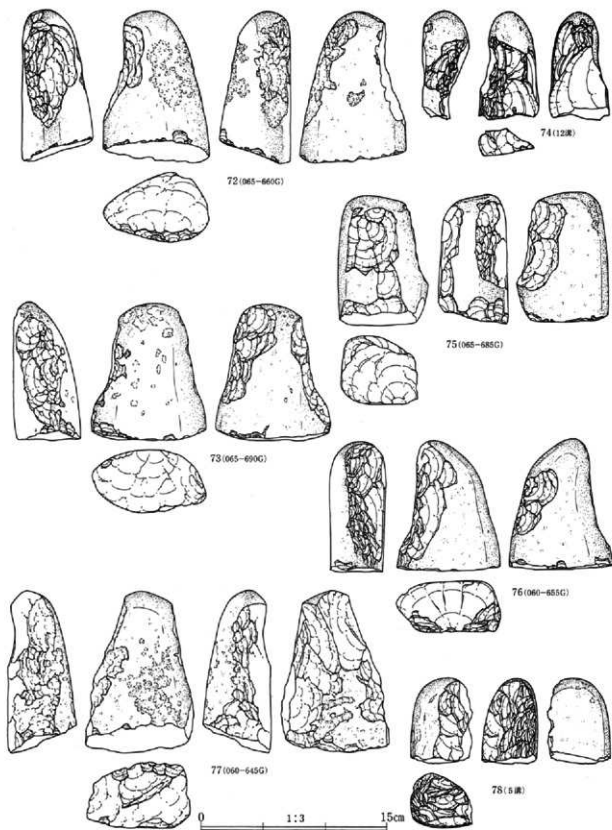
74は斜め方向に破損したものである。礫側面は2箇所剥片剥離加工を施している。礫面の敲き痕跡は認められない。棒状礫の打割した底面がそのまま残存しているとは思えない破損面と考えられる。黑色頁岩製。



第29圖 縄文石器実測図(5) (61~65)



第30図 縄文石器実測図(6) (66~71)



第31図 縄文石器実測図(7) (72~78)

第3章 検出された遺構・遺物

75は棒状礫を打割した底面は弧状の縁部を蔽いた痕跡の小剥離がある。磨滅痕はなかった。礫後部1個辺の剥片剥離加工を施し、同縁部は蔽いて潰している。礫面の基部や礫後部を蔽いた痕跡が認められた。ひん岩製。

76は棒状礫を打割した底面は弧状の縁部を蔽いた痕跡の小剥離がある。磨滅痕はなかった。礫後部2個辺の剥片剥離加工を施し、同縁部は蔽いて潰している。一側辺は折れたラインで整形されている。礫面部には蔽いた痕跡はなかった。粗粒輝石安山岩製。

77は棒状礫を打割した底面は数回調整剥離が施され、磨滅痕はなかった。礫後部2個辺の剥片剥離加工を強く施し、同縁部は蔽いて潰している。礫面の基部上半は蔽いた痕跡なく、それ以外は無数に痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。

78は礫面表面を直接打面として右側辺の剥片剥離加工している。底部は左側辺から礫面を打面としたものと側面の剥離面を打面とした直行する剥片剥離加工を行っている。破損したスタンプ形石器の底面の再加工品と考えられる。黒色頁岩製。

79から83は礫面に剥離調整を伴わない一群である。

79は棒状礫を打割した一部を調整加工している。割れ口面を蔽き面としているため、割れ口の縁部は小さな剥離痕が多数礫面側に残されている。基部頂部を蔽いた痕跡がある。変質安山岩製。

80は棒状礫を打割した打割面の使用状況は明瞭ではない。基部頂部や4個所の礫後部、平坦部を蔽いた痕跡が明瞭にある。石英閃緑岩製。

81は棒状礫を打割した打割面の使用状況は明瞭ではない。側面礫後部を蔽いた痕跡がある。石英閃緑岩製。

82はスタンプ形石器中で最も薄い扁平礫を素材にして、打割りしたものである。敲いたり、撞ったりした使用痕は認められない。細粒輝石安山岩製。

83は棒状礫を打割している。割れ口面を蔽き面としているため、割れ口の縁部は小さな剥離痕が多数礫面に残されている。粗粒輝石安山岩製。

石核 (第32-33図84~92, P.L. 37)

84は石核の中で一番大きなものである。礫を素材に礫面の平坦部上面と左側面を打面として剥片剥離作業を行っている。礫面からの剥離が顕著に認められるが、それ以前の剥片剥離作業と新しい方の剥離面に対して直角に近い古い剥離面が3箇所ほど残されている。左側面に黒色のススの付着が認められる。珪質頁岩製。

85は2度の礫面直接打撃により、扁平礫を形づくり主要剥離面を打面として剥片剥離作業を行っている。黒色頁岩製。

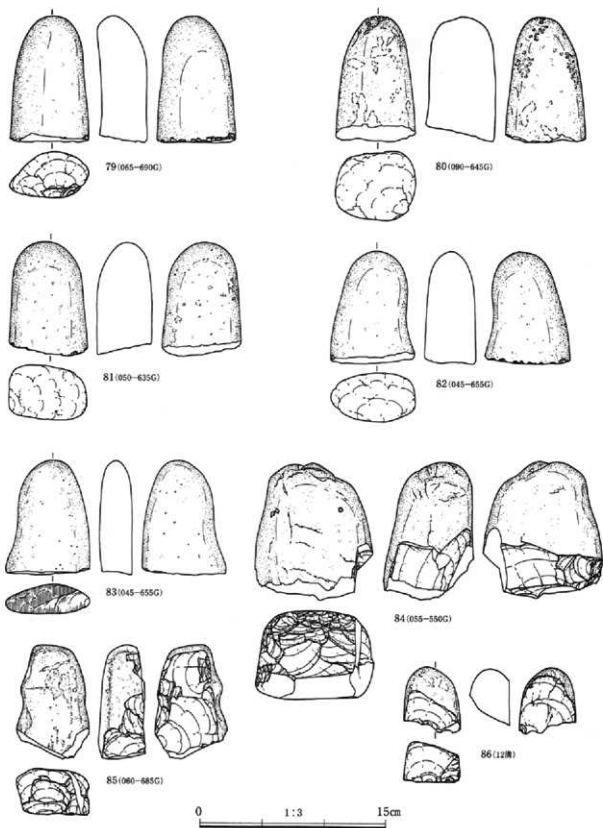
86は礫を荒削りした平らな主要剥離面を打面として、同一方向の剥片剥離作業を行っている。黒色頁岩製。

87は礫面上下両端部の剥片剥離により、一側面は礫面が大きく残っている。断面が三角となっており、上端は平坦部を打面にして、下端部は残り2辺からの剥片剥離作業が行われている。黒色頁岩製。

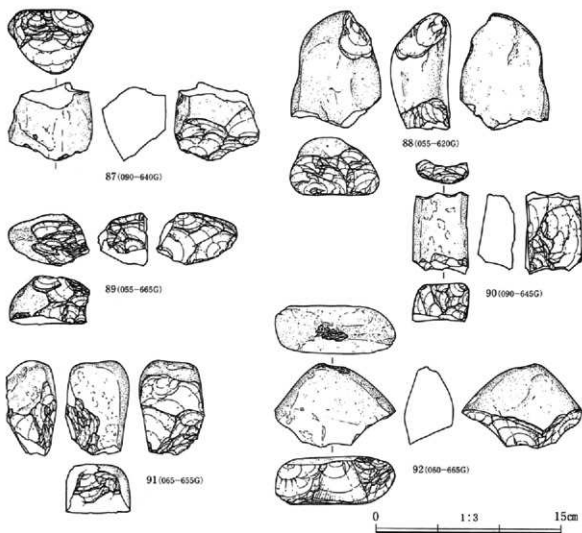
88は平らな礫面を打面にして一定方向の剥片剥離作業を行っている。また、一個所礫面端部を剥離している。珪質頁岩製。

89は礫端部を表裏交互に剥片剥離作業を行っている。この作業面は2個所で認められ、各々の打面が直角に交わっている。最後に礫面からの打撃で荒削りされ、数回打面からの作業が認められる。黒色頁岩製。

90は上端部礫面。下端部右側面礫面を直接打面とし、表面は右側礫面を直接打面として剥片剥離作業を行っている。黒色頁岩製。



第32図 縄文石器実測図(8) (79-86)



第33図 縄文石器実測図(9) (87~92)

91は右辺の礫面からの剥片加工終了後、礫を寛割りして、下部方向からの剥片剥離加工を実施している。黑色頁岩製。

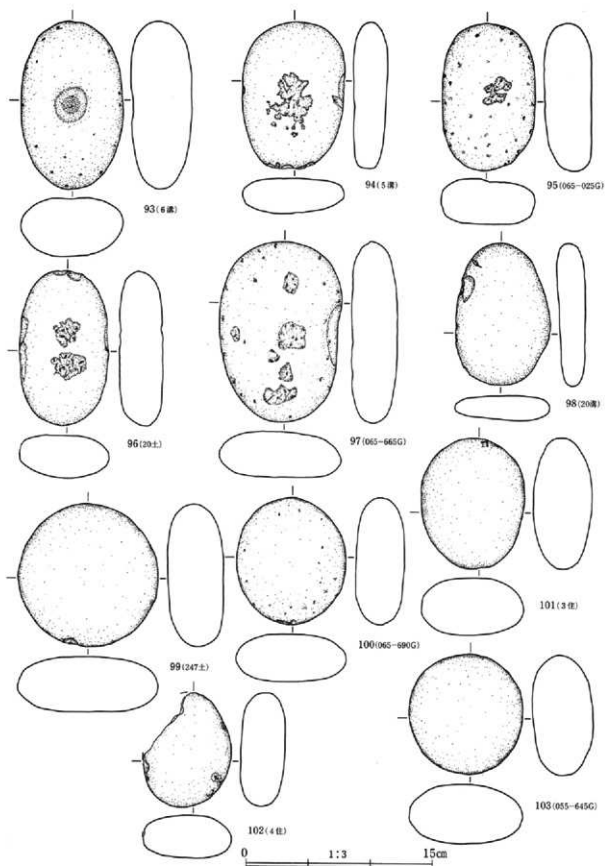
92は4 cmと平均した厚さを持つ扁平な礫を素材に礫面に直接打面とする剥片剥離作業を一定の方向で行っている。黑色頁岩製。

凹石 (第34図93~97, P L. 37)

93は凹が表面中央に1箇所直径3 cmの浅い窪みとなっている。裏面は敲き痕が認められるが凹部にはなっていない。粗粒輝石安山岩製。

94は通常の凹石と比べて扁平な素材である。表裏とも平坦部中央を中心に敲き痕が無数に見られる。表面の凹は下部が凹化になるが、上部は少なく敲き痕が散在している。裏面は敲き痕が僅かにあるが凹にはなっていない。粗粒輝石安山岩製。

95は表面に敲き痕が中央部に集中するぐらいで凹にはなっていない。左右側辺が幅2~3 cmの平らな擦り面を持っている。粗粒輝石安山岩製。



第34図 縄文石器実測図(10) (93~103)

第3章 検出された遺構・遺物

96は表面に上下2個所の凹をもつが窪みの状況は、幅3mmで長さ5.6mmの鋭利なもので戴いたキズ跡で特徴的な使用痕となっている。裏面も同様な使用痕をもっているが、左右側辺部と上端に戴いた痕跡がある。下端は未使用である。粗粒輝石安山岩製。

97は表裏面とも明瞭な窪みはないが戴いた痕跡が僅かに表面にあり、その他の表面や周縁部には使用痕もはっきりしない。粗粒輝石安山岩製。

磨石 (第34・35図98～112, P.L. 37・38)

98は表裏面を擦っており、周縁部の戴いた痕跡は1個所が大きく、その他は小さい。粗粒輝石安山岩製。

99は表裏面を擦っており、周縁部は数カ所戴いている。石英閃緑岩製。

100・101は表裏面を擦っており、周縁部は戴いた痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。101は3号住居出土。

102は3号住居出土である。表裏面を擦っており、裏面中央に上下に凹と思われる戴き痕があるため凹石とした方がよい。但し図示されていない。表面中央にも戴いた痕跡が集中している。周縁部も戴いた痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。

103・104は表裏面を擦っており、周縁部に戴いた痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。

105は3号住居出土品で一部欠損、表裏面を擦っており、周縁部を戴いた痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。

106は表裏面を擦っており、磨石で戴いたような個所は観察することができなかった。石英閃緑岩製。

107は3号住居出土である。表裏面を擦っているが顕著なヒビ割れが見られる。これは焚き火に直接入れられた火受けによるものだけではなく、高温に熱せられた状態で水などに放り込まれたような急激な温度の違いがこのヒビ割れの原因と考えられる。例えばボイリングストーンなどとして利用されたことが考えられる。粗粒輝石安山岩製。

108は表裏面を擦っており、表裏平坦部中央と周縁部に戴いた痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。

109は3号住居廻り方出土であるため4号住居出土品と認識した。表裏面を擦っており、平坦部中央を戴き石とし、一部側辺部も戴き石として使用している。粗粒輝石安山岩製。

110は一部欠損、表裏面を擦っており、側辺部を戴いた痕跡がある。粗粒輝石安山岩製。

111は下半部を欠損、表裏面を擦っている。扁平な礫を素材に表裏面をツルツルになるまで擦られている。周縁部は礫部を使用したことによる剥落痕が多数存在する。粗粒輝石安山岩製。

112は下半部を欠損、表裏面を擦っている。扁平な礫素材を利用したもので礫面が光沢を持つような使用頻度の高い磨石である。周縁部については戴いた事による剥落痕が存在している。紋鈿岩製。

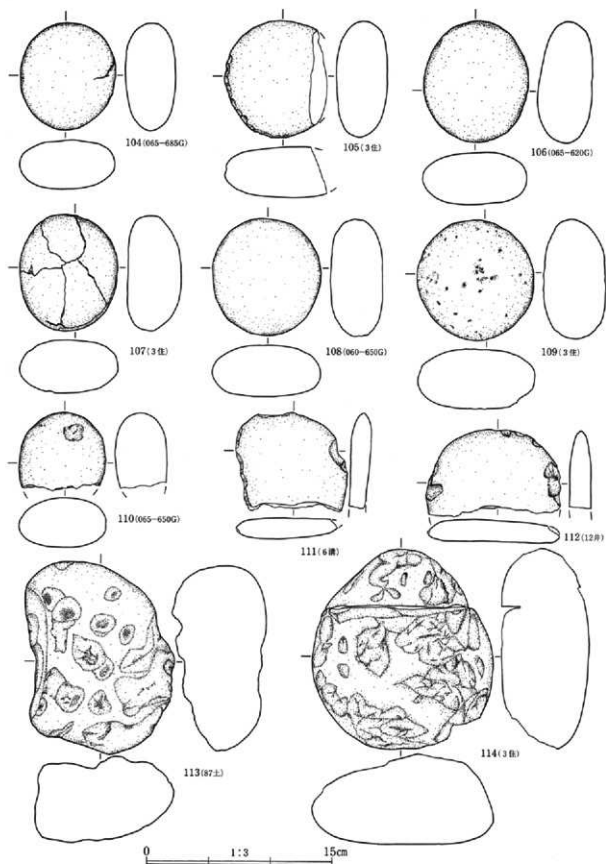
多凹石 (第35図113, P.L. 37)

113は唯一の多凹石で表面は多数凹部がある。裏面は凹部が3・4個所と少ない。裏面は全体に黒色のススが付着しており、火受けている。粗粒輝石安山岩製。

焼石 (第35図114, P.L. 37)

114は3号住居廻り方出土であるため4号住居出土と認識した。礫が火受けして、ほとんどの礫面は小さく剥落し、裏面に一部を残存している。火受けしたことにより赤色化している。粗粒輝石安山岩製。

住居内で2つに割れていたものを接合したものである。



第35図 縄文石器実測図(11) (104~114)

まとめ

縄文時代の遺構として、早期の稲荷台式期の竪穴式住居を2軒・集石遺構2基の合計4個所の遺構が発見されている。その他の遺構はなく、今回の石器群は竪穴式住居出土石器数例の他は包含層出土である。

○石器別分布状況

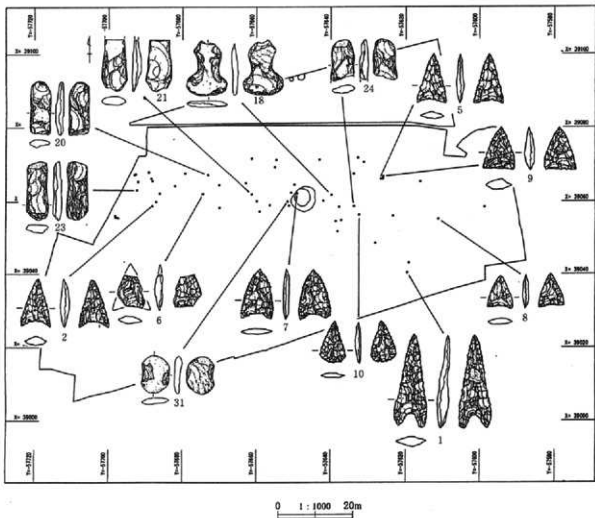
特徴的な土器の分布としては、南側の稲荷台式土器の集中区並びに東端の押形文土器の集中区が存在する。しかし、稲荷台式土器の集中区には図示された定形石器の存在はなかった。また、押形文土器の分布範囲には8の石鏃・83の石核の2点が発見されており、これらは同時期の所産と考えることができる。ただし、土器と石器が一緒に同時廃棄された場合のみその検証は意味をもつものである。

石鏃は調査地内に散在している。時期の特定できる資料は7の3号住居出土品で稲荷台式期のものであることがわかる。また、1は明らかに他のものと形態が異なっており、通常の石鏃の長さが2倍と特徴的な資料で、出土位置が稲荷台式期の土器集中区と隣接しているため稲荷台式期のものとも考えられる。

打製石斧の分布状況は、住居外で遺跡全体に散在しているが分布に特徴は認められない。

スタンプ形石器の分布状況は、3号住居周辺と遺跡全体に散在しており、住居内の出土はない。

図示された凹石・磨石両石器は凹石が5点、磨石が15点であり、その内凹石2点・磨石9点・他1点の合計



第36図 石鏃・打製石斧等分布図

12点の出土位置が確認されている。出土状況は稲荷台式の3号住居出土が4点と4号住居2点、周囲が3点と住居に伴う形で出土状況が多く、住居から距離をおいたものは3点と少ない。

○熱糸文土器の特徴的な石器

波志江中屋敷遺跡縄文時代早期熱糸文土器に伴う石器群の内、その時代を代表するのはスタンプ形石器である。

スタンプ形石器は夏島式以前からの所産を確認されており、稲荷台式にその最盛期となっている。

本遺跡出土のスタンプ形石器は総数23点である。群馬県内の出土事例としては1遺跡で23点という出土は現在の刊行された報告書例では三室坊主林遺跡が35点で本遺跡が次いで多い数値である。

スタンプ形石器の形態で大きく2タイプに分けることができる。

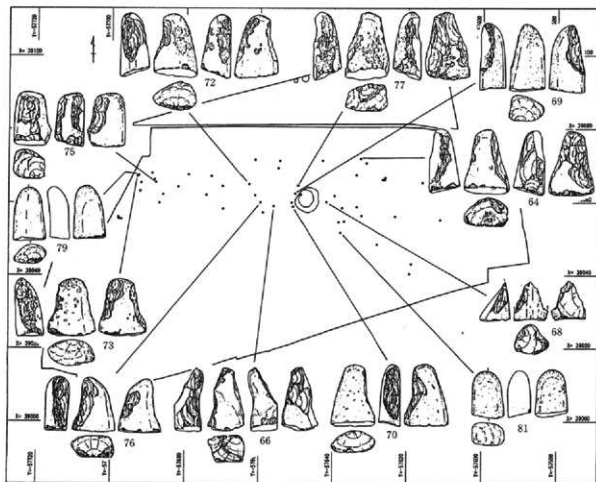
Iタイプ………打割りしたまま 5点

IIタイプ………側面に剥片剥離加工を施したもの

a 1 辺加工 7点

b 2 辺加工 11点

規格の差は縦の長さがIタイプは平均9.7cm、IIタイプは平均12.7cmである。Iタイプが小さく、IIタイプの



第37図 スタンプ形石器分布図

第3章 検出された遺構・遺物

方が3cm大きいことがわかる。

スタンプ形石器の重量はIタイプのみ平均は405g、IIタイプのみ平均は693gで両タイプの平均差は288gである。

このようにスタンプ形石器のタイプの違いが大きさと重量の差として明確に分類されることが判明した。

石材は、粗粒輝石安山岩8点・ひん岩4点・変質安山岩3点・石英閃緑岩2点・黒色頁岩2点・珪質頁岩1点・細粒輝石安山岩1点・砂岩1点・閃緑岩1点である。

破損品は4点だけである。割れ方には斜めの方向のものが多く、石の節理によるものもある。破損率は17%である。

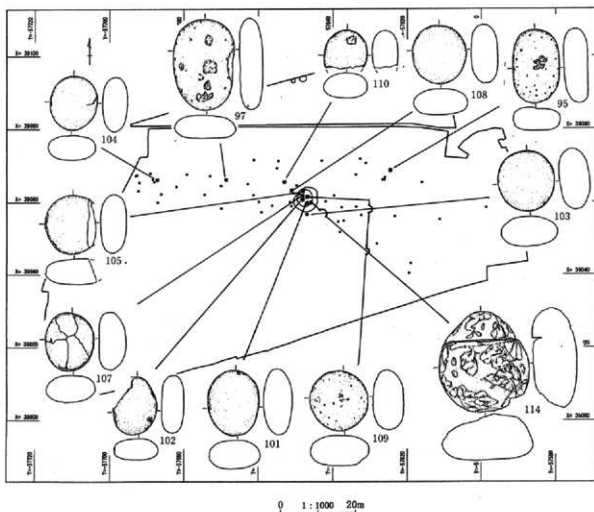
スタンプ形石器を整理してみても、手の持つ位置と作業個所の位置関係を理解することができた。

底面部の使用方法と稜面部の使用方法が具体的に確認された。

底面の作業個所は、底面全体を使って敲いた使用方法と若干弧状の底部縁部に角度を付けて掻器のような使用方法をしていることがわかる。また、5点ほどであるが底部面が磨滅している例も存在し、約25%の使用率である。

稜面部での使用状況は頂部を敲いている・稜面の稜部を敲いている・稜面の平らな面を敲いている。

稲荷台式期の所産の石器として凹石・磨石・スタンプ形石器が本遺跡で確認されている。スタンプ形石器と



第38図 磨石分布図

磨石・凹石は敲く・擦るという石器の性格が共通している。しかし、スタンプ形石器には住居出土がないことや遺跡全体に散在していること、磨石は住居出土が多くその周辺の出土が多い。

この傾向は石器の使用場所の違いを表しているものかもしれない。例えば、磨石は屋内やその周辺、スタンプ形石器は住居外といったように生活空間内の違いというものを石器分布図から読みとれたものかもしれない。

○剥片資料

剥片資料の中で注目されるのは、大形剥片に顕著なのが打面を礫面にしたもので、楕円形の礫面が全てにあるものがある。

このことは、自然礫の長楕円形の川原石を素材に断面が楕円形になるようになっている。断面が長軸になる一辺を打面にしている。いわゆる、金太郎船のような剥片剥離を行っている。技術としてはあまり高度なテクニックではなく、初歩的な剥片剥離技術である。

このような剥片は、スタンプ形石器の棒状礫を打ち割りする過程で、少し長すぎたものを長さを調整する加工で発生する剥片と考えられる。そのこととスタンプ形石器の素材となる棒状礫の打ち割った残りの礫が一点も出土していないことから、打ち割り作業は河原などで荒割り作業までは済ませ、生活エリアに入ってから調整加工をメインとしていたことが判明した。

また、石核もほとんどが礫面を打面としたものであり、剥片には礫面が残っているものが非常に多く存在している。石器・剥片類の接合があるかについては、時間的な制約の中で実施できなかった。

(大塚昌彦)

参考文献

- 小田勝夫 1983 「スタンプ形石器」『縄文文化の研究』7 道具と技術 藤山隆
石坂茂・岩崎泰一 1988 「熱余土器文化における石器群の一様相」『研究紀要』5 (財)群馬県縄文文化財調査事業団 p27-56
原 雅信 1989 「三室坊主林遺跡」(財)群馬県縄文文化財調査事業団

第7表 出土石器種別・石材一覧表

石材	石鏃	石鏃	打製石斧	片刃石器	削器	石錘	加工痕のある剥片	使用痕のある剥片	剥片	石核	スタンプ形石器	凹石	磨石	多凹石	礫	計
黒色頁岩	4		7	4	8		8	3	197	7	2				2	242
頁岩			1		1				1							3
緑頁岩							1		10	2	1					14
硬質頁岩	1															1
黒色安山岩	1								4							5
チャート	4	1							10							15
ひん岩									2		4					6
ホルンフェルス			2						3							5
黒曜石	2															2
粗粒輝石安山岩	1		2			1	2		2		1					9
黄質安山岩									2		3					5
粗粒輝石安山岩									4		8	5	12	1	1	31
砂岩			1						2		1					4
閃緑岩											1					1
石英閃緑岩											2		2			4
蛇紋岩													1			1
白色珪化凝灰岩									1							1
計	12	1	13	4	10	1	11	3	238	9	23	5	15	1	3	349

第3章 検出された遺構・遺物

第8表 縄文石器観察表

番号	出土位置	器種	計測値 (cm) (g)				石材
			縦	横	厚さ	厚さ	
1	040-615	石鏃	5.0	1.8	0.6	2.3	チャート
2	090-685	石鏃	2.6	1.6	0.5	1.5	チャート
3	055-650	石鏃	(2.0)	1.9	0.4	1.0	黒色頁岩
4	1溝	石鏃	1.9	(1.6)	0.4	0.7	黒曜石
5	065-625	石鏃	2.6	1.6	0.4	1.3	細粒輝石 安山岩
6	090-670	石鏃	(1.8)	(1.5)	0.5	1.3	チャート
7	090-645	石鏃	2.7	1.7	0.3	1.5	黒色頁岩
8	055-610	石鏃	1.8	1.4	0.4	0.9	黒色頁岩
9	065-625	石鏃	2.3	1.7	0.6	1.8	チャート
10	055-630	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.7	黒曜石
11	表探	石鏃	(3.2)	1.9	0.7	2.4	黒色頁岩
12	090-645	石鏃	3.9	2.6	0.6	6.3	黒色安山岩
13	090-690	石鏃	3.1	1.9	0.7	3.1	チャート
14	19溝	打製石斧	15.4	8.1	4.5	552.6	黒色頁岩
15	11溝	打製石斧	17.5	8.4	2.4	388.7	頁岩
16	1溝	打製石斧	(8.6)	6.7	1.7	119.9	ホルン フェルス
17	243土	打製石斧	9.0	4.6	2.0	100.0	黒色頁岩
18	060-635	打製石斧	(8.9)	6.5	1.0	55.8	黒色頁岩
19	070-640	打製石斧	(7.0)	6.2	3.0	136.7	ホルン フェルス
20	065-670	打製石斧	(8.6)	3.4	1.3	45.2	黒色頁岩
21	060-660	打製石斧	(8.4)	4.1	1.5	58.5	砂岩
22	12井戸	打製石斧	11.0	4.1	1.5	73.2	黒色頁岩
23	060-690	打製石斧	(9.4)	3.6	1.4	59.0	細粒輝石 安山岩
24	055-630	打製石斧	(6.6)	3.9	1.5	40.2	細粒輝石 安山岩
25	1溝	打製石斧	11.3	7.2	1.6	156.8	黒色頁岩
26	065-675	打製石斧	(4.2)	4.2	0.9	17.8	黒色頁岩
27	060-620	片刃石器	7.7	5.5	1.3	74.1	黒色頁岩
28	090-645	片刃石器	7.7	5.3	1.7	63.1	黒色頁岩
29	055-695	片刃石器	6.4	6.8	1.4	73.9	黒色頁岩
30	045-625	片刃石器	(5.1)	4.5	1.7	55.0	黒色頁岩
31	060-650	石鏃	6.1	4.5	1.3	40.0	細粒輝石 安山岩
32	070-650	削器	6.9	8.1	2.1	100.9	黒色頁岩
33	12溝	削器	3.5	4.2	0.6	8.3	硬質頁岩
34	035-625	削器	6.9	6.2	1.3	65.2	黒色頁岩
35	050-695	削器	4.9	6.1	1.6	50.3	黒色頁岩
36	060-680	削器	7.2	5.0	1.4	56.7	黒色頁岩
37	055-695	削器	5.0	7.5	1.5	48.9	頁岩
38	055-695	削器	5.2	6.4	1.6	31.7	黒色頁岩
39	070-650	削器	6.7	5.1	2.6	57.5	黒色頁岩
40	包含層	削器	5.5	5.0	1.5	35.6	黒色頁岩
41	2井戸	削器	44.0	4.6	1.2	27.7	黒色頁岩
42	070-660	加工痕のある 削片	6.1	7.4	2.9	157.5	黒色頁岩
43	065-630	加工痕のある 削片	6.3	4.9	2.8	87.4	黒色頁岩
44	055-655	加工痕のある 削片	6.0	4.4	1.7	53.0	黒色頁岩
45	065-685	加工痕のある 削片	7.8	5.7	2.3	110.8	細粒輝石 安山岩
46	070-630	加工痕のある 削片	5.6	3.4	1.9	32.6	黒色頁岩
47	040-615	加工痕のある 削片	8.6	4.5	2.7	92.1	黒色頁岩
48	065-675	加工痕のある 削片	8.9	5.0	2.9	110.0	黒色頁岩
49	060-630	加工痕のある 削片	4.7	3.8	1.2	17.0	細粒輝石 安山岩
50	5住	加工痕のある 削片	4.1	5.2	1.2	26.1	珪質頁岩
51	060-640	加工痕のある 削片	5.3	5.2	2.1	55.5	黒色頁岩
52	055-695	加工痕のある 削片	7.0	3.6	1.2	27.9	黒色頁岩
53	12溝	使用痕のある 削片	4.6	7.3	0.8	27.3	黒色頁岩
54	065-625	使用痕のある 削片	5.1	7.3	1.9	72.0	黒色頁岩
55	040-620	使用痕のある 削片	11.7	7.1	2.7	190.0	黒色頁岩
56	12溝	削片	5.9	6.4	2.1	53.1	黒色頁岩
57	065-615	削片	9.1	3.7	1.0	26.1	黒色頁岩
58	070-640	削片	5.0	7.3	2.4	107.8	黒色頁岩
59	065-685	削片	4.1	5.6	1.6	41.5	黒色頁岩
60	065-690	削片	4.2	3.1	1.3	16.5	珪質頁岩

番号	出土位置	器種	計測値 (cm) (g)				石材
			縦	横	厚さ	厚さ	
61	050-635	スタンプ形石器	11.2	7.6	5.9	583.6	黄貫安山岩
62	050-635	スタンプ形石器	(10.4)	8.0	5.4	566.0	粗粒輝石安山岩
63	055-635	スタンプ形石器	12.5	8.1	6.3	718.8	砂岩
64	070-630	スタンプ形石器	12.7	8.8	6.0	724.9	粗粒輝石安山岩
65	090-640	スタンプ形石器	(6.1)	(4.6)	(5.2)	178.2	珪質頁岩
66	055-635	スタンプ形石器	12.4	7.1	5.7	561.2	ひん岩
67	4住	スタンプ形石器	11.8	8.2	6.3	797.2	粗粒輝石安山岩
68	060-640	スタンプ形石器	(7.5)	(6.7)	(6.0)	234.1	閃緑岩
69	060-650	スタンプ形石器	13.1	7.0	5.1	635.9	粗粒輝石安山岩
70	055-650	スタンプ形石器	12.1	8.6	4.2	524.6	ひん岩
71	090-635	スタンプ形石器	10.7	7.9	4.8	439.5	黄貫安山岩
72	065-660	スタンプ形石器	12.5	8.5	5.8	741.6	粗粒輝石安山岩
73	065-680	スタンプ形石器	11.2	9.4	5.4	713.3	ひん岩
74	12溝	スタンプ形石器	(8.9)	(4.9)	(3.8)	165.5	黒色頁岩
75	065-685	スタンプ形石器	10.7	7.4	5.6	656.9	ひん岩
76	090-655	スタンプ形石器	10.7	8.4	4.6	552.5	粗粒輝石安山岩
77	060-645	スタンプ形石器	13.3	8.8	5.5	764.2	粗粒輝石安山岩
78	5溝	スタンプ形石器	(7.0)	(5.0)	(4.6)	222.7	黒色頁岩
79	065-690	スタンプ形石器	10.4	6.4	4.0	379.9	黄貫安山岩
80	090-645	スタンプ形石器	10.2	6.5	5.7	575.2	石英閃緑岩
81	050-635	スタンプ形石器	9.4	6.4	4.6	448.3	石英閃緑岩
82	045-655	スタンプ形石器	9.4	6.8	2.6	238.1	粗粒輝石安山岩
83	045-655	スタンプ形石器	9.3	6.8	4.1	387.7	粗粒輝石安山岩
84	055-550	石核	11.3	9.6	7.2	1104.2	珪質頁岩
85	060-685	石核	9.3	5.9	3.8	292.6	黒色頁岩
86	12溝	石核	5.3	4.6	3.3	93.9	黒色頁岩
87	090-640	石核	6.4	6.9	5.2	236.4	黒色頁岩

番号	出土位置	器種	計測値 (cm) (g)				石材
			縦	横	厚さ	厚さ	
88	055-620	石核	9.6	7.1	4.8	408.9	珪質頁岩
89	055-665	石核	4.3	6.5	4.0	130.7	黒色頁岩
90	090-645	石核	6.7	4.5	3.1	142.4	黒色頁岩
91	065-655	石核	7.7	5.2	4.0	245.7	黒色頁岩
92	060-665	石核	6.9	9.7	4.0	286.1	黒色頁岩
93	6溝	凹石	13.6	8.3	4.9	879.4	粗粒輝石安山岩
94	5溝	凹石	12.0	18.2	2.9	465.3	粗粒輝石安山岩
95	065-025	凹石	12.0	7.4	3.7	582.2	粗粒輝石安山岩
96	20土坑	凹石	12.6	(7.2)	3.5	512.3	粗粒輝石安山岩
97	065-665	凹石	14.7	10.0	3.8	845.8	粗粒輝石安山岩
98	20溝	磨石	11.7	7.5	2.2	311.9	粗粒輝石安山岩
99	247土坑	磨石	11.7	11.2	4.5	915.8	石英閃緑岩
100	065-690	磨石	10.4	8.8	3.9	527.1	粗粒輝石安山岩
101	3住	磨石	10.6	8.2	4.7	602.5	粗粒輝石安山岩
102	4住	磨石	9.4	7.0	3.5	312.8	粗粒輝石安山岩
103	055-645	磨石	9.8	9.0	5.9	638.8	粗粒輝石安山岩
104	065-685	磨石	8.8	7.6	4.0	359.8	粗粒輝石安山岩
105	3住	磨石	9.5	(8.2)	4.1	504.2	粗粒輝石安山岩
106	065-630	磨石	10.0	8.3	4.3	512.2	石英閃緑岩
107	3住	磨石	9.5	7.8	4.3	443.9	粗粒輝石安山岩
108	060-650	磨石	9.6	8.7	4.3	482.3	粗粒輝石安山岩
109	3住	磨石	9.8	9.3	4.9	655.7	粗粒輝石安山岩
110	065-650	磨石	(6.2)	7.0	4.2	276.8	粗粒輝石安山岩
111	6溝	磨石	(7.9)	8.9	1.6	186.9	粗粒輝石安山岩
112	12井戸	磨石	(7.1)	10.6	1.8	235.2	鮫紋岩
113	87土坑	多凹石	15.6	11.9	7.5	780.7	粗粒輝石安山岩
114	4住	焼石	16.3	14.5	7.3	2312.9	粗粒輝石安山岩

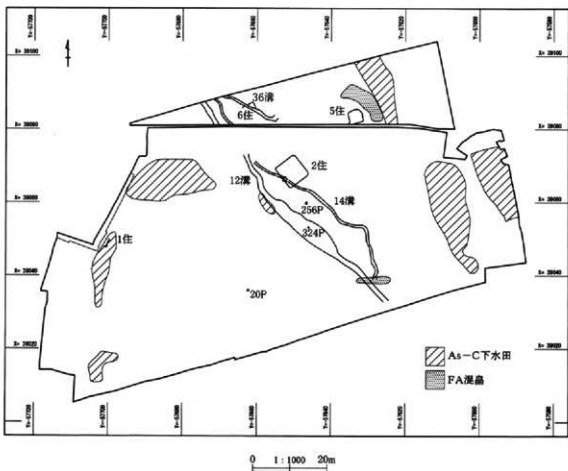
第3節 古墳・奈良・平安時代

本遺跡から検出された古墳～平安時代の遺構は、住居跡4軒、溝4条、遺物を包含したピット3基、As-C混下水田、Hr-FA混畠、As-B堆積範囲を検出した。各遺構の配置の大別は、調査区微高地上の西側を居住域に、低地に向かう東側に生産跡が集中している。

1. 住居跡

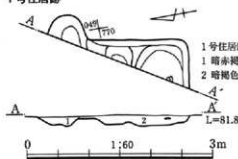
1号住居跡 (第40図、P.L.4)

055-685グリッドに位置する。カマドと東・南壁の一部が確認されたほかは、調査区外となる。周辺には住居跡等は検出されなかったが、同時期の遺物を出土した8号溝が北東に南流している。遺構確認は表土下黒褐色土面で行われた。この時点ですでに床面に達しており、掘方みの検出となった。住居内には現代の耕具跡が明瞭に残っていた。平面形は不明である。規模は南北残存長2.2m、東西残存長0.8mを測る。方位は、N-8°-Eを示す。南隅の落ち込みは、貯蔵穴の可能性も考えられる。カマドは、燃焼部が壁内に構築されている。規模は全長残存長43cm、幅60cmを測る。遺物は南隅落ち込みから碗1点と覆土から碗1点のみである。本住居跡は出土遺物から8世紀後半と考える。

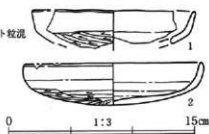


第39図 古墳・奈良・平安時代遺構分布図

1号住居跡



第40図 1号住居跡平・断面図、出土遺物実測図



第9表 1号住居跡出土遺物観察表(第40図、P.L.38)

番号	器種	器形	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、或・整形、文様等の特徴	残存状態
			口径	底径	器高					
1	土師器	坏	14	-	3.4	黒色・白色 灰物	良好	鈍い赤褐色 5YR5/4	外面 口縁部横撫で、体部中位以下幾何形。 内面 底部下位撫で後、口縁部～体部中位横 撫で。	口縁部～体部上 半3/4欠
2	土師器	坏 (13)	-	-	27+	石灰、白色 灰物	普通	褐色 7.5YR4/4	外面 口縁部横撫で、体部幾何形。内面 横 撫で、体部撫で。	口縁部～体部上 半1/5残

2号住居跡 (第41～43図、P.L.4)

070～650グリッドに位置する。10号・11号・13号溝と、北壁に現代土坑が重複する。周辺には5号住居跡が北東10mほどにある。また、南側に南東流する12号溝内からは同時期の遺物が多数出土した。

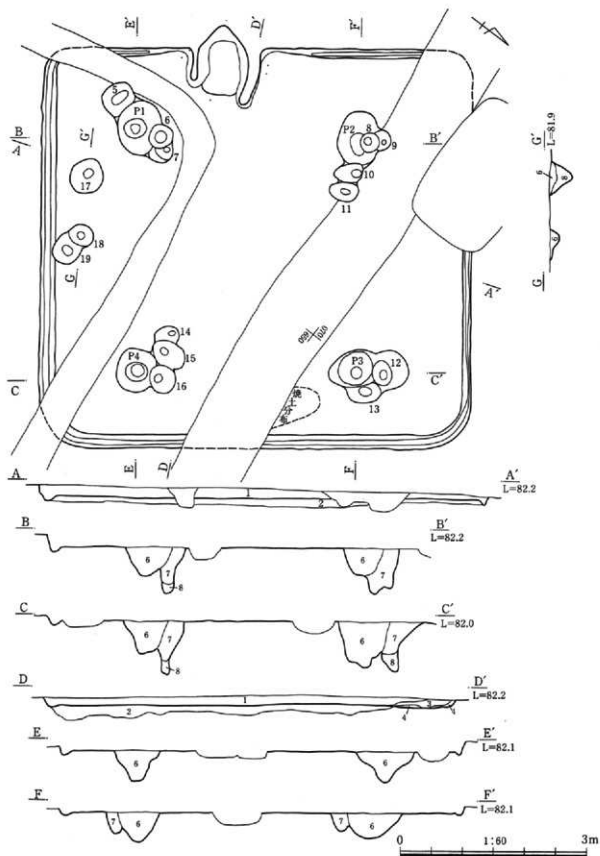
住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北6.95m、東西6.5mを測る。方位はW-38°-Sを示す。確認面はAs-C混黒色土面である。覆土は焼土粒混の自然埋没である。壁の状態はAs-C混黒色土を掘り抜き、傾斜角度は急で垂直に近く、壁の崩壊は少ない。壁高は北壁で5cm、南壁18cm、東壁5cm、西壁20cmを測る。床面の状況はAs-C混黒色土と暗褐色土を混ぜた土で薄く貼床を行っている。硬質床面は確認されなかった。東壁中央付近の床面に焼土粒の分布が見られた。

柱穴は19本が検出した。P1～P4が新しい柱穴で各柱穴周辺に3～4本の建て替えに伴うと思われる柱穴が検出した。P6・9・12・16は、規模形状が類似し、方形を成す。また、南壁付近の柱間幅50cmのP17・P18は入り口施設の柱穴と考えられる。

周溝はカマド付近を除きほぼ全周する。その規模は幅20cm程、深さ10cm程を測る。

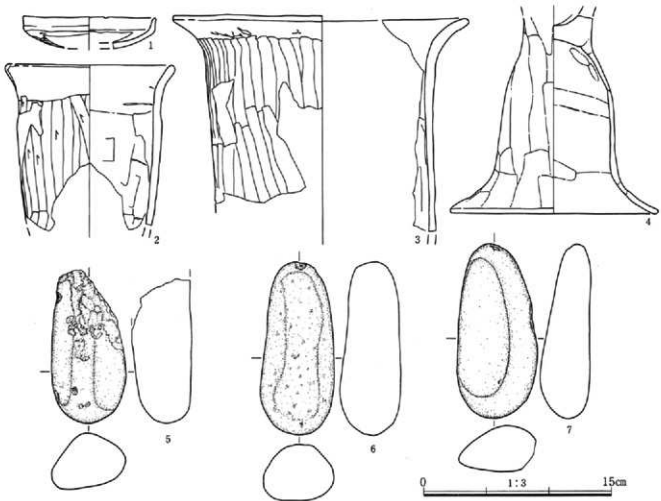
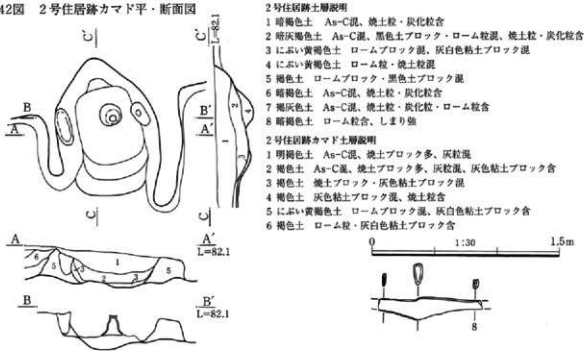
カマドは、西壁中央やや南寄りにある。燃焼部は壁を僅かに掘り込み構築されている。規模は全長120cm、幅115cm、壁外長35cm、焚口幅50cm、燃焼部長74cmを測る。燃焼部構築の際内側に粘土を充填し、袖を突出させる。袖は両袖ともに礎を心材とし粘土を貼り付けている。右袖には礎が抜き取られた痕跡が見られた。燃焼部は箱形で内面は一様に赤化し、覆土には焼土粒と灰層が厚く堆積していた。また、中央部やや壁寄りに支脚土器が据え置かれていた。支脚底部は住居床面より2cm下がり、灰層が見られる。火焼面は住居床面より9cm程下がる。

遺物は、カマド支脚とカマド周辺に分布し、2はカマド右袖脇、3はP17付近にそれぞれ一括出土した。その他に、こも礫石は住居北側に散在し、南壁東側の壁際に刀子が出土した。出土遺物から本住居跡は7世紀前半と考えられる。



第41図 2号住居跡平・断面図

第42図 2号住居跡カマド平・断面図



第43図 2号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構・遺物

第10表 2号住居跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	86	70	47	
2	円形	83	68	44	
3	円形	82	57	73	
4	円形	70	57	53	
5	円形	51	45	30	
6	円形	38	38	76	
7	円形	40	36	54	
8	円形	30	30	72	
9	円形	33	27	63	
10	円形	48	30	30	

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
11	円形	47	29	45	
12	円形	63	60	80	
13	円形	53	35	35	
14	円形	40	28	44	
15	円形	56	42	54	
16	円形	47	42	88	
17	円形	55	53	35	
18	円形	40	33	14	
19	円形	50	44	10	

第11表 2号住居跡柱穴間一覧表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.80	P6-P9	1.80
P2-P3	1.85	P9-P12	1.87
P3-P4	1.75	P12-P16	1.80
P4-P1	1.95	P16-P6	1.95
P17-P18	0.5		

第12表 2号住居跡出土遺物観察表(第43図、PL.38)

番号	器種	器形	計測値(cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状態
			口径	底径	器高					
1	土師器	環	(11)	-	26+	石灰、白色 灰物	普通	赤褐 5YR4/6	外面 口縁部横線で、体部発削り。 内面 口縁部~体部上半横線で、	口縁部1/4、体部 上位~下位1/8残
2	土師器	甕	(14)	-	130+	白色灰物、 石灰	普通	鈍い橙 7.5YR6/4	外面 胴部縦方向発削り後、口縁部横線で。 内面 胴部発削り、口縁部~胴部横線で、接 合痕あり。	口縁部~胴部 上位1/4残
3	土師器	甕	24	-	175+	石灰、白色・ 赤褐色灰物	普通	鈍い褐 7.5YR5/4	外面 胴部縦方向発削り、口縁部横線で。 内面 胴部縦方向発削り、口縁部横線で。	口縁部3/4、胴部 上半1/3残
4	土師器	高環	-	16	(16.2)	石灰、白色・ 赤褐色灰物	普通	鈍い褐 7.5YR7/4	胴部縦作り巻き上げ。外面 胴部縦方向発削 り、底部横線で。 内面 粘土巻き上げ痕あり。	支脚として作成?
番号	器種	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材		備考		
5	こも礫石	(12.5)	5.9	4.7	4770	花崗岩				
6	こも礫石	14.2	5.9	4.9	6031	粗粒輝石安山岩				
7	こも礫石	14.3	6.4	4.0	5037	珪質頁岩				
8	刀子	(8.3)	1.8	0.7	90	鉄製品。厚手でしっかりと造りである		刃先と基部欠損		

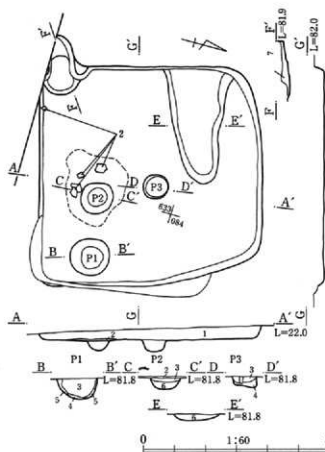
5号住居跡(第44・45図、P.L.4)

080-630グリッドに位置する。東壁は現代土坑と重複する。またカマドの一部は道路敷下になり攪乱されていた。周辺には2号住居跡が南西25mに、6号住居跡が西25mにある。

住居跡の平面形は隅丸方形を呈し、その規模は南北3.55m、東西3.55mを測る。方位はW-15°-Sを示す。確認面はAs-C混黒色土上面である。覆土は2層に分層される自然埋没である。壁の状態はAs-C混黒色土を掘り抜き、ローム漸移層まで掘り込んでいる。壁傾斜角度は垂直に近いものである。壁高は北壁で20cm、南壁10cm、東壁15cm、西壁13cmを測る。床面の状況は、硬質床面は確認されなかったが、中央南側の床下土坑No2上面にロームブロック混土による貼床が成されていた。床下には3基の土坑と不整形の掘り込みが検出した。柱穴・周溝・貯蔵穴は確認されなかった。

第13表 5号住居跡出土遺物観察表(第45図、PL.38)

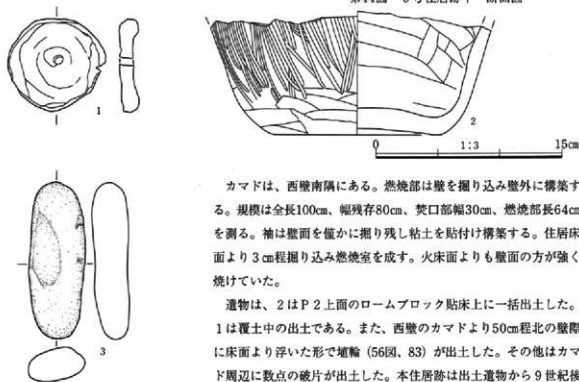
番号	器種	器形	計測値(cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状態
			口径	底径	器高					
1	土師器	紡錘 車	7.4	-	厚さ 1.1	石灰、白・ 赤褐色灰物	普通	鈍い橙 7.5YR6/4	平底部周辺を打ち欠き、穿孔し紡錘車形を成 す。未切り側縁石四枚。	
2	土師器	甕	-	13.5	(10.2)	石灰、白・ 赤褐色灰物	普通	赤褐 5YR4/6	器厚厚い。外面 縦方向発削り層状発削り。 底部も同様。	胴部~底部
番号	器種	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材		備考		
3	こも礫石	12.8	4.5	2.9	264.8	ディサイト				



5号住居跡土層説明

- 1 暗褐色土 As-C少、ローム粒少
- 2 黄褐色土 ローム貼床
- 3 暗褐色土 As-C混
- 4 黒褐色土 粘質土
- 5 暗褐色土 ロームブロック舎
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック混
- 7 明褐色土 焼土ブロック混

第44図 5号住居跡平・断面図



第45図 5号住居跡出土遺物実測図

カマドは、西壁南隅にある。燃焼部は壁を掘り込み壁外に構築する。規模は全長100cm、幅残存80cm、焚口部幅30cm、燃焼部長64cmを測る。袖は壁面を僅かに掘り残り粘土を貼付け構築する。住居床面より3cm程掘り込み燃焼室を成す。火床面よりも壁面の方が強く焼けていた。

遺物は、2はP2上面のロームブロック貼床上に一括出土した。1は覆土中の出土である。また、西壁のカマドより50cm程北の壁際に床面より浮いた形で埴輪(56図、83)が出土した。その他はカマド周辺に数点の破片が出土した。本住居跡は出土遺物から9世紀後半と考える。

6号住居跡(第46~48図、P.L.4)

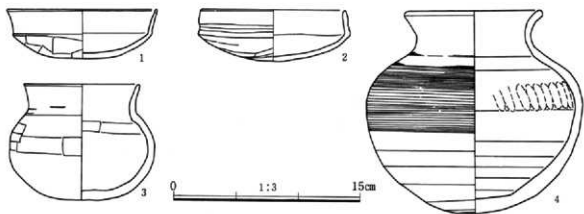
080-660グリッドに位置する。底面近くまで現代耕作により削平されており、住居跡南側は平坦になる。住居跡の平面形は隅丸方形を呈すと考えられる。規模は南北4.23m、東西残存3.1mを測る。方位はN-65°-Eを示す。確認面はAs-C混黒色土面である。覆土は2層に分層される自然埋没である。壁の状態はAs-C混黒色土を掘り抜き、黒色土まで掘り込んでいる。壁傾斜角度は垂直に近いものである。壁高は北壁で8cm、東壁15cmを測る。床面は、黒色土中に構築され平坦である。硬質床面は確認されなかった。床下と掘方面は一致する。柱穴と思われる南北34cm、東西30cm、深さ34cmのピットが北東隅に1本検出した。東隅に方形の落ち込みが検出した。貯蔵穴と思われる。長軸120cm、短軸98cm、深さ6cmを測る。壁はなだらかに立ち上がり、床面は平坦である。上面より坏(2)と壺(4)の破片が出土した。周溝は確認されなかった。

焼土分布は確認時、北東壁中央南寄りに見られた。しかし、断面調査の結果、焼土ブロック多混の層は3cm程で、床面までの間層には灰粒や炭化物の混入も見られなかった。よってカマドではないと判断した。同所の床面には上層の焼土とは異なる微細な焼土粒が分布していた。上層の焼土は、本住居跡カマド部分が削平された際に出た土が反転し盛られたものと考えられる。

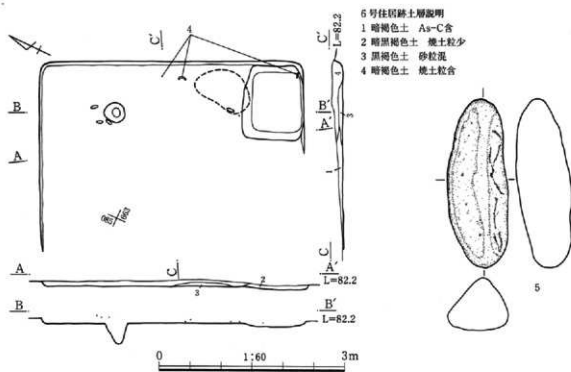
遺物は、貯蔵穴及び焼土分布周辺に出土した。また、柱穴周辺にも編石3点が集中して出土した。出土遺物から本住居跡は6世紀後半と考えられる。

第14表 6号住居跡出土遺物観察表(第46・48図、PL.38)

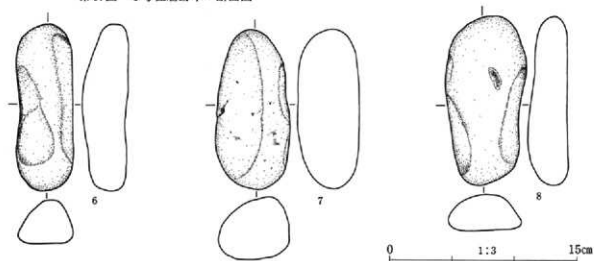
番号	器種	器形	計測値(cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態
			口径	底径	器高					
1	土師器	坏	12.0	4.5	4.1	白色灰土・石英	良好	鈍い黄褐色 10YR6/4	外面 口縁部横溝で、体部彫削り。内面 体部中位以下溝で	口縁部~体部 3/4残
2	土師器	坏	11.7	-	4.2	白色灰土・石英	良好	赤褐色 5YR4/6	外面 口縁部横溝で、体部彫削り。内面 体部中位以下溝で	口縁部~体部 1/2残
3	土師器	埴	9.3	3.3	9.6	白色灰土・石英	良好	黄褐色 5YR6/6	外面 胴部右方向彫削り、口縁部横溝で。内面 胴部横溝で、口縁部横溝で。	口縁部~体部 1/2残
4	須恵器	壺	10.9	-	16.8	白色灰土・石英	還元焰	灰 NS/0	外面 輪軸成形後、最大径付近に多条の沈線・体部下平石回転彫削り・口縁部回転軸で。内面 輪軸成形後、口縁部回転軸で。最大径付近連続指頭圧痕	口縁~体部一部欠
番号	器種	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材			備考	
5	こも編石	13.8	4.9	4.3	362.9	デイサイト				
6	こも編石	13.6	4.6	3.6	367.3	砂岩				
7	こも編石	13.1	6.0	5.0	622.7	石英閃緑岩				
8	こも編石	13.9	6.4	3.1	426.4	粗粒輝石安山岩				



第46図 6号住居跡出土遺物実測図



第47図 6号住居跡平・断面図



第48図 6号住居跡出土遺物実測図

2. 溝

本道跡から検出した古墳から平安時代の遺構は、住居跡のほかに12号溝、14号溝、36号溝、20号・256号・324号ピットの各遺構が上げられる。各遺構より遺物は集中して出土していた。また、第71図に示す8号溝からも当該時代の遺物が出土している。

12号溝（第49～53図、P.L.5）

085-670-030-625に位置する。近世の1号溝・6号溝・15号溝・16号溝が本溝中央部で交差する。周辺には本溝の東5mに7世紀前半の2号住居跡が065-650付近にある。また14号溝は2～6mの幅で平行するようである。確認面はAs-C混黒色土面である。覆土はHr-FA・FP混入土で、底面には砂礫層があり、流水の痕跡が見られる。平面形は、北西方向から南東方向へ蛇行する。走行方位はN-42°-Wを示す。断面U字状を呈し、確認長62.8m、上端幅1.8m、下端幅50cm、深さ60cm程を測る。細部を見ると浅く凹凸が見られ2条に掘られていている。埋没は同時期である。035-650グリッドから045-635グリッドにかけてさらに掘り直しが行われ、浅く幅広になる。この地点から遺物が集中して出土している。出土状況は溝の底面付近にはほぼ完形の状態出土した。土器は近接する7世紀前半の2号住居跡と同時代のものを中心に6世紀～8世紀の遺物である。なお南側では近世陶磁器片が出土している。

14号溝（第50・51図、P.L.5）

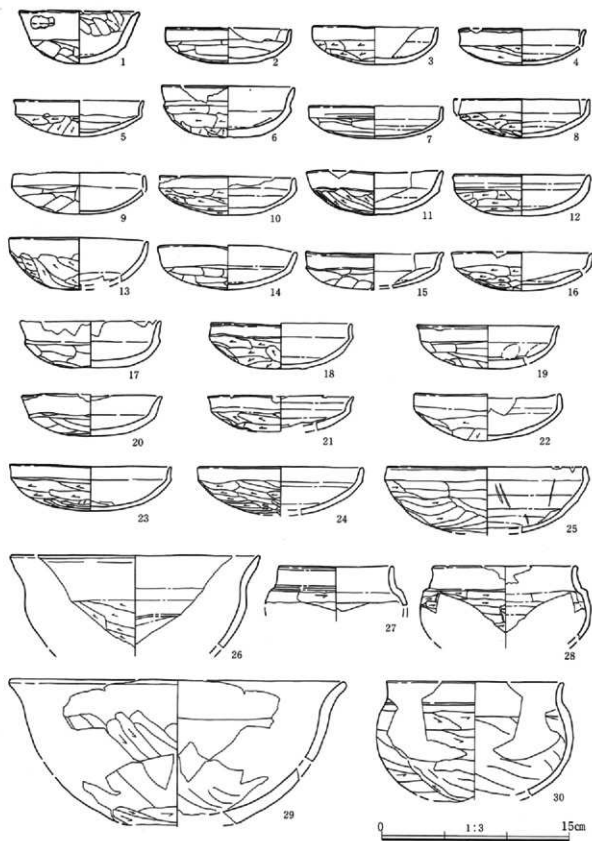
085-670-040-625に位置する。重複関係は12号溝同様である。本遺構は砂礫で埋没しており、確認時も砂礫を辿るように本遺構は検出された。砂礫内にはHr-FA・FPの混入が多く、平行する12号溝同様蛇行する。南側は現代の地形が傾斜していることから表土下が溝底面となり不明瞭である。確認長は69.8m、上端幅50cm、下端幅20cm、深さ20cm程を測る。走行は蛇行するが概ねN-45°-Wである。断面は浅いU字状を呈し、覆土中から土師器の小片が出土した。これらとともに埴（52図、41）が溝の底面付近の覆土内から出土した。なお本遺構は、2号住居跡内を通過するが、本遺構上面に住居カマドが構築されていた。出土遺物とこれらを鑑みて本遺構は7世紀前半以前の所産と考えられる。

36号溝（第50図、P.L.5）

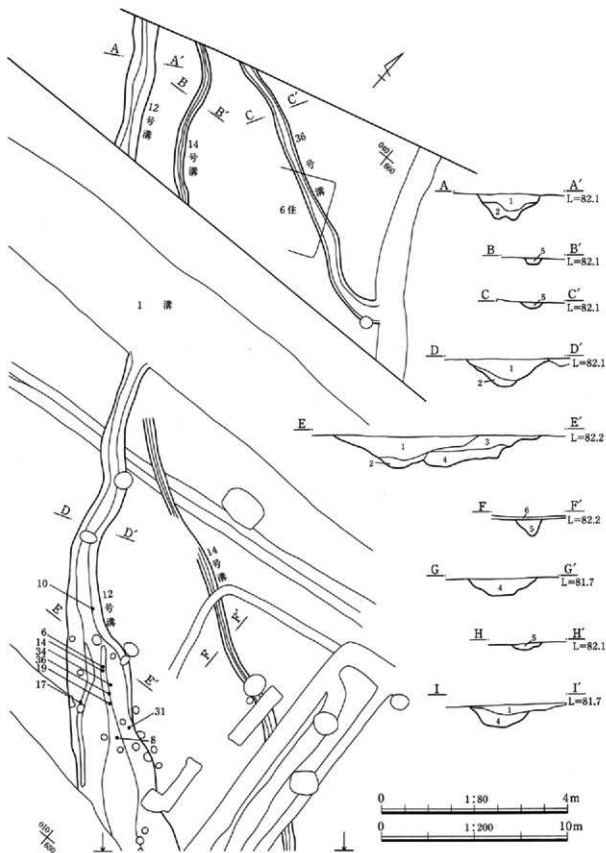
090-670-080-655に位置する。本遺構検出は、表土下As-C混黒色土である。覆土は14号溝同様Hr-FA・FP混の砂礫混である。断面は台形状を呈し、浅く蛇行する。080-055グリッド付近で交差する37号溝は近世の所産である。確認長16.2m、上端幅50cm、下端幅30cm、深さ10cm程を測る。本遺構は085-660グリッドで6号住居跡を通過するが、住居跡調査には確認されていない。本遺構からの出土遺物はなかったが、これらから本遺構は6世紀後半以前の所産と考えられる。

第15表 12号溝・14号溝出土土器観察表（第49-52-53図、PL.38・39・40）

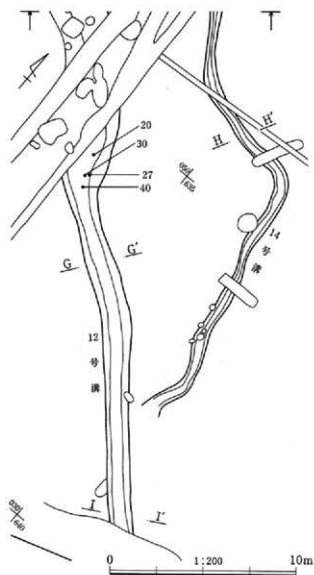
番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形・或・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
			口径	底径	器高					
1	12溝	土師器 杯	(9.6)	-	4.3	赤褐色・ 白色灰物	普通	鈍い橙 7.5YR7/6	外面 口縁部横撫で、体部縁を丸削り、口縁部に扁平な粘土粒が残る。内面 口縁部～体部中位横撫で・口縁部に強い横撫でによる段あり、口縁部の一部に横撫で後の主に斜方向丸削り、体部下位に異状あり。	1/2残。
2	12溝	土師器 杯	10.0	-	29+	白色灰物、 石英	普通	明赤褐 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部丸削り。内面 体部中位以下撫で後、口縁部～体部上位横撫で。	口縁部～ 体部上位 1/4欠。
3	12溝	土師器 杯	10.0	-	3.1	赤褐色灰 物、白色 灰物	普通	橙 5YR6/6	外面 口縁部横撫で、体部丸削り。内面 口縁部～体部中位横撫で。	1/3欠。



第49図 12号溝出土遺物実測図(1)



第50图 12号・14号・36号溝平・断面图(1)



12号溝土層説明

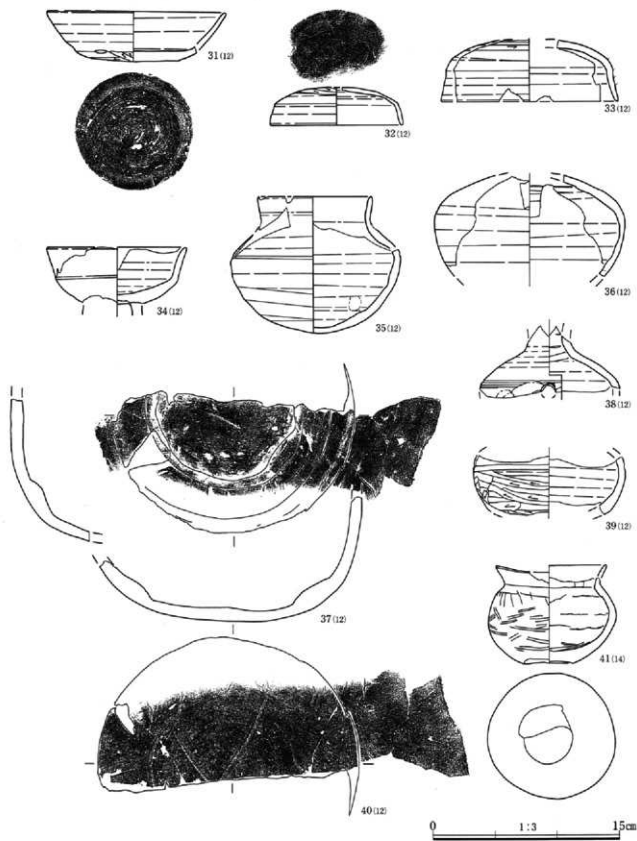
- 1 灰黄褐色砂質土 As-C・Hr-FA・FP混
- 2 灰褐色砂質土 褐色シルト混、下層は川砂
- 3 暗褐色砂質土
- 4 擬灰色砂層 上層褐色シルト、下層細砂粒
- 5 にぶい黄褐色土 小礫・砂礫多
- 6 暗褐色土 焼土粒・炭化粒少

第51図 12号・14号溝平・断面図(2)

番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
			口径	底径	器高					
4	12溝	土師器 埴輪	10.1	-	2.9	白色灰物、 石英	普通	明赤褐 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部蹴削り。内面 体部下位撫で後、口縁部～体部中位横撫で。	口縁部～ 体部上位 1/4欠。
5	12溝	土師器 埴輪	10.4	-	3.0	石英、赤 褐色灰物	普通	明赤褐 7.5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部蹴削り。内面 体部下位撫で後、口縁部～体部中位横撫で。	口縁部1/2 体部上位 一部欠
6	12溝	土師器 埴輪	10.6	-	4.1	黒色灰物、 石英	良好	明赤褐 5YR4/6	口縁部と体部を両寸段をもつ。外面 口縁部横撫で、体部蹴削り。内面 体部撫で後、口縁部～体部上半横撫で、体部中位以下に塗布あり。	口縁部 1/4、体部
7	12溝	土師器 埴輪	10.6	-	2.7	石英	普通	鈍い赤褐 5YR5/4	外面 口縁部横撫で、体部蹴削り。内面 体部中位以下撫で後、口縁部～体部上位横撫で。	1/3欠。
8	12溝	土師器 埴輪	10.7	-	3.2	赤褐色灰 物、石英	普通	明赤褐 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部蹴削り。内面 体部下位撫で後、口縁部～体部上半横撫で。	口縁部 1/4、体部 3/4残。
9	12溝	土師器 埴輪	10.8	-	3.4	白色・赤 褐色灰物	普通	橙 5YR6/8	外面 口縁部横撫で、体部蹴削り。内面 体部下位撫で後、口縁部～体部上半横撫で。	口縁部 1/4、体部 3/4残。

第3章 検出された遺構・遺物

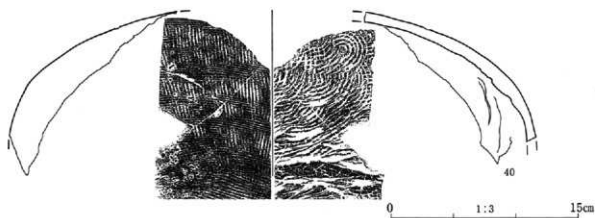
番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
			口径	底径	器高					
10	12溝	土師器 環	(10.9)	-	3.2	黒色灰物	良好	黄褐色 10YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部磨削り。内面 体部下平 坂方向撫で後、口縁部~体部上半横撫で。	口縁部~ 体部上半 1/4欠。
11	12溝	土師器 環	10.9	-	3.6	白色灰物	普通	橙 5YR6/6	口縁部と体部を囲する弱い段をもつ。外面 口縁部 横撫で、体部磨削り、体部最上位一部未調整。内 面 体部下平撫で後、口縁部~体部上半横撫で、体 部下位に磨痕、体部中に指面圧痕あり。	口縁部~ 体部中位 1/3欠。
12	12溝	土師器 環	(11.0)	-	3.3	白色灰物	普通	鈍い赤褐色 2.5YR5/4	外面 口縁部横撫で、体部磨削りでやや減減。内面 体部下位撫で後、口縁部~体部中位横撫で。	1/3残。
13	12溝	土師器 環	11.1	-	4.2	石英、白 色灰物	普通	明赤褐色 5YR5/6	丸い体部から口縁部とを囲す弱い段を経て口縁部が 垂直気味に短く立ち上がる。外面 口縁部横撫で後体 部磨削り。内面 体部下平撫で後、口縁部~体部上 半横撫で。	1/4欠。
14	12溝	土師器 環	11.1	-	3.6	白色灰物、 石英	良好	橙 5YR6/8	外面 口縁部横撫で、体部手持ち磨削り。内面 体 部下位撫で後、口縁部~体部中位横撫で。	完形。
15	12溝	土師器 環	11.1	-	3.1	白色灰物、 黒色灰物	普通	橙 5YR6/6	口縁部と体部を囲す段をもち、口唇部が外反する。 外面 口縁部横撫で、体部磨削り。内面 体部下平 撫で後、口縁部~体部上半横撫で。	1/4欠。
16	12溝	土師器 環	(11.2)	-	3.2	石英、赤 褐色灰物	普通	明赤褐色 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部磨削り。内面 体部下位 撫で~磨痕あり、口縁部~体部中位横撫で。	体部上半 以上1/3、 体部下平 1/2残。
17	12溝	土師器 環	11.3	-	3.8	白・赤褐色、 黒色灰物	普通	明赤褐色 5YR5/6	口縁部と体部を囲す段を持ち、平底気味で厚手。 外面口縁部横撫で、体部左方向磨削り、体部下平は 減減。内面 口縁部~体部上半横撫で、体部下平は 器表が剥離。	口縁部 1/2、底部 一部欠。
18	12溝	土師器 環	11.4	-	3.7	黒色・白 色灰物	普通	橙 5YR6/6	底部を平坦に作り出す。口縁部と体部を囲す段をも ち、口唇部が外反気味に肥厚する。外面 口縁部横 撫で、体部磨削り。内面 口縁部~体部上半横撫で。	口縁部 1/4欠。
19	12溝	土師器 環	(11.4)	-	3.5	白色・赤 褐色灰物	普通	明褐色 7.5YR5/8	外面 口縁部横撫で、体部磨削り。内面 体部下平 坂方向撫で、口縁部~体部上半横撫で、体部上半に 指面痕。	口縁部~ 体部上半 1/4、体 部下平3/4 残。
20	12溝	土師器 環	11.0	-	3.4	白色・赤 褐色灰物	普通	明褐色 7.5YR5/8	外面 口縁部横撫で、体部磨削り。内面 体部下位 撫で後、口縁部~体部中位横撫で。	口縁部 一部欠損。
21	12溝	土師器 環	(11.6)	-	3.0	白色灰物	普通	明赤褐色 5YR5/6	口縁部と体部を囲する弱い段をもつ。外面 口縁部 ~体部最上位横撫で、体部磨削り。内面 体部下位 撫で後、口縁部~体部中位横撫で。	口縁部~ 体部中位 1/4、体部 下位一部 残。
22	12溝	土師器 環	11.6	-	3.8	白色灰物・ 石英	良好	橙 5YR6/8	外面 口縁部横撫で、体部上位を残して磨削り。内 面 体部撫で後、口縁部横撫で。	口縁部~ 体部上半 1/4欠。
23	12溝	土師器 環	(12.9)	-	3.7	白色灰物	普通	橙 5YR6/6	外面 口縁部横撫で、最上位の一部を残して体部磨 削り。内面 口縁部~体部上半横撫で、体部下平磨 削り。	1/3残。
24	12溝	土師器 環	(13.3)	-	3.9+	石英、白 色・赤褐色 灰物	普通	橙 5YR6/6	外面 口縁部横撫で、体部磨削り。内面 体部下位 撫で後、口縁部~体部中位横撫で。	1/3残。
25	12溝	土師器 環	(15.8)	-	5.4+	白色灰物、 石英	普通	橙 2.5YR6/6	外面 口縁部横撫で、体部磨削り。内面 体部下位 撫で後、口縁部~体部中位横撫で、斜方向磨痕あり。	体部最下 位を欠い て1/4残。
26	12溝	土師器 鉢	(20.0)	-	7.5+	白色灰物、 石英	普通	橙 5YR6/8	外面 口縁部横撫で、胴部左方向磨削り。内面 口縁部横撫で、胴部斜方向・横方向撫で。	口縁部~ 胴部上半 1/5残。
27	12溝	土師器 壺	(9.2)	-	3.7+	白色灰物、 石英	普通	橙 7.5YR6/8	外面 口縁部~肩部横撫で、胴部横方向磨削り。内 面 口縁部横撫で、胴部横方向・一部縦方向撫で。	口縁部~ 胴部上位 1/2残。



第52図 12号・14号溝出土遺物実測図(2)

第3章 検出された遺構・遺物

番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態	
			口径	底径	器高					備	考
28	12溝	土師器 壺	(11.2)	-	6.0+	白色灰物	良好	明赤褐 5YR5/8	外面 胴部右方向角削り、口縁部横撫で。内面 胴部縦撫で、口縁部横撫で。	口縁部～ 胴部上位 1/4残。	
29	12溝	土師器 鉢	(27.0)	(8.2)	11.8	白色・赤 褐色灰物	普通	黄褐 10YR5/6	外面 口縁部横撫で後、胴部上～中位下方向・下位右方向角削り。内面 口縁部横撫で、胴部上位横方向・以下斜方向角撫で。	口縁部一 部、体部 ～底部外 縁1/4残。	
30	12溝	土師器 壺	(14.1)	-	9.9+	白色灰物、 石英	普通	明赤褐 5YR5/6	外面 胴部上端を残して右方向・胴部下位の一部上方向角削り後、口縁部横撫で、下端の一部に強い撫でにより内傾する段をもつ。内面 胴部斜方向角撫で後、口縁部横撫で。	口縁部一 部、胴部 上～中位 1/4残。	
31	12溝	須恵器 環	(14.4)	9.6	4.1	白色・黒 色灰物	還元 焼	灰 7.5Y6/1	底部と口縁部を面す稜をもつ、口縁部外面収収。外面右回転轆轤成形後口縁部回転撫で、底部外縁を残して回転削り。内面 轆轤成形後底部中央を残して回転撫で。	口縁部上 半3/4、 下半1/2欠。	
32	12溝	須恵器 壺	(5.4)	-	3.0	白色・黒 色灰物	還元 焼	灰 5Y4/1	平な天井部から緩やかに湾曲し、口縁部とを面する弱い段を経て外反する口縁部に至る。内面と外面の一部が酸化焙火味。外面 轆轤成形後口縁部回転撫で、天井部中心を手持ち削り。内面 轆轤成形後口縁部回転撫で。	口縁部 1/8、体部 上半1/4 残。	
33	12溝	須恵器 壺	14.2	-	5.0+	白色・黒 色灰物	還元 焼	灰 5Y5/1	天井部と口縁部を面す高い稜から外反する口縁部に至り、口唇部を丸く収める。外面 轆轤成形後天井部外縁を残して右方向回転削り、口縁部回転撫で。内面 轆轤	口縁部 1/4、天井 部1/2残。	
34	12溝	須恵器 高杯	(11.1)	-	4.6+	白色灰物	還元 焼	灰白 10YR8/1	口縁部と杯体部を面する弱い段をもつ。器表が磨滅。外面 口縁部横撫で、体部主に横方向撫で。内面 口縁部横撫で、体部轆轤成形。	口縁部 1/2、杯体 部残、二次 被熱少。	
35	12溝	須恵器 短頸壺	(9.2)	-	11.1	白色・黒 色灰物、 軽石	還元 焼	灰 N6/	外面 轆轤成形後、最大径付近に1条の沈線・体部下平右回転削り、口縁部回転撫で。内面 轆轤成形後、口縁部回転撫で。	口縁部 3/4、体部 上半1/2、 底部一部 欠。	
36	12溝	須恵器 平瓶	-	-	8.4+	白色灰物	還元 焼	灰 N5/	外面 轆轤成形、開口部を粘土板で被覆後撫で。内面 轆轤成形、被覆部粘土板撫で、接合痕あり。	体部上位 1/2、中位 1/4残。	
37	12溝	須恵器 横瓶	-	-	20.8+	凝灰岩、 石英	還元 焼	灰 N5/	外面 轆轤成形、胴部不定方向撫で。内面 轆轤成形後横・斜方向撫で、開口部を不定方向撫でと指頭痕のある粘土板で閉塞後接合部撫で、胴部に接合痕あり。	胴部端破 片。	
38	12溝	須恵器 はそう	-	-	5.5+	白色・黒 色灰物	還元 焼	灰 N5/	外面 轆轤成形後、体部中位最大径付近に円孔を穿ち、円孔より上位及び円孔上半に各1条沈線を施文後、撫で、頸部体部接合部付近が横位線状に盛り上がる。内面 轆轤成形、頸部体部接合部付近に接合痕・絞り痕及び絞り後の線状指当て痕が残る。	頸部最下 位1/4、体 部上半1/2 残。	
39	12溝	須恵器 はそう	-	(9.6)	4.6+	白色・黒 色灰物	還元 焼、 やや 軟質	灰 5Y5/1	外面 轆轤成形後、沈線1条施文後、底部右方向手持ち削り後、体部沈線下左方向手持ち削り。底部と体部の境を意識した整形。内面 轆轤成形。	体部下平 1/4、底部 外縁一部 残。	
40	12溝	須恵器 横瓶	-	-	13.3+	凝灰岩	還元 焼	灰 N5/	外面 轆轤成形後平行叩き後カキ目。内面 轆轤成形後指当て具痕を残す。閉塞部接合痕あり。	胴部端破 片。	
41	14溝	土師器 埴	(8.8)	3.9	8.1+	石英、黒 色灰物	普通	橙 5YR5/6	外面 体部上位斜方向・中位以下横方向角削り後、主に横方向角削りで上位・下位が確、口縁部～体部上位横撫で、底部角削りで2ヶ所を覆ませ、撫で。内面 口縁部下平横方向角削り後、口縁部～体部上位横撫で、体部～底部角撫で、体部及び体部と口縁部の境に接合痕・底部に角痕あり。	口縁部 2/3、底部 一部欠。	



第53図 12号溝出土遺物実測図(3)

3. ビット

20号ビット (第54・55図、P.L. 10)

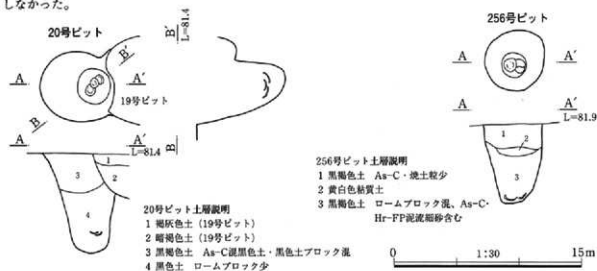
034-662グリッドに位置する。5号溝内にある。近世の19号ビットと重複する。ビット底面に杯3個体が重なるように出土した。覆土は黒色土である。周辺にも多くのビットが存在するが、全てロームブロックを混入する近世の所産であり、同様の覆土のビットは周辺では検出されなかった。

256号ビット (第54・55図、P.L. 10)

058-646グリッドに位置する。5号溝の外にあり、2号住居跡の南6mにある。324号ビットは南7mに位置している。覆土は黒色土で底面付近には砂礫を含んでいた。ビット底面に杯3個体が重なるように出土した。出土の例は20号ビットに類似している。

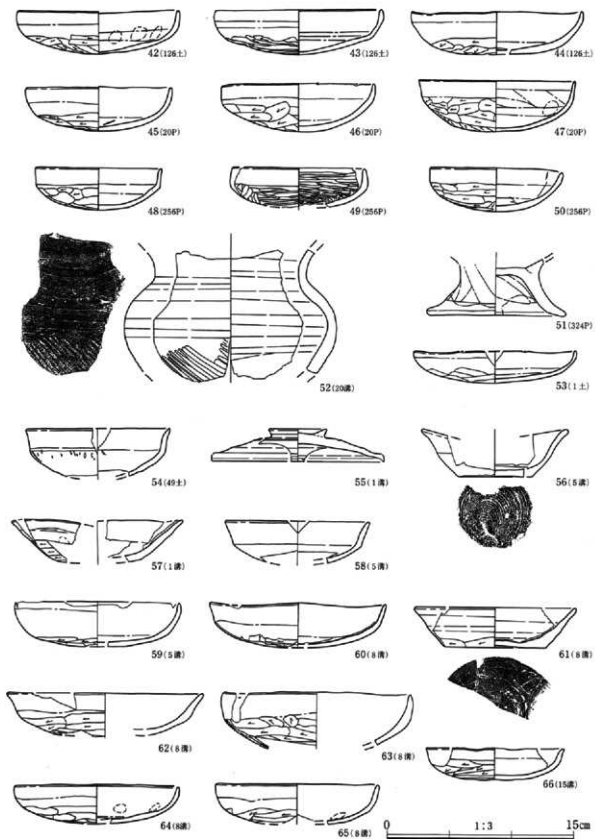
324号ビット (P.L. 10)

052-646グリッドに位置する。覆土は黒色土である。底面付近に礫に支えられるように逆位で出土した。256号とともに近接していることから、周辺のビットの覆土観察を進めたが周辺に同様の覆土のビットは検出しなかった。



第54図 20号・256号ビット遺物出土状態図

第3章 検出された遺構・遺物



第55図 ビット他遺構外出土遺物実測図(1)

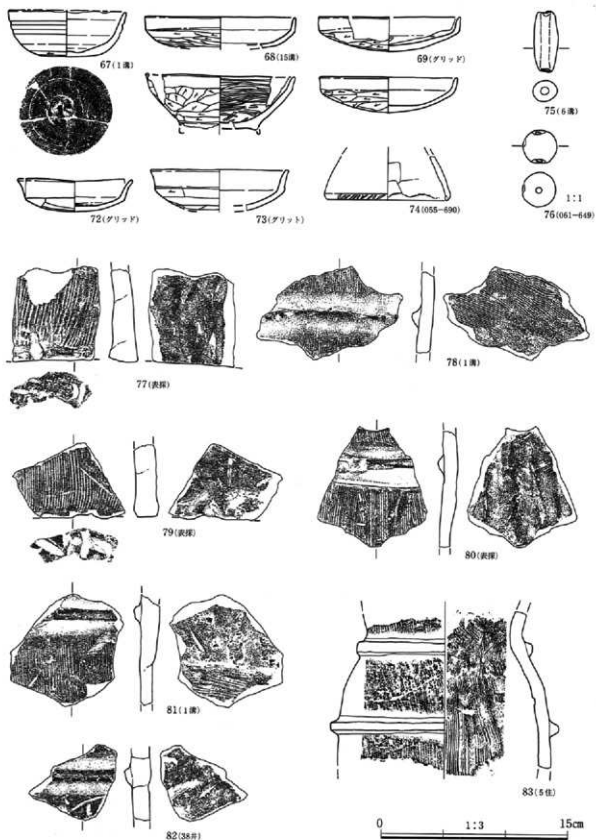
4. ビット及び遺構外遺物 (第55・56図、P.L. 40・41)

1～3に前述した遺構に伴う遺物のほかに、古墳～平安時代の遺物が近世の遺構や遺物包含層から出土した。これらを一括掲載する。42～44は126号土坑の確認面で出土した。45～47は上記20号ビットの底面に重なるように出土した杯である。48～50は上記256号ビットの底面に重なり出土した杯である。51は324号ビットの底面である。52は20号溝の覆土内より出土した。53はAs-C混下水田の確認時に検出した1号土坑上面から出土した。55・57・67は1号溝の覆土中より多量の近世遺物とともに出土した。56・58・59も5号溝の近世遺物とともに出土した。60～65は8号溝の覆土中から出土した。66・68は15号溝の覆土より出土した。12号溝と14号溝に挟まれる位置から出土した。70は11号溝の覆土から出土した。69・71・72は調査区の中央に位置する12号溝・14号溝周辺のグリッドから出土した。74は調査区西側中央の055～690グリッドのAs-C混黒色土中より出土した。75は6号溝覆土中より出土した。76のガラス玉(口絵8)は、2号住居跡南東隅061～649グリッドのAs-C混黒色土下黒色土より出土した。77～82は埴輪片を一括した。本遺跡東・北周辺には宮貝戸古墳群や蟹沼東古墳群・波志江伊勢山古墳等があり、円筒埴輪等が出土している。本遺跡からは78が1溝覆土、82が38号井戸覆土、83が5号住居跡より出土した。他の埴輪は表採である。

第16表 ビット及び遺構外出土遺物観察表 (第55・56図、PL.40・41)

番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、或・変形、文様等の特徴	残存状態 備考
			口径	底径	器高					
42	126土	土師器 杯	128	-	34	黒色・白色 灰物	普通 6YR6/8	外面 口縁部横撫で、体部中位以下寛削り、体部上位無調整。内面 口縁部～体部上位横撫で、体部中位以下撫で。器頭痕あり。	ほぼ完成。	
43	126土	土師器 杯	(134)	-	36+	白色灰物	普通 鈍い黄褐色 10YR5/4	外面 口縁部横撫で、体部中位以下寛削り、体部上位無調整。内面 口縁部～体部上半横撫で、体部下半撫で。	1/3残。	
44	126土	土師器 杯	(136)	-	34+	白色灰物	普通 明赤褐 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部下半寛削り、体部上半無調整。内面 口縁部～体部上半横撫で。	3/8残。	
45	20pit	土師器 杯	117	-	56	白色灰物・ 石英	良好 明赤褐 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部中位以下寛削り、体部上位無調整。内面 体部下半撫で・寛削り、口縁部～体部上半横撫で。	完成。	
46	20pit	土師器 杯	124	-	39	石英・軽石・ 白色	良好 橙 5YR	外面 口縁部横撫で、体部手持ら寛削り・最上位無調整。内面 体部下半撫で後、口縁部～体部上半横撫で。	口縁部 一部欠。	
47	20pit	土師器 杯	125	-	41	石英、黒色 灰物	良好 橙 5YR6/6	外面 口縁部横撫で、体部中位以下を中心に寛削り、体部上位一部未調整。内面 体部横撫で、体部上位斜方向撫で後、口縁部横撫で、体部中位指痕あり。	口縁部～ 体部中位 3/8欠。	
48	256pit	土師器 杯	102	-	34	白色灰物・ 石英	良好 橙 5YR6/6	外面 口縁部横撫で、体部寛削り・最上位無調整箇所あり。内面 体部中位以下撫で後、口縁部～体部上位横撫で。	口縁部～ 体部上半 1/8欠。	
49	256pit	土師器 杯	(106)	-	31+	白色・黒色 灰物	普通 鈍い褐 7.5YR5/4	外面 体部単位の細かい寛削り、口縁部横撫で、内面 体部横方向後放射状鋭磨き、口縁部横方向鋭磨き、口唇部横撫で。	口縁部～ 体部上半 1/4残。	
50	256pit	土師器 杯	107	-	35	白色・赤 褐色灰物	良好 明赤褐 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部寛削り。内面 口縁部～体部上半横方向撫で、口縁部横撫で、鋭痕あり。	完成。	
51	324pit 台付甕	土師器 台付甕	-	11.1	(47)	白色・赤 褐色灰物	良好 明赤褐 5YR5/6	台部内外面横撫で。台部外面と外面底に細砂付着。外面に炭灰吸炭。	台部片	

第3章 検出された遺構・遺物



第56図 遺構外出土遺物実測図(2)

第3節 古墳・奈良・平安時代

番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
			口径	底径	器高					
52	20溝	須恵器 壺	-	-	10.0+	白色灰物	還元 焼	灰NS/ 外周 轆轤成形後、胴部下平削り。内面 轆轤成形後、当具痕を轆轤整形で撤去す。	口縁部下平～胴部 中位1/6 残。	
53	1土	土師器 杯	(13.0)	-	2.6	石英、黒色・白色 灰物	普通	明褐色 7.5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部下平削り、体部上半無調整。内面 体部下平削り後、口縁部～体部上半横撫で。	1/4残。
54	49土	土師器 杯	(11.5)	-	3.9+	白色灰物	普通	明赤褐 5YR5/8	外面 体部摩擦が顕著で上位にホツあり、口縁部横撫で。内面 口縁部～体部上半横撫で。	口縁部～ 体部上半 1/4残。
55	1溝	須恵器 壺	(13.8)	横径 (3.7)	2.7	白色灰物	還元 焼	灰NS/ 外周 轆轤成形後、胴部下平削り。内面 轆轤成形後、当具痕を轆轤整形で撤去す。	口縁部の小よりは無い。外面 轆轤整形、天井部上位に沈線状の横線。内面 轆轤整形。	揃み1/4、 天井部～ 口縁部一部
56	5溝	須恵器 杯	(11.8)	5.7	3.9+	石英、白色 灰物	酸化 焼	鈍い橙 7.5YR6/4	外面 体部轆轤整形、底部左回転糸切り無調整。内面 轆轤整形、底部に轆轤痕を残す	口縁部～ 体部1/4、 底部3/4 残。
57	1溝	土師器 杯	(13.6)	(6.6)	3.6+	赤褐色灰 物	普通	鈍い橙 7.5YR7/4	内外面とも滑減。外面 指頭成形後、体部下平に左方向削り、口縁部横撫で、底部横撫で。内面 指頭成形後、口縁部～体部横撫で。	口縁部～ 体部外縁 1/4残。
58	5溝	土師器 杯	(11.6)	-	3.3+	赤褐色灰 物	普通	橙 7.5YR6/6	外面 器表が剥離、口縁部横撫で、体部削り。内面 器表が滑減、横撫で。	口縁部～ 体部上半 1/4残。
59	5溝	土師器 杯	(13.2)	-	3.6	白色灰物	普通	明褐色 7.5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部下平削り。内面 口縁部～体部中位横撫で。	1/3残。
60	8溝	土師器 杯	(14.1)	-	3.6+	赤褐色灰 物	普通	明赤褐 5YR4/6	外面 口縁部横撫で、体部下平削り。内面 体部下平削り後、口縁部～体部上半横撫で。	1/4残。
61	8溝	須恵器 杯	(13.3)	(8.1)	3.1	凝灰岩、 赤褐色灰 物	還元 焼	灰N6/ 外周 轆轤成形後、胴部下平削り。内面 轆轤成形後、当具痕を轆轤整形で撤去す。	外面 体部轆轤成形後、体部下平削り、底部手持ち削り。内面 轆轤整形、底部外縁が撫でにより窪む。	1/4残。
62	8溝	土師器 盤	(15.7)	-	3.5+	石英、白色 灰物	普通	赤褐 5YR4/6	外面 口縁部横撫で、体部削り、口縁部下位～体部上位無調整。内面 口縁部～体部上位横撫で、体部中位以下横撫で。	1/3残。
63	8溝	土師器 杯	(14.9)	-	4.2+	石英、乳 白色・白 色灰物	普通	橙 5YR6/6	外面 口縁部横撫で後、体部削り。内面 口縁部横撫で、体部横撫で。	口縁部～ 体部上半 1/3残。
64	8溝	土師器 杯	(13.2)	-	3.5	白色灰物、 石英	普通	明赤褐 5YR5/6	外面 口縁部横撫で、体部削り。内面 体部下平削り後、口縁部～体部中位横撫で、指頭圧痕あり。	1/3残。
65	8溝	土師器 杯	(13.1)	-	3.3+	石英、凝 灰岩	普通	明赤褐 5YR5/8	外面 口縁部横撫で、体部下平削り。内面 口縁部～体部中位横撫で、体部下平削り後、指頭圧痕あり。	1/3残。
66	15溝	土師器 杯	(11.0)	-	2.5	白色灰物、 石英	普通	橙 5YR6/8	外面 口縁部横撫で、体部中位以下削り、上位無調整。内面 口縁部～体部上半横撫で。	口縁部一 部、体部 1/4残。
67	1溝	須恵器 杯	(9.4)	-	3.7	白色灰物、 石英	還元 焼	灰N5/ 外周 轆轤成形後、胴部下平削り。内面 轆轤成形後、当具痕を轆轤整形で撤去す。	外面 体部轆轤整形・中位に2本の沈線・下位回転削り、底部削りこし後細な手持ち削り、撫で。内面 轆轤整形、底部内縁部に窪む。	口縁部～ 体部2/3 欠
68	15溝	土師器 杯	(12.0)	-	2.5+	白色灰物	普通	橙 5YR6/8	外面 口縁部横撫で、体部削り・最上位に無調整箇所あり。内面 口縁部～体部上位横撫で。	口縁部～ 体部上位 1/4残。
69	G	土師器 杯	11.2	-	2.8	少量の白 色灰物	普通	明赤褐 5YR5/8	外面 口縁部横撫で、体部削り・最上位に無調整箇所あり。内面 口縁部～体部上半横撫で。	1/3欠。
70	11溝	土師器 碗	(12.0)	-	4.5+	白色灰物 ・石英・ 雲母	普通	鈍い黄褐 10YR5/4	外面 口縁部横撫で後、体部削り。内面 口縁部横撫で後、口縁部上端を残して体部中位まで横方向・体部下位縦方向削り。	高台を欠 いて1/2 残。

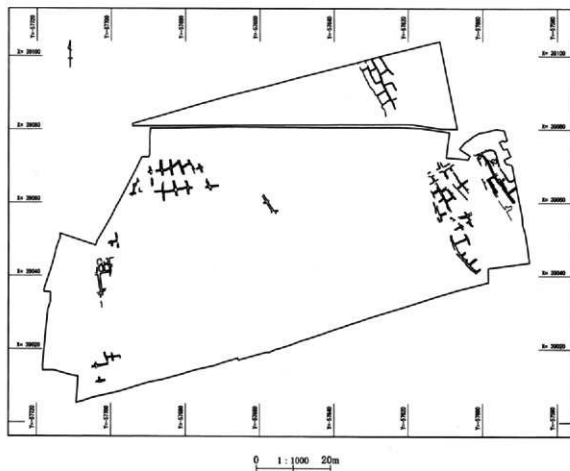
第3章 検出された遺構・遺物

番号	出土位置	種類 器種	計測値 (cm)			胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状態 備考
			口径	底径	器高					
71	G	土師器 環	10.9	-	2.8	石英、白 色磁物	普通	明赤褐 5YR5/8	外面 口縁部横撫で・最下端に無調整箇所あり、体 部蔑削り。内面 口縁部横撫で。	口縁部・ 体部上位 一部欠。
72	G	土師器 環	(9.2)	-	2.7+	白色磁物	普通	橙 5YR6/8	器表が摩滅。外面 浅い体部から口縁部とを画する 線を經て外湧する口縁部に至る。外面 口縁部横撫 で、体部蔑削り。内面 体部撫で、口縁部横撫で。	口縁部 1/3、体部 1/4残
73	G	土師器 環	(11.1)	-	3.3+	白色・赤 褐色磁物	普通	橙 5YR6/8	口縁部と体部を画する深い段をもつ。器表が摩滅。 外面 口縁部横撫で、体部蔑削り。内面 口縁部～ 体部上半横撫で。	口縁部～ 体部中位 1/3残。
74	055- 690	養生土 器高台 脚	-	(10.0)	(3.6)	白色・赤 褐色磁物	普通	鈍い黄褐 10YR6/3		脚部片
75	6溝	土製品 土罐	最大径 1.9	長さ 5.0	重さ 16.6g	白色磁物	普通	橙 7.5YR6/6	表面滑らか。上の小口小破損。穿孔形は円形	ほぼ完形
76	061- 649	ガラス 玉	径0.9	長さ 0.9	重さ 1.4g				穿孔部少破損。微小気泡が見られる。孔径0.15cm	完形
77	表探	埴輪	-	-	(7.7)	白色磁物	普通	橙 7.5YR6/6	外面粗い単位のタテハケ。内面にはナデを施す。	基底部片
78	1溝	埴輪	-	-	(6.8)	白色磁物	普通	橙 7.5YR6/6	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを 施す。	胴部片
79	表探	埴輪	-	-	(6.0)	白色磁物	普通	橙 7.5YR7/6	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを 施す。	胴部片
80	表探	埴輪	-	-	(9.4)	白色磁物	普通	橙 7.5YR7/6	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを 施す。	胴部片
81	1溝	埴輪	-	-	(9.0)	白色磁物	普通	橙 7.5YR6/6	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを 施す。	胴部片
82	38井	埴輪	-	-	(6.0)	白色磁物	普通	橙 7.5YR7/6	外面タテハケ後突帯貼り付け。内面はナメハケを 施す。	胴部片
83	5住	埴輪	-	-	(12.6)	白色磁物	普通	橙 5YR6/6	肩部はあまり張らない。肩部と口縁部下端の2条の 突帯が認められる。外面タテハケ、内面はナデを施 す。	頸部～胴 部片

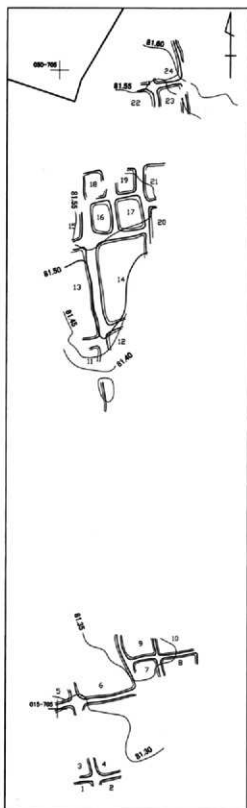
5. 水田・畠・As-B堆積

As-C混土下水田 (第57～61図、P.L.5・6)

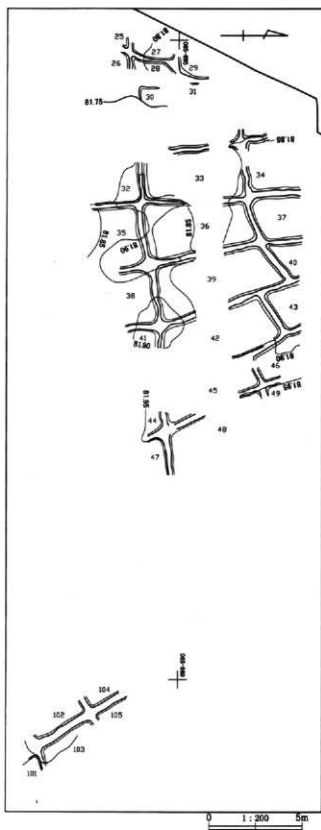
調査区全域のAs-Cを含む黒色土面で水田が確認された。覆っていた土は、As-Cを多く含み、Hr-FA・FPも含まれる黒色土である。確認できた水田は105枚である。遺構の検出はAs-C混土を精査除去していく中で黒色土が筋状に検出され、畦が見えてくる。地形は南東方向に傾斜しており、傾斜に平行して畦が形成されている。その方位はN-20°-Wを示す。畦幅は、南北方向は30～50cm程を測り、東西方向は30cm程を測る。畦の高さは南北方向で平均10cm、東西方向で8cmを測り、南北の畦の方が僅かに高いことが窺える。畦の間隔は南北方向で平均2.5m程を測る。南北方向の畦が構築した後、畦内を東西方向に畦を作り区画している。水口は、77・78区画の東畦の北側に、82区画の南畦の東側に、87区画の南畦の東側で検出し、97区画南畦東は大きく開口する。区画を分割してする区画として西側の区画16～19は、周囲の同規模の14・33・36・39区画を1/4に分割したものと考えられる。また、東側の96区画は95区画の分割と看取れる。東側では北から南にかけて、さらに東に向かって区画が大きくなる傾向がある。しかし、畦間隔が広がるのではなく、東西の畦の間隔が広がり、区画が大きくなるものである。東側は低地へとつながりすでに報告済みの波志江中歴敷東遺跡A区As-C混水田へと連続している。区画の規模を計測できたのは23区画である。最小で19番の0.9㎡、最大は95番の14.8㎡である。16～19区画は細区画されたものと考え4区画で1区画とした時の水田区画平均面積は9.2㎡である。



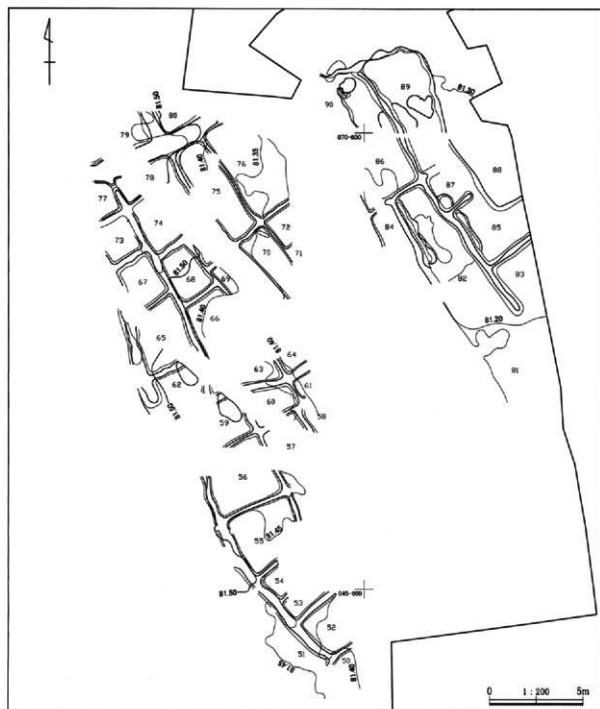
第57図 As-C混下水田跡全体図



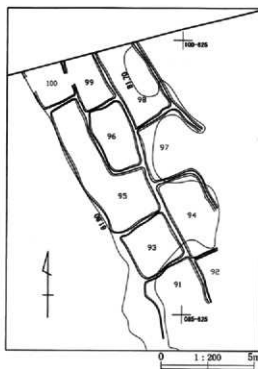
第58図 As-C 混下水田跡（西部）平面図



第59図 As-C 混下水田跡（北西部）平面図



第60図 As-C混下水田跡（東部）平面図



第61図 As-C混下水田跡(北東部)平面図

第17表 As-C混下水田跡計測表

水田No.	面積(m ²)	東軸(m)	西軸(m)	南軸(m)	北軸(m)
4	-	-	-	-	2.8
6	-	-	-	2.9	-
7	-	-	-	-	1.1
8	-	-	-	-	1.8
9	-	-	-	1.3	-
13	-	4.8	-	-	-
14	9.85	4.2	4.2	2.1	2.5
16	1.22	1.5	1.4	0.8	0.7
17	1.84	1.5	1.5	1.2	1.2
18	1.14	1.3	1.2	1	0.9
19	0.94	1.1	1.1	0.9	0.8
21	-	-	1.8	-	-
23	-	-	-	-	1.1
24	-	-	-	1.3	-
27	-	2.1	-	-	-
33	14.57	5.1	5	2.2	2.7
34	-	-	-	2.5	-
35	-	-	-	-	2.9
36	13.16	5.6	5.2	2.9	2
37	-	-	-	2.2	-
38	-	-	-	-	2.7
39	15.16	6.7	5.4	2.6	2.2
40	-	-	-	2.2	-
42	-	-	5.7	-	2.2
43	-	-	-	2.2	-
45	-	5.2	-	-	-
46	-	-	-	1.3	-
48	-	-	5.2	-	-
52	-	-	2.3	-	-
53	-	-	1	-	-
54	-	-	1.3	-	-
55	9.49	2.5	3.1	3	3.4
56	10.27	3.2	2.9	3.5	3

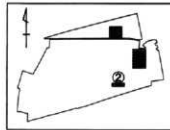
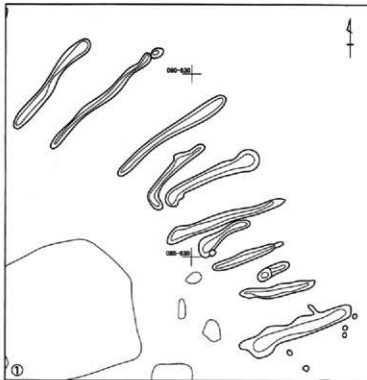
Hr-FA混土畠(第62図、P L.6)

035-625グリッド及び085-630グリッドに検出した。地形が南側に緩やかに傾斜する地点に東西方向を走行とする幅20cm、深さ8cm、畝間幅25cm~50cmのサク状遺構が検出した。覆土にHr-FA粒を多量に含むことから標記遺構名を付した。覆土にはHr-FA粒のほかAs-C混土ブロックや砂礫が混入していた。畠北区の1はAs-C混土下水田の上に耕作されていた。

As-B堆積地点(第63図、P L.6)

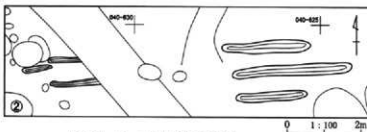
調査区東側に位置する本地点は、低地縁辺部に当たり、As-Bの堆積やHr-FA・As-C混土の堆積層等が顕著な所である。そこで本地点北側に設定した「SP C」(北壁基本土層セクション)で水田遺構の検証および探査のために植物珪酸体分析をAs-B・Hr-FA・As-Cのテフラ直下層で実施し

水田No.	面積(m ²)	東軸(m)	西軸(m)	南軸(m)	北軸(m)
57	-	-	-	-	2.1
60	3.08	1.1	1.7	2.3	2.1
61	-	-	1	-	-
65	7.52	3.1	2.9	2.5	2.2
66	-	-	-	-	2
67	3.92	2.1	2.2	1.7	1.8
68	4.2	2.4	2.5	1.8	1.4
70	-	-	-	-	1.6
72	-	-	1.8	-	-
73	3.61	2	2	1.7	1.8
75	8.68	5.3	5.4	1.4	1.6
76	-	-	5.4	-	-
77	-	1.5	-	-	-
78	-	-	1.4	-	-
82	17.04	8.9	8.8	2.3	1.4
83	-	-	2.6	-	-
85	-	-	3.4	-	-
86	-	-	-	1.7	-
87	3.87	1.7	1.9	2.1	2.1
88	-	-	4.5	-	-
89	14	6	6	1.6	2
91	-	-	-	-	2.8
93	6.49	2.5	2.6	2.5	2.5
94	8.94	4.1	4.3	2	2
95	14.8	7.5	7.5	2.7	1.5
96	6.26	3.6	3.5	1.5	1.6
97	-	-	-	-	2.3
98	-	-	-	2.1	-
99	-	-	-	1.7	-
100	-	-	-	1.8	-
102	-	2.9	-	-	-
103	-	-	2.9	-	-
合計	180.05				

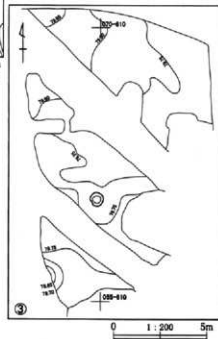


第18表 Hr-FA混島計測表

番号	計測値 (cm)		番号	計測値 (cm)	
	長さ	幅		長さ	幅
1	322	55	10	410	25
2	210	28	11	310	34
3	88	30	12	195	28
4	214	25	13	328	30
5	153	25	14	241	35
6	342	35	15	(138)	16
7	280	38	16	(90)	13
8	210	35	17	80	15
9	370	30			

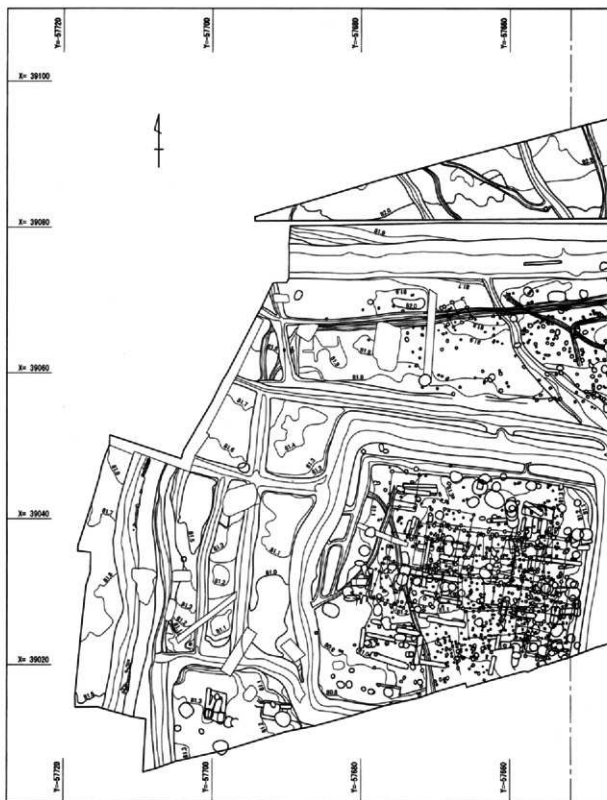


第62図 Hr-FA混島跡平面図



第63図 As-B堆積範囲図

た。その結果As-B直下層でイネが多量に検出し、Hr-FA・As-C混土層などでも、稲作が行われていた可能性が認められる数値が現れた。As-B堆積の厚さは2～3cm程度であり、水田遺構検出に務めたが、畦等の痕跡は認められなかった。自然科学分析の結果から、本地点が小範囲であるうえ、近世の溝が走行していることや、本地点が水田耕作面であるため水田遺構と認定できる畦等が検出されなかったものと考えられる。なお、As-Bの堆積が確認された遺構は051-631グリッド、堆積地点の西10m程に位置する10号井戸の埋没土だけであった。





第64図 近世遺構全体図

第4節 中・近世以降

1. 概要 「波志江中屋敷遺跡の屋敷遺構について」

はじめに

本遺跡の掘立柱建物跡については、調査段階で13棟、うち8棟は内郭に所在していた。筆者は本遺跡の屋敷遺構を検討するに際して、編者から1/40の遺構図を頂戴して図上で認定作業を行った。調査中は数度見学させていただき、現地の大凡の様子や遺構の状態などを知っているつもりであったが、図面上で検討を試みたのは、今時の整理作業段階が初めてとなった。結果として、内郭内の4～8号建物は、今時の筆者認定建物と合致しないことが判明した。不意ながら、筆者は自らの認定を優先させていただいた。これについては調査者全員にご容赦いただきたく、この場を借りてお願いしたい。寛容な編者はこの非礼をご容赦下さり、報文中ではビットが重複することも省みず、現場段階と筆者案の両方を採録してくださった。本稿がそのご厚意に報えるものであることを願いたい。

波志江中屋敷は既知の中世屋敷遺構であったが、発掘調査によって今時未知の内郭部分が発見された。一方で、出土遺物のほとんどは近世に属しており、従来からの位置付けは疑われていると感じる。中世の屋敷遺構は城や砦と混同され、軍事性の強いものとする傾向がある反面、出土遺物の大半が近世である場合、程度のいい近世一般住宅として片づけようとする。筆者は区画された屋敷遺構が中世にピークを持つものと考え、当面の課題として、中世・近世の違いにこだわらず、屋敷がどのように機能し、時代変化していくのかを見据えていこうと考えている。本稿はその作業の一つと位置づけたい。

2. 区画内部（内郭）の掘立柱建物跡群の様相

(1) 主軸方位による分類

区画（5号溝：以下略）内部の建物群は比較的多いが、主軸方位に一定の統一性が見られ、規制された屋敷空間があるものと考えられる。分類は建物の主軸方位が真北に対して振れの大きくなる順にA～D群の4つに分類を行った（表19）。更に同じ分類内でも重複関係があり、相対的な位置関係も加味して、A群は3つ、B群は4つに細分した。分類は主軸方位を基準にしたため変遷順を示すものではないが、建物の時期差を識別する意図を持っており、変遷を考える基礎作業となる。分類別ではB群建物の棟数が最も多く、13棟で全体19棟に対して7割近くを占めている。遺跡全体で見ると、A群は北側1号溝北辺の走向方位に近似し、B群は区画溝である5号溝の走向方位に一致していることが確認できる。

A1～A3群は互いに重複する各1棟ずつで構成される。建物形態が近似し面積も大きいことから、それぞれが主屋として1つの時期を形成し、連続する時期変遷を示すと考える。屋敷内部の建物を考える中で、この形態と規模を持つ建物1棟のみで構成されることは注目される。

B群建物の構成は統一性がない。B1群の主軸方位は数値的にまとまりがあるが、B2～B4群とはっきり区別できるほどでもない。主軸方位数値は、B1～B4群をひとまとまりとする程度の揺れを持っている。細分は主要建物の重複関係を主体にしている。実際には4つの建物群に6つの主要建物が存在する。面積は40～60㎡でややばらつきがある。重複関係ではB1群20号建物とB2群21号建物、B3群25号建物、B4群28号建物4棟全てが屋敷東側で重複し、B1群29号建物とB4群22号建物が屋敷西側で別に重複している。したがって、最低4時期が存在するが、主要建物からは6時期である可能も十分あることになる。

C群は1棟のみで屋敷西側に偏在している。D群2棟は屋敷南側に偏在するが、主軸方位の数値差があり2

つに細分される可能性も残す。D群の主軸方位は区画外部の建物(10~14号建物)の主軸方位に近似している。

(2) 桁行平均柱間・梁間平均柱間からの検討

A群の桁行平均柱間は、①1.856~1.860m(約6.1尺)2棟と②2.230m(約7.4尺)1棟である。B群の桁行平均柱間は、①1.750~1.875m(約5.8~6.2尺)5棟、②2.133~2.190m(約7.0~7.2尺)4棟、③1.567m(約5.2尺)1棟、④1.974~2.075m(約6.5~6.8尺)3棟である。C群は①1.908m(約6.3尺)1棟。D群は①1.855~1.940m(6.1~6.4尺)2棟である。建物の桁行平均柱間は4つに分かれるが、③のB1群1号建物だけが特異であり、他は①10棟、②5棟、④3棟となる。

主要建物(A群3棟・B群6棟)別で見ると、②では5棟中4棟が該当し、④では3棟中2棟、残る主要建物3棟が①に属する。更に主要建物を群別で見れば、A群中①2棟・②1棟、B1群②2棟、B2群①1棟、B3群②1棟、B4群②2棟となる。桁行平均柱間のうち、②や④といった広いものは、主要建物に使用された事例が多くを占める。桁行平均柱間が同じものでB類の細分を試みたが、重複関係などによってできなかった。桁行平均柱間を時期別を選択していたと見るのは、B群に関しては難しい。しかし、A1・A2・C・D群に関しては①のみを使用していることも看過できない。桁行平均柱間の多様な使用は、ほぼB群に限られる。

B群中で狭い桁行平均柱間である①と③を使用する建物を見たところ、B1群1・30号建物、B2群3・21号建物、B3群26号建物、B4群24号建物であり、主要建物である21号建物を除き、残る5棟(13棟中約38%)は小規模で付属的な建物であった。逆に小規模でありながら②・④の桁行平均柱間を使用するものは、②B3群23号建物、④B1群15号建物であった。この2者について見ると、前者は総柱構造を持つ点で特異であり、後者は細長い南北棟で、規模は違っても同じく桁行平均柱間④を使用するB4群28号建物に性格的な近さを感じさせる。なお、主要建物でありながら、唯一桁行平均柱間①を使用するB2群21号建物は、2棟である可能性も残るとおり、認定が難しい建物である。認定が妥当であるとしても、この事例1例のみによってB群建物全体の傾向を打ち消すには至らないと判断する(ただし、後述するが別の解釈によって、こうした矛盾も払拭することは可能である)。以上から考えて、本屋敷の桁行平均柱間は主要建物と付属的な建物といった違いによって使い分けられており、言い換えれば建物の機能差による違いと位置づけられる(註1)。筆者はこの違いの発生理由として、建築施工者の違い、つまり専門的な建築集団が関与した可能性や、材料が専門的に作られた搬入品である可能性などを想定している。

B群の主要建物を個別に着目すると、興味深い特徴を見ることができる。B1群29号建物は桁行4間で平均8.72m平均柱間2.180m、梁間は平均4.2mである。B3群25号建物は桁行4間で8.7m平均柱間2.175m、梁間は4.1mである。B4群28号建物は桁行4間で8.3m平均柱間2.075m、梁間は3.26mである。これら3つの主要建物は非常に近似している。更にB1群20号建物は3間四方の正方形で、6.4×6.2m平均柱間2.133mと2.120m、B3群23号建物は2間四方の正方形で、平均4.38×4.0m平均柱間2.190mと2.005mである。これらも規模は違っても、基本的な規格は近似している。以上で共通するのは、B1群からB4群に向かって、徐々に規模を縮小していく方向性である。こうした傾向は、建物の規格に対する精神的な継続性以上に、物質的な継続性を読みとることができ、具体的には建築部材の再利用による建て替えを意味しているものとする。こうした傾向は元総社西川遺跡でも見ることができた(飯森2003a)。なお、B4群22号建物も桁行4間で8.0m平均柱間2.000m、梁間3間で5.9m、B2群21号建物が桁行4間で平均7.22m平均柱間1.805m、梁間3間で平均5.2mである。B2群21号建物は主要建物でありながら、桁行平均柱間①を使用する点で異例であったが、建築部材の再利用を考慮すれば自然な変化であることに気づく。ただし、B4群22号建物の建築をB1群からの継続性で捉えることができず問題点は残る。しかし、大きな流れとして、B群に関してはB1

第19表 竪立柱建物跡分類表

測号	主軸方位	規模	北	張出	面積 (㎡)	桁行1	桁行2	桁行平均	桁行幅別平均	桁行幅別間隔1	間隔2	間隔平均	梁間平均柱間	備考	重観調査
A1	18 N-87°-W	1×5間・東西棟		北	67.89	9.32	9.24	9.28	① 1.856	3.24	3.4	3.4	3.32	L字形	15・19・20・24・27
A2	19 N-86°-W	2×4間・東西棟	北	南	66.46	7.44			① 1.860	3.94			1.97	L字形	18・20・22・24・25・27・28・29
A3	27 N-89°-E	2×5間・東西棟		北	81.25	11.5	10.8	11.15	② 2.230	8.7			2.175	L字形	15・16・18・19・20・21・24・25・28
B1	1 N-7°-E	2×3間・南北棟			16.48	4.7	4.7	4.7	③ 1.867	3.59	3.64	3.615	1.898		
B5	10 N-10°-E	1×4間・南北棟			20.80	7.84	7.95	7.895	④ 1.974	2.75	2.75	2.75			
B20	8 N-8°-E	3×3間・正方形			39.68	6.4			② 2.133	6.2			2.067		18・21・27・28
B29	81 N-81°-W	2×4間・東西棟	北・東		47.08	8.74	8.7	8.72	② 2.180	4.34	4.14	4.24	2.12		18・19・21・24・25・27・28
B30	80 N-80°-W	2×3間・東西棟			17.02	5.5	5.54	5.52	① 1.840	3.6	3.8	3.7	1.885		2・19・22・23
B23	3 N-13°-E	1×2間・南北棟			13.30	3.7	3.8	3.75	① 1.875	3.54	3.58	3.56			2・3
B21	77 N-77°-W	3×4間・東西棟		北	89.20	7.34	7.1	7.22	① 1.865	5.3	5.15	5.225	1.742	2棟小	15・16・20・25・26・27・28
B23	12 N-12°-E	2×2間・正方形			17.70	4.42	4.34	4.38	② 2.190	4.02	4.0	4.01	2.005	総柱	22・29
B25	79 N-79°-W	1×4間・東西棟	西		41.24	8.7			② 2.175	4.1					15・16・19・20・21・27・28
B26		1×2間・南北棟	西		16.95	3.56	3.82	3.69	① 1.845	2.74	2.72	2.73			16・21・28
B422	79 N-79°-W	3×4間・東西棟			46.88	8.0			④ 2.000	5.9					1567 19・23・29
B424	76 N-76°-W	1×4間・東西棟			17.75	5.25	5.24	5.25	① 1.750	3.6	3.4	3.5			15・19・20・27
B28		1×4間・南北棟		西	56.21	8.3			④ 2.075	3.26					L字形 15・16・19・20・21・25・26・27
C2		2×3間・南北棟	西		26.18	5.6	5.85	5.725	① 1.908	3.46	3.5	3.48	1.74		3・29・30
D16		2×3間・東西棟	東・西		28.62	5.8	5.84	5.82	① 1.940	3.65	3.4	3.525	1.763		21・25・26・27
B17		2×2間・東西棟	東		15.32	3.92	3.5	3.71	① 1.855	3.34	3.9	3.62	1.81		

*内括弧建物のうち、4～6号建物は上記建物と竪立しないため省略した。

群→B3群→B4群→(B2群) という変遷案を示すことが可能と考える。

最後に梁間平均柱間について触れておく。梁間については様々な傾向があり、筆者は未だ検討方法を模索中であるが、本屋敷の場合桁行と梁間がほぼ一致する事例と見て良いように思う。ほぼ等しい建物は全体数19棟中7棟(約37%)、近いものを含めれば11棟(約58%)、梁間1間建物を除外すれば12棟中11棟となり実に92%を占める。桁行と梁間の平均柱間が等しい傾向は珍しい事例にはいるが、本遺跡の西方約700mに所在し筆者が以前検討した波志江西屋敷遺跡A区東でも奈良・平安時代に属するが、こうした傾向が著しく見られた(飯森2003a)ことから、本地域の掘立柱建物跡に見られる地域色という面も窺える。ただし、波志江西屋敷遺跡で中世と見られるA区西の建物では、こうした傾向を見ることはできない。

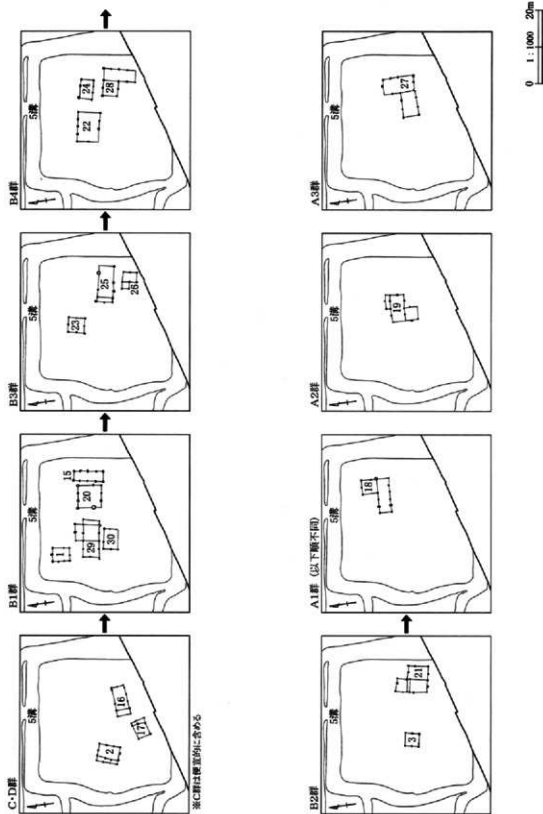
(3) 形態的な特徴

主要建物において幾つか特徴的な傾向がある。A群の3棟はいずれも平面L字形を呈している。A1群18号・A2群19号建物については、東西棟の北と南に張り出しを設けているが、A3群27号建物は柱の並びによって南北軸を通しただけで、実際の規模からすれば南北・東西同等の造りをなしている。3棟全てに共通して、L字の曲がり部分の南北か東西に必ず中柱が立つため、ここを間仕切りにして2室以上に分かれていたと考える。ただし、間仕切りが少ないことは否めない。3棟は互いに重複関係にあり、分類上ほかの建物も同時期に当てられないため、それぞれが単独で存在していたこととなる。つまり、1棟のみで住宅機能の多くをまかなえる自己完結型の建物であったと考える。

B群の建物は多様であるが、A群との比較からすれば、同じく平面L字形を呈するB4群28号建物が注目される。これはA群3棟と異なり、細長い南北棟の西側に張り出しが付いている。つなぎ部分にやはり中柱があり間仕切りと見える。規模的にはA1群18号建物に近い。南北棟と東西棟の違いはあるが、L字型であるので大きな違いではない。A群同様、1棟単独で建てていた可能性もあるだろう。

B群の主屋建物で継続性があるものに、B1群29号建物とB3群25号建物がある。両者は桁行4間の東西棟で、1・2面に庇を設けることで居室空間を広げている。主屋としてもっとも標準的な造りである。

B群では梁間3間の建物が3棟存在する。B1群20号建物は3間四方の正方形で、29号建物と並んでB1群の主要な建物を構成している。井戸や土坑との重複で東西隔柱を欠く。B2群21号建物は3×4間の東西棟の北側に張り出しを持つが、この張り出し部分は別建物である可能性も多く残す。桁間中央に柱筋が通り、間仕切りとなっている。B2群の主要建物である。B4群22号建物は3×4間の東西棟で、風倒木との重複により東西隔柱が不明となっている。B4群では28号建物と並ぶ主要建物となっている。ところで、これら3棟は共通する問題点を持っている。梁間3間の規模を持ちながらも、実際に梁間に4本柱を有するものが一つもない。3棟中2棟は他遺構との重複により一部を欠損する可能性も残すが、全てその理由で済む状況ではない。一つの可能性とすれば、調査時の発見漏れである場合もあるが、3棟全てに当てはめられるものか疑問である。具体的に見ると、B1群20号建物は両辺で重複による欠損の可能性を持っている。B2群21号建物では梁間両辺とも北角から1間めの柱はあるが、2間めの柱を両辺で欠いている。B4群22号建物東辺では隔柱しか認めていない。これでは建物として立ち上がるのか危うい。屋根は又首組構造であるとして、棟束は建たないにしても、相当強固な梁がないと支えられない。梁側柱の省略は1本が限度で、2本省略することは無理である。仮に1本省略しても、強度を損なうだけで、室内の利用には一切関係ない。メリットがないことを考えれば、省略する必要がない。B1群20号・B4群22号建物の内部には、建物認定に際して拾い出せなかった柱穴が多く存在している。これらを合理的に抽出できれば、あるいはこうした問題点も解消できるのかもしれない。



第65図 掘立柱遺物跡分組図

(4) 建物等の配置と変遷

A群の建物は既に見てきたとおり、各時期1棟ずつが存在していた。3棟共に区画内では中央やや北東寄りに位置している。井戸の分布も区画北辺東寄りから東辺に多く分布することから関連が窺える。建物の主軸方位は屋敷遺構の内郭を囲む5号溝ではなく、むしろ外郭を区画する1号溝に方位を揃えている。これは屋敷全体の変遷に関わる問題だが、5号溝埋没後は基礎工事に丸太を使用した近世建物が造られることから、5号溝廃絶は早い時期であることが推測される。一方、1号溝は昭和50年代まで用水路として機能していたという。単純に比較できないとしても、両者の機能的な違いを反映した結果と言える。5号溝の必要性が無くなった状況下で、外郭ラインに主軸方位を一致させたA群の建物が出現してくるとすると、建物自体が1棟のみの構成に単純化する傾向と符合するものと考えられる。

B群の建物は区画の北半分に多く分布する傾向がある。B1群は主要建物である29号建物と20号建物が東西に並んでおり、区画南半分を広い空き空間としている状況が受け取れる。30号建物は主軸方位の数値からB1群に入れたが、バランスとしてはB3群に含んだ方が良いかもしれない。

順は違おうが、区画北半部に中心がある点では、B4群が同じ系統に含まれる。規模・構造とも異なるが、B1群29号建物の位置には、B4群22号建物があり、東西に並んで24号建物も並んでいる。28号建物は主要建物であるが、位置的に納まりが悪く、前述のとおりA群同様1棟で独立した方がいいのかもしれない。

B2・B3群では、主要建物の位置が南下して、区画内の中央南東寄りに位置している。井戸も東辺には多く分布する。桶を埋設したような円形の土坑が多く分布するのも東端部であり、生活色の強い遺構が分布する部分である。

C群2号建物は区画内西端に位置し、単独というよりも比較的主軸方位に近いB群に属すると思いたい、具体的な組み合わせを見いだすことができない。

D群は区画内の中央部南端近くに位置する。主軸方位は区画外部の建物全て(10~14号建物)に近似しており関連が想定される。区画外部の建物は、5号溝のほか区画溝である1号溝を含めた中近世溝の走向方位と合致するものがなく、区画溝では古い5号溝よりも更に前出のものと判断されるため、区画内D群の建物についても区画屋敷以前の建物であると考えたい。

以上見てきたとおり、5号溝によって区画された屋敷遺構を考えた場合、その内部建物として最も相応しい建物群はB群であると考えられる。中でも建物数が多いB1群の建物配置は、区画内部の北半分を4~5棟で直線的に埋め、南半分を空き空間としていた。これは区画遺構の正面口を南に開けていたものと推測させる。中世の区画屋敷では、しばしば建物をコの字状に配する状況が見られる。典型的な例として小規模だが、高崎市村北遺跡があり、筆者は武士から中小領主階級に至るまで、屋敷においては公的・私的な場を担う装置として、コの字状の建物配置と囲まれた庭空間の存在に注目している(飯森2001)。波志江中屋敷遺跡の区画(内郭)規模は、約36m四方(1/3町)規模であり、屋敷遺構としては小規模なものに属するが、土豪や在家(百姓)クラスを想定させる。建物面積においても、屋敷規模に概ね対応すると考える(註2)。出土遺物は近世のものがほとんどで、石造物を除き中世に属する遺物は1点に過ぎないが、屋敷形態として中世まで通り得るとしたい。本遺跡において、仮に建物の分類を間違ひ、あるいは建物の認定もれがあったとしても、ピット全体の分布から見て、建物配置がコの字状であった可能性は少ない。コの字状の建物配置が、絶対的な屋敷配置でないと考えれば当然の帰結と言えるが、建物ごとに機能分化させて屋敷内に配置する指向は窺える。A群の建物で述べたとおり、本屋敷遺構は内郭を囲む5号溝の機能が早い時期に停止して、外郭を囲む1号溝が残っていく。これは屋敷遺構が単純化していく傾向と受け取れ、建物配置の単純化傾向と一

致するものと思う。A群建物の形態はL字形を呈する特徴を持つ。この変化は一概に建物構造の進歩を示すものではないが、B群からA群への建物変遷を妨げるものではないと言える。

3 屋敷の全体的な特徴

屋敷の全体的な形状を単純に見れば、区画溝が二重に廻る回字状とすることができる。内側を区画するのは5号溝であり、南東部は調査区域外となったが大凡の規模は判明する。南北長は内側法上約36m、外側法上で約44m、東西長は内側法上約33m、外側法上で約40m、中央部突出部では内側法上約37m、外側法上約43mを測る。ほぼ1/3町規模とすることができる。内郭において筆者は19棟の建物を認定したが、主軸方位などの検討から内郭に伴う建物はB・C群合わせて14棟とし、A・D群は内郭を意識していない建物群と考えている。外側を区画するのは1号溝であり、北辺から西に進んで南に折れるが、東側も同じく南に折れて進む35号溝と同一の溝であると報文中に言う。外郭の南側は調査区域外となり不明だが、東西長は内側法上で約106m、外側法上で約115m、南北長は調査部分で内側法上約62m、外側法上で約67mを測る。なお、波志江中屋敷は既知の屋敷遺構であり、山崎一氏は東西100m、南北130m規模と認定している(山崎1978)。この範囲は今時調査の1号溝によって囲まれた範囲を指すことが、付属する視張り図から判明する。つまり、今回調査された屋敷範囲は北側約半分に過ぎないこととなる。山崎氏が調査された時点で、たぶん1号溝は土地改良以前の状態で残っており、この範囲を屋敷と認定しにちがいない。したがって、内郭部分は全く痕跡を止めていなかったため、認識されていないのである。先に屋敷形態を回字状と記したが、外郭の全体規模からすれば、内郭はかなり北西に偏在していることが判明する。北側外郭部に所在する建物10~14号建物は、主軸方位が1号溝ほかの走向方位と異なるため、全て別時期のものと考えた。ただし、この他にも土坑やピットなどが多くはないが存在しており、内郭建物に呼応する時期の外郭建物があった可能性は残っている。もちろん、未調査となる屋敷南半分についても、同時期の遺構が広がっていることが十分に推測される(註3)。

溝の多くは区画に關係すると言えるが、本遺跡の場合重複が激しく複雑である。新旧関係が判明しているものでは、2号溝は7号溝より後出、10号溝も8号溝より後出であり、6号溝は区画溝である5号溝を一部埋めて造られていることが注目される。1号溝では流水痕跡が確認されるが、5号溝などでも堰水状況が堰土から推測されている。本屋敷遺構では水回しに重点を置く傾向が看取できる。まず、1号溝が幹線水路であること(後述)を前提として、内郭を囲む5号溝への導水が図られたと見られ、1号溝西辺から東へ7号溝が5号溝に延びている。1号溝西辺は7号溝との接点(未調査)付近で西に湾曲しており、水压を弱めて壁面を守り、堰施設などによる引水を容易とする必要から生じた形態と判断する。4号溝も同じく5号溝に導水する機能が窺えるが、1号溝との関係が分かりにくく、むしろ2・3号溝との関連が想定され、5号溝全体に導水することよりむしろ、5号溝南辺に流路を寄託しているものと判断する。つまり、5号溝は方形に閉塞する形態ではなく、未調査である南東隅に流路を解放して、南方に用水を流していく開口部があったことを想像させる。ただし、この4号溝と7号溝には時期差が想定され、2号溝が7号溝に後出するのと同じく、4号溝も7号溝に後出する可能性が高い。5号溝は当初7号溝によって堰水状態に置かれていたが、4号溝の深淺により流路としての機能が付与されたものとする。

6号溝も注目されねばならない。6号溝は5号溝を一部埋める溝として注目されるが、5号溝と並行して西から進んだのち南にクランクしており、区画機能を付加されている傾向がある。しかも、東辺では2号溝で5号溝と結ばれ、4号溝と同様5号溝に寄託しながら流路を南下させていく意図が窺える。これにより、3・4・6号溝によって区画される空間が浮上してくる。規模としては西側に広がるものの、5号溝に区画

された内郭を踏襲する様相である。しかし、5号溝西辺と3号溝の間には土坑やピットが全く存在しないことから見ても、居住空間に関わる拡張行為とは見なしがたい。また、6号溝との関連で考えると、東辺で重なる15号溝と、並行する16号溝が目目される。両者共に土地を区画する機能が窺え、東側に区画された空間を形成するものと見える。ここでは、土坑、ピット、井戸などが点在し散漫な居住空間を思わせるが、判断材料に欠ける。なお、区画に関係し、これまでの検討結果とも関連が推測される溝として、10・11・13・19・20号溝がある。

4. その他の留意点

1号溝は昭和50年代まで用水路として機能していたといい、現在西側に隣接して流量豊富な用水路を見ることが出来る。周辺は土地改良され地形は改変されてしまったが、以前本遺跡周辺は重要な水系に属していた。推定明治2年の「波志江村絵図」（註4）によれば、本遺跡北西で神沢川より取水する用水堀と波志江下沼からの用水が合流して南下している。更に明治10年代に作成された陸軍迅速測図を参照すると、南下する本流はもう少し西側に位置するが、沼からの用水もかなり近いことが分かる。明治前期では、中屋敷周辺が宅地化されている以外、水田などとなっている。西側の水系は、権現山西側の谷底平野を潤す幹線水路である。本遺跡周辺には水田可耕地が広がっていたが、乏水地域であったことから、必ずしも恵まれた土地柄とも言いにくい。波志江沼の築造時期は不明だが、基礎となる湧水があったとも言われる。乏水地域であったからこそ、用水に対する配慮は大きいにちがいない。本遺跡で数時期にわたり、作り替えられた溝の状況も、こうした用水へのこだわりによるものと判断する。

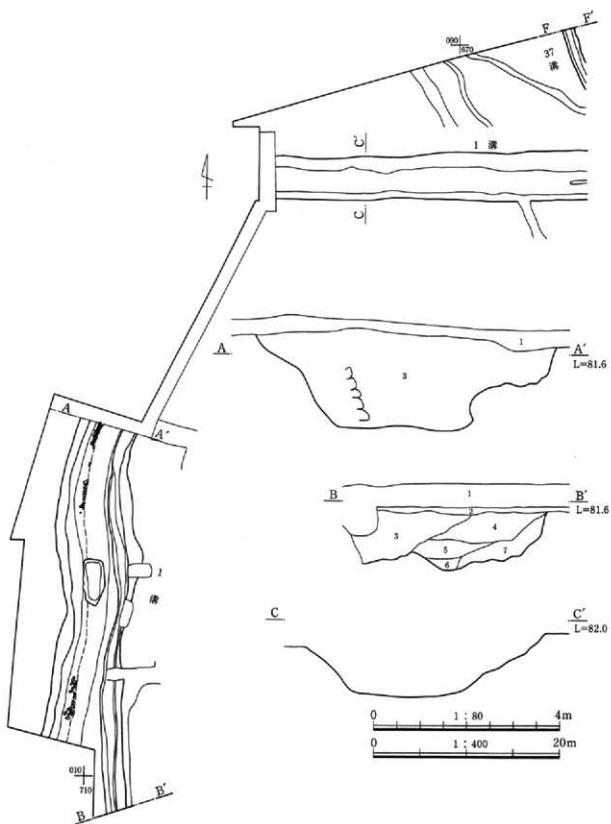
紙数の都合でまとめは置かないため、逐次本文をご覧ください。末尾ながら忙しい最中資料を提供され、この場で発表の機会まで与えてくださった整理担当 田村公夫氏ほか、関係各位に感謝申し上げます。

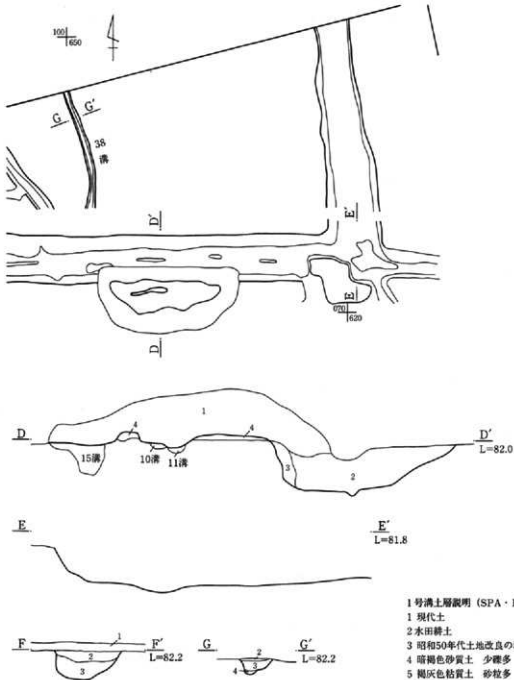
(飯森康広)

- 註1. 筆者は別に前行平均柱間の違いに着目した検討を行っており参照したい（飯森2003b・2004）。
2. 建物面積と区画規模との関係について、筆者は検討したことがあり、1/3町規模の場合主要建物60㎡を越えないと考えた。B群では21・28号建物が暫くとも、問題点があることも述べたので、ここでは考慮しない（飯森1999）。
3. 回字状の屋敷遺構の調査事例として、同じ北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域関連の発掘調査による横手湯田遺跡（前橋市）がある。出土遺物から内堀・外堀は同時存在していたものと見られる。屋敷規模は波志江中屋敷遺跡とはほぼ同じだが、外郭部分の幅が2～5mと狭く、居住空間として機能しない。外郭西側の遺構分布から内堀は後出のもので、屋敷を再区画した様相が窺える。ほかにも同規模の回字状の屋敷である宇貫遺跡（玉村町）でも、外郭に遺構がほとんど見られない状況を見ることが出来る。
4. 「伊勢崎の村絵図」第1集 伊勢崎市 1982所載。

参考文献

- 飯森康広 1999「中世後期館跡とその周辺構築―群馬下榎木町田遺跡を中心として―」『信濃』第51巻第10号
- 岡 2001「中世上野国における館と宿所 ―発掘される中世屋敷跡を考えるために―」『群馬文化』266号
- 岡 2003a「波志江西屋敷遺跡A区西の掘立柱建物群について」『波志江西屋敷遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 岡 2003b「元総社西川・塚田中原遺跡の屋敷遺構について ―下榎木町田遺跡修正案を兼ねて―」『元総社西川・塚田中原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 岡 2004予定「克砥宮田遺跡・克砥前田遺跡・克砥諏訪西遺跡の屋敷遺構について」『克砥宮田遺跡・克砥前田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 笠原仁史 1999「宇貫遺跡」玉村町教委
- 中村茂ほか 1985「宿大類遺跡群IV村北・矢島前・村東遺跡」高崎市教委
- 泰山秀幸ほか 2002「横手市川湯遺跡・横手湯田遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎一 1978「群馬県古城址の研究」上巻 群馬県文化事業振興会





- 1号溝土層説明 (SPA・B)
- 1 現代土
 - 2 木田耕土
 - 3 昭和50年代土地改良の埋土
 - 4 暗褐色砂質土 少礫多
 - 5 褐灰色粘質土 砂粒多
 - 6 黒褐色土 ロームブロック多
 - 7 黒褐色砂質土 小礫含、鉄分凝結

- 1号溝土層説明 (SPD)
- 1 灰褐色土 砂礫多
 - 2 灰黄褐色土 現代物含、下層は砂礫混
 - 3 黒褐色土 As-C混土・黒色土ブロック混
 - 4 暗褐色土 As-C混土

- 37号溝・38号溝土層説明 (SPF・G)
- 1 表土
 - 2 茶褐色土 砂粒含
 - 3 明茶褐色土 砂礫混
 - 4 暗褐色粘質土 黒色土ブロック含

第66図 1号・37号・38号溝平・断面図

2. 溝

本遺跡より検出した溝は大小あわせ38本が検出した。溝は大きく4つに分類することができる。1は、中世城館跡に表わされた「中屋敷館跡」の堀と一致する、1号溝と35号溝である。この2条で大きな区画を成すものである。2は5号溝周辺の先端幅2.5m、深さ1m程で直線的に掘られ、南北の走行はやや西に傾き、東西方向はやや北に傾く、2～7号溝である。3は、2より小規模で先端幅1m前後、深さ1m弱程で、直線的に掘られ、南北走行はやや東に傾き、東西走行はやや南に傾く、15～20号溝である。4は、先端幅が1m以下、深さ50cm程の溝である。

1号溝（第66図、P.L.6・7）

1号溝は、本遺跡の大きな区画を形成する溝である。昭和50年代の土地改良まで使用されており、現在は溝上が道路となった。道整備時埋没した物で多くの現代のものが出土した。しかし、あわせ近世遺物も多数出土しており、本報告書中の近世関連遺物の222点（32%）が本溝より出土している。また、近代以降遺物も近代以降遺物全体の68%程が本溝出土である。総遺物量も同様の傾向である。調査時の溝の上面は道路として使用されており、アスファルトの除去から調査は開始された。道路脇には水路が敷設されており、北から1号溝脇を通るように1条と、35号溝上を走行する1条、さらに35号溝北から西に1号溝上を流れる1条の水路があった。

1号溝は、西側と北側さらに東側（35号溝）と3段階で道路を除去し行われた。西側は、015-710-045-710グリッドの範囲で行われた。走行は北から南へ直線的にあり、確認長は40m、先端幅8m、下端幅2mほどである。深さは確認面から2mを測る。走行方位はN-6°-Eを示す。断面形状は逆台形状を呈する。土地改良前の石垣が西側に5段ほど積み上げた状態で検出した。使用時の上幅は、4m程度である。壁はV字状に立ち上がり、底面はあまり荒れていない。底部中央には長軸5m、短軸2m、深さ20cmの擾乱があり径30cm程の礫が廃棄されていた。また、石垣は北側では良好に残るが、南側では崩れていた。なお、本溝の南側で、土地改良前の溝が検出した。先端幅4m強、下端幅1.2m、深さ最深で1.4mを測る。調査区南端から040-710付近までの35mほどで土地改良前の溝と合流する。底面は荒れず、なだらかにあり、壁は垂直に近く立ち上がる。この旧溝底部付近は、砂礫が多い流水堆積を示していた。

北側は075-690-075-610の範囲で検出した。確認時の長さ70m、先端幅4.8m、下端幅2.5m、深さ1m程を測る。走行は東から西に流れ、その方位はN-89°-Eを示し、座標軸東西にあたる。底面は平坦面になっており、部分的に長さ1m、幅30cm、深さ30cm程の筋状の落ち込みがあり、砂利砂が充填していた。さらに075-610付近から北側に27m確認した。この地点は、19号溝との合流する地点でもあり、底面は10cm程窪んでいた。本溝はさらに東側に伸び35号溝と結合する可能性が高いが、途中取水構により攪乱されていた。この地点を中心に流水は西側の流れと、35号溝の東へと分岐する。

070-640付近に調査前より土盛りがあり、土塁の可能性が指摘されていた。しかし、断面調査の結果、本土盛りは1号溝より新しいものであることが判明した。現代の造成による残土であろう。盛土は灰褐色の砂礫を多く含む土である。

35号溝（第73図、P.L.7）

075-600-040-600の範囲に検出した。前掲した1号溝と同一のものと考えられる。確認長は30m、先端幅2m、下端幅50cm、深さ50cmを測る。走行方位はN-11°-Wを示す。断面皿状を呈し、底面は荒れていなかった。北側の屈曲部に径5cm程の杭が底面両端に並行して6本ほど検出した。底面には流水によると思われる砂礫層の堆積が見られた。1号溝と35号溝は同一遺構と考えられ、確認された1号溝から35号溝まで

の全長は192.17mを測る。この方形を成す形態は、「中世城館跡」に記された「中世敷」の堀と一致する。

2号～7号溝は掘方が類似している。方形区画を成す5号溝に対し、2号・3号溝が南北方向で並行し、4号・7号溝が5号溝西辺に合流する。6号溝は5号溝北辺に並行し、5号溝東辺で5号溝を埋めて南流する。各溝共に流水堆積よりも滞水堆積の方が顕著に認められる。埋土は人為的に行われている。時期差はあまり無いようであるが、2号と7号は7号の方が古く、5号と6号では5号の方が古い。

2号溝 (第67図、P.L.7)

045-700-020-700に位置する。北側は7号溝に、南側は4号溝と結合する。確認長は24m、上端幅1.5m、下端幅40cm、深さ90cmを測り南流する。走行方位はN-7°-Eを示す。断面は底面を平坦にしたV字状を呈し、さらに栗研堀りを呈する。幅広の底面は平坦に掘られ、壁の立ち上がりは急である。覆土の上層はロームブロックを含む人為的埋め土であるが、下層はシルト質土の自然堆積で滞水状態であったと思われる。全体的には直線的に掘られているが、中央部035-700付近で僅かに屈曲する。この屈曲位置は、東側の5号溝屈曲部と一致する。南側4号溝とはなだらかに合流する。北側で接する7号溝の底面との比高さは5cm程で、7号溝の方が深い。出土遺物は、覆土中より近世遺物が出土した。そのうちの陶磁器碗12点をはじめ瓦5点等、25点を掲載した。

3号溝 (第67図、P.L.7)

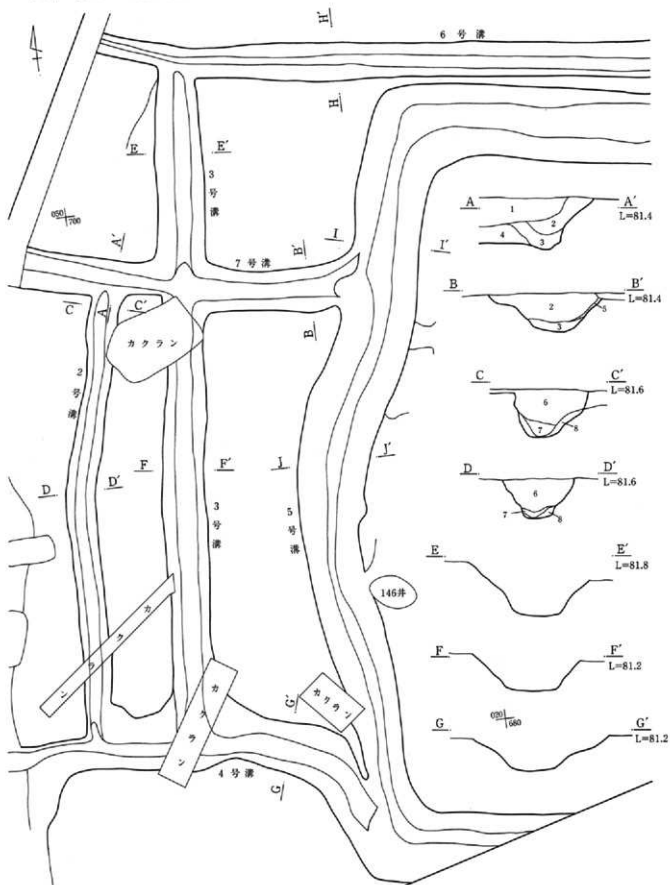
020-695-055-690に位置する。北側は6号溝、中央北側で7号溝、南側で4号溝と結合する。流路的には3号溝と4号溝が同一で区画を成すものと考えられる。走行は直線的にあり、N-6°-Eを示す。確認長は35m、上端幅2.5m、下端幅90cm、深さは北側で2.8m、南側で2mである。覆土は、上層がロームブロック混土の人為的埋土で底面付近はシルト質土の滞水状態が見られた。底面はやや幅広く、平坦に成し、壁の立ち上がりは急である。6号溝との底面比高差は10cm程で6号溝が深い。中央の7号溝との底面比高差はほとんどない。出土遺物は、覆土中より近世遺物が多数出土した。そのうちの陶磁器碗18点をはじめ灯明具5点等、総数量34点を掲載した。出土総量は1号・5号溝に次いで多い。

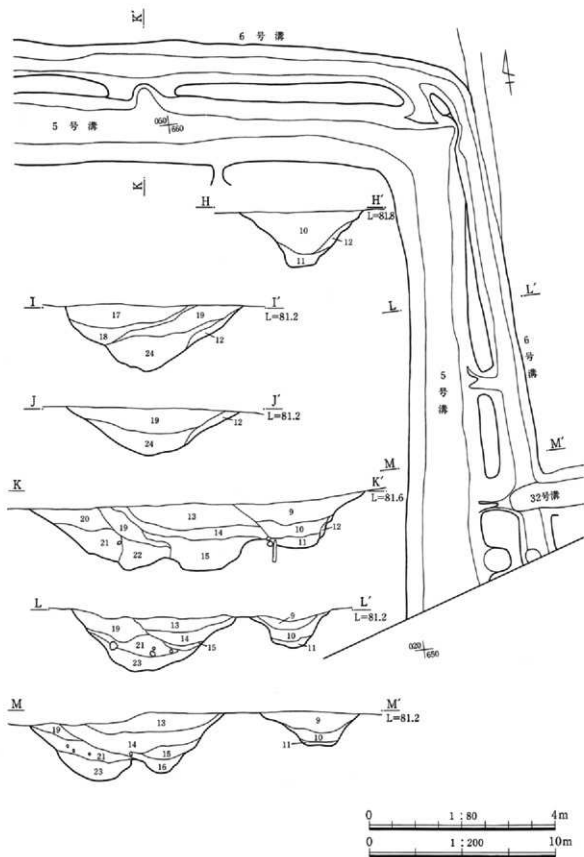
4号溝 (第67図、P.L.7)

020-705-015-685に位置する。西側は1号溝、中央で2号・3号溝、東側で5号溝と結合する。上端幅は、2号溝西側で50cm、2号溝の東側で2.9m、下端幅1m、深さ90cmを測る。東側の屈曲部までの走行方位はW-6°-Nを示し、5号溝へはなだらかに合流する。2号溝西側から1号溝にかけては砂粒が見られるが、東側はシルト質土であった。底面は平坦で、壁の立ち上がりはなだらかである。

5号溝 (第67・68・70図、P.L.7・8)

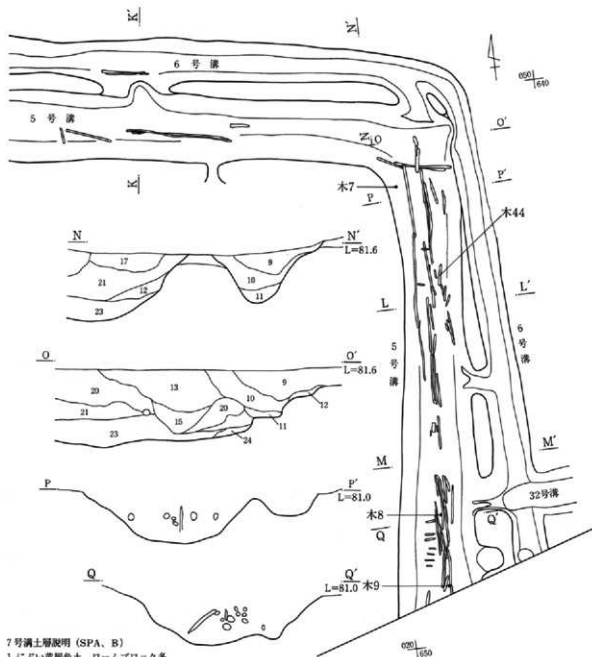
015-685-050-680-050-645-020-645に位置する。方形区画を成す。確認全長107.6m、上端幅3.7m、下端幅90cm、深さ1.06mを測る。区画外縁長は東西40m、南北43mを測り、内縁長は東西33m、南北35mを測る。なお、北側には25号溝が浅く平行して掘られているため、25号溝内側で計測すると、33mを測り、5号溝内は正方形を成す。面積は1089㎡である。西辺中央部がやや西側に影らむ。西辺・東辺はN-7°-E、北辺はW-9°-Nを示す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。北東隅で6号溝と重複する。この重複する部分には多くの材が出土した。覆土は上層は人為的埋土で、底面付近はシルト質土の自然堆積である。また、6号溝の合流部分には中層に砂礫層が若干見られ、6号溝から流水があったものと思われる。出土遺物は、覆土中より陶磁器碗をはじめ近世遺物が多数出土した。その内の陶磁器碗51点、焙烙10点等陶磁器・土器類91点を掲載した。また、本遺構の遺物出土状態の特色として、6号溝構築の際の土留めに用いられた材集中地点から木製品が多数出土したことである。木製品出土遺物は、漆桶16点と建築材等9点など





第67图 2号~7号溝平・断面图

第3章 検出された遺構・遺物



7号溝土層説明 (SPA, B)

1 にぶい黄褐色土 ロームブロック多

2 褐灰色土 小砂礫混

3 灰褐色シルト 砂多、ローム粒混

4 褐灰色シルト 黒色土ブロック含

5 灰黄褐色土 ロームブロック混

2号溝土層説明 (SPC, D)

6 灰黄褐色土 ロームブロック混

7 褐灰色シルト 黒色土ブロック混、鉄分沈着

8 褐灰色シルト ローム粒多

6号溝土層説明 (SPI, L~P)

9 暗褐色土As-A混、雨磁器類出土

10 灰褐色土 ロームブロック混 甚いて埋土

11 灰褐色シルト質土 砂粒混

12 にぶい黄褐色土 壁崩壊土

旧6号溝土層説明 (SPL~P)

13 暗褐色土 As-A混

14 灰褐色土 ロームブロック多

15 灰褐色砂質土 シルト・砂混

16 灰褐色シルト質土 炭化物・木片含む

5号溝土層説明 (SPJ~P)

17 暗褐色土

18 灰褐色シルト ノロ

19 褐灰色土 ロームブロック・黒色土ブロック混

20 褐灰色土 ロームブロック混

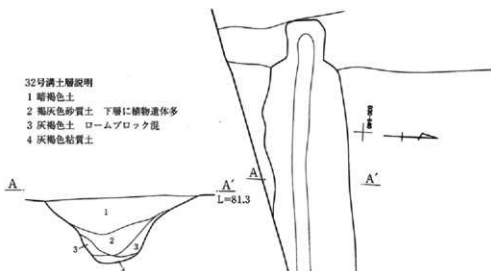
21 褐灰色土 木片を含む、砂多

22 灰色シルト 木片・根株多

23 灰褐色シルト 砂多、泥炭質

24 灰褐色砂質土 褐色シルト混

第68図 5号溝材出土状態平・断面図



第69図 32号溝平・断面図

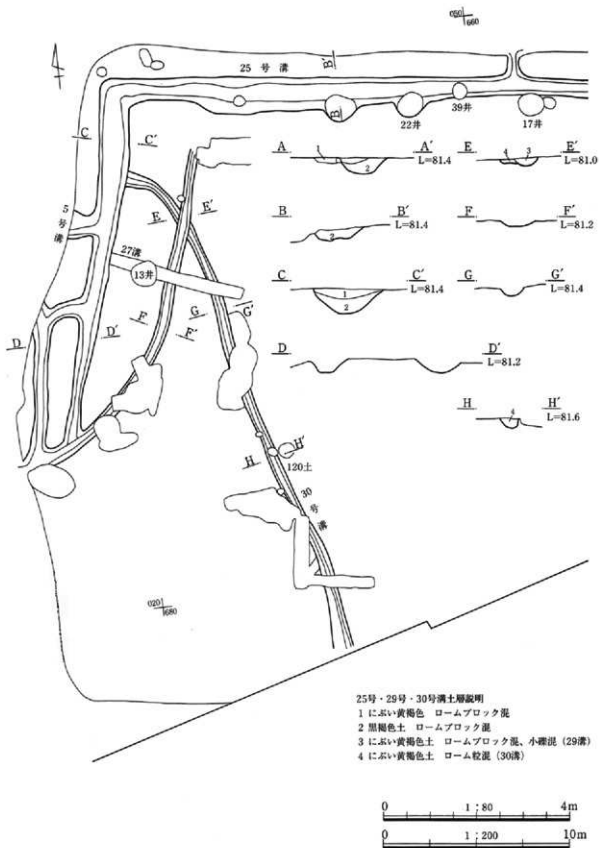
遺跡木器出土総数の55%を占める。また、掲載した中近世遺物は1号溝について多く、近世遺物総数の18%に当たる。さらに、本溝からは近世遺物の多い中で、極めて少ない中世関連遺物の内耳鍋が出土している。本溝との近世陶磁器片の接合関係は、1号溝、2号溝や、接する6号溝や25号溝、34号土坑と認められた。遺物の出土は、ロームブロック混土内である。

6号溝 (第67・68図、P.L.7・8)

055-695-050-640-025-640に位置する。全長79.2mを測る。上端幅は2.68m、下端幅64cm、深さ1.2mを測る。走行は直線的にあり、東辺はN-7°-Eを示す。北辺はW-9°-Nを示し、5号溝と並行している。しかし、北東隅で5号溝と重複する。5号溝を埋めて6号溝を通す方が伺える。6号溝は5号溝内を埋めて通る旧6号溝と5号溝の東を通る新6号溝とがある。セクションP付近で6号溝には新旧関係があり、5号溝埋没途中に旧6号溝を通すため縦に径5cmほどの木杭を打ち、横木に径10~15cmの丸太材を三段に渡し、下部の土留めの工事を施工している。土留めの跡にロームブロック混土を人為的に埋め、5号溝と同じ底面にしている。新6号溝は東辺中央部で2ヵ所、5号溝側に流れるようにしている。なお、木材は依存状況が悪いことと、自然木であり遺物としては取り上げなかった。遺物出土は覆土中から近世遺物が多数出土した。特に瓦石は特徴的なものが多く、20点中の6点が本溝出土である。

7号溝 (第67図、P.L.7)

045-700-045-686に位置する。確認長47.2m、上端幅2.46m、下端幅86cm、深さ86cmを測る。走行は東西に直線的で方位はW-10°-Nである。底面は平坦である。壁面の立ち上がりは急である。覆土は上層はロームブロックを多く含む人為的埋土で、下層は砂粒を含むシルト質土の自然堆積である。



第70図 25号・29号・30号溝平・断面図

8号溝 (第71図, P.L.7)

065-690~055-685に位置する。北側で11号溝、中央で10号溝、南側で6号溝と合流する。新旧関係が確認できたのは10号溝との関係で、本溝の方が古いことが判った。確認長8.3m、上端幅1.7m、下端幅50cmである。走行は直線的にN-7°-Wを示し、近接する2~7号溝とは走行が異なる。底面はやや荒れている。壁の立ち上がりはなだらかである。覆土はロームブロック泥の人為的埋土である。底面付近に僅かに砂層が見られた。出土遺物は陶磁器に混じって6世紀から8世紀代の土師器が出土した。

9号溝 (第71図)

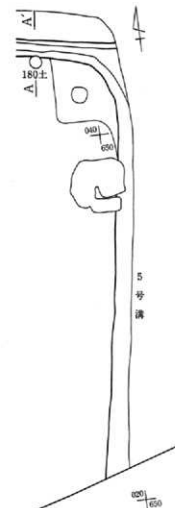
055-690~050-650に位置する。確認長38.2m、深さ40cmほどである。6号溝の北辺にある浅い溝である。走行は東西方向で方位は、W-9°-Nを示す。覆土はロームブロックを含む人為的埋土で、6号溝と同一の埋め方を行っている部分も見られた。

10号溝 (第71図)

057-685~067-640に位置する。11号溝が北側を平行して走る。050-640付近で11号溝と合流する。10号の方が古いがあり時間差は無いように見られた。確認長は56.7m、上端幅80cm、下端幅20cm、深さ20cmを測る。断面は皿状を呈する。走行は西端で南に屈曲し、8号溝上を通り、9号溝に至る。北側は東西に直線的走行する。方位はE-3°-Nを示す。覆土はロームブロックも含まれる砂質土である。明確な流水を示す砂層は確認できなかった。

11号溝 (第71図)

067-690~072-630に位置する。10号溝が南側を平行する。調査区西端で僅かに北に屈曲し、070-630付近で北側に屈曲し、1号溝に結合する。走行方位はE-3°-Nを示す。1号溝北側の38号溝が類似した形状・土質を示すが、方向性が異なる。確認長は65m、上端幅82cm、下端幅30cm、深さ30cm程である。断面皿状を呈す。平行する10号溝より10cm程深い。10号・



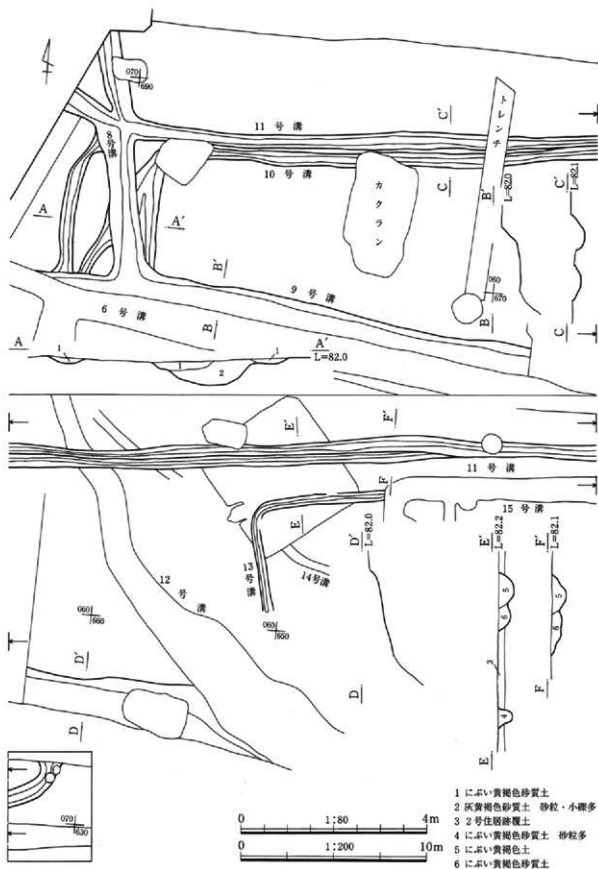
11号溝共に1号溝中央南に位置した盛土下にあり、盛土覆土と近い土質から近代の遺構と考えられる。

13号溝 (第71図)

060-650~065-650~065-645に位置する。L字状を呈する。確認長12.4m、上端幅44cm、下端幅30cm程を測る。走行方位は東西でN-78°-E、南北N-11°-Wを示し、やや西に傾く区画である。近接する15溝北側から直線的に伸び、065-650付近で南にはほぼ直角に曲がる。南端は地形が傾斜しているため不明である。同地点は6世紀の2号住居跡があり、本溝は住居跡を切って走行している。覆土は砂質であるが、流水跡の砂層は認められなかった。

15号溝 (第72図)

040-645~070-645~070-615に位置する。L字状を呈する区画溝である。南北に走行する西側の方位はN-3°-W、東西に走行する北側の方位はE-6°-Nを示す。確認長は全長58.3m、上端幅1.4m、下端幅40cm、深さ85cm程を測る。断面は逆台形状を呈し、底面は平坦である。覆土は上層に鉄分凝縮分布が認められ



第71図 8号～11号・13号溝平・断面図

たが、下層にはロームブツ混の土があり、人為的に埋められた後に窪み状になっていたものと考えられる。近接する遺構に対しては調査時の所見として南側で合流する6号溝、東側で接する22号溝より古いものと考えられる。また、北側の37号井戸よりは新しい。溝の東端で19・17号溝と合流する。出土遺物は覆土中より陶磁器に混じって焙烙が多数出土した。

16号溝 (第72図)

070-640-030-640に位置する。南北に直線的にあり、その方位はN-3°-Wを示す。15号溝の東西走行部分から派生する。上端幅70cm、下端幅25cm、深さ65cm程を測る。細く深い感じである。覆土はしまり無く、現代の埋土の可能性が高い。南端は掘り止めている。

17号～20号溝は、2号～7号溝の集中した地点から東側25m程離れ構築される。掘方・覆土等類似するが、走行は1号溝及び35号溝の「中屋敷館跡」の走行である。17号・18号溝は、19号溝がL字状に構築された内角に平行してある。17号・19号溝の底面には流水の痕跡は明瞭でないが、砂粒を含むシルト質土の滲水堆積が底部20cm程の厚さで確認された。18号の底部には、あまり砂粒は確認されなかった。

17号溝 (第73図, P.L.8)

070-615-060-605に位置する。南北方向を斜めに走行する。18号溝と平行する。方位はN-45°-Wを示す。確認長17m、上端幅1.5m、下端幅50cm程を測る。断面逆台形を呈し、底面付近は直に掘り込む。幅広い薬研堀状を呈する。壁の立ち上がりは急である。覆土は上層は人為的埋土で下層はシルト質の自然堆積である。北側は19号溝と合流し、1号溝へ至る。南側は攪乱により不明である。

18号溝 (第73図, P.L.8)

060-675-045-605に位置する。北に17号溝が平行する。南西に19号溝がある。南北方向に斜めに走行する。走行方位はN-51°-Wを示す。確認長15m、上端幅1.2m、下端幅35cm、深さ60cm程を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。覆土は上層は人為的、下層は自然堆積と考えられるが、上層には鉄分凝縮ブロックも見られることから窪地となっていた可能性も考えられる。しかし、中層に明瞭な流水跡は見られなかった。

19号溝 (第73図, P.L.8)

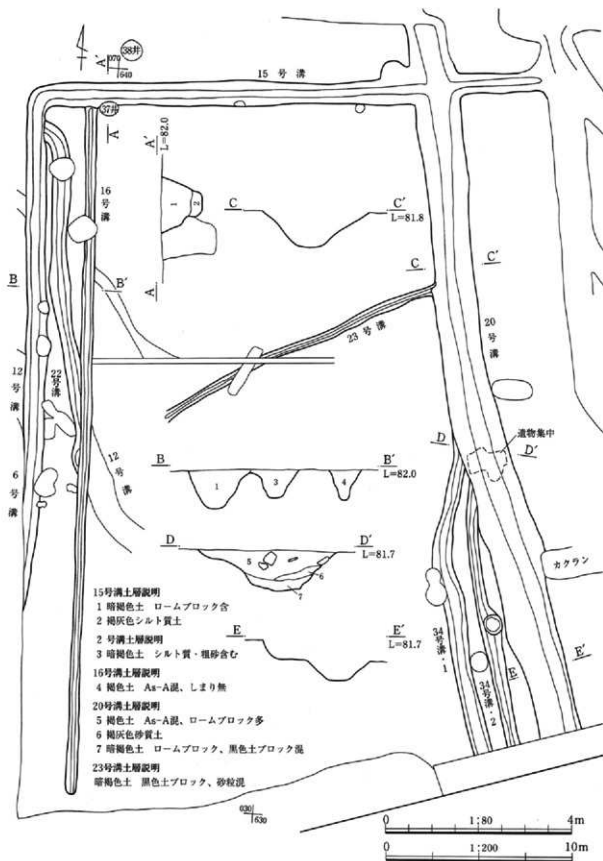
070-615-050-615-050-600に位置する。北側は1号溝に、東側は35号溝に合流する。L字状を呈する。走行は西側の南北に走行する方位はN-9°-W、南側の東西に走行する方位はE-4°-Nを示しほぼ直角に屈曲する。確認長31.4m、上端幅1.5m、下端幅30cm、深さ北側で90cm、南側で30cm程である。底面の状況は、西側の南北に走行する側は薬研堀状を呈し、南側の東西に走行側は底面平坦である。壁は西側は急で、南側は緩やかに立ち上がる。覆土は上層は人為的埋土、底面付近はシルト質の滲水状態を示す。流路方向は、35号溝に流れ込むように看取れる。

20号溝 (第73図, P.L.8)

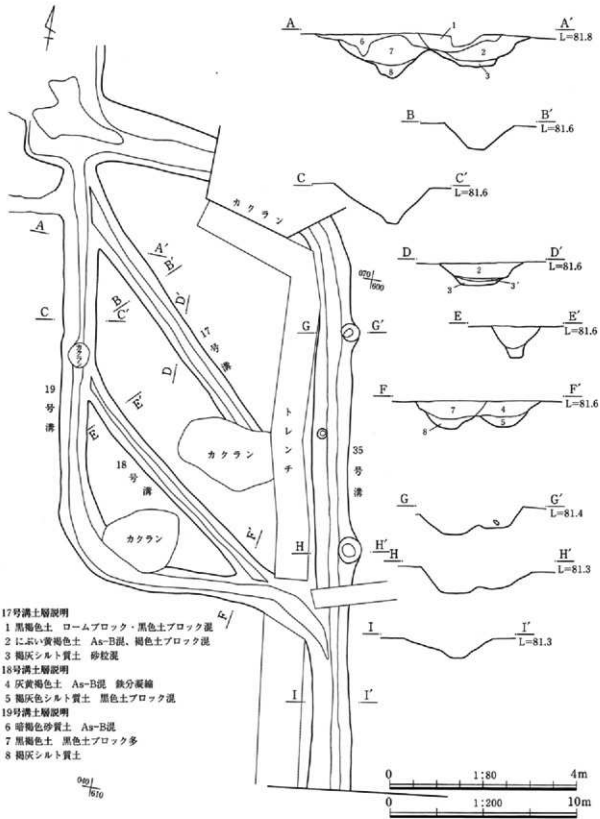
070-625-035-610に位置する。北側は1号溝に、中央に34号溝がある。南北に直線的に走行し、その方位はN-13°-Wを示す。確認長39.6m、上端幅2.3m、下端幅60cm、深さ90cm程である。覆土は、人為的埋土で中央部050-625付近で五輪塔8点、石臼7点や板碑等の石製品が第1層より集中し出土した。出土した板碑は剥落激しく剥落片が周囲に散布しており、これらが接合したものが板碑(9)である。また、かわらけ等の土器片も出土した。

22号溝 (第72図)

065-640-045-635に位置する。確認長19.2m、上端幅1m、下端幅30cm、深さ60cm程を測る。断面U



第72図 15号・16号・20号・22号・23号・34号溝平・断面図



第73図 17号～19号・35号溝平・断面図

第3章 検出された遺構・遺物

065-640-045-635に位置する。確認長19.2m、上端幅1m、下端幅30cm、深さ60cm程を測る。断面U字状を呈する。走行方位はN-8°-Wである。北側で15溝に屈曲して合流する。南側は16号溝に合流し南流するものと考えられる。覆土内には粗砂を含むシルト質土である。

23号溝 (第72図)

055-620-050-635に位置する。確認長16m、上端幅40cm、下端幅20cm、深さ20cm程を測る。断面皿状を呈する。走行方位はN-60°-Eで、東側20号溝から分岐し、西側は擾乱により不明である。覆土は黒色土と砂粒混土である。

25号溝 (第70図)

040-645-045-675-025-680に位置する。5号溝内にあり、5号溝の内縁を平行して方形に走向する。北辺と西辺は良好にあり、東辺は5号溝の縁に浅く取り付く。確認長は51.2m、上端幅1.7m、下端幅50cm、深さ40cm程を測る。走行方位は5号溝と同じ西辺はN-7°-E、北辺はW-9°-Nである。断面は皿状を呈する。覆土は人為的埋土である。流水の形跡は認められない。しかし西辺で2ヶ所、北辺で1ヶ所5号溝に向かう溝があり、大水の際は流れたものであろう。

29号溝 (第70図)

040-675-025-680に位置する。5号溝内にあり、25号溝・30号溝と重複する。30号溝との重複関係は本遺構の方が新しいが、覆土的にはさほど時間差は無いようである。西側で5号溝に合流する。確認長20m、上端幅75cm、下端幅30cm、深さ20cm程を測る。断面皿状を呈する。走行方位はN-22°-Eである。

30号溝 (第70図)

040-675-015-670に位置する。5号溝内にある。北西部の25号溝から分岐し、南に蛇行して南流する。調査区外に伸び、5号溝南辺に合流すると考えられる。確認長29m、上端幅45cm、下端幅20cm、深さ20cm程を測る。断面皿状を呈する。走行方位はN-17°-Wである。

32号溝 (第69図)

030-620-025-640に位置する。5号溝及び6号溝と西側で結合するが、本溝の方が深い。ほとんどが調査区外になり西側で底面を確認したのみである。掘方は2号~7号溝に類似している。底面はやや葉研壱状に掘られていた。覆土は上層は人為的埋土で、底面には砂礫が含まれている。本溝の形態は、6号溝と直角に近い結合を示すことから5号溝より新しい区画溝と考えられる。土層的な新旧関係は不明である。確認長25m、上端幅3m、下端幅80cm、深さ1.3m程を測る。断面U字状を呈する。走行方位はN-89°-Wである。

34号溝 (第72図, P.L.8)

048-618-034-616に位置する。2条平行している。両溝ともに確認長17.5m、上端幅80cm、下端幅40cm、深さ30cm程を測る。断面皿状を呈する。走行方位はN-15°-Wである。黒色土ブロック・ロームブロック混土の人為的埋土である。底面には流水の跡と思われる砂粒堆積は見られなかった。

37号溝 (第66図)

090-655-080-650に位置する。確認長12m、上端幅1.4m、下端幅60cm、深さ60cm程を測る。断面U字状を呈する。走行方位はN-23°-Wである。覆土は砂粒を含む暗褐色土で、調査区壁面の土層観察から近・現代の溝と考えられ、1号溝に合流するように南側に傾斜していた。

38号溝 (第66図)

090-645-080-645に位置する。確認長13m、上端幅70cm、下端幅20cm、深さ40cm程を測る。断面皿状を呈する。走行方位はN-13°-Wである。37号溝同様に1号溝に流れるようである。覆土内にはシルト質土と砂粒がブロック状に混入し、流路として使用されていたものと考えられる。

第20表 溝一覧表

番号	位置グリッド	計 画 値(m)				断面形	上流方向	主軸方位	出土遺物	備考
		確認長	上端幅	下端幅	深さ					
1	060-710-015-710	35.5	6.5	2.9	1.7	逆台形	北 N-6°-E	陶磁133, 埴塔7		
1	075-680-075-615	74.0	5.1	2.6	1.4	逆台形	東 N-80°-E	瓦79, 石3		
1	100-620-075-620	28.3	4.5				北 N-6°-W	キセル3, 近代27		
35	075-615-075-610	6.5	3.1	1.1		逆台形	N-87°-W	—		
35	070-605-040-595	30.7	1.9	30.0	0.5	逆台形	北 N-11°-W	—		
1号溝-25号溝方形		西(63)	北(90)	東(33)	計(186)					
2	045-700-020-700	24.0	1.5	0.6	0.9	V字	北 N-7°-E	中・近世25, 近代1		
3	060-690-020-695	36.5	2.3	0.9	0.8	V字	北 N-6°-E	中・近世35, 近代3		
4	020-705-020-690	19.3	2.9	1.0	0.8	鍋底状	西 N-84°-W	—		
4	020-690-010-685	9.0	2.8	1.0	0.8	鍋底状	北西 N-11°-W	—		
4号溝L形		28.3								
5	010-680-010-685	11.3	3.7	0.8	1.0	U字状	西 N-81°-W	—		
5	060-680-010-685	43.0	3.7	0.9	1.4	U字状	北 N-8°-E	陶磁76, 埴塔10		
5	050-680-045-645	39.7	3.7	1.3	1.4	U字状	N-81°-W	瓦8, 石8, 木25		
5	045-645-020-645	28.5	3.4	0.8	1.2	U字状	北 N-8°-E	近代4, 内耳1		
5号溝方形		122.5								
6	065-695-050-645	54.0	2.7	0.8	1.2	V字	西 N-82°-W	土鎌1		
6	060-645-020-645	29.5	3.0	0.7	1.2	U字状	北 N-8°-E	陶磁8, 埴塔1		
6	060-645-020-640	27.8	2.0	0.8	0.8	鍋底状	北 N-2°-W	瓦2, 石6, 鉄1		
7	045-700-040-685	17.2	2.5	0.8	0.9	U字状	西 N-78°-W	—		
8	070-690-055-685	13.0	1.7	5.0	0.5	竈状	北 N-7°-W	—		
9	055-690-050-650	44.3	(1.4)	(1.0)	0.4	竈状	西 N-84°-W	—		
10	055-690-065-685	7.5	0.6	0.2	0.2	竈状	北 N-30°-E	—		
10	065-685-070-640	45.0	0.6	0.3	0.2	竈状	西 N-85°-E	—		
11	065-690-070-630	64.0	0.8	0.3	0.3	竈状	N-85°-E	中・近世1		
12	085-670-030-625	73.0	1.8	0.5	0.5	竈状	北 N-42°-W	中・近世14, 近代3		
13	060-650-065-660	6.0	0.4	0.2	0.3	竈状	N-11°-W	—		
13	065-650-065-645	7.2	0.4	0.2	0.3	竈状	N-78°-E	—		
13号溝L字		13.2								
14	085-670-040-625	69.8	0.4	0.2	0.2	竈状	北 N-45°-W	—		
15	040-640-065-645	29.0	1.0	0.4	0.8	逆台形	N-3°-W	陶磁3, 埴塔4		
15	065-645-070-615	29.3	1.0	0.4	0.8	逆台形	N-85°-E	瓦1, 石1		
15号溝L字		58.3								
16	030-635-065-640	37.6	0.7	0.3	0.7	U字状	北 N-3°-W	—		
17	060-605-070-615	17.0	1.5	0.4	0.5	逆台形	N-45°-W	—		
18	060-600-060-610	15.0	1.0	0.3	0.6	逆台形	N-50°-W	—		
19	045-595-060-610	13.3	1.3	0.4	0.6	V字	N-86°-E	陶磁1, 石1		
19	050-610-070-620	22.0	1.5	0.3	0.9	V字	N-8°-W	—		
19号溝L字		35.3								
20	035-610-070-620	39.6	2.3	0.6	0.9	逆台形	N-15°-W	埴塔6, 瓦1, 石21		
22	045-640-065-640	19.2	1.0	0.3	0.6	U字状	N-8°-W	—		
23	050-635-065-620	16.0	0.4	0.2	0.2	竈状	N-60°-E	—		
25	025-680-045-675	21.0	1.0	0.4	0.4	竈状	N-16°-E	埴塔2, 石2		
25	040-645-045-675	31.8	1.5	0.5	0.3	竈状	N-82°-W	—		
25号溝方形		52.8								
29	025-680-040-675	20.2	0.7	0.3	0.2	竈状	N-22°-E	—		
30	015-670-040-675	29.0	0.4	0.2	0.2	竈状	N-17°-W	—		
32	025-640-030-620	24.8	3.1	0.8	1.3	U字状	N-89°-W	—		
34.1	034-616-048-618	17.5	0.8	0.5	0.4	竈状	N-15°-W	—		
34.2	034-616-048-618	17.5	0.7	0.3	0.2	竈状	N-15°-W	—		
35	040-595-070-600	31.3	1.3	0.4	0.5	逆台形	N-10°-W	—		
36	080-655-085-665	16.2	0.5	0.3	0.1	竈状	N-65°-W	—		
37	080-650-090-685	11.8	1.4	0.6	0.6	U字状	N-23°-W	—		
38	080-645-090-645	12.8	0.7	0.2	0.4	U字状	N-13°-W	—		

3 掘立柱建物跡

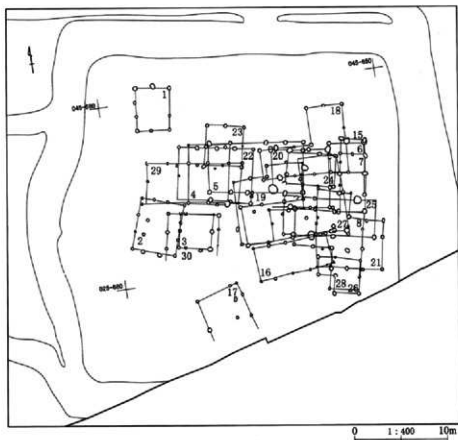
本遺跡より検出した掘立柱建物跡は30棟である。本遺跡は1号・35号溝に区画される中世城館跡に記される大区画と、大区画の北西側に位置する5号溝による方形区画で構成されている。この5号溝区画内に24棟、区画外に5棟が検出した。5号溝内に80%の掘立柱建物跡が集中する居住域と考えられる。その分布は中央及び東側にあり、これらを囲むように井戸が分布している。掘立柱建物跡の柱穴の他に、多数のピットが検出した。第90図～第95図に1/100の縮率で平面図を掲載し、第80表にピット計測表を提示した。表には確認面の標高を記し深さを表わした。掘立柱建物跡及び、ピットの確認面はAs-C混黑色土面である。ピットの覆土はロームブロック混じりの人為的な埋土である。なお、掘立柱建物跡の計測は計画線を用いて表した。

5号溝区画内掘立柱建物跡（第74図、P.L. 9・10）

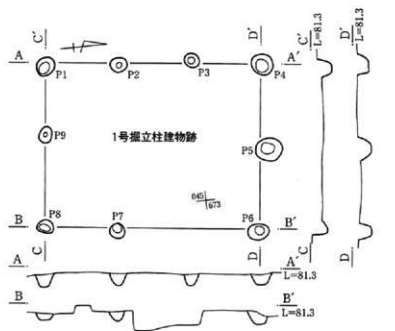
写真図版は、5号溝内では個別写真が困難であったため、PL.9の「5号溝内遺構群」を参照されたい。

1号掘立柱建物跡（第75図）

045-674に位置する、5号溝区内北西に単独である。周辺には、南3.5mに29号掘立柱建物跡南東4mに23号掘立柱建物跡が位置している。平面形は長方形を呈す個柱式である。棟方向は南北を示し、方位はN-7°Eである。規模は、桁行3間（南北長4.59m）、梁行2間（東西長3.59m）で、面積は16.48㎡（5坪）を測る。柱穴は9本検出した。平面形は円形で、しっかりした掘方を持つ。確認面からの深さは最大値で26cm、最小値で8cmを測り、平均22.3cmである。桁間北辺のP5は北寄りにある。西辺のP2とP4の中間にP3が穿かれている。P3の対にあたる位置の、P6とP7の間は51号土坑により確認できなかった。柱間寸法は桁方



第74図 5号溝内掘立柱建物跡分布図

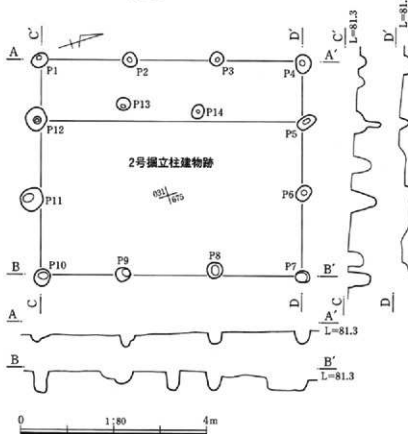


第21表 1号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	40	40	25	
2	円形	36	30	26	
3	円形	32	30	26	
4	円形	48	44	24	
5	円形	60	50	20	
6	円形	46	34	19	
7	円形	32	30	24	
8	円形	36	32	14	
9	円形	36	26	8	

第22表 1号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.57	P6-P7	3.05
P2-P3	1.55	P7-P8	1.54
P3-P4	1.47	P8-P9	2.00
P4-P5	1.84	P9-P1	1.58
P5-P6	1.75		



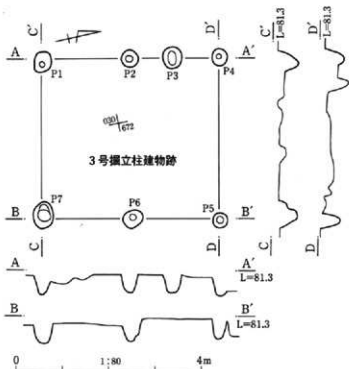
第23表 2号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	32	28	15	
2	円形	30	30	25	
3	円形	30	30	24	
4	円形	40	32	24	
5	円形	42	24	21	
6	円形	34	28	25	
7	円形	30	24	22	
8	円形	34	32	39	
9	円形	30	30	15	
10	円形	34	32	46	
11	円形	50	48	51	
12	円形	52	44	57	
13	円形	32	30	26	
14	円形	34	28	25	

第24表 2号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.90	P9-P10	1.82
P2-P3	1.85	P10-P11	1.70
P3-P4	1.83	P11-P12	1.69
P4-P5	1.31	P12-P1	1.31
P5-P6	1.54	P12-P13	1.78
P6-P7	1.83	P13-P14	1.60
P7-P8	1.84	P14-P5	2.24
P8-P9	1.90		

第75図 1号・2号掘立柱建物跡平・断面図



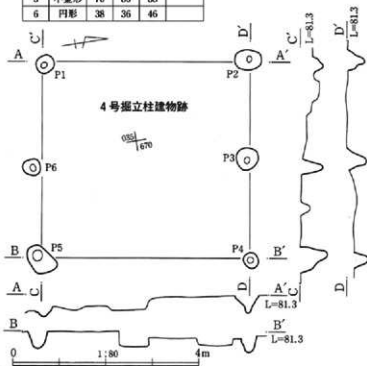
3号獨立柱建物跡

第27表 4号獨立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	40	38	22	
2	円形	56	44	36	
3	円形	48	48	34	
4	円形	32	32	34	
5	不整形	70	50	38	
6	円形	38	36	46	

第28表 4号獨立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P 1 - P 2	4.44	P 4 - P 5	4.44
P 2 - P 3	2.12	P 5 - P 6	2.00
P 3 - P 4	2.16	P 6 - P 1	2.29



4号獨立柱建物跡

第25表 3号獨立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	44	34	43	
2	円形	40	38	39	
3	円形	48	42	34	
4	円形	38	32	33	
5	円形	32	32	42	
6	円形	40	38	46	
7	円形	58	44	44	

第26表 3号獨立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P 1 - P 2	1.89	P 5 - P 6	1.85
P 2 - P 3	0.93	P 6 - P 7	1.95
P 3 - P 4	1.00	P 7 - P 1	3.50
P 4 - P 5	3.50		

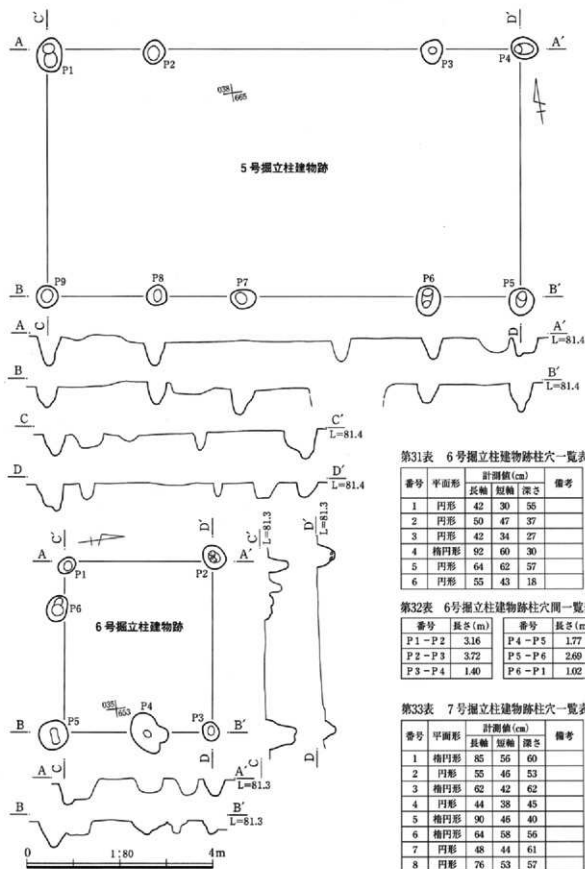
第29表 5号獨立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	楕円形	74	54	64	
2	円形	53	46	50	
3	円形	50	46	46	
4	円形	56	47	32	
5	円形	58	52	65	
6	円形	65	50	42	
7	円形	55	42	55	
8	円形	45	42	48	
9	円形	48	45	43	

第30表 5号獨立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P 1 - P 2	2.27	P 6 - P 7	3.96
P 2 - P 3	5.97	P 7 - P 8	1.80
P 3 - P 4	1.87	P 8 - P 9	2.34
P 4 - P 5	5.39	P 9 - P 1	5.40
P 5 - P 6	2.00		

第76図 3号・4号獨立柱建物跡平・断面図



第77図 5号・6号獨立柱建物跡平・断面図

向で平均1.53m、梁方向で1.8mである。遺物は出土されなかった。

2号掘立柱建物跡 (第75図)

031-676に位置する。5号溝区画内中央西寄りにある。北辺で29号、東辺で3号・30号掘立柱建物跡と接する。平面形は長方形を呈し、西に庇を持つ側柱式である。棟方向は南北を示し、方位はN-18°-Eである。規模は、桁行3間(南北長5.56m)、梁行2間(東西長3.39m)で、庇を含む総面積は26.1㎡を測る。柱穴は14本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で57cm、最小値で15cmを測り、平均30cmである。柱穴は、規則性を持ち配置されている。柱間寸法は桁方向で平均1.86m、梁方向で1.69mである。庇は本体西辺を使い1間×3間である。東西長1.31m、柱間は本体と同じ。遺物は出土されなかった。

3号掘立柱建物跡 (第76図)

030-672に位置する。5号溝区画内中央にある。30号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。周辺には北に4号掘立柱建物跡、西に2号掘立柱建物跡が接する。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-11°-Eである。規模は、桁行2間(南北長3.82m)、梁行1間(東西長3.50m)で、面積は13.4㎡を測る。柱穴は7本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で46cmを測り、最小値で33cm、平均40cmである。規則的な配置であるが、西辺のP2とP4の間にP3が穿かれる。柱間寸法は桁方向で平均1.9m、梁方向で3.5mである。

4号掘立柱建物跡 (第76図)

036-665に位置する。5号溝区画内中央にある。5号・29号・22号掘立柱建物跡と重複関係にある。新旧関係は不明である。平面形は正方形を呈し、側柱式である。棟方向は南北を示し、方位はN-10°-Wである。規模は、桁行1間(南北長4.44m)、梁行2間(東西長4.28m)で、面積は19.0㎡を測る。2間×2間の可能性もあるが、東辺及び西辺の中央部は82号土坑により不明である。柱穴は6本検出した。平面形は円形、最大値で46cmを測り、最小値は上層を削平されたP1の22cmで、平均35.0cmとなるが、柱穴底面のレベルはほぼ水平である。柱穴は規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均4.44m、梁方向で2.14mである。

5号掘立柱建物跡 (第77図)

036-665に位置する。5号溝区画内中央にある。18号・19号・20号・22号・23号・24号・29号掘立柱建物跡と重複関係を示すが、新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈す、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-8°-Eである。規模は、桁行4間(東西長10.12m)、梁行1間(南北長5.4m)で、面積は54.65㎡を測る。柱穴は9本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で65cmを測り、平均49cmである。柱穴は規則的な配置を示す。柱間寸法は桁方向で平均2.0m、梁方向で5.4mである。この桁平均間隔は、P1-P2、P3-P4、P5-P6、P7-P8、P8-P9の平均値である。P6-P7間の平均値には30号井戸が位置している。またP2-P3間は等間隔に2本の存在が考えられる。このことから桁行5間の可能性も示唆される。

6号掘立柱建物跡 (第77図)

036-654に位置する。5号溝区画内東側にある。7号・15号・18号掘立柱建物跡と重複関係を示すが、新旧関係は不明である。平面形は方形を呈す、側柱式である。棟方向は南北を示し、方位はN-7°-Eである。規模は、桁行2間(南北長3.16m)、梁行2間(東西長3.72m)で、面積は11.8㎡を測る。柱穴は6本検出した。平面形は円形で、P2の底面に準大の礎2個が検出した。確認面からの深さは最大値で55cmを測り、平均37.3cmである。東辺の中央北側にP4が穿かれる。南辺のP1~P5の三分割の西側にP6が穿かれている。2間×3間の可能性もある。柱間寸法は桁方向で平均1.6m、梁方向は3間として1.2mである。

第34表 7号掘立柱建物跡柱穴一覽表

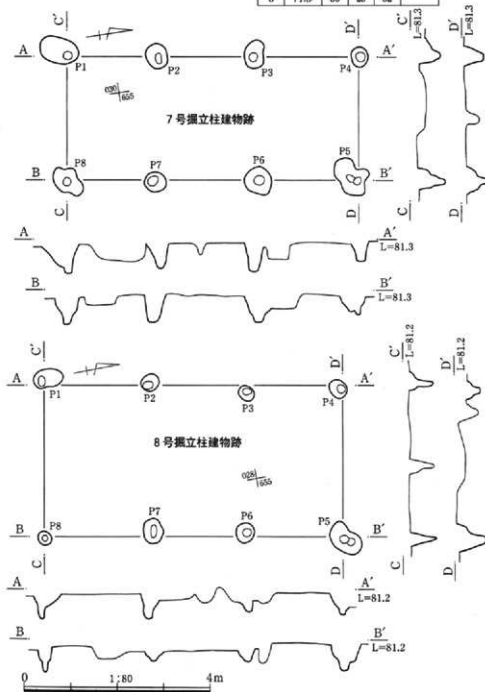
番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.96	P5-P6	2.22
P2-P3	2.04	P6-P7	2.26
P3-P4	2.23	P7-P8	1.84
P4-P5	2.20	P8-P1	2.69

第35表 8号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	64	40	55	
2	円形	40	37	52	
3	円形	35	30	38	
4	円形	41	34	46	
5	不整形	78	45	58	
6	円形	45	40	30	
7	円形	55	42	20	
8	円形	30	28	52	

第36表 8号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)
P1-P2	2.24
P2-P3	2.07
P3-P4	2.06
P4-P5	3.32
P5-P6	2.07
P6-P7	1.96
P7-P8	2.33
P8-P1	3.32



第78図 7号・8号掘立柱建物跡平・断面図

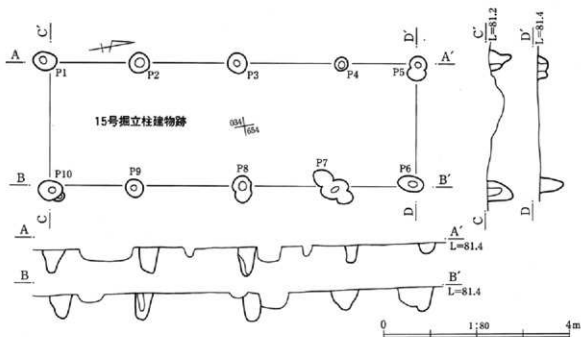
第38表 15号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)
P1-P2	1.92
P2-P3	2.10
P3-P4	2.22
P4-P5	1.60
P5-P6	2.68
P6-P7	1.72
P7-P8	2.00
P8-P9	2.24
P9-P10	1.88
P10-P1	2.66

第40表 15号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)
P1-P2	1.70
P2-P3	1.84
P3-P4	3.90
P4-P5	0.60
P5-P6	1.60
P6-P7	1.70
P7-P8	0.38
P8-P9	0.34
P9-P10	1.86
P10-P11	1.94
P11-P12	1.94
P12-P13	1.54
P13-P1	3.58

第3章 検出された遺構・遺物

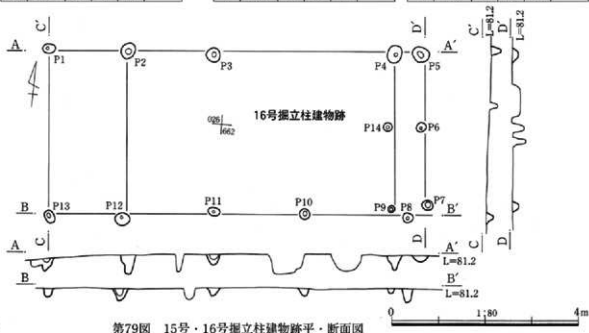


第37表 15号掘立柱建物跡柱穴一覧表

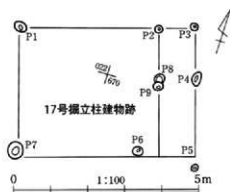
番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	50	40	48	
2	円形	46	40	58	
3	円形	44	40	62	
4	円形	30	30	40	
5	円形	50	34	40	
6	円形	54	34	54	
7	楕円形	54	30	40	
8	円形	58	38	62	
9	円形	40	38	62	
10	円形	50	44	60	

第39表 16号掘立柱建物跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	26	18	22	
2	円形	34	30	40	
3	円形	30	30	22	
4	円形	38	22	32	
5	円形	38	34	7	
6	円形	26	22	27	
7	円形	24	22	45	
8	円形	22	20	26	
9	円形	12	10	14	
10	円形	24	22	24	
11	円形	26	16	17	
12	円形	32	28	26	
13	円形	26	20	14	
14	円形	20	18	19	



第79図 15号・16号掘立柱建物跡平・断面図



第41表 17号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	30	26	26	
2	円形	30	24	9	
3	円形	22	18	26	
4	楕円形	38	24	12	
5	円形	28	22	15	
6	円形	28	24	20	
7	円形	48	42	26	
8	円形	30	26	21	
9	円形	32	28	22	

第42表 17号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

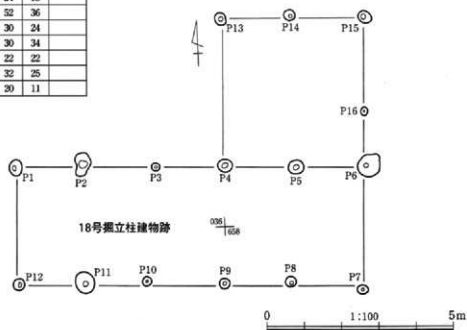
番号	長さ(m)
P1-P2	3.90
P2-P3	0.80
P3-P4	1.40
P4-P5	2.42
P5-P6	1.50
P6-P7	3.20
P7-P1	3.24
P2-P8	1.00
P9-P6	1.40

第43表 18号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	44	34	40	
2	不整形	64	34	40	
3	円形	24	22	48	
4	円形	38	36	36	
5	円形	42	38	56	
6	円形	62	60	40	
7	円形	32	26	26	
8	円形	32	28	56	
9	円形	28	28	16	
10	円形	24	24	18	
11	円形	60	52	36	
12	円形	32	30	24	
13	円形	34	30	34	
14	円形	38	22	22	
15	円形	38	32	25	
16	円形	22	20	11	

第44表 18号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.82	P10-P11	1.64
P2-P3	1.90	P11-P12	1.80
P3-P4	1.86	P12-P1	3.24
P4-P5	1.92	P13-P14	1.80
P5-P6	1.78	P14-P15	1.96
P6-P7	3.24	P15-P16	2.52
P7-P8	1.90	P16-P6	1.56
P8-P9	1.82	P6-P4	3.76
P9-P10	2.10	P4-P13	4.06



第80図 17号・18号掘立柱建物跡平面図

7号掘立柱建物跡 (第78図)

033-654に位置する。5号溝区画内東側にある。6号・8号・15号・21号・28号掘立柱建物跡と重複関係を示す。P1は15号掘立P1、P2は15号掘立P2・21号掘立P15、P4は15号掘立P4、P7は15号掘立P9、P8は8号掘立P5・15号掘立P10・28号掘立P6と重複する。15号掘立柱建物跡とは4本が重複している。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈す、側柱式である。棟方向は南北を示し、方位はN-10°-Eである。規模は、桁行3間(南北長6.23m)、梁行1間(東西長2.69m)で、面積は16.8㎡を測る。柱穴は8本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で62cmを測り、平均54cmである。柱穴は規則的な配置である。P1・P5・P8は小布張り状を呈する。柱間寸法は桁方向で平均2.1m、梁方向で2.7mである。

8号掘立柱建物跡 (第78図)

028-655に位置する。5号溝区画内東側にある。15号・21号・25号・26号・28号掘立柱建物跡と重複関係を示す。P1は28号掘立P2、P2は28号掘立P3、P3は28号掘立P4、P4は28号掘立P5、P5は7号掘立P8・15号掘立P10・28号掘立P6と重複する。特に28号掘立柱建物跡の柱穴とは4本が重複している。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は南北を示し、方位はN-10°-Eである。規模は、桁行3間(南北長6.37m)、梁行1間(東西長3.32m)で、面積は21.2㎡を測る。柱穴は8本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で58cmを測り、平均44cmである。P1とP5は小布張り状である。柱穴は規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均2.1m、梁方向で3.3mである。

15号掘立柱建物跡 (第79図)

034-654に位置する。5号溝区画内東側にある。7号・8号・18号・21号・27号・28号掘立柱建物跡と重複関係を示す。P1は7号掘立P1、P2は7号掘立P2・21号掘立P15、P4は7号掘立P4、P8は6号掘立P5、7号掘立P6、P9は7号掘立P7、P10は7号掘立P8、8号掘立P5、28号掘立P6と重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は南北を示し、方位はN-10°-Eである。規模は、桁行4間(南北長7.84m)、梁行1間(東西長2.66m)で、面積20.9㎡を測る。柱穴は8本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で58cmを測り、平均44cmである。柱穴は規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均2.0m、梁方向で2.7mである。

16号掘立柱建物跡 (第79図)

026-662に位置する。5号溝区画内中央南東に位置する。21号・25号・26号・27号掘立柱建物跡と重複関係にあり、P8は21号掘立P9と重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、東・西に庇を持つ。方位はN-84°-Eである。規模は、桁行3間(東西長5.74m)、梁行2間(南北長3.58m)である。東側は0.60m、西側は1.70mの庇が付く。庇を含めた総面積28.8㎡を測る。柱穴は14本検出した。平面形は円形で、規模に大小はあるが、覆土はロームブロックを多く含む土である。確認面からの深さは最大値で45cmを測り、平均24cmである。全体的に規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均1.9m、梁方向で1.8mである。

17号掘立柱建物跡 (第80図)

022-670に位置する。5号溝区画内中央南側に単独で位置する。周辺には北東2.5mに16号掘立柱建物跡がある。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-75°-Eである。規模は、東に庇を持つ桁行1間(東西長3.9m)、梁行2間(南北長3.82m)で、庇を入れた総面積18.0㎡を測る。柱穴は7本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で26cmを測り、平均20cmである。東辺がやや斜になるが、庇前面で西辺と平行する。東辺に0.8mの幅の庇が付く。柱間寸法は桁方向で平均3.24m、梁方向

第45表 19号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	22	20	3	
2	円形	36	34	18	
3	円形	34	30	22	
4	円形	48	38	14	
5	円形	26	22	35	
6	円形	50	42	56	
7	円形	18	16	15	
8	円形	36	32	11	
9	円形	28	22	32	
10	円形	32	30	21	
11	円形	32	28	17	
12	円形	28	26	16	
13	円形	28	26	16	
14	円形	18	16	10	
15	円形	28	26	14	
16	円形	20	18	14	
17	円形	38	36	22	
18	円形	52	28	42	

第46表 19号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.50	P9-P10	1.74
P2-P3	1.80	P12-P13	2.14
P3-P4	2.14	P13-P14	1.74
P4-P5	1.54	P9-P16	1.44
P5-P6	2.14	P15-P16	2.10
P6-P7	1.58	P3-P12	1.40
P7-P8	1.74	P15-P17	3.42
P8-P9	2.00	P17-P18	1.82

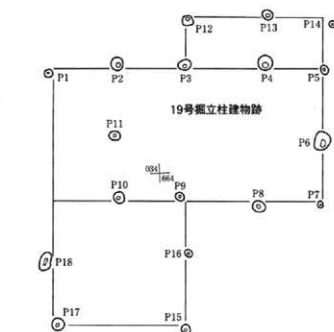
第47表 20号掘立柱建物跡柱穴一覽表

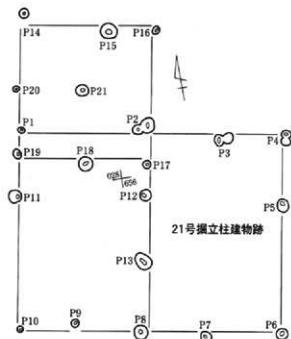
番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	66	44	19	
2	円形	60	42	37	
3	円形	44	40	50	
4	円形	58	52	44	
5	円形	40	36	42	
6	円形	32	30	17	
7	円形	30	28	15	
8	円形	54	50	18	

第48表 20号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	2.00	P5-P6	2.20
P2-P3	2.08	P6-P7	2.10
P3-P4	2.12	P7-P8	2.12
P4-P5	4.20		

第81図 19号・20号掘立柱建物跡平面図



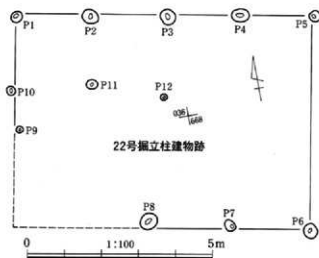


第49表 21号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	22	18	27	
2	円形	40	38	36	
3	円形	26	20	20	
4	円形	24	20	20	
5	円形	38	32	46	
6	円形	32	30	47	
7	円形	30	28	8	
8	円形	40	34	16	
9	円形	20	19	26	
10	円形	18	16	13	
11	円形	34	32	36	
12	円形	32	30	36	
13	円形	50	34	40	
14	円形	28	26	32	
15	円形	48	42	38	
16	円形	22	18	15	
17	円形	28	26	35	
18	円形	40	38	47	
19	円形	24	22	15	
20	円形	18	16	29	
21	円形	36	34	50	

第50表 21号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ (m)
P1 - P2	3.54
P2 - P3	1.86
P3 - P4	1.80
P4 - P5	1.82
P5 - P6	3.60
P6 - P7	2.06
P7 - P8	1.76
P8 - P9	1.74
P9 - P10	1.36
P10 - P11	3.58
P11 - P1	1.86
P2 - P17	0.80
P17 - P12	0.86
P12 - P13	1.84
P13 - P8	1.86
P14 - P15	2.32
P15 - P16	1.28
P16 - P17	3.64
P17 - P18	1.72
P18 - P19	1.82
P19 - P20	1.90
P20 - P14	2.08
P20 - P21	1.70



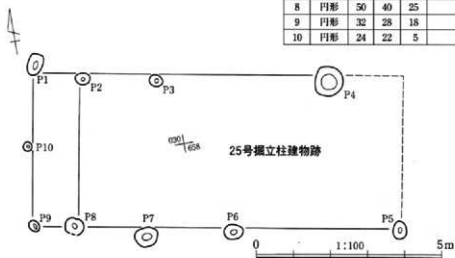
第51表 22号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	32	30	19	
2	円形	42	40	38	
3	円形	44	38	49	
4	円形	48	38	41	
5	円形	32	30	42	
6	円形	40	38	19	
7	円形	34	28	26	
8	円形	48	46	35	
9	円形	20	18	20	
10	円形	26	22	15	
11	円形	30	28	34	
12	円形	16	16	11	

第52表 22号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ (m)	番号	長さ (m)
P1 - P2	2.00	P7 - P8	2.30
P2 - P3	2.10	P9 - P10	1.08
P3 - P4	1.90	P10 - P1	2.12
P4 - P5	1.98	P10 - P11	2.02
P5 - P6	5.86	P11 - P12	2.12
P6 - P7	2.00		

第82図 21号・22号掘立柱建物跡平面図



第83図 23号・24号・25号掘立柱建物跡平面図

第53表 23号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	38	36	20	
2	円形	38	36	14	
3	円形	36	30	13	
4	円形	14	12	10	
5	円形	38	36	93	
6	円形	22	20	12	
7	円形	50	30	29	
8	円形	38	36	42	
9	円形	34	30	52	

第55表 24号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	44	32	37	
2	円形	46	44	35	
3	円形	38	28	28	
4	円形	30	28	54	
5	円形	40	32	30	
6	円形	18	16	24	
7	円形	32	30	26	
8	円形	48	32	41	

第57表 25号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値 (cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	楕円形	58	38	45	
2	円形	38	34	50	
3	円形	34	32	50	
4	円形	80	72	33	
5	円形	48	38	46	
6	円形	50	40	26	
7	円形	64	52	37	
8	円形	50	40	25	
9	円形	32	28	18	
10	円形	24	22	5	

第54表 23号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ (m)
P1 - P2	2.00
P2 - P3	2.04
P3 - P4	2.04
P4 - P5	2.34
P5 - P6	2.06
P6 - P7	1.98
P7 - P8	2.16
P8 - P9	2.00
P8 - P1	2.22

第56表 24号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ (m)
P1 - P2	1.62
P2 - P3	1.90
P3 - P4	1.72
P4 - P5	3.38
P5 - P6	1.70
P6 - P7	1.66
P7 - P8	1.90
P8 - P1	3.38

第58表 25号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ (m)
P1 - P2	1.30
P2 - P3	1.98
P3 - P4	4.64
P5 - P6	4.50
P6 - P7	2.30
P7 - P8	1.94
P8 - P9	1.10
P9 - P10	2.14
P10 - P1	2.04
P8 - P2	4.10

第3章 検出された遺構・遺物

で3.9mである。

18号掘立柱建物跡 (第80図)

036-658に位置する。5号溝区画内北東にある。5号・6号・15号・19号・20号・24号・27号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。柱穴はP5が6号掘立柱P2、P8は6号掘立柱P1と重複する。平面形は長方形を呈し、北側に張出を持つ、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-87°-Wである。規模は、桁行5間(東西長9.28m)、梁行1間(南北長3.24m)で、張出は2間(東西長3.76m)×2間(南北長4.08m)である。張出を含め総面積42.4㎡を測る。柱穴は16本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で56cmを測り、平均33cmである。全体的に規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均1.86m、梁方向で3.24mである。

19号掘立柱建物跡 (第81図)

032-664に位置する。5号溝区画内中央にある。18号・20号・22号・24号・25号・27号・28号・29号掘立柱建物跡と重複関係にあり、P6が5号掘立柱P5と重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、北に庇を持ち、南側に張出を持つ、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-86°-Wである。規模は、桁行4間(東西長7.38m)、梁行2間(南北長3.72m)で、張出は1間(東西長3.42m)×2間(南北長3.54m)、庇は2間(東西長3.68m)×1間(南北長1.4m)である。本体・張出・庇を含む総面積は44.8㎡を測る。柱穴は18本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で56cmを測り、平均21cmである。柱間寸法は桁方向で平均1.85m、梁方向で1.86mである。張出部東西の柱間平均は1.77mを測る。

20号掘立柱建物跡 (第81図)

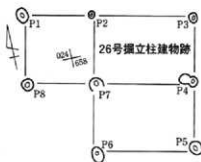
034-660に位置する。5号溝区画内中央にある。18号・19号・21号・24号・25号・27号・28号掘立柱建物跡と重複関係にある。新旧関係は不明である。平面形は正方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-8°-Eである。規模は、桁行3間(東西長6.2m)、梁行3間(南北長6.4m)である。面積39.7㎡を測る。東辺P5に対になる西辺部には30号井戸があり井戸縁に柱穴状の換れが見られた。柱穴は8本検出した。平面形は円形で、しっかりした掘方を持つ。確認面からの深さは最大値で50cmを測り、平均30cmである。柱間寸法は桁方向で平均2.07m、梁方向で3.2mである。

21号掘立柱建物跡 (第82図)

028-656に位置する。5号溝区画内東縁にある。15号・16号・20号・25号・26号・27号・28号掘立柱建物跡と重複し、P9が16号掘立柱P8、P15が7号掘立柱P2・15号掘立柱P2と重複する。新旧関係は不明である。平面形は正方形を呈す側柱式で、北側に張出か別棟か正方形の総柱式がある。棟方向は東西を示し、方位はN-77°-Wである。規模は桁行4間(東西長6.92m)、梁行3間(南北長5.42m)である。面積37.5㎡を測る。北西部の張出は桁行2間(東西長3.54m)、梁行2間(南北長3.96m)、面積14.0㎡を測る。総柱式である。本体・張出を含め柱穴は21本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で58cmを測り、平均31cmである。規則的な配置である。柱間寸法は本体部は桁方向で平均2.4m、梁方向で1.85mである。張出・別棟は桁方向で平均1.8m、梁方向で1.99mである。

22号掘立柱建物跡 (第82図)

036-668に位置する。5号溝区画内中央にある。19号・23号・29号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈す、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-79°-Wである。規模は、桁行4間(東西長7.98m)、梁行2間(南北長5.86m)で、面積46.8㎡を測る。柱穴は12本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で49cmを測り、平均29cmである。規則的な配置である。柱間寸法は



第59表 26号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	40	30	51	
2	円形	20	18	45	
3	円形	28	22	15	
4	円形	28	24	43	
5	円形	36	34	40	
6	楕円形	44	32	28	
7	円形	38	36	31	
8	円形	34	32	40	

第60表 26号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

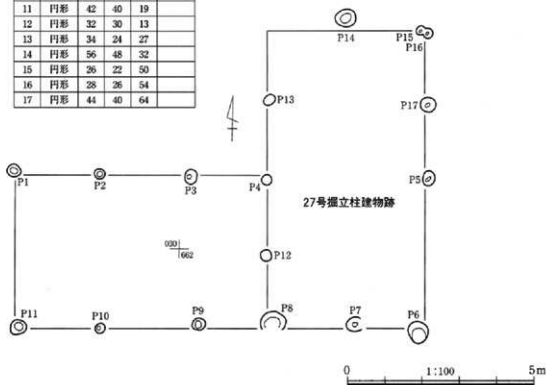
番号	長さ(m)
P1 - P2	1.86
P2 - P3	2.64
P3 - P4	1.74
P4 - P5	1.84
P6 - P7	1.90
P7 - P12	1.84
P5 - P6	2.64
P7 - P8	1.88
P8 - P1	1.90

第61表 27号掘立柱建物跡柱穴一覽表

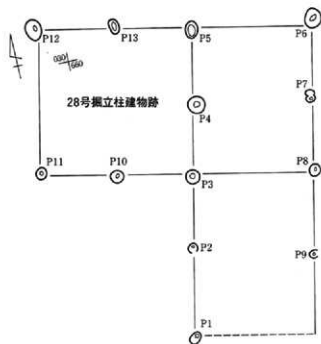
番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	40	34	32	
2	円形	32	30	15	
3	円形	40	32	5	
4	円形	30	28	25	
5	円形	40	34	27	
6	円形	60	64	22	
7	円形	40	38	29	
8	円形	70	50	34	
9	円形	38	32	29	
10	円形	28	26	29	
11	円形	42	40	19	
12	円形	32	30	13	
13	円形	34	24	27	
14	円形	56	48	32	
15	円形	26	22	50	
16	円形	28	26	54	
17	円形	44	40	64	

第62表 27号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1 - P2	2.26	P10 - P11	2.26
P2 - P3	2.38	P11 - P1	4.20
P3 - P4	2.10	P4 - P12	2.18
P4 - P5	4.26	P12 - P8	2.00
P5 - P6	4.16	P4 - P13	2.04
P6 - P7	1.70	P14 - P15	1.98
P7 - P8	2.38	P15 - P16	0.16
P8 - P9	1.86	P16 - P17	2.00
P9 - P10	2.68	P17 - P15	2.00



第84図 26号・27号掘立柱建物跡平面図



第64表 28号掘立柱建物跡柱穴間一覧表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1 - P2	2.12	P8 - P9	2.30
P2 - P3	2.28	P3 - P10	2.02
P3 - P4	1.96	P10 - P11	2.10
P4 - P5	2.10	P11 - P12	4.00
P5 - P6	3.26	P12 - P13	2.02
P6 - P7	1.84	P13 - P5	2.06
P7 - P8	2.10		



第85図 28号・29号掘立柱建物跡平面図

第63表 28号掘立柱建物跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	38	28	35	
2	円形	42	40	10	
3	円形	40	38	56	
4	円形	48	46	49	
5	円形	48	34	53	
6	円形	56	42	60	
7	円形	26	20	28	
8	円形	36	32	23	
9	円形	26	24	46	
10	円形	36	34	38	
11	円形	36	30	13	
12	円形	58	46	41	
13	円形	48	34	99	

第65表 29号掘立柱建物跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	40	38	24	
2	円形	24	20	33	
3	円形	34	32	20	
4	円形	38	32	34	
5	円形	28	26	21	
6	円形	38	36	55	
7	円形	38	32	32	
8	円形	32	28	22	
9	円形	32	26	25	
10	円形	22	16	18	
11	円形	28	24	13	
12	円形	22	18	29	
13	円形	58	40	64	
14	円形	36	32	52	
15	円形	32	30	17	
16	円形	22	16	18	

第66表 29号掘立柱建物跡柱穴間一覧表

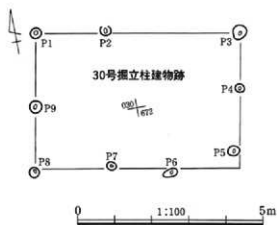
番号	長さ(m)
P1 - P2	2.16
P2 - P3	2.30
P3 - P4	2.06
P4 - P5	2.34
P5 - P6	4.36
P6 - P7	2.30
P7 - P8	2.12
P8 - P9	2.18
P9 - P10	2.80
P10 - P11	2.50
P11 - P1	1.94
P12 - P13	2.22
P13 - P14	2.20
P14 - P5	2.10
P3 - P12	2.02
P5 - P15	1.34
P15 - P16	4.30
P16 - P6	1.00

第67表 30号掘立柱建物跡柱穴一覽表

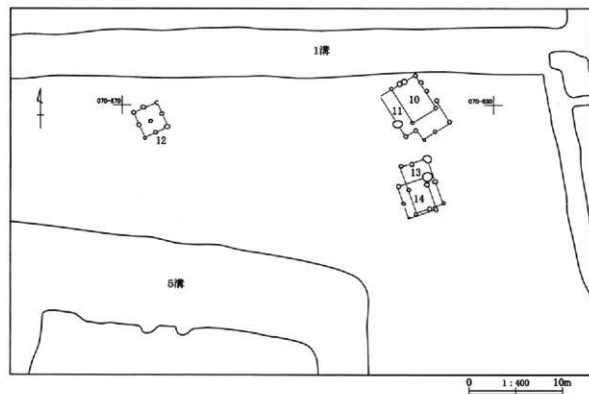
番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	30	28	15	
2	円形	28	26	44	
3	円形	40	36	38	
4	円形	24	22	25	
5	円形	30	28	80	
6	円形	42	20	22	
7	円形	26	22	14	
8	円形	30	28	36	
9	円形	34	32	9	

第68表 30号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	長さ(m)
P1-P2	1.88
P2-P3	3.62
P3-P4	1.50
P4-P5	1.72
P5-P6	1.68
P6-P7	1.64
P7-P8	2.04
P8-P9	1.72
P9-P1	1.98



第86図 30号掘立柱建物跡平面図



第87図 5号溝外掘立柱建物跡分布図

桁方向で平均2.0m、梁方向で1.95mである。

23号掘立柱建物跡（第83図）

039-667に位置する。5号溝区画内中央にある。5号・22号・29号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。平面形は正方形を呈し、総柱式である。方位はN-12°-Eである。規模は、桁行2間（東西長4.04m）、梁行2間（南北長4.38m）で、面積17.7㎡を測る。柱穴は9本検出した。平面形は円形で、しっかりした掘り方を持つ。確認面からの深さは最大値はP5の93cmを測り、平均31.7cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均2.0m、梁方向で2.19mである。

24号掘立柱建物跡（第83図）

035-658に位置する。5号溝区画内東側にある。5号・18号・19号・20号・27号掘立柱建物跡と重複する。P1が20号掘立柱P2、P4が27号掘立柱P16が重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-76°-Wである。規模は、桁行3間（東西長5.24m）、梁行1間（南北長3.38m）で、面積17.7㎡を測る。柱穴は8本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で54cmを測り、平均34cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均1.75m、梁方向で3.38mである。

25号掘立柱建物跡（第83図）

030-658に位置する。5号溝区画内東側にある。5号・15号・16号・19号・20号・21号・27号・28号掘立柱建物跡と重複し、P1が5号掘立柱P6と重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、西に庇を持つ。方位はN-79°-Wである。規模は、桁行4間（東西長8.74m）、梁行1間（南北長4.18m）で、庇は西側1.1m広がる。庇を含む総面積は41.1㎡を測る。柱穴は10本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で50cmを測り、平均33cmである。東側が土坑群により不明なところもある。また、P4と対になる南辺と、P6と対になる北辺の柱穴が予想され、規模的には桁方向4間の可能性がある。4間×1間を想定した柱間寸法は桁方向で平均2.2m、梁方向で4.1mである。

26号掘立柱建物跡（第84図）

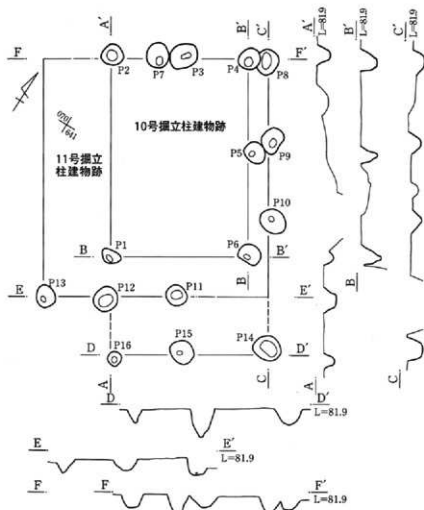
023-657に位置する。5号溝区画内南東にある。8号・16号・21号・28号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。西側に庇をもつ。棟方向は東西を示し、方位はN-13°-Eである。規模は、桁行1間（東西長2.64m）、梁行2間（南北長3.58m）で、西側1.88mの庇がある。1間（東西長1.8m）×1間（南北長1.8m）の方形を呈する。庇を含む総面積13.0㎡を測る。柱穴は8本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で51cmを測り、平均37cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均2.64m、梁方向で1.8mである。

27号掘立柱建物跡（第84図）

031-660に位置する。5号溝区画内東側にある。5号・15号・16号・18号・19号・20号・21号・24号・25号・28号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。平面形はL字形を呈する、側柱式である。棟方向は東西を示し、北に張出を持つ。方位はN-89°-Eである。規模は、桁行5間（東西長10.88m）、梁行2間（南北長4.2m）。張出は東辺を延長し、2間（東西長4.2m）×2間（南北長3.8m）、面積16㎡である。総面積は61.7㎡である。柱穴は17本検出した。平面形は円形で、浅い掘り方である。確認面からの深さは最大値で64cmを測るが、最小は5cmであり、平均で32cmとなる。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均2.2m、梁方向で2.1mである。

28号掘立柱建物跡（第85図）

028-658に位置する。5号溝区画内南東にある。7号・8号・15号・16号・19号・20号・21号・25号・26

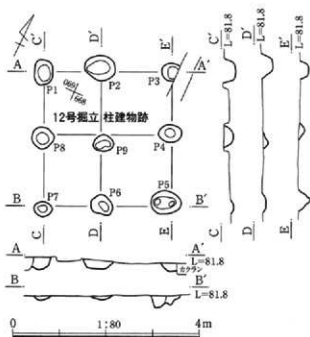


第70表 10号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)
P1 - P2	4.30
P2 - P3	1.57
P3 - P4	1.37
P4 - P5	2.05
P5 - P6	2.25
P6 - P1	2.95

第72表 11号掘立柱建物跡柱穴間一覽表

番号	長さ(m)
P7 - P8	2.37
P8 - P9	1.83
P9 - P10	1.63
P11 - P12	1.47
P12 - P13	1.40
P14 - P15	1.90
P15 - P16	1.50
P16 - P12	1.26



第69表 10号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	45	30	18	
2	円形	47	46	30	
3	円形	60	55	25	
4	円形	47	47	36	
5	円形	50	42	37	
6	円形	50	38	43	

第71表 11号掘立柱建物跡柱穴一覽表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
7	円形	48	42	28	
8	円形	53	48	47	
9	円形	55	42	25	
10	円形	60	50	27	
11	円形	54	49	22	
12	円形	45	44	48	
13	円形	54	52	24	
14	円形	62	55	32	
15	円形	50	47	52	
16	円形	32	31	30	

第88図 10号・11号・12号掘立柱建物跡平・断面図

第73表 12号掘立柱建物跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	56	40	27	
2	円形	65	55	22	
3	円形	40	40	20	
4	円形	50	48	13	
5	円形	65	50	27	
6	円形	48	36	7	
7	円形	40	33	10	
8	円形	47	47	20	
9	円形	46	44	12	

第74表 12号掘立柱建物跡柱穴間一覧表

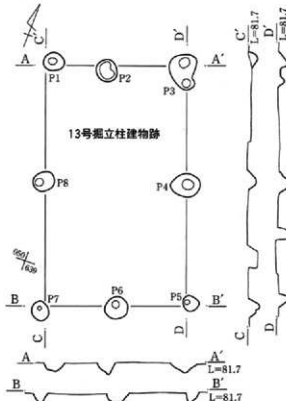
番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.21	P6-P7	1.21
P2-P3	1.51	P7-P8	1.57
P3-P4	1.37	P8-P1	1.36
P4-P5	1.54	P8-P9	1.21
P5-P6	1.52	P9-P4	1.52

第75表 13号掘立柱建物跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	45	40	17	
2	円形	47	42	25	
3	円形	58	49	20	
4	円形	62	52	24	
5	円形	35	32	22	
6	円形	50	50	26	
7	円形	42	35	20	
8	円形	46	42	18	

第76表 13号掘立柱建物跡柱穴間一覧表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P1-P2	1.28	P5-P6	1.50
P2-P3	1.74	P6-P7	1.50
P3-P4	2.53	P7-P8	2.72
P4-P5	2.70	P8-P1	2.54

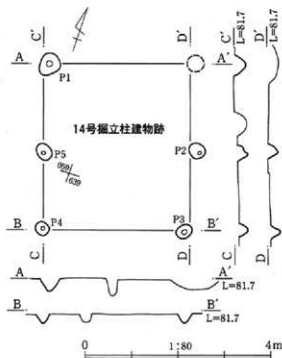


第77表 14号掘立柱建物跡柱穴一覧表

番号	平面形	計測値(cm)			備考
		長軸	短軸	深さ	
1	円形	48	45	27	
2	円形	34	32	23	
3	円形	34	30	20	
4	円形	30	28	20	
5	円形	38	32	22	

第78表 14号掘立柱建物跡柱穴間一覧表

番号	長さ(m)	番号	長さ(m)
P2-P3	1.70	P4-P5	1.70
P3-P4	3.12	P5-P1	1.93



第89図 13号・14号掘立柱建物跡平・断面図

号・27号掘立柱建物跡と重複し、P2が8号掘立P1、P3が8号掘立P12、P4が8号掘立P3、P5が8号掘立P4、P6が8号掘立P5・7号掘立P8・15号掘立P10が重複する。新旧関係は不明である。平面形はL字形を呈し、側柱式である。棟方向は南北を示し、西に張出を持つ。方位はN-12°-Eである。規模は、桁行1間（東西長3.26m）、梁行4間（南北長8.46m）で、張出は、2間（南北長4.0m）×2間（東西長4.08m）の方形を成す。張出の面積は16.3㎡を測り、総面積は、43.9㎡である。柱穴は13本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で99cmを測り、平均44cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で3.26m、梁方向で2.12mである。張出部の柱間は平均2.0mを測る。

29号掘立柱建物跡（第85図）

036-670に位置する。5号溝区画内中央にある。2号・5号・19号・22号・23号掘立柱建物跡と重複関係にあり、P4が4号掘立P3、P5が4号掘立P4、P6が4号掘立P5、P8が4号掘立P1、P9が2号掘立P6、P13が5号掘立P1、P14が5号掘立P2が重複する。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、東と北に庇を持つ。棟方向は東西を示す、側柱式である。方位はN-81°-Wである。規模は、桁行4間（東西長8.86m）、梁行2間（南北長4.3m）である。東の庇は南北長4.3m、東西長1.34m、北側の庇は1間（南北長2.2m）×2間（東西長4.42m）を測る。総面積53.6㎡を測る。柱穴は16本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で64cmを測り、平均34cmである。柱間寸法は桁方向で平均2.4m、梁方向で2.2mである。

30号掘立柱建物跡（第86図）

030-672に位置する。5号溝区画内中央にある。2号・3号掘立柱建物跡と重複関係にある。新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示す。方位はN-80°-Wである。規模は、桁行3間（東西長5.5m）、梁行2間（南北長3.7m）で、面積20.4㎡を測る。柱穴は9本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で80cmを測り、平均32cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均1.8m、梁方向で1.85mである。

5号溝区画外掘立柱建物跡（第87図）

10号掘立柱建物跡（第88図、P L.10）

070-639に位置する。5号溝区画外北東にある。11号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-32°-Eである。規模は、桁行2間（南北長4.3m）、梁行2間（東西長2.95m）で、面積12.7㎡を測る。柱穴は6本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で43cmを測り、平均31.5cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均2.2m、梁方向で1.5mである。

11号掘立柱建物跡（第88図、P L.10）

039-667に位置する。5号溝区画外北東にある。10号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は正方形を呈し南に庇を持つ。側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-32°-Eである。規模は、桁行2間（南北長5.2m）、梁行2間（東西長4.84m）である。南の庇は南北長1.26m、東西長3.4mを測る。総面積は29.3㎡を測る。柱穴は10本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で52cmを測り、平均34cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均1.45m、梁方向で1.7mである。

12号掘立柱建物跡（第88図、P L.10）

069-677に位置する。5号溝区画外北にある。周辺の掘立柱建物跡は東25mに10号・11号掘立柱建物跡がある。平面形は正方形を呈し、側柱式である。方位はN-23°-Wである。規模は、桁行2間（東西長2.72m）、

第3章 検出された遺構・遺物

梁行2間(南北長2.91m)で、面積7.9㎡を測る。柱穴は9本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で27cmを測り、平均17.6cmと浅いがプランははっきり確認できた。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均1.36m、梁方向で1.46mである。

13号掘立柱建物跡(第89図。P.L.10)

061-638に位置する。5号溝区画外東にある。14号掘立柱建物跡と重複する。周辺には10号・11号掘立柱建物跡が北3mに位置する。平面形は長方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-20°-Eである。規模は、桁行2間(東西長3.0m)、梁行2間(南北長5.23m)で、面積15.7㎡を測る。柱穴は8本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で26cmを測り、平均21.5cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均1.5m、梁方向で2.6mである。

14号掘立柱建物跡(第89図。P.L.10)

060-638に位置する。5号溝区画外にある。13号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明である。平面形は正方形を呈し、側柱式である。棟方向は東西を示し、方位はN-19°-Eである。規模は、桁行2間(東西長3.12m)、梁行2間(南北長3.63m)で、面積11.3㎡を測る。柱穴は5本検出した。平面形は円形で、確認面からの深さは最大値で27cmを測り、平均22.4cmである。規則的な配置である。柱間寸法は桁方向で平均3.12m、梁方向で1.82mである。

第79表 掘立柱建物跡一覧表

番号	グリッド	5溝内外	規模 桁×梁(間)	桁梁(m) (計測線測値)		母屋面積 ㎡	主軸方位	形態	備考
				東西	南北				
1	045-674	内	3×2	3.59	4.59	16.48	N-7°-E	側柱	
2	031-676	内	3×2	3.39	5.56	18.85	N-18°-E	側柱	庇
3	030-672	内	2×1	3.50	3.82	13.37	N-11°-E	側柱	
4	036-665	内	1×2	4.28	4.44	19.00	N-10°-W	側柱	
5	036-665	内	4×1	10.12	5.40	54.65	N-8°-E	側柱	
6	036-654	内	2×2	3.72	3.16	11.76	N-7°-E	側柱	
7	033-654	内	3×1	2.69	6.23	16.76	N-10°-E	側柱	
8	028-655	内	3×1	3.32	6.37	21.15	N-10°-E	側柱	
10	070-639	外	2×2	2.95	4.30	12.69	N-32°-E	側柱	
11	070-639	外	2×2	4.82	5.20	25.06	N-32°-E	側柱	庇
12	069-667	外	2×2	2.72	2.91	7.92	N-23°-E	側柱	
13	061-638	外	2×2	3.00	5.23	15.69	N-20°-E	側柱	
14	060-638	外	2×2	3.12	3.63	11.33	N-19°-E	側柱	
15	034-654	内	4×1	2.66	7.84	20.85	N-10°-E	側柱	
16	026-662	内	3×2	5.74	3.58	20.55	N-84°-E	側柱	庇
17	022-670	内	1×2	3.90	3.82	14.90	N-75°-E	側柱	庇
18	036-658	内	5×1	9.28	3.24	30.07	N-87°-W	側柱	張出
19	032-664	内	4×2	7.38	3.72	27.45	N-86°-W	側柱	張出・庇
20	034-660	内	3×3	6.20	6.40	39.68	N-8°-E	側柱	
21	028-656	内	4×3	6.92	5.42	37.51	N-77°-W	側柱	張出
22	036-668	内	4×2	7.98	5.86	46.76	N-79°-W	側柱	
23	039-667	内	2×2	4.04	4.38	17.70	N-12°-E	側柱	
24	035-658	内	3×1	5.24	3.38	17.71	N-76°-W	側柱	
25	030-658	内	4×1	8.74	4.18	36.53	N-79°-W	側柱	庇
26	023-657	内	1×2	2.64	3.58	9.45	N-13°-E	側柱	庇
27	031-660	内	5×2	10.88	4.20	45.70	N-89°-E	側柱	張出
28	028-658	内	1×4	3.26	8.46	27.58	N-12°-E	側柱	張出
29	036-670	内	4×2	8.86	4.30	38.10	N-81°-W	側柱	庇
30	030-672	内	3×2	5.50	3.70	20.35	N-80°-W	側柱	

ビット群

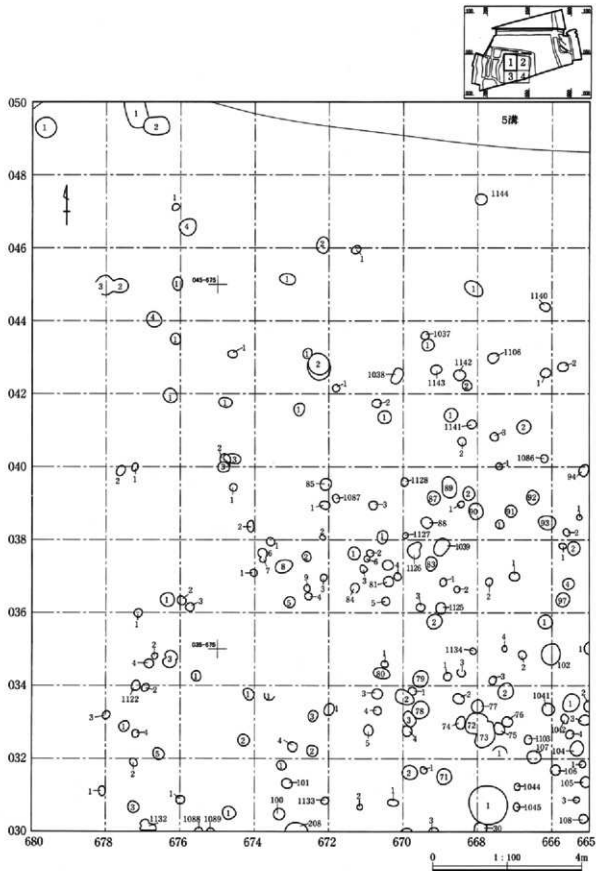
本遺跡より検出した柱穴及びビットは1448本である。これらの中で最深は265号ビットの124cmであり、平均24cmである。5号溝区画内のビットの集中は掘立柱建物跡と同様であるが、特に東及び中央に集中が見られる。ビットの覆土はロームブロック混土である。このロームブロック混土は溝・井戸・土坑等に見られる覆土と同様で、人為的埋土である。この覆土内から近世の陶磁器片が出土した。20号ビットは、この区画内にあり唯一近世ではなく古墳時代の遺物が出土した遺構である。5号溝区画外では、5号溝北東側に10号～14号の掘立柱建物跡があり、ビットの集中する地点であるが、区画外は全体的に散漫である。5号溝区画外は古墳～平安時代の遺構も確認されており、ビット覆土内からは近世以前の遺物片も少量出土している。256号ビットからは土師器片が重なるように出土した。

5号溝区画内の掘立柱建物跡と井戸の数量はほぼ同数なのに比べ、5号溝区画外は井戸の数量に対し掘立柱建物跡は1/5程度と極めて少ない。大区画内の北西に位置する5号溝の区画と、5号溝区画の東側に当たる地域との土地利用の違いは、今回調査の「中屋敷」北側部分では解明されない、今後の中屋敷南側の調査に期待される。

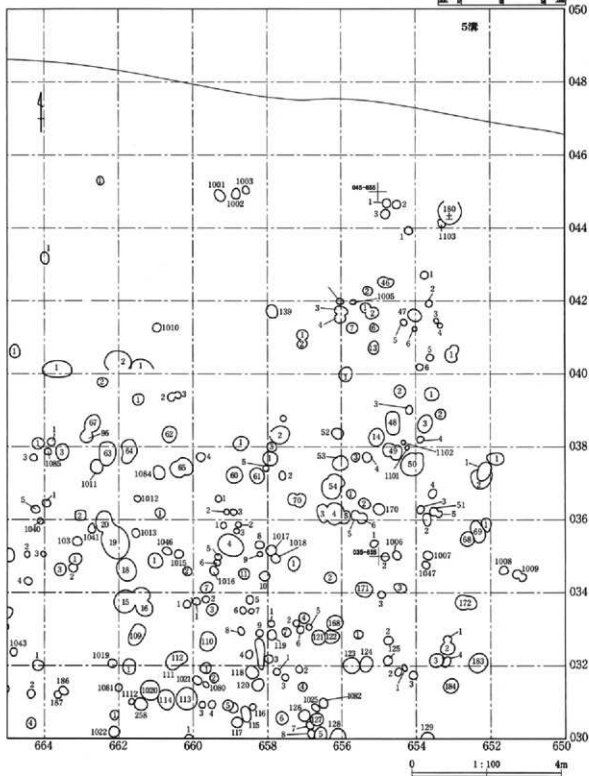
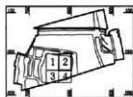
第90図～第95図は、ビットの集中地域を1/100の縮率で掲載した。各図の位置は頁右上の調査区全体図の割り図を参照されたい。図中に波線で2mの方眼が表し、2mグリッドを設定した。この2mグリッド内のビットの計測を行い表80に掲載した。図及び表の見方は、南北の線が600番台を表し、東西が000番台を表す。方眼の南東隅をグリッド名とする。例えば第90図左下付近に035-675の+がある地点は034-674のグリッドに当たり、表80中の「グリッド034-674」「番号1」「標高、深さ」「備考2掘立P5」となる。このビットは2号掘立柱建物のP5であることを表わした。また、土坑A類に分類した土坑も本図及び表に掲載されている。計測値の単位は上場・下場は標高でm、深さはcmで表わす。

第80表 ビット一覧表

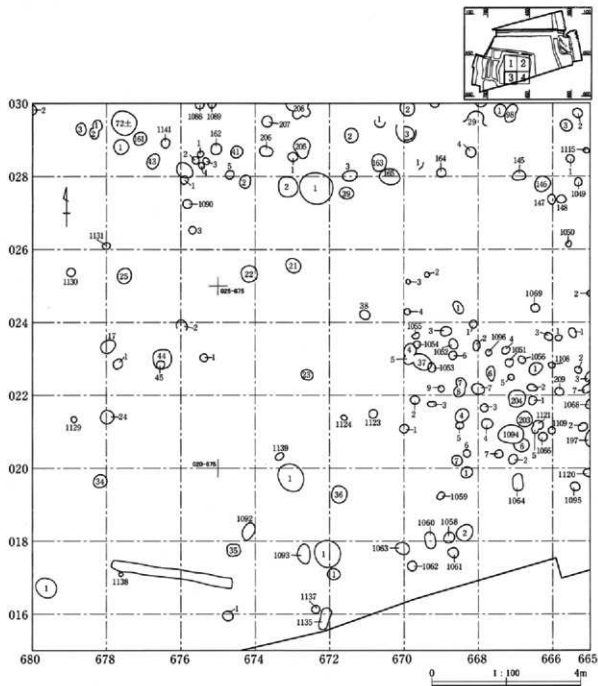
グリッド	番号	計測値(上・下場m)		備考	グリッド	番号	計測値(上・下場m)		備考	グリッド	番号	計測値(上・下場m)		備考	
		上場	下場				上場	下場				上場	下場		
014-672	1135	80.67	80.65	22	030-654	1	80.94	80.70	15	030-668	3	81.03	80.97	6	
014-674	1091	80.81	80.65	16	030-654	178	80.98	80.56	40	26掘立P5	030-668	4	81.05	80.84	21
014-690	1	80.12	79.93	19	030-654	1034	80.95	80.74	21	030-668	5	81.03	80.72	31	
016-668	1061	80.99	80.89	10	030-654	221土	81.03	80.75	28	030-668	6	81.02	80.87	15	
016-668	1062	80.99	80.39	60	030-656	1	80.96	80.56	40	030-668	7	81.03	80.76	27	
016-670	1	81.02	80.82	20	030-656	177	80.99	80.44	56	17掘立P6	030-670	1123	80.93	80.81	12
016-670	1063	80.97	80.48	49	030-656	1035	80.94	80.46	48	030-670	1124	81.01	80.82	19	
016-672	1060	80.99	80.78	21	030-656	212土坑	80.84	80.56	28	26掘立P6	030-672	1139	80.91	80.74	17
016-672	1137	80.87	80.76	11	030-658	1	80.96	80.61	35	26掘立P1	030-675	24	80.75	80.38	40
016-672	92土坑	81.02	80.76	26	030-662	1	81.09	80.88	21	030-678	1129	80.94	80.52	42	
016-674	1	81.00	80.91	9	030-662	2	81.09	80.95	14	030-680	26	80.90	80.71	19	
016-674	35	80.99	80.76	23	030-662	191	81.10	80.84	26	030-680	32	80.90	80.58	32	
016-676	1138	80.76	80.60	16	030-662	192	81.10	80.87	23	032-652	1	81.04	80.86	18	
016-678	82土坑	80.75	80.19	56	030-664	1	81.05	80.13	92	032-652	2	81.04	80.57	47	
018-662	1	81.01	80.77	24	030-664	2	81.05	80.21	84	21掘立P6	032-652	169	81.00	80.70	20
018-662	2	81.01	80.84	17	030-664	195	81.08	80.92	16	032-652	179	80.93	80.48	43	
018-662	3	81.01	80.95	6	030-664	196	81.06	80.83	23	032-652	180	80.92	80.65	27	
018-662	4	81.01	80.90	11	030-664	197	81.05	80.72	33	032-654	1	81.06	80.50	56	
018-664	1	81.00	80.87	13	030-664	1965	81.03	80.82	21	032-654	2	81.07	80.61	46	
018-664	2	80.98	80.89	9	030-664	1968	81.05	80.73	32	26掘立P2、26掘立P9	032-654	3	81.00	80.57	43
018-664	1095	80.94	80.78	16	030-664	1968	81.05	80.85	20	032-654	4	81.07	80.99	8	
018-664	1129	81.01	80.83	18	030-666	1	81.05	80.21	84	032-654	5	81.07	80.93	14	
018-666	1064	80.97	80.62	35	030-666	2	81.03	80.88	15	032-654	141	81.00	80.43	57	
018-668	1	81.00	80.91	9	030-666	3	81.05	80.65	40	032-654	1079	81.04	80.82	22	
018-668	2	80.99	80.87	92	030-666	4	81.04	80.88	16	032-656	1	81.07	80.91	16	
018-668	1058	80.98	80.83	15	030-666	5	81.01	80.80	8	032-656	2	81.08	80.98	10	
018-668	1059	80.97	80.80	17	030-666	6	81.00	80.92	8	032-656	3	81.09	80.87	42	
018-668	1060	80.97	80.86	31	030-666	7	80.98	80.82	16	032-656	150	81.08	80.98	10	
018-670	36	80.99	80.87	32	17掘立P7	032-666	203	81.03	80.68	25	032-656	175	80.87	80.36	31
018-672	92土坑	81.03	80.88	15	030-666	204	81.05	80.84	21	032-656	1003	80.96	80.62	34	
018-674	1092	80.98	80.75	23	030-666	1094	81.01	80.57	44	032-656	1006	81.02	80.77	25	
018-678	34	80.97	80.68	19	030-666	1109	80.98	80.76	12	032-658	1	81.08	80.90	18	
018-680	65土坑	80.79	80.72	7	030-668	1	81.09	80.83	13	032-658	2	81.08	80.96	12	
020-632	1	80.94	80.73	21	030-668	2	81.03	80.94	9	032-658	3	81.08	80.92	16	



第90図 5号溝内ピット平面図1/4

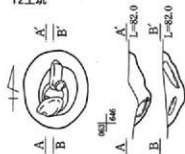


第91図 5号溝内ピット平面図2/4

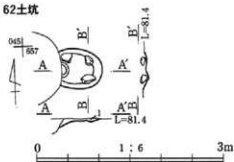


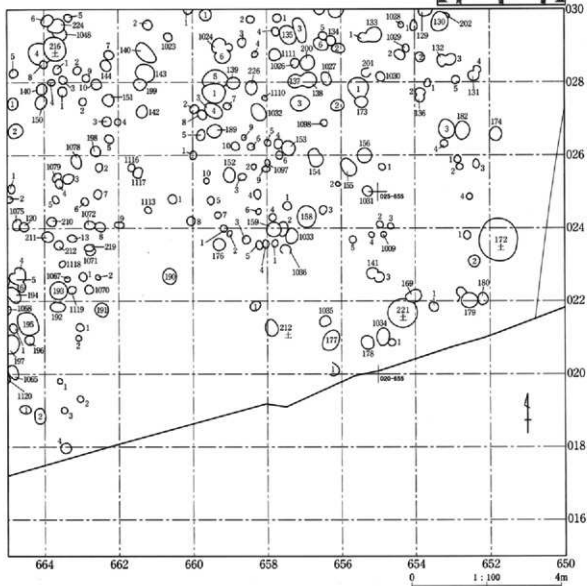
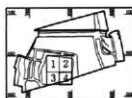
第92図 5号溝内ビット平面図3/4

12土坑

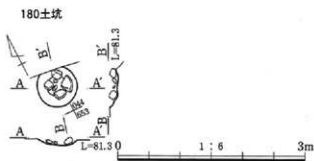
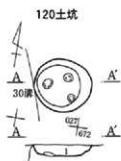


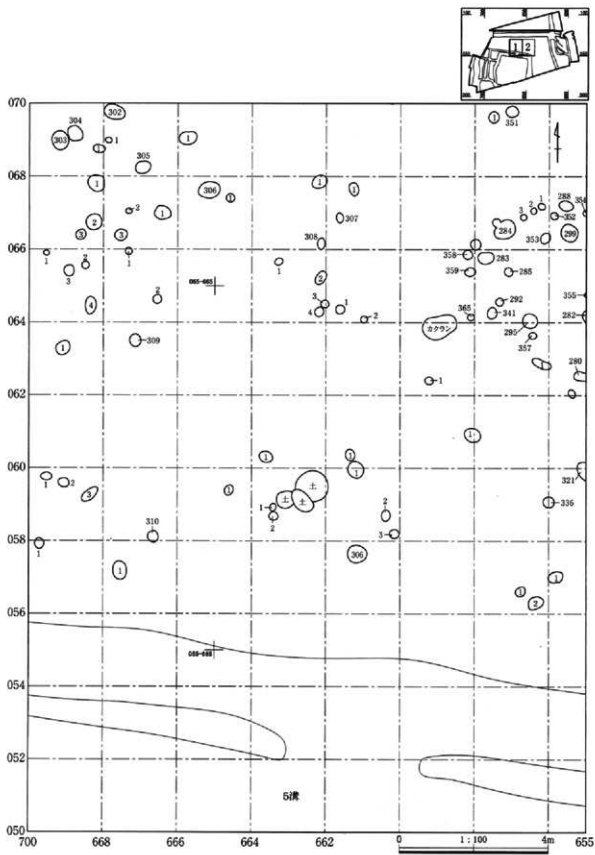
62土坑



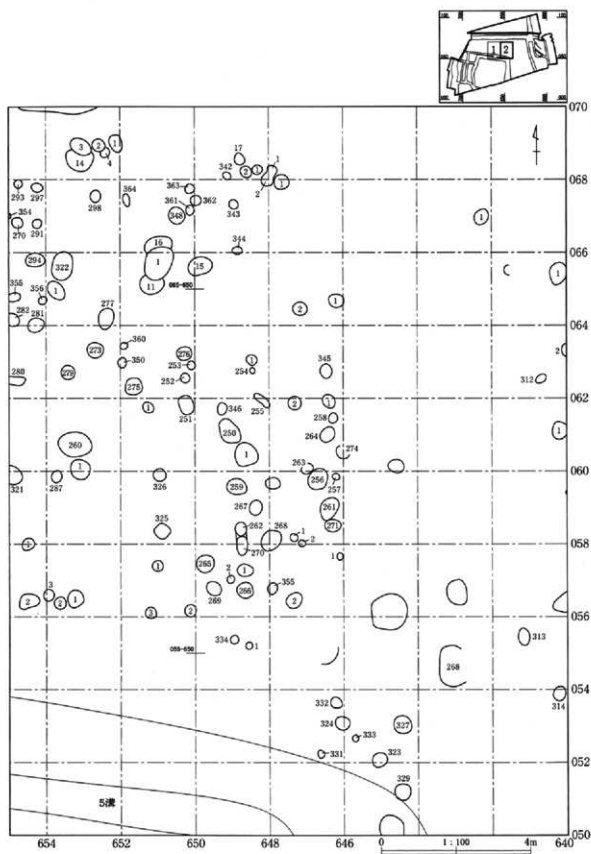


第93図 5号溝内ピット平面図4/4





第94図 5号溝外ピット平面図1/2



第95図 5号溝外ピット平面図2/2

第3章 検出された遺構・遺物

グリッド	番号	計測値(上・下層m)			備考	グリッド	番号	計測値(上・下層m)			備考	グリッド	番号	計測値(上・下層m)			備考
		上層	下層	深さ				上層	下層	深さ				上層	下層	深さ	
023458	1	81.07	80.95	12		024606	1097	81.09	81.03	6		025658	1110	81.14	81.06	8	
023458	5	81.07	80.87	20		024608	1	81.14	81.02	12		025660	1	81.14	81.08	6	
023458	176	81.08	80.68	40	26層立P6	024608	2	81.13	80.96	17		025660	142	80.49	80.36	13	28層立P11
023460	190	80.89	80.63	26		024608	3	81.13	81.00	13		025660	199	81.17	80.88	29	27層立P9
023462	1	81.11	80.93	19		024608	4	81.13	80.89	24		025662	1	81.15	81.01	14	19層立P15
023462	2	81.11	80.47	64		024608	5	81.13	80.90	23	28層立P6	025662	2	81.15	80.88	27	
023462	3	81.12	80.34	78		024608	6	81.13	80.99	14	16層立P9	025662	3	81.15	80.98	17	2層立P10
023462	193	81.10	80.99	11		024608	7	81.13	81.00	13	21層立P10	025662	4	81.15	81.07	8	
023462	211	81.12	80.86	26	16層立P12	024608	8	81.13	80.89	24	16層立P10	025662	5	81.16	81.00	16	16層立P3
023462	212	81.12	80.82	30		024608	9	81.07	81.03	4		025662	151	81.16	80.95	21	16層立P3
023462	219	81.12	80.85	27		024608	10	81.13	81.06	7		025662	198	81.16	80.78	38	
023462	1067	81.09	80.75	34		024608	132	81.13	80.82	31	26層立P1	025664	1	81.12	80.95	17	
023462	1070	81.02	80.81	21		024660	1	81.13	80.81	32		025664	2	81.11	80.94	17	
023462	1071	81.09	80.80	29		024660	1113	81.05	80.94	11		025664	148	81.09	80.76	33	16層立P1
023462	1118	81.08	80.94	24		024660	1118	81.10	80.90	20		025664	149	81.12	80.83	29	16層立P10
023462	1119	81.07	80.77	30		024660	1117	81.09	80.93	16		025664	150	81.14	80.75	39	16層立P2
023464	1	81.05	80.91	14	16層立P13	024662	1	81.23	81.02	21		025664	1049	81.08	80.84	23	
023464	2	80.38	80.36	2		024662	2	81.23	80.93	30		025664	1050	81.06	80.83	12	
023464	3	80.38	80.34	4		024662	3	81.10	81.03	7		025666	146	81.00	80.81	19	27層立P11
023464	4	81.09	80.71	38		024662	4	81.10	80.92	18		025666	147	81.00	80.86	14	
023464	5	81.09	80.74	35		024662	5	81.10	81.03	7		025670	1	81.12	80.77	35	
023464	6	81.10	80.74	36		024662	6	81.10	80.90	20		025670	39	81.15	80.99	16	
023464	7	81.08	80.74	34		024662	7	81.14	81.06	8		025672	2	80.88	80.85	3	
023464	194	81.08	80.43	65		024662	8	81.11	80.77	34		025672	120	81.13	81.09	4	
023464	209	80.94	80.65	29		024662	9	81.09	80.82	17	16層立P11	025674	1	81.14	80.87	27	
023466	1	81.05	80.96	9		024662	210	81.13	80.82	31		025674	2	81.21	80.75	46	2層立P10
023466	2	81.05	80.89	16		024662	1072	81.09	80.96	13		025674	3	81.21	81.00	21	
023466	3	81.03	80.89	14		024662	1077	81.08	80.91	17		025674	1090	81.08	80.86	22	
023466	4	81.00	80.86	14		024662	1078	81.09	80.96	11		025678	1131	80.92	80.90	2	
023466	5	81.03	80.81	22		024664	1	81.12	80.99	13		025680	1	81.27	81.22	5	
023466	6	81.04	80.92	12	17層立P4	024664	2	81.12	80.91	21		025686	3	81.27	81.19	8	
023466	7	81.05	80.79	26		024664	229	81.11	80.85	26		025686	3	81.27	81.21	6	
023466	1021	81.02	80.85	17		024664	1075	81.07	80.85	22		025686	4	81.24	81.19	5	
023466	1056	81.02	80.77	25		024666	1069	81.05	80.85	20		025686	5	81.18	81.12	6	
023466	1096	81.04	80.88	12		024668	1	81.04	80.77	27		025690	1	80.96	80.76	20	21層立P4
023466	1108	80.95	80.87	8		024668	2	81.04	80.91	13		025690	2	80.98	80.65	33	
023466	1	81.04	80.74	30	17層立P2	024668	3	81.04	80.97	7		025692	1	81.14	80.96	18	
023466	2	81.05	80.91	14		024668	4	81.05	80.95	10		025692	2	81.24	81.06	18	
023466	3	81.04	80.95	9	17層立P2	024670	38	81.01	80.84	17		025692	3	81.15	80.96	19	
023466	4	81.04	80.82	22		024672	21	81.06	80.94	14		025692	4	81.11	80.71	40	
023466	5	81.05	80.87	18		024674	22	80.84	80.44	40		025692	5	81.11	81.04	7	
023466	6	81.04	80.85	19		024676	25	81.00	80.95	5		025692	130	81.14	80.84	60	7層立P6・8層立P5・15層立P10・28層立P2
023466	7	81.03	80.82	21	17層立P5	024678	1130	80.96	80.81	15		025692	131	81.11	80.63	46	
023466	8	81.04	80.82	25	17層立P9	024686	28	80.90	80.27	59		025692	132	81.14	80.87	27	21層立P3
023466	9	81.04	80.92	12		025690	174	81.10	80.64	46	21層立P5	025692	202	81.13	80.73	40	15層立P11
023466	37	81.04	80.61	43		025692	1	81.15	80.70	45		025694	2	81.14	80.72	42	
023466	1082	81.02	80.80	22		025692	2	81.00	80.72	28	28層立P7	025694	2	81.15	80.91	24	
023466	1083	81.01	80.74	27		025692	3	81.06	81.01	5		025694	133	81.14	80.78	36	21層立P2
023466	1084	81.03	80.80	23		025692	4	81.14	81.04	10		025694	201	81.09	80.74	35	21層立P7
023466	1085	81.01	80.87	14		025692	136	81.00	80.90	10	8層立P6	025694	1028	81.10	80.91	19	
023472	29	81.01	80.70	31	12土坑・17層立P1	025692	182	81.13	80.67	46	25層立P5	025694	1029	81.11	80.76	32	
023474	2	80.99	80.80	19		025692	183	81.06	81.01	5		025694	1030	81.10	80.90	21	
023476	17	81.02	80.93	9		025694	1	81.07	80.85	23	27層立P6	025696	1	81.15	80.98	17	
023478	44	81.02	80.91	11		025694	173	81.07	80.71	36	21層立P12	025696	2	81.13	80.96	17	
023478	45	80.92	80.72	20		025696	1	81.17	81.02	15	16層立P5	025696	3	81.14	81.04	10	
023480	27	80.93	80.53	40		025696	2	81.01	80.91	10		025696	4	81.16	81.02	14	
024632	1	81.09	80.94	15		025696	3	81.16	80.90	26	25層立P6	025696	5	81.13	80.96	17	
024632	2	81.09	81.08	4		025696	4	81.11	80.84	27		025696	6	81.13	80.97	16	
024632a	3	81.09	80.91	18		025696	5	81.13	81.00	13		025696	134	81.13	80.65	48	
024632	4	81.09	80.82	27		025696	6	81.11	80.84	27	16層立P6	025696	135	81.14	80.86	28	
024634	1	81.09	80.94	15		025696	153	81.11	80.55	56	8層立P2・28層立P3	025696	137	81.17	80.88	29	22層立P7
024634	2	81.10	81.01	9		025696	1098	81.03	80.94	9		025696	138	81.06	80.67	49	8層立P3・28層立P4
024634	3	81.10	80.91	19		025698	1	81.16	80.79	37	25層立P7	025696	200	81.15	80.68	47	
024634	4	81.09	80.94	15	26層立P3	025698	2	81.07	80.87	20		025696	1026	81.11	80.91	20	
024634	5	80.95	80.70	25	8層立P7	025698	3	81.15	80.86	29		025696	1027	81.03	80.95	8	
024634	155	81.09	80.69	40	21層立P13	025698	4	81.15	80.98	17		025696	1111	81.11	80.97	14	
024634	156	81.07	80.94	43	21土坑	025698	5	81.14	80.91	23		025696	1	81.15	81.02	13	27層立P12
024634	1031	81.05	80.89	16		025698	6	81.13	81.00	13		025696	2	81.16	80.89	27	21層立P1
024636	1	81.10	80.95	45	16層立P7	025698	8	81.13	80.83	21		025696	3	81.15	81.09	12	21層立P9
024636	2	81.10	80.80	30		025698	9	81.13	80.92	21		025696	4	81.14	81.00	17	
024636	3	81.01	80.85	16		025698	10	81.13	80.96	17		025696	5	81.14	80.96	24	27層立P9
024636	4	81.08	80.82	26	16層立P9・21層立P9	025698	189	81.09	80.51	58	28層立P10	025696	6	81.10	80.91	19	16層立P4
024636	5	81.10	80.65	45	26層立P2	025698	226	81.17	81.01	16	16層立P4	025696	139	81.16	80.80	36	22層立P11
024636	134	81.09	80.55	54		025698	302	81.08	80.83	25		025696	1024	81.12	80.86	26	
024636	158	81.08	80.62	46													

第4節 中・近世以降

グリッド	番号	計測点(上・下層m) 上層 下層 備考	備考	グリッド	番号	計測点(上・下層m) 上層 下層 備考	備考
028-660	1	81.18 81.12 6		030-656	127	81.15 80.68 50	21観立P21
028-660	2	81.20 80.80 40		030-656	128	81.15 80.57 61	7観立P1・15観立P1
028-660	140	81.17 80.91 26	25観立P6	030-656	1025	81.13 80.95 15	
028-660	143	81.17 80.92 25	25観立P6	030-656	1082	81.14 81.01 13	
028-660	1023	81.15 80.77 38		030-658	1	81.23 80.98 25	27観立P4
028-662	1	81.12 81.08 11		030-658	2	81.23 81.03 20	
028-662	2	81.11 81.04 11		030-658	3	81.20 81.05 15	19観立P7
028-662	3	81.12 81.04 11		030-658	4	81.20 81.05 15	
028-662	4	81.12 80.93 19		030-658	5	81.19 81.08 11	20観立P7
028-662	5	81.12 80.98 14	19観立P16	030-658	115	81.17 80.19 59	26観立P13
028-662	6	81.10 80.91 19		030-658	116	81.17 80.58 29	21観立P20
028-662	7	81.17 80.90 24		030-658	117	81.17 80.75 41	
028-662	8	81.10 80.92 18		030-658	118	81.22 80.72 30	25観立P3
028-662	9	81.17 81.07 10		030-658	120	81.22 80.87 35	
028-662	10	81.17 81.04 13		030-658	1021	81.20 81.05 15	
028-662	144	81.17 80.99 18	25観立P9	030-658	1080	81.19 81.03 16	
028-662	221	81.12 80.95 17		030-658	1099	81.15 81.00 15	
028-662	1068	81.08 80.95 13		030-660	1	81.21 81.25 5	27観立P3
028-664	1	81.08 80.67 11		030-660	113	81.18 80.77 41	
028-664	2	81.08 80.69 9		030-660	114	81.22 80.81 41	28観立P12
028-664	3	81.08 80.77 26		030-660	258	81.20 81.09 11	19観立P6
028-664	4	81.10 81.01 9		030-660	259	81.23 81.05 18	20観立P6
028-664	5	81.07 80.89 8		030-660	1112	81.15 81.01 12	
028-664	1115	81.03 80.90 13		030-660	258土塊	81.21 81.12 9	
028-666	1	81.17 80.93 21		030-660	259土塊	81.22 81.06 16	
028-666	96	81.17 80.75 42	19観立P18	030-662	1	81.11 81.06 5	25観立P10
028-666	145	81.11 80.89 22	19観立P17	030-662	186	81.15 80.83 32	19観立P9
028-666	1	81.13 80.33 80	30観立P5	030-662	187	81.13 80.90 23	
028-666	2	81.10 80.74 46	30観立P6	030-662	1022	81.16 80.93 23	
028-666	3	81.16 81.10 6		030-662	1081	81.20 81.06 14	
028-666	4	81.00 80.80 20		030-662	281土塊	81.15 80.37 78	
028-666	29	81.19 81.11 8		030-664	1	81.14 80.96 18	
028-666	164	81.10 80.72 35		030-664	2	81.14 81.03 14	
028-670	1	81.17 80.99 18		030-664	3	81.10 80.95 15	
028-670	2	81.18 81.03 15		030-664	4	81.11 80.95 26	
028-670	3	81.02 80.91 23	30観立P6	030-664	108	81.14 80.84 39	
028-670	163	81.16 80.87 26		030-664	106	81.05 80.94 21	19観立P10
028-670	165	81.12 80.77 35	19観立P7	030-664	108	81.10 81.03 7	
028-672	1	81.20 81.06 14	30観立P7	030-666	1	81.23 81.08 15	
028-672	205	81.19 80.91 28		030-666	20	81.14 80.82 32	
028-672	206	81.19 80.76 43	30観立P1	030-666	1044	81.19 81.00 19	
028-672	207	81.05 80.90 15	20観立P9	030-666	1045	81.11 81.04 7	
028-674	1	81.15 80.98 17		030-666	194土塊	80.98 80.64 34	
028-674	2	81.15 80.76 39		030-668	1	81.24 80.99 25	30観立P5
028-674	3	81.13 80.69 44		030-668	2	81.24 81.09 15	
028-674	4	81.09 80.97 13		030-668	3	81.21 81.07 14	
028-674	5	81.19 80.89 30		030-668	71	81.18 80.80 38	30観立P3
028-674	41	81.19 80.89 30		030-670	1	81.19 81.10 9	
028-674	42	81.14 80.63 51	20観立P11	030-670	2	81.19 81.12 7	
028-674	162	81.18 80.82 36	30観立P8	030-672	1	81.22 80.94 28	
028-676	1	81.06 80.49 57	20観立P12	030-672	100	81.20 80.81 39	30観立P2
028-676	43	81.11 80.72 39		030-672	101	81.22 80.88 34	28観立P6・30観立P3
028-676	164	81.10 80.74 36		030-672	208	81.21 80.93 28	
028-676	1114	81.08 80.90 15		030-672	1133	81.15 80.99 16	
028-678	72土塊	81.02 80.78 24		030-674	1	81.02 80.93 9	94土塊・30観立P9
028-678	1	81.01 80.92 9		030-674	1068	81.13 80.83 31	
028-678	2	81.01 80.79 22		030-674	1069	81.14 80.93 31	
028-678	3	81.00 80.85 15	20観立P1	030-676	1	81.16 80.93 23	
028-680	1	80.82 80.69 13		030-676	2	81.15 80.86 39	
028-680	2	80.90 80.66 30		030-676	3	81.05 80.79 36	30観立P13・30観立P4
030-602	129	81.10 80.53 63		030-676	1132	81.03 80.91 12	
030-602	184	81.19 80.58 61	7観立P7・15観立P9	030-678	1	81.00 80.75 25	30観立P2
030-602	174土塊	81.18 80.85 33	25観立P4	032-626	1	81.05 81.43 12	
030-604	1	81.18 80.96 22		032-626	2	81.49 81.30 19	
030-604	2	81.20 81.05 15	21観立P16	032-628	1	81.53 81.37 16	
030-604	3	81.18 80.95 23		032-628	250	81.27 81.18 9	
030-606	1	81.20 80.89 31		032-628	251	81.35 81.18 17	
030-606	2	81.20 81.12 8		032-636	1	81.30 81.13 17	
030-606	3	81.19 81.07 12		032-636	2	81.28 81.16 12	
030-606	4	81.18 81.00 18		032-638	1	81.27 81.23 4	
030-606	5	81.18 80.65 33	30観立P4・28観立P5	032-632	1	81.16 81.00 16	
030-606	6	81.16 80.95 21		032-632	2	81.16 80.99 19	
030-606	7	81.14 80.92 32		032-632	3	81.19 80.91 28	
030-606	8	81.17 80.61 32		032-632	4	81.13 80.85 29	
030-606	128	81.17 80.98 19	20観立P6	032-632	172	81.18 80.96 62	6観立P5・7観立P6・15観立P9

第3章 検出された遺構・遺物

グリッド	番号	計測値(上・下層)m		備考
		上層	下層	
032476	2	81.14	80.96	18 2層立P10
032476	3	81.05	80.98	17
032476	4	81.08	80.97	11
032476	5	81.15	80.99	25 2層立P14
034618	1	81.57	81.39	15
034618	2	81.57	81.41	16
034618	245	81.21	81.04	17
034620	1	81.57	81.48	9
034620	2	81.58	81.35	3
034620	3	81.56	81.46	10
034620	4	81.63	81.60	3
034624	1	81.61	81.55	6
034624	2	80.99	80.96	13
034622	1	81.60	81.50	10
034622	2	81.52	81.37	15
034622	3	81.53	81.38	15
034622	4	81.54	81.41	13
034624	1	81.51	81.31	20
034624	2	81.50	81.38	12
034624	3	81.42	81.37	5
034624	4	81.58	81.46	12
034624	1	81.35	81.23	12
034620	1008	81.13	80.81	32
034620	1009	81.11	80.81	30
034622	1	81.18	80.99	19
034622	2	81.21	80.93	26
034622	66	81.19	80.86	33
034622	69	81.18	80.79	39 3層立P1・7層立P15・8層立P1
034622	1007	81.16	80.68	48
034622	1047	81.15	80.87	28
034624	1	81.21	81.14	7
034624	2	81.20	81.07	13
034624	3	81.20	80.73	47
034624	171	81.30	80.96	64 6層立P9・7層立P13・15層立P19・27層立P17
034624	1006	81.18	81.03	15
034624	1	81.28	80.96	32
034624	2	81.17	80.71	46 4層立P1・18層立P18
034624	1017	81.19	81.08	11
034624	1018	81.22	80.78	44
034624	1	81.27	81.17	10 10層立P4
034624	2	81.27	81.22	5
034624	3	81.27	81.19	8
034624	4	81.28	80.87	41
034624	5	81.28	81.02	26
034624	6	81.28	81.12	16
034624	7	81.27	81.00	27 27層立P13
034624	8	81.28	80.77	51
034624	9	81.28	81.01	27
034624	10	81.25	81.14	18 18層立P9
034624	11	81.27	81.13	14
034624	1016	81.24	80.89	35 29層立P5
034624	1	81.32	81.14	19 19層立P4
034624	2	81.32	81.14	18 18層立P10
034624	18	81.32	80.95	37 18層立P11
034624	1013	81.31	80.94	17
034624	1015	81.27	80.96	31
034624	1046	81.28	81.16	12
034622	1	81.21	80.99	22 19層立P3
034622	2	81.20	80.93	27
034622	3	81.19	81.03	16 18層立P12
034622	19	81.31	80.86	48
034622	20	81.31	80.91	47 遺物出土
034622	103	81.23	80.53	27
034622	1014	81.20	80.99	21
034624	1	81.16	80.98	18 19層立P2
034624	2	81.16	81.10	9
034624	4	81.10	80.85	25
034624	102	81.19	80.90	19
034624	1040	81.20	80.87	33
034624	1	81.18	80.91	27
034622	2	81.09	81.06	3 19層立P1
034622	3	81.23	81.23	10
034622	4	81.14	81.08	9

グリッド	番号	計測値(上・下層)m		備考
		上層	下層	
034628	1	81.27	81.07	15
034628	2	81.20	81.09	11
034628	3	81.16	81.00	16
034628	79	81.22	80.77	45 4層立P9
034628	1134	80.99	80.85	14
034628	140土成	81.32	81.00	32
034670	1	81.29	81.06	23
034670	80	81.26	80.91	35
034674	1	81.20	80.99	21 2層立P5
034675	1	81.17	81.10	7
034675	2	81.16	80.99	17
034675	3	81.13	80.77	36
034675	4	81.11	80.87	24 2層立P4
034675	1122	81.14	80.96	16
034675	1	81.02	81.49	13
034680	1	81.55	81.48	27
034680	2	81.70	81.59	36
034680	3	81.86	81.52	34
034680	1	81.58	81.54	4
034680	2	81.58	81.50	8
034680	3	81.58	81.46	12
034680	4	81.57	81.46	11
034680	5	81.57	81.51	6
034680	6	81.57	81.50	7
034684	10	81.68	81.48	40
034680	1	81.61	81.47	14
034680	2	81.62	81.51	11
034680	3	81.59	81.52	7
034682	1	81.59	81.46	13
034682	2	81.62	81.54	8
034682	3	81.56	81.29	27
034684	1	81.57	81.50	7
034684	2	81.54	81.51	3
034684	3	81.52	81.40	12
034684	4	81.53	81.51	4
034684	5	81.56	81.47	9
034688	1	81.30	81.21	9
034688	2	81.31	81.24	7
034688	1	81.13	80.62	51
034682	1	81.13	80.62	51 4層立P6
034682	2	81.13	80.89	24 6層立P3
034682	3	81.24	81.07	17
034682	4	81.17	81.04	13
034682	5	81.21	80.90	51
034682	51	81.22	80.72	50
034684	1	81.30	81.09	21
034684	2	81.29	80.71	38
034684	3	81.05	80.95	10 18層立P7
034684	4	81.05	80.94	11
034684	5	81.26	80.76	30 27層立P15
034684	6	81.26	80.72	34 24層立P4・27層立P16
034684	40	81.28	81.05	25 15層立P5
034684	83	81.30	80.66	43 15層立P6
034684	83	81.30	80.68	43 15層立P2・18層立P5
034684	170	81.28	80.63	65 7層立P4・15層立P4
034684	1181	81.24	81.12	11
034684	1	81.30	80.81	49 18層立P4
034684	2	81.31	81.00	31
034684	3	81.30	81.08	22
034684	4	81.30	81.00	30
034684	5	81.30	80.76	54
034684	54	81.31	80.87	44 20層立P4
034684	79	81.29	81.01	28 24層立P3
034684	124土成	81.29	80.97	32 27層立P4
034688	1	81.31	81.18	13
034688	2	81.31	80.93	36
034688	3	81.31	81.00	31
034688	4	81.30	80.80	50 18層立P3
034688	5	81.06	80.85	23
034688	40	81.31	80.96	35 24層立P2
034688	40	81.06	80.65	43 20層立P2
034688	1	81.30	81.14	16 19層立P13
034688	54	81.32	80.71	45 16層立P2
034688	65	81.30	80.93	37 20層立P2・24層立P1
034688	1012	81.28	80.96	32

グリッド	番号	計測値(上・下層)m		備考
		上層	下層	
034660	1064	81.27	81.19	8
034662	1	81.22	81.06	16
034662	2	81.25	81.09	16 29層立P12
034662	3	81.25	80.84	41 18層立P1
034662	63	81.34	81.15	19 20層立P1
034662	66	81.23	80.79	54
034662	1011	81.25	81.09	16
034662	1065	81.20	80.90	30
034664	1	81.22	81.11	11
034664	2	81.21	80.77	44
034664	3	81.22	81.00	23
034664	4	81.22	81.05	17 29層立P15
034664	5	81.22	80.99	23
034664	97	81.21	80.95	93 23層立P5
034666	1	81.16	80.92	21 4層立P4・29層立P5
034666	2	81.14	81.02	12 23層立P6
034666	1	81.16	81.05	11
034666	2	81.17	81.05	11 23層立P12
034666	3	81.25	81.11	14
034666	83	81.22	80.88	24 4層立P3・29層立P4
034666	1039	81.25	81.09	16
034666	1125	81.19	80.97	22
034668	1136	81.25	81.13	12
034668	105土成	81.30	81.01	29 23層立P7
034670	1	81.30	81.04	26 4層立P2
034670	2	81.30	81.30	10
034670	3	81.30	81.30	20 29層立P3
034670	4	81.30	81.16	14
034670	5	81.29	81.20	9
034670	6	81.30	81.15	15
034670	81	81.29	80.88	41
034670	82	81.29	80.95	34 22層立P11
034670	84	81.27	80.92	35
034672	1	81.27	80.94	33 29層立P2
034672	2	81.27	81.12	15 22層立P10
034672	3	81.27	81.01	28
034672	4	81.27	81.07	20 22層立P9
034672	5	81.27	81.01	28
034672	6	81.27	81.13	14
034672	7	81.27	81.13	14
034672	8	81.27	80.99	26
034672	9	81.27	81.16	11
034674	1	81.25	81.12	11
034674	2	81.17	81.04	13 29層立P11
034674	3	81.17	81.06	11
034676	1	81.17	80.99	58
034676	1	81.48	81.02	46
034680	1	81.54	81.49	5
034680	2	81.54	81.51	3
034680	3	81.54	81.51	3
034682	1	81.63	81.57	6
034682	2	81.63	81.60	3
034682	3	81.63	81.57	6
034682	4	81.63	81.57	6
034682	5	81.63	81.57	6
034682	6	81.63	81.57	6
034682	7	81.63	81.57	6
034682	8	81.63	81.57	6
034682	9	81.63	81.57	6
034682	10	81.63	81.57	6
034682	11	81.63	81.57	6
034682	12	81.63	81.57	6
034682	13	81.63	81.57	6
034682	14	81.63	81.57	6
034682	15	81.63	81.57	6
034682	16	81.63	81.57	6
034682	17	81.63	81.57	6
034682	18	81.63	81.57	6
034682	19	81.63	81.57	6
034682	20	81.63	81.57	6
034682	21	81.63	81.57	6
034682	22	81.63	81.57	6
034682	23	81.63	81.57	6
034682	24	81.63	81.57	6
034682	25	81.63	81.57	6
034682	26	81.63	81.57	6
034682	27	81.63	81.57	6
034682	28	81.63	81.57	6
034682	29	81.63	81.57	6
034682	30	81.63	81.57	6
034682	31	81.63	81.57	6
034682	32	81.63	81.57	6
034682	33	81.63	81.57	6
034682	34	81.63	81.57	6
034682	35			

第4節 中・近世以降

グリッド	番号	計測値(上・下層m)		備考	グリッド	番号	計測値(上・下層m)		備考	グリッド	番号	計測値(上・下層m)		備考
		上層	下層				備考	上層				下層	備考	
039-054	48	81.28	81.05	23	040-452	2	81.27	81.11	16	042-670	1	81.15	81.01	14
039-054	1102	81.25	81.16	9	040-452	3	81.06	80.92	14	042-664	2	81.21	81.04	17
039-056	1	81.26	81.04	22	040-452	4	81.06	80.96	10	042-666	1	81.23	81.09	14
039-056	2	81.31	81.09	22	040-452	5	81.28	81.20	8	042-666	1106	81.28	81.05	23
039-056	3	81.31	80.87	44	040-452	6	81.29	81.12	17	042-666	1	81.22	80.39	83
039-056	52	81.07	80.88	19	040-454	1	81.34	81.07	27	042-668	2	81.30	81.15	15
039-058	59	81.38	80.96	40	040-454	2	81.34	80.89	45	042-668	1037	81.26	81.06	20
039-600	1	81.31	81.06	25	040-454	3	81.25	81.03	22	042-668	1142	81.25	80.97	28
039-600	2	81.30	81.06	24	040-454	4	81.25	80.97	28	042-668	1143	81.24	80.99	25
039-600	3	81.27	81.23	4	040-454	5	81.30	81.22	8	042-670	1	81.25	81.18	7
039-600	62	81.31	80.87	44	040-454	6	81.27	80.95	32	042-670	1038	81.25	81.06	19
039-662	1	81.23	81.11	12	040-454	7	81.25	80.92	33	042-672	1	81.23	81.10	13
039-662	2	81.29	81.09	19	040-454	13	81.27	80.97	30	042-672	79土坑	81.23	81.11	12
039-662	67	81.31	80.85	46	040-454	47	81.30	81.05	25	042-674	1	81.29	81.02	18
039-662	96	81.29	81.01	28	040-454	1004	81.27	81.13	14	042-676	1	81.18	81.02	16
039-664	1	81.22	81.12	10	040-454	1005	81.28	81.15	13	044-000	1	81.43	81.29	4
039-664	2	81.22	81.19	12	040-456	1	81.17	81.01	16	044-000	1	81.44	81.14	20
039-664	94	81.22	80.87	35	040-456	2	81.17	80.88	29	044-006	2	81.43	81.07	36
039-664	95	81.25	80.83	42	040-456	139土坑	81.32	81.15	17	044-006	3	81.43	81.12	31
039-666	1	81.36	81.17	19	040-460	1	81.31	81.24	7	044-006	4	81.43	81.10	33
039-666	91	81.36	80.84	52	040-460	2	81.30	81.24	6	044-008	1	81.53	81.30	33
039-666	92	81.31	80.69	52	040-460	1010	81.27	80.87	40	044-010	1	81.60	80.84	76
039-666	93	81.32	80.81	41	040-462	1	81.25	80.86	39	044-016	2	81.60	80.95	65
039-666	1	81.33	81.21	12	040-464	1	81.23	81.10	13	044-024	1	81.57	81.52	5
039-668	2	81.35	81.12	23	040-466	1	81.38	81.20	18	044-026	1	81.58	81.54	7
039-668	87	81.33	80.91	42	040-466	2	81.17	81.03	14	044-026	2	81.58	81.55	3
039-668	88	81.30	81.08	22	040-466	3	81.38	81.04	34	044-026	3	81.75	81.60	15
039-668	89	81.34	80.70	64	040-466	1066	81.19	81.03	16	044-028	1	81.48	81.43	5
039-668	90	81.33	80.84	49	040-468	1	81.35	81.15	20	044-028	2	81.56	81.36	20
039-668	1127	81.18	81.12	6	040-468	2	81.38	81.15	23	044-028	3	81.66	81.38	8
039-668	1128	81.29	81.09	20	040-468	1141	81.32	81.11	21	044-028	4	81.57	81.36	21
039-670	1	81.31	81.05	28	040-470	1	81.32	81.21	11	044-032	1	81.62	81.54	8
039-670	2	81.32	81.03	29	040-470	2	81.30	81.10	20	044-032	2	81.62	81.45	17
039-670	3	81.32	81.02	30	040-472	1	81.06	80.97	9	044-032	3	81.62	81.50	22
039-670	1067	81.32	80.94	38	040-474	1	81.28	81.09	8	044-032	216	81.14	81.08	24
039-670	1068	81.25	81.10	13	040-474	2	81.23	80.92	30	044-032	236	81.22	81.15	30
039-672	1	81.29	81.14	15	040-474	78土坑	81.20	80.92	28	044-032	1102	81.18	80.99	29
039-672	2	81.29	81.22	7	040-476	1	81.17	80.92	25	044-032	100土	81.24	81.18	6
039-672	85	81.30	81.11	19	040-476	2	81.15	81.00	15	044-034	1	81.30	81.13	17
039-674	1	81.22	81.07	15	042-600	1	81.38	81.11	27	044-034	2	81.30	81.10	20
039-674	2	81.25	80.99	26	042-600	2	81.43	81.27	16	044-034	3	81.31	81.02	29
039-674	3	81.17	80.93	24	042-604	1	81.42	81.10	32	044-036	02土坑	81.33	81.27	6
039-676	1	81.15	81.00	15	042-604	2	81.46	81.13	33	044-038	1001	81.11	80.70	41
039-676	2	81.18	80.87	29	042-604	3	81.42	81.25	17	044-038	1002	81.12	80.73	39
040-002	1	81.27	81.30	17	042-604	4	81.27	81.15	12	044-038	1003	81.13	80.82	31
040-004	1	81.39	80.97	43	042-604	5	81.46	81.16	30	044-082	1	81.04	80.93	11
040-004	2	81.46	81.16	30	042-604	6	81.38	81.11	27	044-086	1180	81.21	81.07	14
040-004	3	81.39	81.21	18	042-604	7	81.46	81.22	24	044-088	1	81.27	81.12	15
040-004	4	81.49	81.03	46	042-604	8	81.46	81.21	25	044-070	1	81.14	80.99	15
040-006	1	81.52	81.41	11	042-606	1	81.44	81.21	25	044-072	1	81.15	81.06	9
040-008	1	81.89	81.53	8	042-606	2	81.52	81.19	33	044-076	1	81.18	80.92	26
040-008	2	81.58	81.50	8	042-606	3	81.44	81.10	34	044-076	2	81.18	81.10	8
040-008	3	81.57	81.44	13	042-606	4	81.49	81.20	29	044-076	3	81.18	81.13	5
040-008	1	81.59	81.53	8	042-606	5	81.54	81.13	33	044-076	4	81.19	81.05	14
040-012	1	81.40	81.52	8	042-608	1	81.52	81.11	41	046-006	1	81.47	81.34	11
040-030	1	81.54	81.50	4	042-608	2	81.51	81.46	5	046-006	2	81.43	81.27	6
040-034	1	81.67	81.48	9	042-610	1	81.48	81.47	1	046-008	3	81.53	81.27	16
040-036	1	81.60	81.55	5	042-610	2	81.51	81.47	4	046-008	2	81.53	81.27	16
040-030	1	81.67	81.55	2	042-616	1	81.67	80.78	89	046-008	3	81.53	81.48	5
040-030	2	81.42	81.25	17	042-616	2	81.66	80.93	75	046-016	1	81.72	80.53	79
040-032	1	81.63	81.59	4	042-616	3	81.66	80.98	66	046-036	1	81.65	81.62	3
040-032	2	81.65	81.58	7	042-624	1	81.57	81.43	14	046-038	1	81.63	81.59	4
040-032	3	81.63	81.61	2	042-628	1	81.55	81.38	17	046-030	3	81.48	81.36	12
040-034	1	81.65	81.25	40	042-628	2	81.56	81.44	12	046-032	1	81.65	81.59	6
040-034	2	81.64	81.59	5	042-630	1	81.61	81.28	33	046-032	2	81.67	81.59	8
040-034	3	81.61	81.55	6	042-630	2	81.65	81.57	8	046-032	3	81.67	81.59	8
040-034	4	81.62	81.57	5	042-630	3	81.61	81.22	39	046-036	1	81.56	81.40	16
040-036	1	81.60	81.53	7	042-630	4	81.62	81.41	21	046-040	1	81.38	81.16	12
040-036	2	81.30	81.19	20	042-632	1	81.61	81.34	27	046-066	1144	80.87	80.65	22
040-036	3	81.30	81.12	18	042-632	2	81.58	81.30	28	046-072	1	81.06	80.68	18
040-036	4	81.30	81.19	20	042-634	1	81.61	81.40	21	046-072	2	81.06	80.67	19
040-036	5	81.44	81.49	4	042-632	1	81.30	81.03	27	046-074	1	81.18	80.94	24
040-036	6	81.54	81.10	30	042-634	1	81.30	81.15	15	046-076	1	81.21	81.09	12
040-036	7	81.39	81.51	8	042-634	2	81.34	80.99	35	046-096	1	81.53	81.37	16
040-032	1	81.27	80.88	39	042-634	66	81.32	80.99	33	046-030	1	81.52	81.42	10

第3章 検出された遺構・遺物

グリッド	番号	計測値(上・下層)m		備考
		上層	下層	
048-012	1	81.90	81.42	8
048-032	1	81.71	81.06	05
048-032	2	81.71	81.50	21
048-032	3	81.71	81.05	16
048-034	1	81.69	81.56	13
048-076	235上	81.30	81.00	30
048-076	236上	81.19	80.86	33
048-078	234上	81.24	81.00	34
050-612	1	81.66	81.49	17
050-612	2	81.67	81.43	27
050-612	3	81.66	81.47	19
050-612	4	81.68	81.53	15
050-614	1	81.62	81.50	12
050-616	1	81.58	81.37	21
050-618	1	81.72	80.93	79
050-618	2	81.73	80.86	85
050-618	3	81.74	80.75	99
050-624	1	81.78	81.67	8
050-628	1	81.72	81.62	10
050-628	2	81.73	81.65	8
050-628	3	81.72	81.68	4
050-632	1	81.74	81.65	9
050-632	2	81.75	81.67	8
050-632	3	81.75	81.67	8
050-632	4	81.74	81.64	10
050-644	329	81.39	80.56	64
053-616	1	81.58	81.56	2
053-616	2	81.55	81.50	5
053-628	1	81.75	81.54	21
053-628	2	81.73	81.62	11
053-628	3	81.71	81.67	4
053-632	1	81.80	81.60	20
053-632	2	81.74	81.69	5
053-648	314	81.45	81.31	24
052-644	327	81.59	81.16	34
052-644	328	81.29	80.35	20
052-644	333	81.49	81.20	85
052-646	324	81.39	80.74	遺物出土
052-646	331	81.20	81.04	16
052-646	332	81.50	81.34	16
054-020	1	81.75	80.97	88
054-022	1	81.82	81.68	14
054-024	1	81.87	81.50	37
054-024	2	81.86	81.46	40
054-030	1	81.73	81.52	21
054-030	2	81.76	81.72	4
054-032	1	81.78	81.60	18
054-032	2	81.76	81.55	21
054-034	1	81.76	81.59	17
054-034	2	81.76	81.57	19
054-034	3	81.75	81.65	10
054-040	313	81.43	81.21	22
054-048	1	81.49	81.25	17
054-048	304	81.43	81.26	17
056-618	1	81.69	81.62	7
056-624	1	81.75	81.49	26
056-624	2	81.63	81.46	19
056-626	1	81.78	81.38	40
056-626	2	81.79	81.52	27
056-630	1	81.75	81.53	22
056-630	2	81.77	81.65	12
056-630	3	81.63	81.43	30
056-630	4	81.76	81.65	11
056-632	1	81.82	81.48	34
056-632	2	81.79	81.70	9
056-632	3	81.78	81.65	13
056-632	4	81.63	81.46	17
056-634	1	81.78	81.64	14
056-634	2	81.78	81.59	19
056-634	3	81.80	81.54	26
056-634	4	81.77	81.46	31
056-634	5	81.84	81.83	9
056-634	6	81.87	81.29	28
056-634	7	81.63	81.46	17
056-636	1	81.63	81.46	17

グリッド	番号	計測値(上・下層)m		備考
		上層	下層	
056-636	2	81.77	81.64	13
056-636	3	81.79	81.63	16
056-636	4	81.79	81.67	12
056-638	1	81.62	81.43	19 14層立P5
056-638	2	81.79	81.73	6
056-646	1	81.32	81.16	16
056-646	2	81.71	81.13	58
056-646	335	81.50	81.30	20
056-648	1	81.66	81.47	19
056-648	2	81.62	81.34	28
056-648	305	81.70	80.46	124
056-648	306	81.49	80.62	87
056-648	309	81.48	80.57	91
056-648	370	81.74	80.95	79
056-650	1	81.41	81.30	21
056-650	2	81.43	80.96	47
056-650	3	81.32	80.98	34
056-652	1	81.48	81.19	29
056-652	2	81.48	81.21	27
056-652	3	81.48	81.36	12
056-654	1	81.78	81.47	31
056-654	2	81.93	81.41	52
056-656	1	81.96	81.37	59
056-656	2	81.96	81.26	70
056-660	306	81.72	81.06	66
056-666	1	81.35	81.16	19
056-668	1	81.62	81.37	25
058-026	1	81.77	81.75	2
058-026	2	81.76	81.73	3
058-026	3	81.76	81.67	9
058-026	4	81.78	81.49	29
058-026	5	81.75	81.50	20
058-026	6	81.75	81.41	34
058-028	1	81.77	81.71	6
058-028	2	81.75	81.67	6
058-028	3	81.74	81.72	2
058-028	4	81.74	81.66	8
058-028	5	81.74	81.66	8
058-034	1	81.64	81.42	13 13層立P5
058-034	2	81.81	81.66	15
058-036	1	81.82	81.64	18
058-036	2	81.78	81.63	13
058-036	3	81.65	81.40	25 14層立P3
058-036	4	81.64	81.26	38 13層立P6
058-038	1	81.84	81.64	20
058-038	2	81.84	81.50	34
058-038	3	81.81	81.73	8
058-038	4	81.82	81.72	10
058-038	5	81.83	81.75	8
058-038	6	81.71	81.46	25 14層立P5
058-038	7	81.65	81.44	21
058-038	8	81.65	81.50	15
058-038	9	81.63	81.41	22 13層立P7
058-646	1	81.69	81.56	13
058-646	2	81.72	81.56	16
058-646	256	81.75	80.75	遺物出土
058-646	257	81.77	81.62	15
058-646	261	81.76	80.73	103
058-646	268	81.74	80.80	84
058-646	271	81.77	81.27	50
058-646	272	81.65	81.39	36
058-648	259	81.74	80.95	79
058-648	262	81.77	80.96	81
058-648	267	81.74	81.25	49
058-680	325	81.69	81.45	24
058-680	326	81.72	81.59	13
058-682	267	81.48	80.62	86
058-684	1	81.52	81.39	13
058-684	321	81.41	81.01	40
058-684	326	81.67	81.44	23
058-690	1	81.75	81.65	30
058-690	2	81.74	81.61	30
058-690	3	81.75	81.63	12
058-692	1	81.49	81.41	8
058-692	2	81.48	81.37	11

グリッド	番号	計測値(上・下層)m		備考
		上層	下層	
058-696	1	81.50	81.38	12
058-696	310	81.44	80.87	57
058-696	1	81.66	81.44	22
058-696	2	81.63	81.47	16
058-696	331	81.69	81.54	15
060-000	1	80.55	80.49	6
060-010	1	81.53	81.10	43
060-016	1	81.71	81.68	13
060-016	2	81.69	81.57	12
060-016	3	81.69	81.59	10
060-022	1	81.82	81.49	33
060-024	1	81.81	81.74	7
060-024	2	81.80	81.68	12
060-024	3	81.80	81.72	8
060-030	1	81.77	81.66	21
060-030	1	81.70	81.51	19
060-030	2	81.70	81.32	38
060-030	3	81.75	81.71	4
060-030	4	81.72	81.67	5
060-030	1	81.81	81.66	15
060-030	2	81.81	81.46	35
060-030	3	81.84	81.67	12
060-030	4	81.84	81.50	34
060-030	159	80.70	80.36	34
060-032	1	81.83	81.57	26
060-032	2	81.90	81.81	9
060-032	3	81.89	81.79	10
060-034	1	81.81	81.57	24
060-034	2	81.93	81.85	8
060-036	1	81.84	81.66	18
060-036	2	81.86	81.65	21
060-036	3	81.75	81.50	20
060-036	4	81.84	81.45	39
060-036	159	81.93	81.60	28
060-036	5	81.85	81.68	17
060-036	176	81.92	81.69	23
060-036	6	81.70	81.42	28 14層立P2
060-036	7	81.84	81.45	29 13層立P4
060-036	8	81.86	81.70	16
060-036	2	81.85	81.80	5
060-036	3	81.92	81.82	10
060-036	4	81.93	81.83	30 13層立P6
060-040	1	81.71	81.38	33 14層立P1
060-044	274	81.78	81.50	28
060-046	1	81.92	81.67	25
060-046	2	81.94	81.74	20
060-046	258	81.76	81.33	23
060-046	263	81.78	81.35	23
060-046	264	81.77	81.33	24
060-048	250	81.76	81.37	39
060-048	255	81.77	81.66	21
060-048	266	81.65	81.60	5
060-050	1	81.63	81.56	7
060-050	251	81.78	81.59	25
060-052	1	81.75	81.51	24
060-052	260	81.78	81.45	33
060-058	1	81.75	81.61	14
060-660	1	81.76	81.60	16
060-662	1	81.83	81.39	14
060-672	1	81.86	81.74	12
060-672	2	81.85	81.77	8
062-004	1	81.18	81.06	12
062-004	2	81.10	80.99	11
062-616	1	81.71	81.51	20
062-616	1	81.72	81.68	14
062-622	1	81.79	81.53	26
062-624	1	81.81	81.69	12
062-624	2	81.81	81.71	10
062-626	1	81.70	81.69	1
062-626	1	81.48	81.48	8
062-630	1510	81.86	81.56	30
062-630	12	81.69	81.29	9
062-632	1	81.81	81.52	29
062-632	2	81.77	81.59	18
062-632	176	81.91	81.73	18

第4節 中・近世以降

プロット	番号	計測値(上・下層[m])			備考	プロット	番号	計測値(上・下層[m])			備考
		上層	下層	差				上層	下層	差	
062-034	1	81.79	81.60	19		064-668	239	81.76	81.60	16	
062-034	2	81.80	81.50	30		064-668	365	81.75	81.62	13	
062-034	3	81.91	81.83	8		064-660	1	81.72	81.58	14	
062-034	4	81.93	81.47	46		064-660	2	81.74	81.72	2	
062-036	1	81.74	81.52	22		064-662	1	81.53	81.47	6	
062-036	P2	81.94	81.81	13		064-662	2	81.71	81.53	18	
062-038	1	81.72	81.50	22	13層立P2	064-662	3	81.71	81.58	13	
062-038	2	81.68	81.37	31	13層立P1	064-662	4	81.70	81.61	9	
062-038	3	81.85	81.62	23		064-666	1	81.67	81.47	20	
062-038	4	81.85	81.79	6		064-666	2	81.43	81.37	6	
062-038	5	81.84	81.69	15		064-668	1	81.95	81.64	31	
062-038	6	81.83	81.73	10		064-668	2	81.96	81.80	16	
062-040	312	81.53	81.36	17		064-668	3	81.74	81.50	24	
062-046	345	81.64	81.63	1		064-668	4	81.74	81.64	10	
062-046	12+14	81.92	81.53	39		064-670	1	81.98	81.78	20	
062-046	1	81.97	81.78	19		064-672	1	81.97	81.69	28	
062-048	252	81.65	81.59	6		064-672	2	81.68	81.76	19	
062-050	252	81.81	81.68	13		064-678	1	81.97	81.78	19	
062-050	252	81.81	81.80	1		064-616	1	81.66	81.22	44	
062-050	275	81.78	81.69	9		064-624	1	81.73	81.47	26	
062-050	276	81.77	81.51	26		064-624	2	81.73	81.49	24	
062-050	350	81.64	81.82	12		064-624	3	81.74	81.49	25	
062-050	360	81.73	81.90	22		064-626	1	81.73	81.55	18	
062-052	268	81.77	81.69	18		064-626	2	81.73	81.46	27	
062-052	279	81.79	81.47	32		064-626	3	81.79	81.56	23	
062-054	1	81.77	81.68	9		064-628	1	81.35	81.26	9	
062-054	260	81.77	81.51	26		064-632	1	81.83	81.76	6	
062-056	1	81.78	81.66	12		064-632	2	81.81	81.61	20	
062-056	295	81.81	81.46	35		064-634	1	81.87	81.65	22	
062-056	307	81.78	81.58	20		064-636	1	81.89	81.73	16	
062-056	1	81.74	81.54	20		064-636	2	81.71	81.49	22	11層立P16
062-056	309	81.55	81.22	33		064-636	3	81.74	81.12	62	11層立P15
062-056	1	81.70	81.37	33		064-638	1	81.90	81.74	16	
062-072	1	81.92	81.69	23		064-638	2	81.74	81.41	33	11層立P7
062-072	2	81.95	81.77	18		064-638	3	81.71	81.46	25	11層立P13
062-072	3	81.94	81.77	14		064-638	3	81.74	81.41	33	
062-088	1	81.69	81.58	11		064-640	1	81.68	81.23	45	
062-090	1	81.75	81.55	20		064-640	1	81.73	81.33	40	
064-004	1	81.08	81.02	6		064-648	3	81.65	81.45	20	
064-004	2	81.10	81.03	7		064-648	3	81.65	81.60	5	2層立P18,19
064-012	1	81.57	81.38	19		064-648	3	81.66	81.50	16	
064-022	1	81.81	81.57	24		064-650	1	81.67	81.16	51	2層P6,7
064-024	1	81.78	81.68	10		064-650	3	81.68	81.52	13	49
064-024	2	81.78	81.43	35		064-650	3	81.65	81.50	15	
064-026	1	81.79	81.71	8		064-650	3	81.67	81.50	17	
064-026	2	81.79	81.73	6		064-650	3	81.65	81.56	9	
064-028	1	81.62	81.80	2		064-650	3	81.68	81.60	8	
064-034	P1	81.95	81.79	16		064-650	3	81.74	81.56	18	
064-034	1	81.90	81.84	6		064-654	2	81.80	81.59	21	
064-034	2	81.81	81.63	18		064-654	2	81.78	81.61	17	
064-034	3	81.93	81.69	24		064-654	2	81.73	81.50	23	
064-036	1	81.94	81.83	11		064-654	2	81.77	81.61	16	
064-036	P2	81.95	81.65	30		064-654	2	81.75	81.61	14	
064-036	18+19	81.95	81.77	18	12層立P3	064-654	2	81.79	81.54	25	
064-038	1	81.91	81.73	18		064-654	2	81.76	81.57	19	
064-038	2	81.81	81.67	14		064-654	2	81.75	81.62	13	
064-040	1	81.80	81.44	36		064-656	1	81.80	81.72	8	
064-046	1	81.89	81.86	3		064-656	2	81.80	81.75	5	
064-046	2	82.00	81.90	10		064-656	2	81.79	81.73	6	
064-048	15	81.71	81.41	30	2層P17	064-656	2	81.82	81.61	21	
064-050	1	81.67	81.34	33	2層P1	064-656	2	81.78	81.38	40	
064-050	11	81.75	81.56	19	2層P5	064-658	2	81.82	81.68	14	
064-052	1	81.77	81.42	35		064-660	1	81.72	81.50	22	
064-052	2	81.78	81.45	33		064-660	2	81.66	81.30	36	
064-052	3	81.76	81.44	32		064-662	1	81.66	81.46	20	
064-054	283	81.77	81.60	17		064-662	2	81.71	81.56	15	
064-054	284	81.77	81.55	22		064-664	1	81.63	81.44	19	
064-054	292	81.78	81.35	43		064-664	2	81.65	81.35	30	12層立P5
064-054	335	81.80	81.70	10		064-666	1	81.60	81.53	7	12層立P6
064-054	336	81.77	81.60	17		064-668	2	81.81	81.52	9	
064-056	283	81.82	81.72	10		064-666	3	81.59	81.52	7	12層立P7
064-056	285	81.81	81.50	31		064-668	1	81.60	81.52	8	12層立P8
064-056	292	81.82	81.67	15		064-668	2	81.69	81.52	17	
064-056	341	81.82	81.70	12		064-668	3	81.78	81.61	14	
064-058	338	81.78	81.53	25		064-670	1	81.70	81.60	1	

4. 屋敷跡

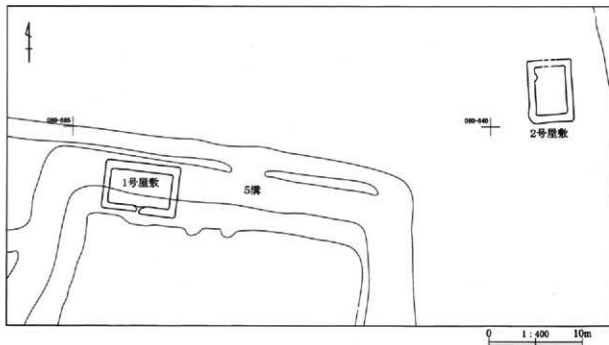
本遺跡より2軒の屋敷跡が検出した。1号屋敷は045-690グリッド付近の5号溝上面に検出した。2号屋敷は060-630グリッド付近に検出した。ともに近代の所産と考えられる。

1号屋敷 (第96・97図、P.L.11)

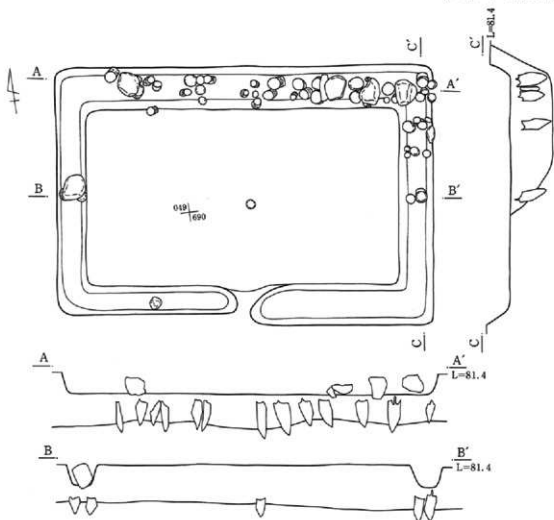
045-690に位置する。2号屋敷は東60.0mに位置する。平面形は長方形を呈し、布掘りを巡る。棟方向は東西を示し、方位はN-7°-Wを示す。規模は、長軸方向外郭は8.03m、内郭6.68m、短軸方向外郭5.65m、内郭3.82mを測る。内郭の面積は、25.5㎡である。堀は幅60~90cm、深さ50cmを南側30cm程を掘り残り全周させる。堀の覆土はAs-A混土である。本遺構は5号溝上に構築されており、地盤沈下防止と考えられる方策が講じられている。確認時堀が巡り、径50cm程の礫の分布が認められた。礫を除去し、堀底面の精査時に堀底面より10センチ程下から枕列が検出した。枕列は北側と東側北半分に集中した。枕は下層の5号溝底面に刺さるものと達しないものと検出した。枕は最大直径31cm、最小7cmを75本使用していた。枕の直径平均は19cmである。枕は4本~5本を一束とし構築され、礫はその上に位置していた。これらの技法の取られたのは下層の5号溝内における位置である。南側は5号溝上端に位置している。北辺の礫と礫の間隔は良好に残る。北東部の3石は芯芯で75cm幅を測り、同辺西側の礫まで4.5mを測る。礫・枕は80cm程の間隔である。遺物の出土はなかった。

2号屋敷 (第96・98図、P.L.11)

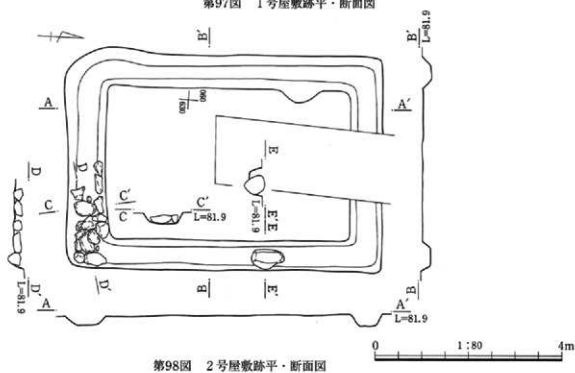
060-630に位置する。平面形は長方形を呈し、1号屋敷同様布掘りが巡る。棟方向は南北を示し、方位はN-4°-Eを示す。規模は、長軸方向外郭は6.74m、内郭5.2m、短軸方向外郭4.7m、内郭3.3mを測る。内郭の面積は、17.2㎡である。堀は幅70~80cm、深さ20cmを測り全周する。南西隅はやや広がる。堀の覆土はAs-A混土である。南辺東に径50cm大の礫を20石程上面を水平にするように検出した。東辺の北から2m遺物は出土しなかった。



第96図 1号・2号屋敷跡分布図



第97图 1号屋敷跡平·断面图



第98图 2号屋敷跡平·断面图

5 井戸跡

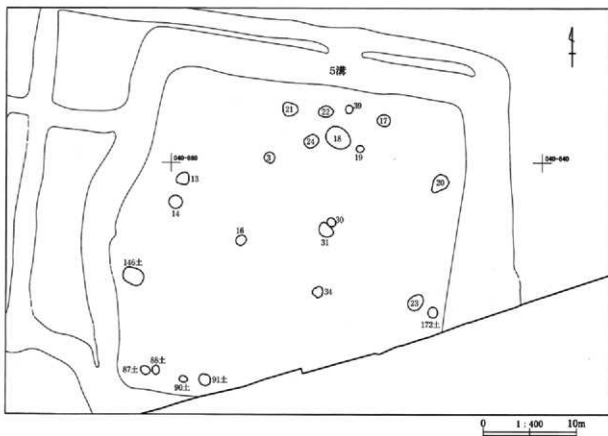
本遺跡より41基の井戸が検出した。5号溝の区画内側に21基、5号溝区画外に20基である。5号溝内の井戸は中央及び東側に分布している。5号溝外では、南西側で4号溝の南側に4基と、5号溝の北東側の13号・14号掘立柱建物跡周辺に多く検出した。井戸の分布は5号溝内は掘立柱建物跡と同様の分布状態にあり生活感がみられる。しかし、5号溝区画外は掘立柱建物跡・ピット数が極めて少ない中、検出された井戸の数は、半数を占められている。この土地利用は今後の南側調査に期待される。検出された井戸は10号井戸を除き近世・近代の所産である。区画外では桶伏せ型が3基あることが特徴的である。

1号井戸 (第104図, P.L.12)

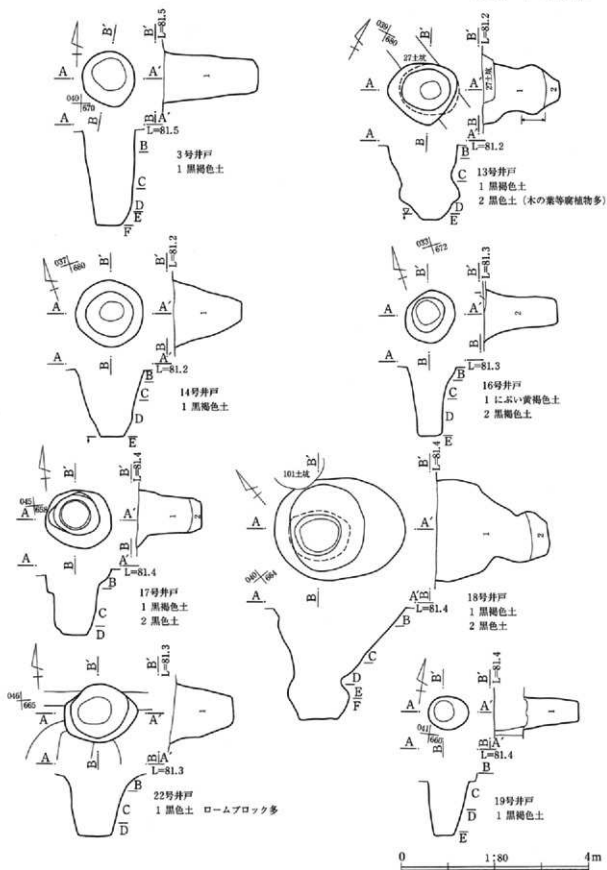
060-672に位置し、5号溝外にある。5号溝は南5mにある。掘方は、上面と底面がほぼ同規模の円筒型に平面垂直に掘られている。規模上部直径1.62m、底径0.98m、深さ3.76mを測る。調査時の自然水位は確認面から1.9mであり、その上位の0.5m~1.7mに大きなアグリが形成されていた。埋土は3層に分層される。1層と3層は人為的埋め土であるが、2層は自然堆積である。使用后、人為的に埋められ、自然水位層程の深さで窪みとなり、マンガン凝縮やヨシの根を含む自然埋没となる。その後継や現代初期の陶磁器片、ガラス瓶等を含む第1層で埋められていた。その他に陶磁器皿や容器付灯明受皿が出土した。

2号井戸 (第104図, P.L.12)

061-642に位置し、5号溝外にある。北2mに32号井戸が位置している。16号溝と重複するが土層観察から本遺構の方が新しい。掘方は、上面と底面がほぼ同規模の円筒型の掘方をしている。規模は直径1.6m、



第99図 5号溝内井戸跡分布図



第100図 5号溝内井戸跡平・断面図(1) (3・13・14・16・17・18・19・22号井戸)

第3章 検出された遺構・遺物

底径0.6m、深さ2.28mを測る。埋土は人為的に一気に行われていた。本遺構はアグリが殆ど形成されていない。出土遺物はなかった。

3号井戸 (第100図, P.L.12)

040-670に位置し、5号溝の内にある。北3.4mに24号井戸が位置している。掘り方は、上面と底面がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径1.12m、底径0.7m、深さ2.1mを測る。埋土は人為的に一気に行われていた。本遺構はアグリが殆ど形成されていない。調査時底面付近で湧水を確認した程度であった。出土遺物は覆土中から五輪塔4点が出土した。

4号井戸 (第104図, P.L.12)

067-632に位置し、5号溝の外にある。西1.5mに5号井戸、東3mに11号井戸が位置している。掘り方は上面と底面がほぼ同規模の円筒型で、規模は直径1.22m、底径0.44m、深さ3mを測る。確認面から2.4mの湧水層上位にアグリが認められた。埋土は6層の壁崩落土を除き人為的埋土である。調査時の自然水位は、確認面より2.3m下にあり、湧水量は毎秒1.5リットル程であった。湧水層は確認面から2.5m下のF層の青灰色軽石混じり火山灰砂層である。出土遺物は3層より陶磁器片、4層より瓦片が出土した。しかし、細片のため図化できなかった。

5号井戸 (第104図, P.L.12)

067-634に位置し、5号溝の外にある。東1mに4号井戸、西6mに37号井戸が位置している。掘り方は円筒型である。規模は直径1.16m、底径0.38m、深さ2.34mを測る。確認面から1.8m～2.1mの所で小さなアグリが認められる。調査時の自然水位及び湧水量・湧水層は認められなかったが、使用当時の水位と考えられる。埋土は人為的埋土である。出土遺物は4層より陶磁器片、人頭大の礫がそれぞれ1点出土した。特に底面付近で曲物3個体が完形で出土した。

6号井戸 (第104図, P.L.12)

052-626に位置し、5号溝の外にある。東0.5mに27号井戸、西2.5mに12号井戸が位置している。掘り方は確認面から1.3mの井戸中位上部に井桁の跡と思われる90cm×84cmの方形の掘り方が検出した。桶が伏せられていたものと考えられる。下部は円筒型である。規模は直径1.42m、底径0.62m、深さ3.08mを測る。確認面から1.8m前後の所でアグリが認められる。調査時の自然水位は湧水層のF層青灰色軽石混じり火山灰砂層と同一レベルの確認面から2.4m下である。湧水量は毎秒1.0リットル程であった。埋土は人為的埋土である。出土遺物はなかった。

7号井戸 (第104図, P.L.13)

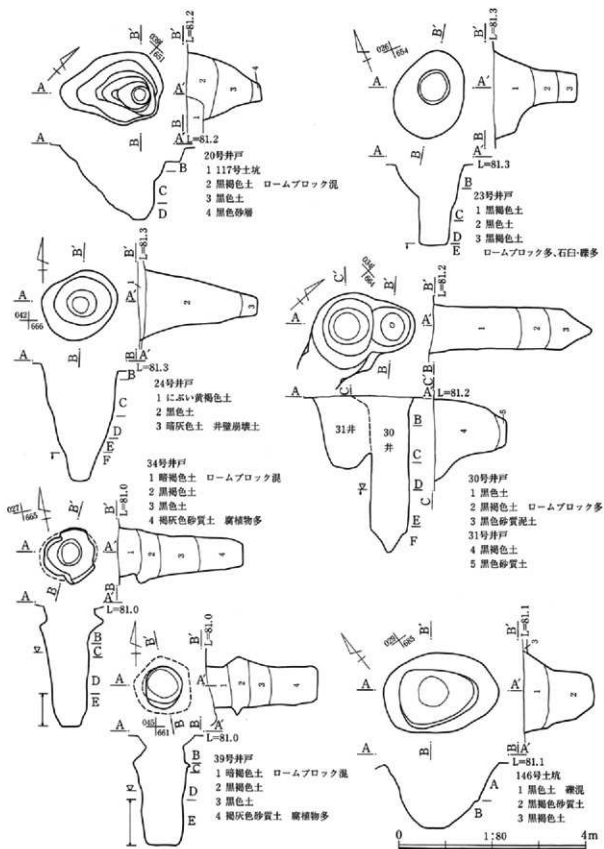
043-623に位置し、5号溝の外にある。南3mに9号井戸が位置している。掘り方は底部から上部に向かって開く朝顔型である。規模は直径1.62m、底径0.5m、深さ2.74mを測る。調査時の自然水位は湧水層のF層青灰色軽石混じり火山灰砂層と同一レベルの確認面から2.4m下である。湧水量は毎秒1.5リットル程であった。埋土は3層の壁崩壊土を除き人為的埋土である。出土遺物は2層下層で石臼と石鉢、漆椀が出土した。

9号井戸 (第105図, P.L.13)

037-625に位置し、5号溝の外にある。北3mに7号井戸が位置している。掘り方は、底部から上部にかけて開く朝顔型である。規模は直径1.52m、底径0.4m、深さ2mを測る。埋土は人為的に一気に行われていた。本遺構は調査時の自然水位もなく、また、他の遺構の湧水層であるF層青灰色軽石混じり火山灰砂層まで掘り込まれていないが、確認面から0.8m～1.4m程に小さなアグリが形成されている。この確認面から1.1m付近が旧自然水位であったと考えられる。出土遺物はなかった。

10号井戸 (第106図, P.L.13)

051-631に位置する。5号溝の外にある。14号溝と重複するが本遺構の方が新しい。周辺には北3mに12



第101図 5号溝内井戸跡平・断面図(2) (20・23・24・30・31・34・39号井戸・146土坑)

第3章 検出された遺構・遺物

号井戸が位置する。掘り方は底部から上部にやや開く朝顔型を呈する。規模は直径1.1m、底径0.4m、深さ1.4mを測る。埋土は1～3層は自然埋土である。特に2層・3層はAs-Bの降灰堆積である。4層・5層は人為的埋土である。本遺跡中As-Bの堆積が見られた遺構は本遺構のみである。出土遺物はなかった。

11号井戸（第105図、P.L.13）

065-628に位置し、5号溝の外にある。北3mに4号井戸がある。掘り方は上面と底部がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径1.16m、底径0.44m、深さ2.8mを測る。確認面から2.5mのところまでアグリが認められた。調査時の自然水位は湧水層のF層青灰色軽石混じり火山灰砂層と同一レベルの確認面から2.4m下である。湧水量は毎秒1.0リットル程であった。埋土は4層の壁崩壊土の他は人為的埋土であった。出土遺物は1層、2層より17個の人頭大の礫に混ざって石臼・五輪塔が出土した。

12号井戸（第105図、P.L.13）

055-630に位置し、5号溝の外にある。南3mほどに6号井戸、10号井戸が位置している。調査時壁面地山より内側に黒色土の他層よりしまった第1層があり、埋土状態から2段の桶が伏せられていたものと考えられる。掘り方は、上部は桶伏せで、下部は円筒型である。規模は直径1.6m、底径0.58m、深さ3.38mを測る。調査時の自然水位は湧水層の上20cm程であった。湧水量は毎秒1.5リットル程であった。湧水層は確認面から2.7m下のF層青灰色軽石混じり火山灰砂層である。埋土は6層の砂質土が自然堆積層である他は、人為的埋土である。なお、5層には小円礫を敷き詰めるようにあり、6層の中央部に竹材が小片で多数出土した。この5層の礫と6層の竹材は竹カゴの可能性もあり、砂止め、水越を行っていたものと考えられる。出土遺物は、2層より石臼6点と五輪塔2点が出土した。また、4層の中層からは板ガラス等が出土した。このことから現代の埋土と考えられる。

13号井戸（第100図、P.L.13）

038-678に位置し、5号溝の内にある。南1.2mに14号井戸が位置している。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.44m、底径0.44m、深さ1.6mを測る。確認面から0.8m～1.3mに小さなアグリが認められる。調査時の自然水位は湧水層のE層青灰色火山灰砂層と同一レベルの確認面から1.5m下である。湧水量はにじむ程度であった。井戸使用時は、確認面から1.0m下位まで水位があったものと考えられる。埋土は1層は人為的埋没であるが、2層は木の葉や腐植物が多量に出土した。井戸開口時上層構造がなく、直接木の葉が舞い込んだと考えられる。出土遺物はなかった。

14号井戸（第100図、P.L.14）

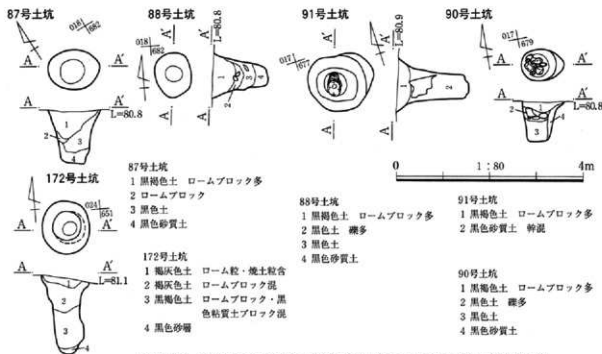
035-680に位置する。5号溝の内にある。北1.2mに13号井戸が位置している。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.46m、底径0.5m、深さ1.42mを測る。調査時の自然水位は湧水量は認められなかった。湧水層は確認面下1.5mのE層青灰色火山灰砂層である。覆土は人為的に一気に埋め戻した土である。底部中央に人頭大の礫が1個と、覆土中に窪み石が出土した。

16号井戸（第100図、P.L.14）

031-673に位置する。5号溝の内にある。北7mに14号井戸、東8mに31号井戸、南9mに34号井戸が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.04m、底径0.48m、深さ1.48mを測る。調査時の自然水位は湧水量は認められなかった。湧水層は確認面下1.5mのE層青灰色火山灰砂層である。覆土は人為的に一気に埋め戻した土である。底部中央に人頭大の礫が1個出土したほか、出土遺物はなかった。

17号井戸（第100図、P.L.14）

045-658に位置する。5号溝の内にある。周辺には西2.8mに39号井戸、南2.8mに19号井戸が位置する。掘り方は上面と底部がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径1.4m、底径0.5m、深さ1.42mを測る。調査



第102図 5号溝内井戸跡平・断面図(3)(87・88・91・90・172号土坑)

時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。覆土は人為的に一気に埋め戻された土である。出土遺物は覆土中に陶磁器片、石臼・窪み石が出土し、底面付近に漆碗が出土した。

18号井戸 (第100図, P.L.14)

044-664に位置し、5号溝の内にある。西0.8mに24号井戸、東1mに19号井戸が位置する。平面形は他の井戸のように円形でなく楕円形を呈する。確認時当初室等を想定したが深さ、形状から井戸と認定した。掘り方は底部から上部に開く朝顔型で、中位下部から円筒型となる。規模は長軸2.82m、短軸2.2m、底径0.82m、深さ2.46mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。確認面下2mほどに小さなアグリが形成されている。この確認面から2m付近が旧自然水位であったと考えられる。南西方向にスロープ状に立ち上がりが見られたが、入口及び桶弾き吊り等の痕跡は検出しなかった。出土遺物は、覆土中から石臼・砥石や桶板・棒状製木器が出土した。

19号井戸 (第100図, P.L.14)

042-659に位置する。5号溝の内にある。113号土坑と重複し、本遺構は土坑の貼り床の下に検出した。周辺には西1mに18号井戸、北3mに17号井戸が位置する。掘り方は底面から上部に開く朝顔型である。確認時の規模は直径0.86m、底径0.42m、深さ1.2mを測る。重複する土坑は直径1m程の桶があったと思われるもので、本遺構の在り方については類例を調査したい。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。出土遺物は砥石と27cm×23cmに加工された板材が出土した。

20号井戸 (第101図, P.L.14)

037-651に位置する。5号溝の内にある。117号土坑と重複し、本遺構の方が古い。周辺には北7.6mに17号井戸が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。南西側に小さな段をもつ傾斜面がある。規模は長軸2.14m、短軸1.6m、底径0.24m、深さ1.62mを測る。覆土は1層は117号土坑覆土であり、2層・3層は人為的埋土である。3層は径50cm程の礫が10個ほど出土した。4層は自然堆積である。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。底面がにじむ程度であった。出土遺物は覆土上層から陶磁器と石臼が出土した。

第3章 検出された遺構・遺物

21号井戸 (第105図, P.L.14)

045-668に位置する。5号溝の内にある。南3mに24号井戸が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.72m、底径0.62m、深さ1.7mを測る。覆土は人為的埋土である。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。覆土にはブロック状が多く、隣接する24号井戸を掘る際に埋められた可能性も考えられないだろうか。出土遺物は2層下位で石臼が、底面付近で桶板とタガ片多数が出土した。

22号井戸 (第100図, P.L.15)

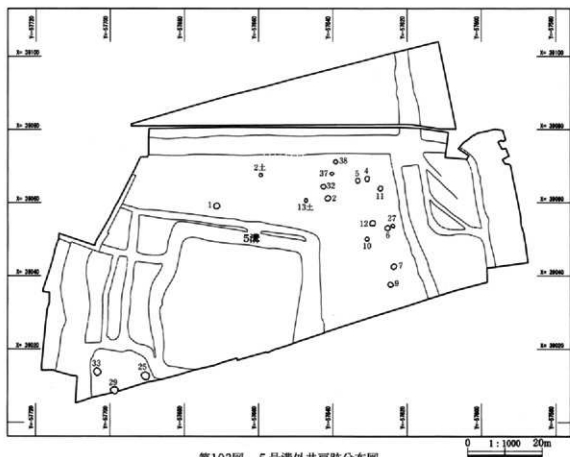
045-664に位置する。5号溝の内にある。東1.2mに39号井戸、南2.2mに24号井戸、西2.8mに21号井戸が位置している。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.54m、底径0.7m、深さ1.38mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。覆土は人為的埋土である。出土遺物は中層の下位で土師器片が出土した。

23号井戸 (第101図, P.L.15)

024-653に位置する。5号溝の内にある。周辺には南1.8mに井戸と認定した172号土坑が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.44m、底径0.58m、深さ1.78mを測る。調査時の自然水位、湧水量は認められなかった。湧水層は確認面下1.9mのE層青灰色火山灰砂層である。覆土は人為的埋土である。3層には人頭大の礫10個ほどと石臼・五輪塔等の大型の礫が集中していた。出土遺物は3層に集中して石臼9点・五輪塔1点が出土した。

24号井戸 (第101図, P.L.15)

043-666に位置し、5号溝の内にある。東0.8mに18号井戸、北2.2mに22号井戸が位置している。掘り方



第103図 5号溝外井戸跡分布図

は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.6m、底径0.32m、深さ2.58mを測る。調査時の自然水位は湧水層のF層青灰色軽石混じり火山灰砂層と同一レベルの確認面から2.0m下である。湧水量は毎秒1.0リットル程であった。埋土は3層が壁崩壊土の自然埋土で、他の1・2層は人為的に埋土されていた。2層下層に径30cm程の大型の円礫が1個出土した。その他、出土遺物は無かった。

25号井戸 (第105図, P L.15・16)

014-690に位置し、5号溝の外にある。東7mに29号井戸が位置している。掘り方は桶を伏せた井筒型である。規模は直径2.1m、底径0.42m、深さ2.74mを測る。桶杓が2段に合わせ検出した。桶の直径は70cmである。確認時上段の桶杓は上部半分程が腐食消滅していた。下段の桶杓は完全な形で検出したが、埋没時の土圧によるものか、北西から南東方向へ傾いていた。PL60に桶杓を1枚づつ掲載した左側が上段、右側が下段である。上段の残存長は68cm、下段は128cmを測る。両板ともに側面に繋ぎの木釘が残る。調査時の自然水位は、確認面より1.6m下にあり、湧水量は毎秒6.0リットル程であった。湧水層は確認面から2.1m下のF層の青灰色軽石混じり火山灰砂層である。埋土は3層の砂質土を除き人為的埋土である。4・5・6層は版築土である。3層からは木の葉や栗の実などが多数出土した。井戸開口時には上層がなく直接近隣の樹木から葉や実が落下したものと考えられる。底面から30cm大の礫が1個出土した。出土遺物は2層中より陶磁器が出土した。

27号井戸 (第106図, P L.15)

054-625に位置する。5号溝の外にある。南0.5mに6号井戸、東4mに12号井戸が位置している。掘り方は上面と底部がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径0.86m、底径0.7m、深さ3.38mを測る。調査時の自然水位は、確認面より2.4m下にあり、湧水量は毎秒1.5リットル程であった。湧水層は確認面から2.3m下のF層の青灰色軽石混じり火山灰砂層である。覆土は人為的埋土である。確認面下2.3mより下部に小さなアグリがある。このアグリは水位と湧水によるものと考えられる。出土遺物はなかった。

29号井戸 (第106図, P L.15)

010-698に位置する。5号溝の外にある。北5mに33号井戸、東7mに25号井戸が位置している。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径2.0m、底径0.36m、深さ2.14mを測る。調査時の自然水位は、確認面より1.7m下にあり、湧水量は毎秒2.0リットル程であった。湧水層は確認面から2.0m下のF層の青灰色軽石混じり火山灰砂層である。覆土は1・2層は人為的埋土であるが3層は自然堆積土である。2層中から人頭大の礫3個、木片等が出土した。3層からは桃の種子が30個ほど出土した。本井戸の近くに桃の木があったものと思われる。遺物の出土は無かった。

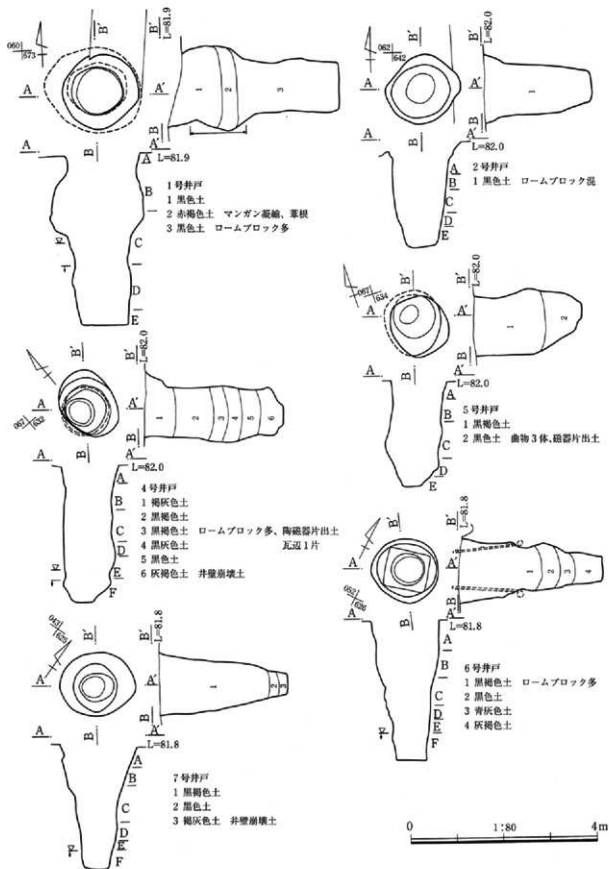
30号井戸 (第101図, P L.16)

034-663に位置する。5号溝の内にある。本遺構周辺、半径6m以内には井戸は検出されていない。本遺構は、31号井戸と重複する。本遺構の方が新しい。31号井戸の埋土は本遺構の地山として崩れずに自立していたことから、30号と31号の間には長い年月を経過したものと思われる。掘り方は地山井筒円筒型である。底部が三度笠を逆位にしたロート状を呈する。規模は直径1.28m、底径0.1m、深さ3.38mを測る。調査時の自然水位は、確認面より2.0m下にあり、湧水量は毎秒2.0リットル程であった。湧水層は確認面から2.0m下のE層とF層の青灰色軽石混じり火山灰砂層である。覆土は、1層・2層が人為的埋土で2層中には拳大のロームブロックが大量に含まれていた。3層は自然堆積の黒色砂質泥土である。1層より人頭大の礫3個と3層上層付近にタガ材片が多数出土した。出土遺物は覆土中に「寛永通宝」の古銭が1点出土した。

31号井戸 (第101図, P L.16)

032-664に位置する。5号溝の内にある。30号井戸と重複する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.28m、底径0.54m、深さ1.54mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められ

第3章 検出された遺構・遺物



第104図 5号溝外井戸跡平・断面図(1) (1・2・4・5・6・7号井戸)

なかった。覆土は4層は人為的埋土、5層は自然堆積層である。1層下位に人頭大の礫4個、竹5本等が投棄されていた。その他の遺物の出土はなかった。

32号井戸（第106図、P.L.16）

065-642に位置する。5号溝の外にある。21号溝と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。周辺には南2mに2号井戸、北3mに37号井戸が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.32m、底径0.52m、深さ1.9mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。覆土はロームブロックを混入する人為的埋土である。埋土のロームブロックは近接する15・16号溝構築時の物と考えられ、本遺構は22溝-本遺構-15号・16号溝の順に新しくなると考えられる。出土遺物はなかった。

33号井戸（第106図、P.L.16）

015-704に位置する。5号溝の外にある。南5mに29号井戸、東11mに25号井戸が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.8m、底径0.62m、深さ3.16mを測る。調査時の自然水位は、確認面より1.6m下にあり、湧水量は毎秒5.0リットル程であった。湧水層は確認面から2.4m下のF層の青灰色軽石混じり火山灰砂層である。確認面から1.4m-2.1mと2.5m-2.7mに小さなアグリがある。覆土は人為的埋土で1層はロームブロックを多量に含み人頭大の礫3個出土した。2層には竹の根を多量に含んでいた。アグリ形成は、水面の影響によるものと思われ、下位は湧水の影響によるものと考えられる。確認面下1mより上部には、桶が伏せられていた可能性がある。出土遺物は確認面から25cm程下がった南隅に磁器碗が20客東ねられているように出土した。

34号井戸（第101図、P.L.16）

027-665に位置する。5号溝の内である。北5.4mに31号・30号井戸が位置する。掘り方は上面と底部がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径1.06m、底径0.38m、深さ2.64mを測る。調査時の自然水位は、確認面より1.1m下にあり、湧水量は毎秒5.0リットル程であった。湧水層は確認面から1.7m下のE層青灰色火山灰砂層である。覆土は人為的埋土で、人頭大の礫20個程が出土した。その他出土遺物はなかった。

37号井戸（第106図）

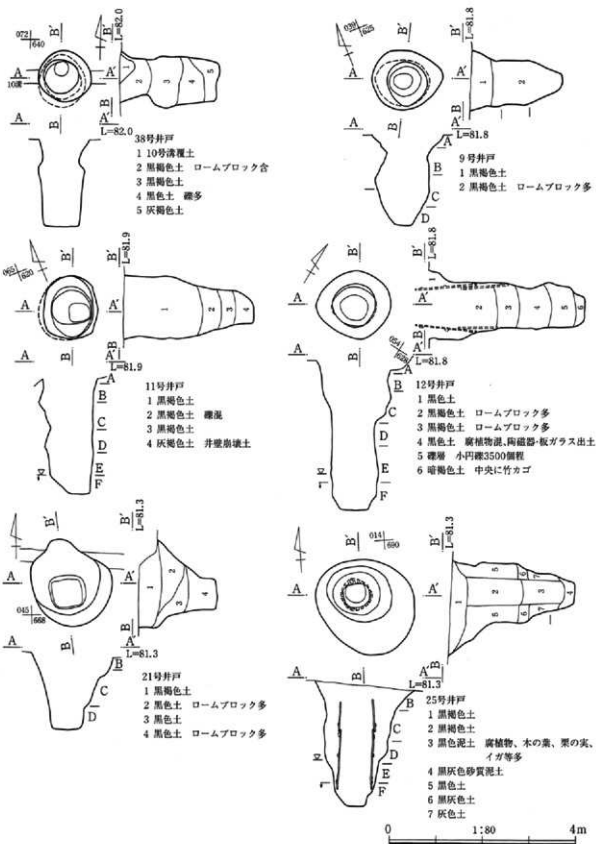
069-641に位置する。5号溝の外にある。南3mに32号井戸、北6mに38号井戸が位置する。掘り方は上面と底部がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径0.98m、底径0.42m、深さ1.18mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。覆土は人為的埋土である。出土遺物は覆土中に「寛永通宝（背文）」の古銭が1点出土した。

38号井戸（第105図、P.L.17）

072-640に位置する。5号溝の外にある。南6mに37号井戸が位置する。掘り方は上面と底部がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径1.14m、底径0.72m、深さ1.9mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。覆土は人為的埋土である。4層には拳大から人頭大の礫が多数出土した。出土遺物は、4層の礫に混じって石臼11点や五輪塔3点、焙烙片が出土した。

39号井戸（第101図、P.L.17）

046-661に位置する。5号溝の内にある。西1.2mに22号井戸、東2.8mに17号井戸が位置する。掘り方は上面と底部がほぼ同規模の円筒型である。規模は直径0.8m、底径0.64m、深さ2.4mを測る。調査時の自然水位は、確認面より1.2m下にあり、湧水量は毎秒5.0リットル程であった。湧水層は確認面から1.4m下のF層の青灰色軽石混じり火山灰砂層である。覆土は人為的埋土である。4層黒色土内にはスギの枝や葉・植物等が多量に含まれていた。確認面下にアグリがあり、この形成には、調査時の自然水位が確認面より1.2m下であることを見ると、湧水の影響が考えられる。出土遺物は、覆土内より陶磁器と「蘇民将来符」、布片、木製の鏡が出土した。



第105図 5号溝外井戸跡平・断面図(2) (9・11・12・21・25・38号井戸)

以下に記す遺構は、調査時土坑として番号を付したが、形態的に井戸と認定したものである。

146号土坑 (第101図、P.L.17)

029-685に位置する。5号溝の内にある。25号溝と重複し、本遺構の方が新しい。周辺には井戸遺構は無く、北7.4mの14号井戸が最も近いところである。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。東側に小さな段をもつ傾斜面がある。規模は長軸2.46m、短軸1.74m、底径0.65m、深さ1.60mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。覆土は人頭大の礫60個ほどと石白を含む人為的埋土である。覆土中の石白の他に、底面付近で曲げ物1片が出土した。

87号土坑 (第102図、P.L.17)

018-682に位置する。5号溝の内にある。東0.5mに88号土坑が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.00m、底径0.50m、深さ1.15mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。湧水量はにじむ程度であった。覆土はロームブロックを含む人為的な埋土である。4層は泥炭層の自然堆積である。出土遺物はなかった。

88号土坑 (第102図、P.L.17)

018-682に位置する。5号溝の内にある。西0.5mに87号土坑が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径0.9m、底径0.35m、深さ1.20mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。湧水量はにじむ程度であった。覆土はロームブロックを含む人為的な埋土である。4層は泥炭層の自然堆積である。出土遺物はなかった。

90号土坑 (第102図、P.L.18)

017-679に位置する。5号溝の内にある。東1.8mに91号土坑、西2mに88号土坑が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径0.74m、底径0.50m、深さ0.90mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。湧水量はにじむ程度であった。覆土は1層・2層は人為的な埋土で、3層・4層は自然堆積である。2層中には径20cm程の礫が10個ほど集中して出土した。その他の出土遺物はない。

91号土坑 (第102図、P.L.17)

017-677に位置する。5号溝の内にある。東1.8mに90号土坑が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.20m、底径0.52m、深さ1.55mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。湧水量はにじむ程度であった。覆土は人為的な埋土である。2層中に径35cm、長さ60cmの木が出土した。中心部が7cm程窪んでいた。出土遺物はなかった。

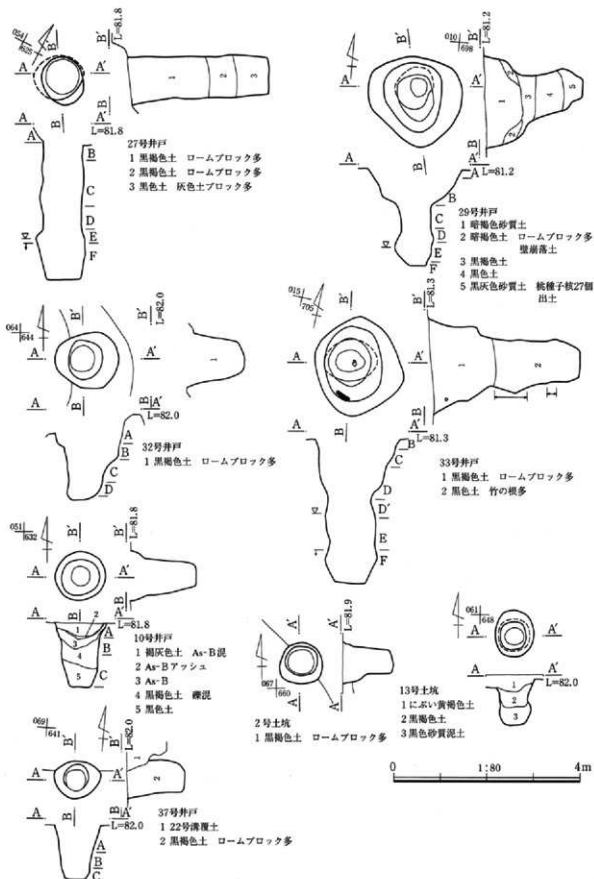
172号土坑 (第102図、P.L.18)

024-651に位置する。5号溝の内にある。北1.8mに23号井戸が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径1.10m、底径0.40m、深さ1.70mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。湧水量はにじむ程度であった。覆土は1層～3層はロームブロックを含む人為的な埋土である。4層は自然堆積である。確認面から1.5mより下部に小さなアグリがある。このアグリは水位と湧水によるものと考えられる。出土遺物はなかった。

2号土坑 (第106図、P.L.18)

068-659に位置する。5号溝の外にある。本遺構周辺には井戸は検出されなかった。近接する井戸は南12mに井戸認定した13号土坑となる。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径0.90m、底径0.50m、深さ1.08mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。湧水量はにじむ程度であった。覆土は人為的に一気に埋め戻した土である。12号溝より新しい。出土遺物はなかった。

第3章 検出された遺構・遺物



第106図 5号溝外井戸跡平・断面図(3) (10・27・29・32・33・37号井戸・2・13土坑)

13号土坑 (第106図)

060-647に位置する。5号溝の外にある。周辺には東4mに2号井戸が位置する。掘り方は底部から上部に開く朝顔型である。規模は直径0.90m、底径0.40m、深さ1.10mを測る。調査時の自然水位は湧水量及び湧水層は認められなかった。湧水量はにじみ程度であった。覆土は1層・2層はロームブロックを含む人為的な埋土である。3層は砂礫を含む自然堆積である。確認面から0.75mより下部に小さなアグリがある。このアグリは水位と湧水によるものと考えられる。出土遺物はなかった。

第81表 井戸計測表

井戸番	グリッド	5 溝内外	掘方要状	計 測 値 (m)				桶種 長さ	調査時 自然 水位	湧 水		出 土 遺 物
				直径	底径	深さ	中場径			湧水量 (l/min)	湧水層	
1	060-672	外	地山井筒円筒型	1.62	0.98	3.76	2.02		-1.9	9.0	-2.4	土236・328・274
2	061-642	外	地山井筒円筒型	1.60	0.60		2.28					
3	040-670	内	地山井筒円筒型	1.12	0.70	2.10						五輪1・7・8・9・10
4	067-632	外	地山井筒円筒型	1.22	0.44	3.00	1.00		-2.3	1.5	-2.5	
5	067-634	外	地山井筒円筒型	1.16	0.38	2.34	1.20					土247・228
6	052-626	外	上部輪伏せ、下部地山井筒型	1.42	0.62	3.08	1.02	1.34	-2.4	1.0	-2.4	
7	043-623	外	地山井筒朝顔型	1.62	0.50	2.74			-2.4	1.5	-2.4	白28
9	037-625	外	地山井筒朝顔型	1.52	0.40	2.00	1.18					
10	061-631	外	地山井筒朝顔型	1.10	0.40	1.40						
11	065-628	外	地山井筒円筒型	1.16	0.44	2.80	1.34		-2.4	1.0	-2.4	土364
12	065-630	外	上部輪伏せ、下部地山井筒型	1.60	0.58	3.38	1.04	1.98	-2.5	1.5	-2.7	五輪2-11、白1・13-14・29-30-31 紙石3
13	038-678	内	地山井筒朝顔型	1.44	0.44	1.60	1.30		-1.5		-1.5	
14	035-680	内	地山井筒朝顔型	1.46	0.50	1.42					-1.5	
16	031-673	内	地山井筒朝顔型	1.04	0.48	1.48					-1.5	
17	045-658	内	地山井筒円筒型	1.40	0.50	1.42						土231、白32
18	044-664	内	上部輪伏せ、下部地山井筒型	2.20	0.82	2.46	1.30					白33・紙石4
19	042-659	内	地山井筒朝顔型	0.86	0.42	1.20						紙石5
20	037-651	内	地山井筒朝顔型	1.60	0.24	1.62						土254・312、白6・34・35
21	045-668	内	地山井筒朝顔型	1.72	0.62	1.70						白15・16
22	045-664	内	地山井筒朝顔型	1.54	0.70	1.38						
23	024-653	内	地山井筒朝顔型	1.44	0.58	1.78					-1.9	五輪12、白5-17-18-19-36-37-38-39-40
24	043-666	内	地山井筒朝顔型	1.60	0.32	2.58			-2.0	1.0	-2.0	
25	014-690	外	輪伏せ井筒型	2.10	0.42	2.74	1.32	2.00	-1.6	6.0	-2.1	土313
27	054-625	外	地山井筒円筒型	0.86	0.70	3.38	1.06		-2.4	1.5	-2.3	
29	010-698	外	地山井筒朝顔型	2.00	0.36	2.14	0.82		-1.7	2.0	-2.0	
30	034-663	内	地山井筒円筒型	0.88	0.10	3.38			-2.0	2.0	-2.0	
31	032-664	内	地山井筒朝顔型	1.28	0.54	1.54						
32	065-642	外	地山井筒朝顔型	1.32	0.52	1.90						
33	015-704	外	地山井筒朝顔型	1.80	0.62	3.16	1.12		-1.6	5.0	-2.4	
34	027-665	内	地山井筒円筒型	1.06	0.38	2.64	1.36		-1.1	5.0	-1.7	
37	069-641	外	地山井筒円筒型	0.98	0.42	1.18						
38	072-640	外	地山井筒円筒型	1.14	0.72	1.90	1.00					土82-376-378-381-387-389 五輪14-15-16、白6-7-9-20-41-46
39	046-661	内	地山井筒円筒型	0.80	0.64	2.40	1.22		-1.2	5.0	-1.4	土160、紙瓦葺米・布
146	029-985	内	地山井筒朝顔型	1.75	0.64	1.48						
87	018-682	内	地山井筒朝顔型	1.00	0.50	1.15						
88	018-682	内	地山井筒朝顔型	0.90	0.35	1.20						
90	017-679	内	地山井筒朝顔型	0.75	0.50	0.90						
91	017-677	内	地山井筒朝顔型	1.20	0.52	1.55						
172	024-651	内	地山井筒朝顔型	1.10	0.40	1.70						
2	068-659	外	地山井筒朝顔型	0.90	0.50	1.06						
13	060-647	外	地山井筒朝顔型	0.90	0.40	1.10						

6 土坑 (第107~122図、P.L.18~26)

本遺跡から272基の土坑が検出した。図中では、5号溝の内郭と外郭に分け掲載した。内郭の土坑は164基、外郭の土坑が108基である。内郭の土坑で特徴的に見られるのは、長方形を呈する土坑が列をなすように構築されていることと、桶が設置されていたと思われる円筒筒状を呈する土坑が多いことである。外郭には方形を呈する室状の深い土坑が特徴的であった。土層説明は、一覧表の中で土坑番号と土層番号が合うように説明を加えた。本遺跡検出の土坑の多くが、にぶい黄褐色土（ロームブロック混）を覆土とするものであり、近世・近代に造成の際に埋没したものと考えられる。

以上の土坑群は、各土坑の類似点から以下の9類に分類が考えられる。特徴的な土坑について説明を加え、他は一覧表を参照されたい。

A類 平面円形を呈し、ビット状のタイプ

A類はさらに a 素掘り b 礎石等の検出されたもの

B類 平面円形を呈し、径80cm以上、深さ40cm以下の掘り方の浅いタイプ

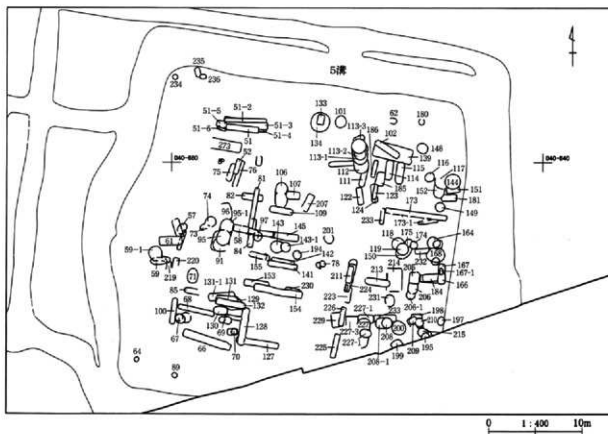
C類 平面方形を呈し、径80cm以上、深さ40cm以下の掘り方の浅いタイプ

D類 平面長楕円ないし隅丸長方形を呈し、長軸1m以上、深さ80cm以下のタイプ

E類 平面長方形を呈し、長軸長が1m以上のしっかりとした掘り方を成すタイプ

F類 平面円形を呈し、径1m以上、深さ1m以上の掘り方の深いタイプ

G類 平面円形を呈し、F類に類似するが、桶等が設置されていたと思われる円筒形を呈するタイプ



第107図 5号溝内土坑分布図

H類 平面側九長方形を呈し、長軸・短軸が1m以上、深さ1m程度の掘方の深いタイプ。

I類 平面鍵穴状を呈し、焼土分布の見られるタイプである。

A-a類に属する土坑は、5号溝内では、19基が挙げられるが、他に掘立柱建物跡の柱穴としたものもある。規模は平均長軸63cm、短軸55cm、深さ23cmである。多くが浅い掘方に対し、89号土坑は長軸59cm、短軸52cm、深さ55cmを測り、覆土には黒色土とロームブロックが含まれ、中心に柱痕と思われる砂粒を含む第1層がある。また、212号土坑は26号掘立柱建物跡のP6でもあり、調査時掘立柱建物跡の認定なく土坑として番号を付したものである。上記土坑群周辺は掘立柱建物群でもある。5号溝外では、29基が挙げられる。散漫に検出されているが、10号～14号掘立柱建物跡の位置する055-630-070-650の範囲内にも38号土坑や40号土坑などがあり、掘立柱建物跡の可能性も踏まえ調査を進めた。38号土坑(第119図)は、径50cm、深さ22cmを測り、覆土は上層と下層に2分され、明瞭な柱痕は認められなかった。

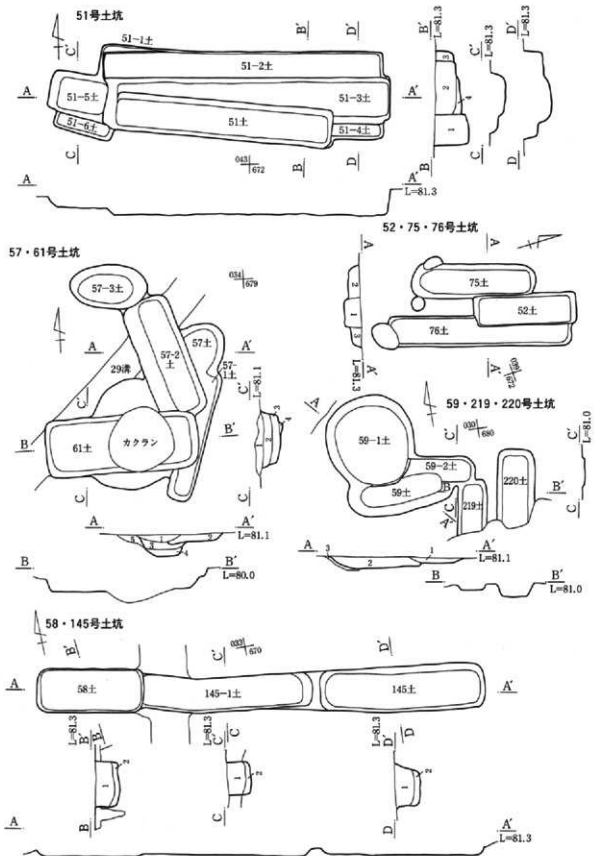
A-b類は、5号溝内に3基検出した。120号土坑(第93図、PL.11)は3号掘立柱建物跡や30号掘立柱建物跡に近接し、径90cm、深さ20cmを測り、ロームブロック多量の黄褐色土で人為的に埋められ、底部に中心部を囲むように径15cm程の礫が出土した。また、180号土坑(第93図、PL.11)は、18号掘立柱建物跡の北、25号溝の縁に位置する。底面に石臼を含む径15cm大の礫4個で円形を呈する。5号溝外では、55号土坑(第120図、P.L.11)が挙げられる。050-625グリットに位置し、周辺に掘立柱建物跡は見られない。規模は直径60cm・深さ32cmを測る。底面より10cm上に礎板と思われる木製品(34)すき板が水平に置かれ、板の上に南・北に礫が板から広がるように傾斜して検出した。礎は径15cm大を2個と砥石が使用されており、柱を支えるよう看取れた。上層には陶磁器片と瓦が出土した。

B類は、5号溝内の中央部に集中するように16基が検出した。101号土坑(第110図)は、内郭北辺に当たる040-660グリットに位置する。長軸133cm、短軸116cm、深さ27cmを測る。覆土はロームブロック混土であり、覆土中より陶磁器小碗(13)が出土した。5号溝外では24基が検出した。9号土坑(第118図、P.L.19)は、13・14号掘立柱建物跡南の055-630グリットに位置する。A-a類の237号土坑と重複し、規模は径120cm、深さ26cmを測る。覆土はAs-C混黒色土ブロックとローム漸移層の褐色土ブロックである。覆土上面から瓦(126)が出土した。

C類は、5号溝内に7基検出した。227号土坑(第116図、P.L.25)は、内郭南東隅に位置する020-655グリットにある。南西側は攪乱され不明であるが、長軸321cm、短軸137cm、深さ20cmの楕円形を呈し、底面は長方形を成すものである。1層ロームブロック混土層より陶磁器碗(171)、香炉(252)、蓋(301)や焙烙(386・391)他小片が多数出土した。5号溝外では、7基検出した。15号土坑(第118図)は、調査区東端の065-605グリットに位置する。南北162cm、東西154cm、深さ59cmを測る方形の土坑である。覆土はロームブロックに小礫を多く含む1層と、黒色土やローム粒を含む2層である。覆土より天目碗(159)が出土した。なお、この碗は82m西の8号溝出土の破片と接合した。他に瓦(14)も出土した。21号土坑(第118図)は、15号土坑南24mの040-605グリットに位置する。南北75cm、東西104cm、深さ30cmを測る。

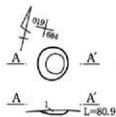
D類は、5号溝内に13基検出した。覆土は全てロームブロック混土である。最大長は106号土坑(第111図)の270cmである。平均長軸長150cm、短軸長83cm、深さ16cmである。本土坑群からの遺物の出土は陶磁器小片のみである。5号溝外では27基が検出した。最大長は43号土坑の225cmである。平均長軸長は150cm、短軸88cm、深さ28cmである。断面皿・丸底状を呈する。覆土はロームブロック混土である。16号土坑(第118図)は、20号溝と19号溝の間060-615グリットに位置する。東西146cm、南北114cm、深さ30cmを測る。覆土から瓦(48)が出土した。45号土坑(第120図、P.L.20)は、5号溝東10m程の035-635グリットに位置する。平面形は、東西に長い側九長方形を呈し、規模は長軸174cm・短軸109cm・深さ36cmを測る。底面は、ほぼ平坦である。壁は垂直気味に立ち上がる。北東隅の1層下層に板碑(5)が出土した。

第3章 検出された遺構・遺物

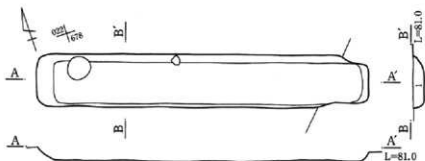


第108図 5号溝内土坑平・断面図(1)
(51・52・57~59・61・75・76・145・219・220号土坑)

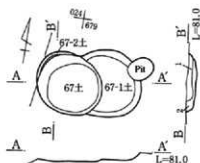
64号土坑



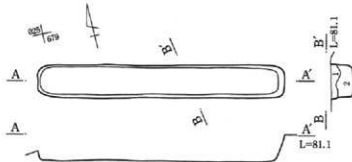
66号土坑



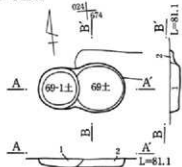
67号土坑



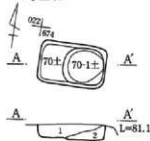
68号土坑



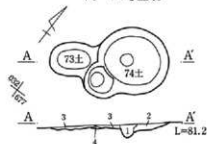
69号土坑



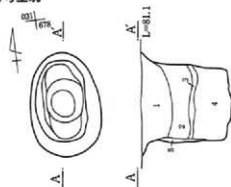
70号土坑



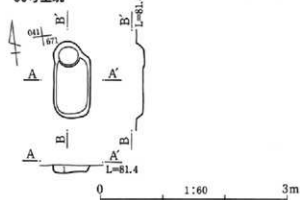
73・74号土坑



71号土坑



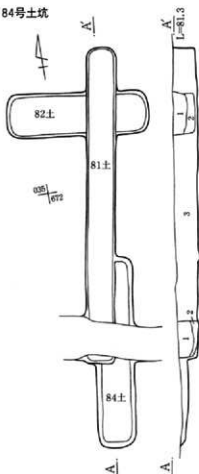
80号土坑



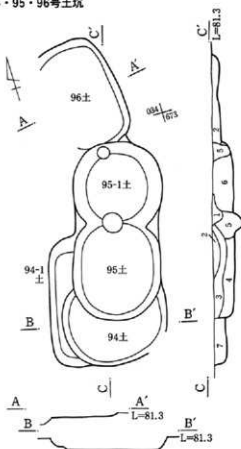
第109圖 5号溝内土坑平・断面図(2) (64・66~71・73・74・80号土坑)

第3章 検出された遺構・遺物

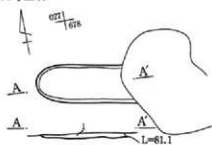
81・82・84号土坑



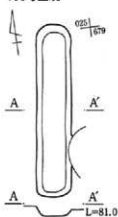
94・95・96号土坑



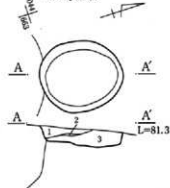
85号土坑



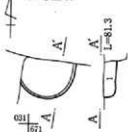
100号土坑



101号土坑

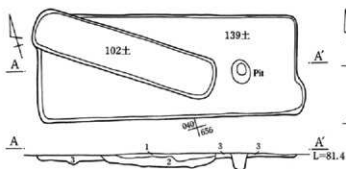


97号土坑

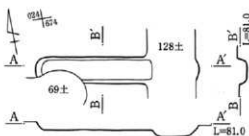


第110図 5号溝内土坑平・断面図(3) (81・82・84・85・94~97・100・101号土坑)

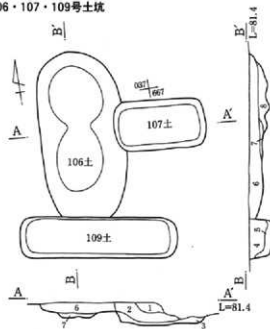
102・139号土坑



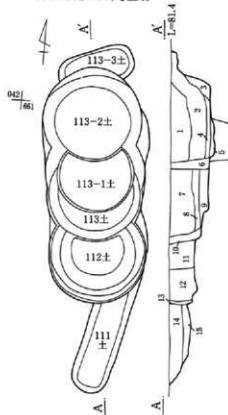
104号土坑



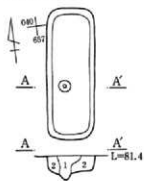
106・107・109号土坑



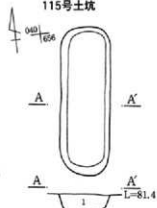
111・112・113号土坑



114号土坑



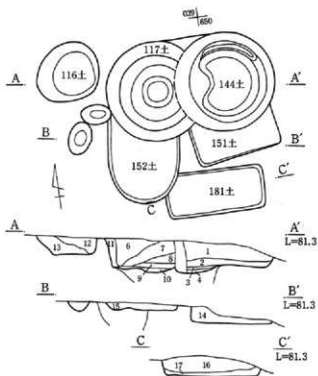
115号土坑



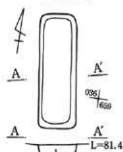
第111圖 5号溝内土坑平・断面図(4) (102・104・106・107・109・111~115・139号土坑)

第3章 検出された遺構・遺物

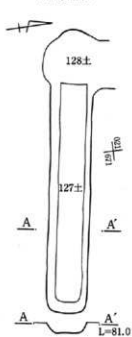
116・117・144・151・152・181号土坑



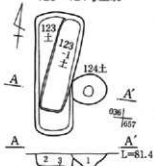
122号土坑



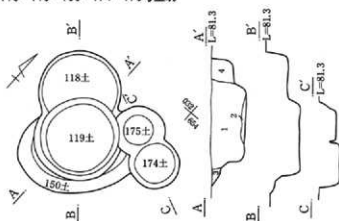
127号土坑



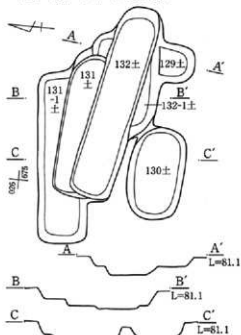
123・124号土坑



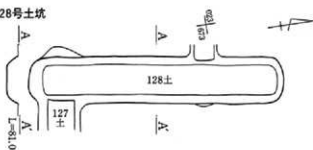
118・119・150・174・175号土坑



129・130・131・132号土坑



128号土坑

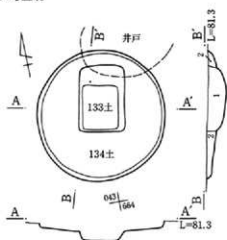


0 1:60 3m

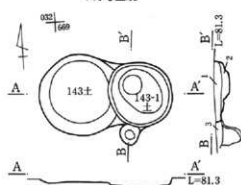
第112図 5号溝内土坑平・断面図(5)

(116・119・122・124・127・132・144・150・152・174・175・181号土坑)

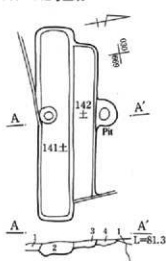
133・134号土坑



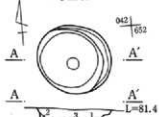
143号土坑



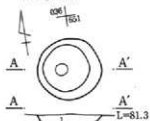
141・142号土坑



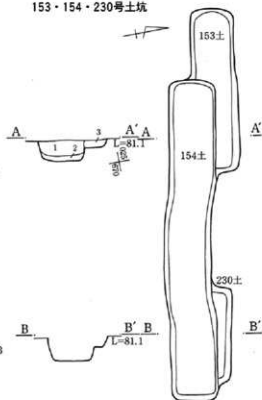
148号土坑



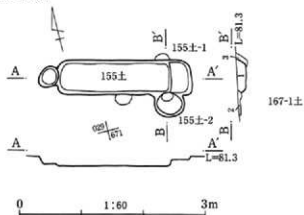
149号土坑



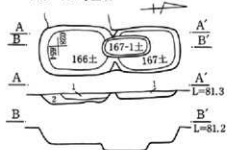
153・154・230号土坑



155号土坑

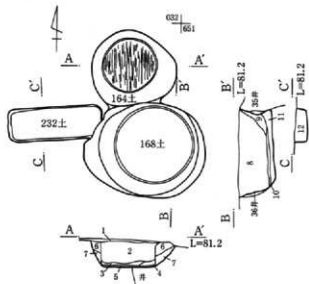


166・167号土坑

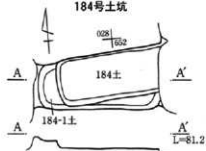


第113图 5号溝内土坑平・断面图(6) (133・134・141~143・149・153~155・166・167・230号土坑)

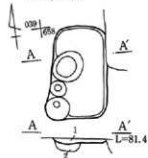
164・168・232号土坑



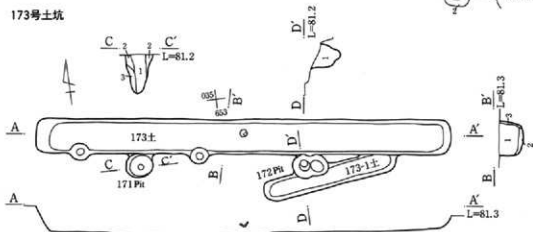
184号土坑



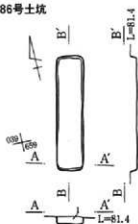
185号土坑



173号土坑



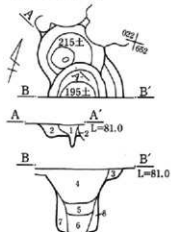
186号土坑



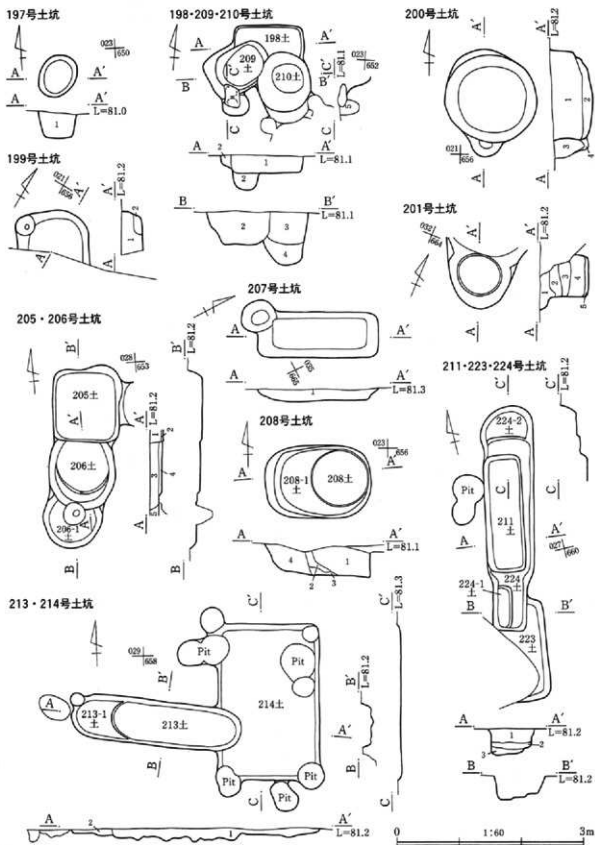
194号土坑



195・215号土坑

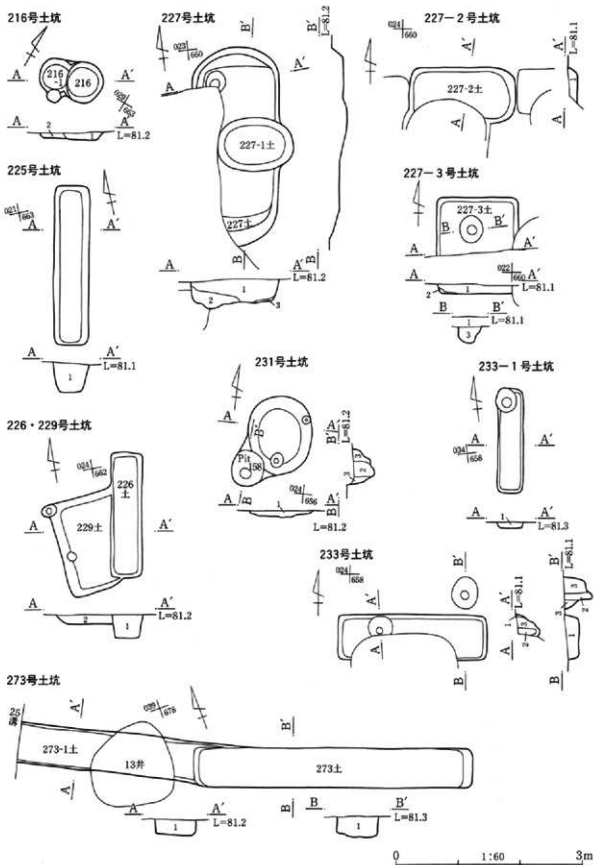


第114図 5号溝内土坑平・断面図(7) (164・168・173・184~186・194・195・215・232号土坑)



第115图 5号溝内土坑平・断面图(8) (197~201・205~211・213・214・223・224号土坑)

第3章 検出された遺構・遺物

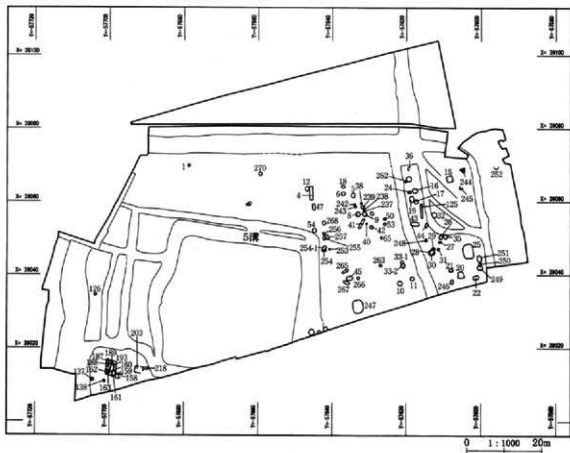


第116図 5号溝内土坑平・断面図(9) (216・225~227・229・231・233・273号土坑)

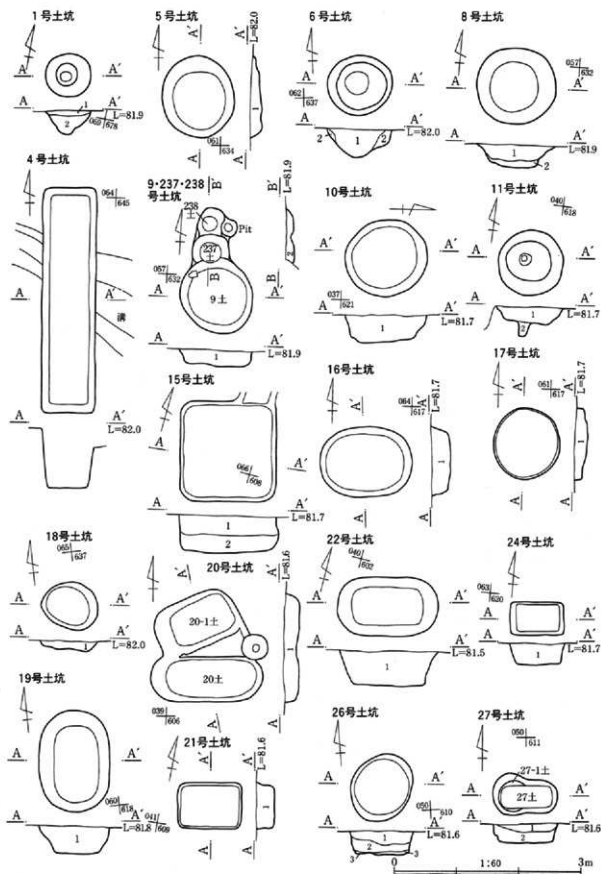
E類は、5号溝内に76基、溝外に9基と5号溝内に集中している。特に溝内では本類が土坑の46%を占める。5号溝内の土坑群は長軸方向をN-12°-Eにもつグループと、長軸方向をN-80°-Wにもつグループの2つに大別できる。南北長の土坑には186・211・226・225号土坑、81・84・128号土坑、52・76・75号土坑等それぞれが直線的にある。また、東西長の土坑には155・142・141・213号土坑や58・145号土坑、153・156号土坑のように直線的にあるものと51号土坑、173号土坑、127号土坑、66・68号土坑のように並行するものがある。各土坑の覆土はロームブロックが多く混入する。平均長軸長は、208cm、短軸57cm、深さ26cmである。最大は173号土坑（第114図、P.L.23）の6.64mであり、034-651に位置する。規模は短軸56cm、深さ39cmを測る。底面は平坦であり、壁は垂直に立ち上がる。中央から陶器碗（174）が底面より10cm程離れ出土した。5号溝外では規則性は認められない。125号土坑（第120図、P.L.22）は、16号土坑の南3m程の055-615グリットに位置し、近接する17号溝・18号溝に平行し、南北に長く掘られている。規模は長軸390cm、短軸50cm、深さ13cmを測る。北隅で瓦が重なるように10点程集中して出土した。

F類は、形状的に井戸に類似し、本類に属する2・13・87・88・90・91・146・172土坑は調査時土坑番号を付したがアグリ等の見られる形状から井戸として「井戸」の項で取り上げた。

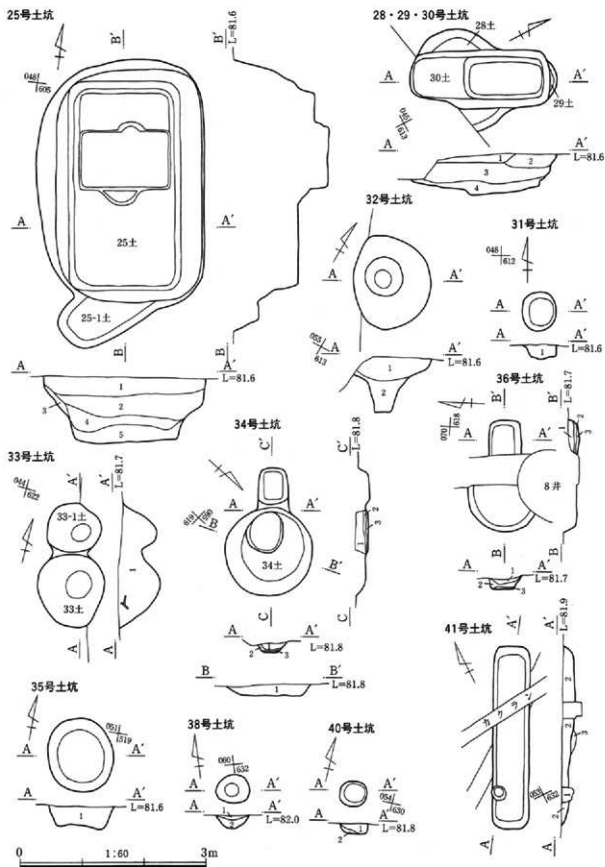
G類は、本遺跡の特徴でもある桶を埋設したと思われる円形の土坑で、5溝内に25基が検出した。内郭の東側に集中する。グリットのにも南北ライン650~670に集中する。底面に円盤状板が出土した164号土坑や、桶枠跡と思われる幅1cm程の溝が全周する112号・168号・208号土坑等がある。その他は、深度の深い・浅いはあるが底面を平坦にする形状から本類に分類した。規模は平均で直径129cm、底径115cm、深さ42cmである。概ね底径は3.8尺ほどであり、検出した遺構の底径比率も4尺ものと3.5尺程度のものが多い。



第117図 5号溝外土坑分布図

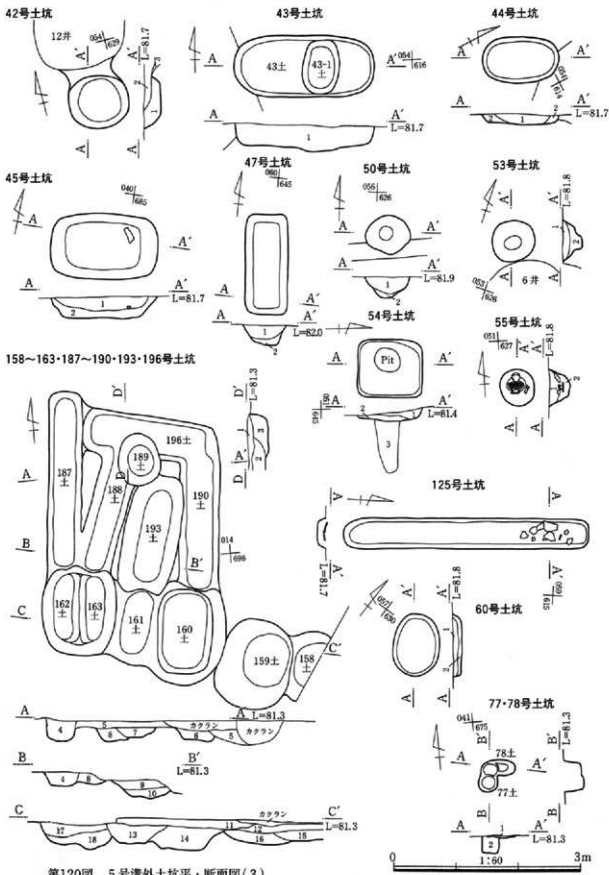


第118图 5号溝外土坑平・断面图(1) (1・4~6・8~11・15~22・24・26・27・237・238号土坑)



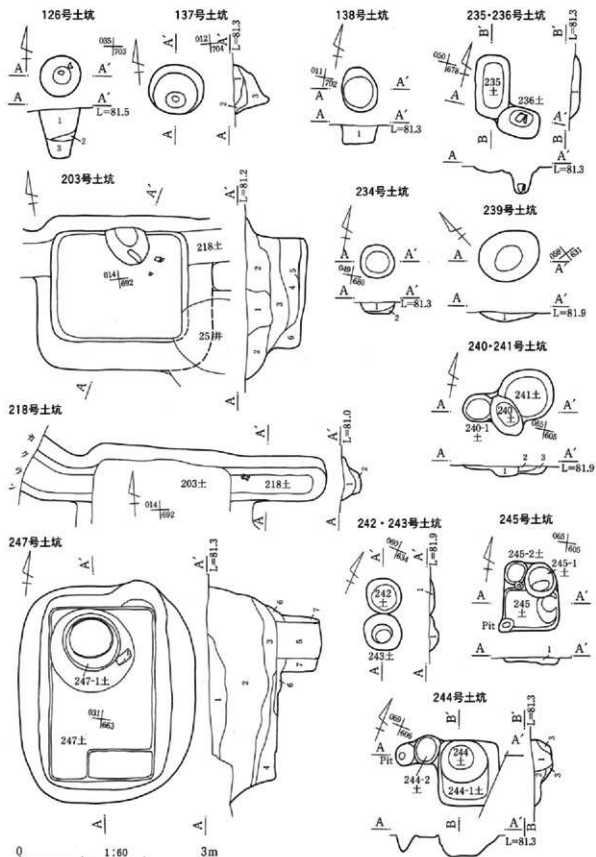
第119图 5号溝外土坑平・断面图(2) (25・28~36・38・40・41号土坑)

第3章 検出された遺構・遺物



第120図 5号溝外土坑平・断面図(3)

(42~45・47・50・53~55・60・77・78・125・158~163・187~190・193・196号土坑)



第121图 5号溝外土坑平・断面图(4)

(126·137·138·203·218·234~236·239·240~245·247号土坑)

164号・168号土坑(第114図、P.L.23)は内郭東辺中央の030-650に位置する。周辺には西3mに118号・119号土坑、北7.5mに117号・144号土坑がある。覆土は桶の存在した部分はロームブロック混土により埋没するが、壁際は黒色土及びロームブロックにより版築を成すようである。底面に粘質土を貼り床状に成す。下層に35号井戸が検出した。164は底径90cmを測り、径3尺の桶が考えられる。底面より円盤状の板が検出した。板は水分を含み膨らみ2cm程の厚さであった。直径は87cm程である。取上げは難しくなかった。168号土坑の底径は125cm、4尺である。1~2cm程の溝が全周する。桶挿跡と考えられる。覆土中より焙烙が出土した。下層には35号井戸が検出した。112号・113号・113-1号・113-2号(第112図、P.L.21)は5号溝内郭の北側の035-655グリットに重複して検出した。新旧関係は113-2号から113号、112号と新しくなる。113-1号は113-2号・113号より古いと112号との関係は不明である。本重複は古く浅い所に新しく構築するため順に深くなっていくことが看取れる。覆土は桶の存在した部分はロームブロック混土により埋没するが、壁際は黒色土及びロームブロックにより版築を成すようである。各土坑の底径は120cmで直径4尺程度の桶が埋設されたいたものと考えられる。また、113-2号の底面は貼り床状にシルト質土が堆積し、下層に直径86cm、底径42cm、深さ120cmの19号井戸が検出した。117号・144号土坑(第112図、P.L.22)は内郭北東部の035-650に位置する。113号の東10mにある。本遺構も113号土坑等と同様の覆土状態で、褐色粘質土で貼り床状を成し、下層に20号井戸が検出した。5号溝外に唯一検出した247-1(第121図、P.L.26)は、5号溝東10m程に位置するH類の247号土坑底面北側に暗褐色土の円形部分と周辺にロームを張った形で検出した。直径94cm、底径85cm、深さは247号底面から60cmを測る。土層断面から径60cmの桶が埋設されていたと思われる。この土坑下の円筒状掘り込みは113-2号土坑の19号井戸と類似している。

H類は、5号溝内に1基検出した。71号土坑(第109図、P.L.21)は、内郭西側中央付近の025-675グリットに位置する。確認面は楕円形を呈するが、底面は長方形を呈する。南北170cm、東西112cm、深さ146cmを測る。底面は南北108cm、東西66cmを測り、中央に長軸70cm、短軸58cm、深さ5cm程の浅い掘り込みがある。壁は垂直に立ち上がる。覆土は砂礫混土であるが、中央の3層はロームブロックを主とする。5号溝外には4基が検出した。247号土坑(第121、P.L.26)は030-630に位置する。確認面南北352cm、東西283cm、深さ116cmを測り、底面は南北280cm、東西170cmを測る。底面南東部に3cm程の段差がある。北側にはG類の247-1号土坑が有る。壁は垂直に立ち上がる。覆土は247-1号土坑周辺のロームブロック混土上層に緑色片岩片が出土した。

203号土坑(第121図、P.L.24)は5号溝西南隅外の010-690グリットに位置し、乗堀の出土した218号土坑、25号溝と重複する。本遺構は両遺構より古い。確認面は方形を呈し、東西282cm、南北250cm、深さ94cmを測る。底面は東西198cm、南北167cmを測る。壁は垂直に立ち上がる。覆土中には焼土粒が見られた。底面北中央に南北88cm、東西60cm、深さ7cmの楕円形の掘り込みがあり、縁辺から木製品(36)下駄が出土した。その他陶磁器碗・容器付灯明皿等が出土した。

I類は、5号溝外に2基検出した。34号土坑(第119図、P.L.19)と36号土坑(第119図、P.L.19)である。方形の焼土を含む部分と炭化粒を含む円形部からなる。共に19号溝と20号溝の間に位置する065-615グリットに検出した。34号土坑の規模は方形部が長軸60cm、短軸48cm、深さ21cmを測り、円形部は直径140cm、深さ16cmを測る。円形部北側に直径60cm程の円形で5cm程の焼土ブロックを含み掘り込みがある。

第82表 土坑計測表

番号	グリッド	区画	分類	規模 (cm)			重複関係	平面形	断面	覆土	備考
				長軸	短軸	深さ					
51	040-670	内	E	365	62	55		長方形	---	1にふい黄褐色土(ロームブロック多)	51・51-1・51-2・51.3の順で古い
51.1	040-670	内	E	360	65	33		長方形	---	2にふい黄褐色土(ロームブロック多)	
51.2	040-670	内	E	447	42	30		長方形	---	3にふい黄褐色土(ロームブロック多)	